

茨城県教育財団文化財調査報告第477集

つくば市

島名境松遺跡3

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXX

上巻

令和7年3月

茨城県
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者からの委託を受けて埋蔵文化財の調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の調査を実施し、その成果として調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県による島名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業に伴って実施した、つくば市島名境松遺跡の調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回、遺跡の調査によって、旧石器時代の石器集中地点、縄文時代の竪穴建物跡や土坑、古墳時代の竪穴建物跡や古墳などを確認し、断続的に大規模な集落や古墳が営まれていたことが明らかになりました。これらは、当地域における集落や古墳の動向を知る上で、欠くことのできない貴重な資料となります。

本書は、これらの調査の成果をまとめたものです。本書が、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の一助として、かつ学術的な研究資料として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県に対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和7年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 森 作 宜 民

例 言

- 1 本書は茨城県の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成30年度、令和元年度、令和5年度に調査を実施した、茨城県つくば市鳥名字境松3766番地2ほかに所在する鳥名境松遺跡の調査報告書である。
- 2 調査期間と整理期間は以下のとおりである。

調査 平成30年8月1日～平成31年3月31日 令和元年11月1日～令和2年3月31日

令和5年4月1日～4月30日

整理 令和4年4月1日～令和6年7月31日

- 3 発掘調査は、平成30年度・令和元年度が副参事兼調査課長白田正子、令和5年度が調査課長駒沢悦郎のもと、以下の者が担当した。

平成30年度

首席調査員兼課長 駒沢悦郎

次席調査員 江原美奈子 平成30年8月1日～平成31年1月31日

首席調査員 齋藤貴稚 平成30年9月1日～平成31年3月31日

次席調査員 内堀 団 平成31年2月1日～3月31日

嘱託調査員 仙波 亨 平成30年9月1日～平成31年3月31日

令和元年度

首席調査員兼課長 櫻井完介

首席調査員 齋藤貴稚

次席調査員 野内智一郎 令和元年12月1日～12月31日

調査員 天野早苗 令和元年12月1日～令和2年3月31日

調査員 近藤 洋 令和元年12月1日～12月31日

調査員 仙波 亨 令和元年11月1日～11月30日

令和5年度

首席調査員兼課長 坂本勝彦

- 4 整理と本書の執筆・編集は、令和4・5年度が整理課長本橋弘巳、令和6年度が櫻井完介のもと、以下の者が担当した。

調査員 根本 佑 令和4年4月1日～7月31日

調査員 吹野富美夫 令和4年8月1日～令和6年7月31日

- 5 本書の執筆分担は、根本が第1・2章、第3章第1・2節、第3節3・4(1)～(3)を、吹野が第3章第3節1・2・4(4)、第4節を担当した。
- 6 本書の作成にあたり、ローム層の自然化学分析についてはバリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。また、炭化種実・炭化材樹種の同定については金沢大学古代文明・文化資源学研究所の佐々木由香氏と明治大学黒曜石研究センターの能城修一氏に御指導をいただいた。結果については、付章で掲載した。
- 7 当遺跡の出土遺物と実測図・写真などは、茨城県埋蔵文化財センターで保管している。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、X = + 5,400 m、Y = + 20,520 mの交点を基準点 (A 1a1) とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C…、西から東へ 1、2、3…とし、「A 1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…j、西から東へ 1、2、3、…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1区」のように呼称した。

- 2 実測図・遺構一覧・遺物一覧などで使用した記号は次のとおりである。

遺構 F - 炉跡 HG - 遺物包含層 P - ビット PG - ビット群 SA - 柱穴列 SI - 竪穴建物跡
SD - 溝跡 SJ - 土器埋設遺構 SK - 土坑 SS - 石器集中地点 TM - 古墳 TP - 陥し穴
土層 K - 撹乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩		炉床面・黒色処理・繊維土器断面
	竈部材・粘土範囲・炭化物		柱痕・原位置を留める石材
	須恵器断面		石材
	貝層		
	土器		土製品
	石器・石製品		硬化面

- 4 土層解説と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物の量、粘性・締まりの表示は、次のとおりである。

多量・強い…A 中量・普通…B 少量・弱い…C 微量…D 極めて…○

サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

- 5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

- (1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。
(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、挿表、写真図版に記した番号と同一とした。
(3) 遺物一覧の備考の欄は、残存率、写真図版番号とその他必要と思われる事項を記した。

- 6 堅穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E）。

- 7 整理の段階で遺構名を変更したものと欠番にしたものは、以下のとおりである。

変更 SK766→SI 50 P 10 SK767→SI 50 P 5 SK823→SI 67 P 8 SK1237→SI 91 P 3
SK1216→SI 95 P 1 SK1235→SI 95 P 2 SK1475→SI 131 P 1 SK1440→SI 131 P 2
SK966→SK808 P 1 SK1328→SK1239 P 3 SI 98 P 5→SK1281 P 5 SK1031→TP13
SK1110→TP14 FP 1→F 4 FP 2→F 5 SI 65→F 14 SI 73→F 15 SI 81→F 16
SI 82→F 17 SI 83→F 18 SI 85→F 19 SI 93→F 20 SI 119→F 21 SK1243→F 22
SI 129→F 23 SI 130→F 24 SK1459→SJ 2 SI 111→PG 1 SK1184→SA 1 P 1
SK1182→SA 1 P 2 SK1196→SA 1 P 3 SK1198→SA 1 P 4 SK1178→SA 1 P 5
SK1172→SA 1 P 6 SK1173→SA 1 P 7 SK1174→SA 1 P 8 SK1179→SA 1 P 9
SK1148→SA 1 P 10 SK1166→SA 1 P 11 SK1177→SA 1 P 12 SK1199→SA 1 P 13
欠番 SI 58・59・79・88・100 SK775・778・779・783・785・819・903・963・987・1036・1136・
1141・1145・1150・1192・1342・1403・1479・1496・1499・1503・1526 HG 2・3 SS 2
SY 1～16

目 次

- 上 巻 -

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 位置と地形	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	11
1 旧石器時代の遺構と遺物	11
(1) 石器集中地点	11
2 縄文時代の遺構と遺物	12
(1) 竪穴建物跡	12
(2) 土 坑	152
(3) 炉 跡	293
(4) 陥し穴	299
(5) 土器埋設遺構	303
(6) ビット群	304
(7) 遺物包含層	305

- 下 巻 -

3 古墳時代の遺構と遺物	317
(1) 竪穴建物跡	317
(2) 土 坑	340
(3) 古 墳	341
4 その他の遺構と遺物	345
(1) 土 坑	346
(2) 溝 跡	402
(3) 柱穴列	407
(4) 遺構外出土遺物	408
第4節 総 括	413
付 章	430
写真図版	PL 1～PL51
抄 録	

第1章 調 査 経 緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、令和4年2月25日、茨城県知事は、茨城県教育委員会教育長あてに鳥名・福田坪一休型特定土地地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取扱いについて照会した。これを受けて平成6年9月19日から27日、令和4年5月17日、茨城県教育委員会は、現地踏査を実施し、平成29年11月28日、29日、12月20日、21日、平成30年6月13日、19日、21日、令和4年9月7日、茨城県教育委員会は試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成30年1月11日、6月28日、令和4年11月14日、茨城県教育委員会教育長は茨城県土浦土木事務所つくば支所長あてに、事業地内に鳥名境松遺跡が所在することとその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成30年2月27日、令和5年2月1日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成30年2月27日、令和5年2月6日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための調査が必要であると決定し、工事着手前に調査を実施するよう通知した。

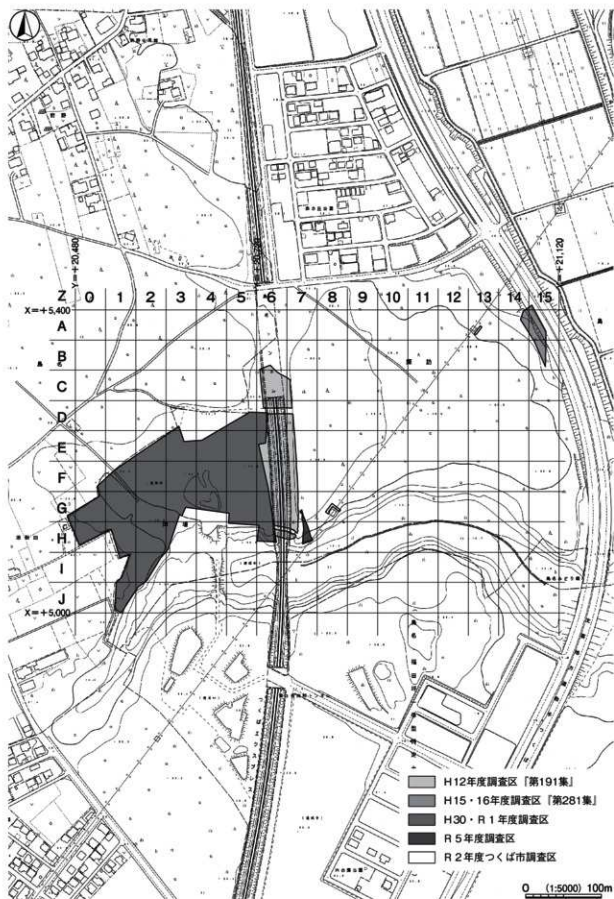
平成30年2月28日、平成31年2月22日、令和5年2月9日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、鳥名・福田坪一休型特定土地地区画整理事業に係る埋蔵文化財調査の実施について協議書を提出した。平成30年2月28日、平成31年2月25日、及び令和5年2月13日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに鳥名境松遺跡について、調査の範囲と面積などについて回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県土浦土木事務所長から埋蔵文化財調査事業について委託を受け、平成30年8月1日から平成31年3月31日、令和元年11月1日から令和2年3月31日、令和5年4月1日から4月30日まで、それぞれ調査を実施した。

第2節 調 査 経 過

鳥名境松遺跡の調査は、平成30年8月1日から平成31年3月31日までの8か月間、令和元年11月1日から令和2年3月31日までの5か月間、令和5年4月1日から4月30日までの1か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間		平成30年度							令和元年度					令和5年度
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
調査準備 調査実施 遺構確認															
遺構調査															
遺物洗浄 注記 写真整理															
補足調査 取															



第1図 鳥名境松道跡調査区設定図 (つくば市都市計画基本図2500分の1に加筆)

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

島名境松遺跡は、茨城県つくば市島名境松 3766 番地 2 ほかの所在している。

つくば市は筑波山を北端に、その南東へ延びる標高 20 ～ 25 m の平坦な台地上に位置している。この台地は、筑波・稲敷台地と、東を霞ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川によって区切られている。両河川の間には、東から霞ヶ浦水系の花室川、蓮沼川、小野川、利根川水系の谷田川、西谷田川などの中小河川が北から南東や南に向かって流れている。台地はこれらの河川によって複雑に開析され、桜川・小貝川流域では標高 5 ～ 10 m の沖積低地が広がり、中小河川の流域では谷津や低地が細長く入り込んでいる。

筑波・稲敷台地は、貝化石を産出する海成砂層の成田層を基盤として、その上に斜行層理が顕著な黄褐色砂層・砂礫層の竜ヶ崎層、さらに灰白色の泥質粘土層である常総粘土層（層厚 0.3 ～ 5.0 m）と褐色の関東ローム層（層厚 0.5 ～ 2.0 m）が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている¹⁾。

つくば市南西部の島名地区は、谷田川と西谷田川によって開析された、狭長な台地上の中央部に位置している。当遺跡は、谷田川から延びた谷津に面した標高約 19 ～ 22 m の台地上に立地し、遺跡の範囲は南北約 400 m、東西約 640 m である。調査前の現況は畑地と山林である。

第2節 歴史的環境

島名地区周辺の小貝川、西谷田川、谷田川流域の台地上には、旧石器時代から近世にかけての遺跡が数多く存在している。

旧石器時代は、元宮本前山遺跡²⁾、下河原崎谷中台遺跡³⁾ (68)、高須賀中台東遺跡⁴⁾、平北田遺跡⁵⁾ (28) で石器集中地点が確認されている。元宮本前山遺跡では、一側縁加工の瑪瑙製ナイフ形石器をはじめ、石核や台石が出土している。下河原崎谷中台遺跡では、高原山産黒曜石や黒色ガラス質安山岩製の角錐状石器や搔器などが出土している。高須賀中台東遺跡では、高原山産黒曜石製ナイフ形石器や黒色ガラス質安山岩などを用いた剥片類、平北田遺跡では頁岩製の石核のほか、頁岩製ナイフ形石器や槍先形尖頭器などが採集されている。これらの遺跡は各河川を臨む台地縁辺部に点在しており、狩猟のため各種の石材を携えて移動したキャンプサイトと考えられる。その他、島名境松遺跡⁶⁾ (1) でナイフ形石器や削器、搔器、下河原崎高山古墳群⁷⁾ (67) で搔器、島名本田遺跡⁸⁾ (69) でナイフ形石器、有舌尖頭器、島名熊の山遺跡⁹⁾ (71) でナイフ形石器、削器、搔器、尖頭器、製細石刃核、島名前野東遺跡¹⁰⁾ (7) でナイフ形石器、尖頭器、島名ツツバタ遺跡¹¹⁾ (24) でナイフ形石器、島名一町田遺跡¹²⁾ (5) で尖頭器、高須賀道城入遺跡¹³⁾ で有舌尖頭器、手子生大境遺跡¹⁴⁾ で搔器、面野井北ノ前遺跡¹⁵⁾ で頁岩製荒原型彫器が確認されており、当時代の良好な石器群が蓄積されている。

縄文時代早・前期の遺跡は、島名本田遺跡、島名熊の山遺跡、手子生大境遺跡で早期前半～前期後半の土器片が採集されている。高須賀堂ノ前遺跡¹⁶⁾ では早期後葉の堅穴建物跡 5 棟、炉穴 7 基、元宮本前山遺跡で早期後葉の炉穴 3 基と陥し穴 8 基、下河原崎谷中台遺跡で早期の炉穴 2 基、高須賀中台遺跡¹⁷⁾ で前期前半の堅穴建物跡、高須賀中台東遺跡で前期前半の堅穴建物跡、手子生大境遺跡で前期中葉の堅穴建物跡、高須賀道城

入道跡で前期後葉を中心とした堅穴建物跡などが確認されており、河川を望む台地縁辺部に分布している。

中期以降では、手子生大境遺跡で中期前葉、中期後葉、後期前葉の堅穴建物跡が、鳥名境松遺跡と谷田部障場西遺跡〈3〉で中期前葉、中期後葉の堅穴建物跡や中期のフラスコ状・円筒状土坑が確認されており、堅穴建物跡の確認数などから当地域における中核的な集落と考えられる。また、鳥名ツバタ遺跡で中期中葉の堅穴建物跡やフラスコ状土坑など、上郷院内山遺跡¹⁸⁾と酒丸遺跡¹⁹⁾で中期後葉の堅穴建物跡が、鳥名前野遺跡²⁰⁾〈8〉で中期中葉の陥し穴などが確認されており、中期には大集落の周辺に小集落が点在している様子がうかがえる。後期以降になると下河原崎谷中台遺跡で後期前葉～晩期前葉の堅穴建物跡や、後期中葉～晩期前葉の土坑などがそれぞれ確認されており、中期に比べ遺跡数が減少していく。

弥生時代の集落は少なく、高須賀道城入道跡で後期前半の堅穴建物跡2棟が確認されている程度である。また、鳥名熊の山遺跡では、埋没谷から後期後半の土器片が出土している。土器片には切痕が認められ、当地域の稲作を考える上での貴重な資料である。

古墳時代は、鳥名一町田遺跡で南関東系の土器を伴う前期初期の集落が出現し、鳥名熊の山遺跡で前期前葉～後葉の堅穴建物跡89棟が確認されているほか、鳥名中代遺跡²¹⁾〈70〉、鳥名前野遺跡、鳥名前野東遺跡、上郷院内山遺跡、上郷神谷森遺跡²²⁾、高須賀中台遺跡、高須賀中台東遺跡で堅穴建物跡が確認されており、谷田川や小貝川沿いに小規模な集落が点在している。また、面野井古墳群²³⁾〈87〉では前期前葉の方形周溝墓3基、前期中葉の円墳1基が確認されている。

中期になると、集落は西谷田川沿いにも広がり、元宮本前山遺跡、下河原崎谷中台遺跡、上河原崎前山遺跡²⁴⁾〈78〉、元中北東藤四郎遺跡²⁵⁾〈77〉、鳥名ツバタ遺跡で堅穴建物跡が確認されている。谷田川沿いでも鳥名関ノ台南B遺跡²⁶⁾〈83〉、鳥名中代遺跡、鳥名本田遺跡、鳥名熊の山遺跡、鳥名前野東遺跡で堅穴建物跡が確認されており、短期間で移動する集落動態が把握されている²⁷⁾。また、元宮本前山遺跡では滑石製模造品の製作跡が確認され、下河原崎谷中台遺跡では透緑閃石製の琴柱形石製品が出土している。

後期は、西谷田川沿いでは下河原崎谷中台遺跡で堅穴建物跡26棟、鳥名ツバタ遺跡で堅穴建物跡15棟が確認されているが、集落数は減少する傾向にある。一方で谷田川沿いでは鳥名熊の山遺跡で堅穴建物跡969棟、掘立柱建物跡18棟が確認されているほか、鳥名中代遺跡で4棟、鳥名本田遺跡で20棟、鳥名八幡前遺跡²⁸⁾〈25〉で23棟、鳥名前野東遺跡で39棟、鳥名前野遺跡で1棟、鳥名境松遺跡で7棟の堅穴建物跡が確認されており、鳥名熊の山遺跡の周辺に中・小規模の集落が集約化される傾向がみられる。

また、後期になると径10～20mの小規模な円墳や方墳からなる群集墳が出現する。西谷田川左岸で下河原崎高山古墳群（前方後円1・帆立貝式1・円6・方3）、下河原崎古墳群〈76〉（石棺1）、元中北鹿島明神古墳（円1）、上河原崎尾山台古墳（円1）、鳥名ツバタ遺跡（方1）が確認されている。また、下河原崎高山古墳群の第5号墳は、墳長40mの前方後円墳で、6世紀末葉～7世紀初頭の築造とされている。埋葬施設の改葬や追葬による21体以上の多人数埋葬が確認され、銀装大刀を含む大刀4振、銅鏡1点などの副葬品が出土するなど、古墳群における盟主的な被葬者像が想定されている。西谷田川右岸では真瀬新田古墳群〈60〉（不明3）、真瀬中道古墳〈61〉（円1）、谷田川右岸では鳥名榎内古墳群〈23〉（円6・方1）、鳥名関ノ台古墳群〈80〉（前方後円1・円27）、鳥名前野古墳〈6〉（方1）、谷田部台町古墳群〈38〉（円3・方1）のほか、鳥名関ノ台南B遺跡で円墳1基、鳥名熊の山遺跡で円墳2基が確認されている。谷田川左岸では面野井古墳群（前方後円1・円8・方1・不明4）が確認されている。

奈良時代になると、律令国家の成立と地方の国郡制の整備を背景に集落の再編が進み、当地域は、河内郡嶋名郷に編入される。谷田川右岸の鳥名熊の山遺跡は、堅穴建物跡475棟や掘立柱建物跡150棟などが確認され

ており、鶴名郷の拠点集落と考えられる。また、隣接する鳥名本田遺跡で堅穴建物跡 24 棟、掘立柱建物跡 7 棟と鍛冶工房跡 5 基、鳥名八幡前遺跡で堅穴建物跡 69 棟と掘立柱建物跡 20 棟、鍛冶工房跡 3 基などが確認されており、鳥名熊の山遺跡と相互補完的な在り方を示している。その他、鳥名中代遺跡、鳥名前野遺跡、鳥名前野東遺跡、鳥名関ノ台南 B 遺跡で当期の小規模な集落が確認されている。一方、当遺跡を含めた西谷田川左岸や小貝川沿いでは集落が認められなくなり、鳥名熊の山遺跡周辺に集落が集中するという現象が認められる。

平安時代は、遺跡数が減少し、9 世紀代には鳥名中代遺跡、鳥名八幡前遺跡、鳥名関ノ台南 B 遺跡、10 世紀代には鳥名本田遺跡が終焉を迎え、鳥名熊の山遺跡だけが 11 世紀まで継続的に営まれている。鳥名熊の山遺跡では、その後も土坑墓や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡や小銅仏が出土しており、当地における有力者層の存在をうかがうことができる。集落以外では、下河原崎谷中台遺跡で 9 世紀前半の火葬墓、高野南遺跡²⁹⁾で総延長 110 m の堀跡が確認されている。

中世になると、当地周辺は八条院領として荘立された田中荘に組み込まれる。田中荘は鎌倉幕府の成立後、小田氏の支配下に入り、室町時代には小田氏配下の平出氏が鳥名・面野井地区に住んでいたと伝えられており、面野井城跡⁸⁴⁾がその居城とされている。調査では、鳥名前野東遺跡で 13 世紀後葉～14 世紀前葉の方一町に巡る堀に囲まれた方形居館跡が確認されているほか、鳥名熊の山遺跡では永仁五年(1297)に開山されたといわれる妙徳寺の周辺から 15 世紀前半～17 世紀前半の大規模な堀跡や墓域、鳥名本田遺跡では方形区画や地下式坑、井戸跡などが確認されている。その他、中心部の曲輪や堀跡が確認されている手子生城跡³⁰⁾、建保二年(1214)に豊田下総守治基の三男山田遠江守が築城したといわれる高須賀城跡などの城館跡や塚が数多く分布している。

※ 本章は、既刊の『茨城県教育財団文化財調査報告』を参照し、若干加筆したものである。また、文中の〈 〉内の番号は、第 2 図と第 1 表の該当番号と同じである。

註

- 1) 日本の地質『関東地方』編集委員会 1986 年『日本の地質 3 関東地方』共立出版
- 2) 高野裕隆 2006 年『元宮本前山遺跡 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 2』茨城県教育財団文化財調査報告第 265 集
- 3) 高野裕隆 2007 年『下河原崎谷中台遺跡 鳥名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 3』茨城県教育財団文化財調査報告第 282 集
- 4) 坂本勝彦 2014 年『高須賀中台遺跡 一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 382 集
- 5) 舟橋理 2011 年『平北田遺跡 一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 336 集
- 6) a 小松崎和治『鳥名境松遺跡 鳥名前野東遺跡 鳥名・福田坪一帯型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 X VI』茨城県教育財団文化財調査報告第 281 集 2006 年 3 月
b 雨宮悟郎 吉井泰行 石川太郎『鳥名境松遺跡』つくば市教育委員会 2021 年 3 月
- 7) 内堀団 2020 年『下河原崎高山古墳群 2 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 6』茨城県教育財団文化財調査報告第 446 集
- 8) 江原美奈子 2021 年『鳥名本田遺跡 鳥名・福田坪一帯型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 X VII』茨城県教育財団文化財調査報告第 454 集
- 9) 海老澤隆 2019 年『鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一帯型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 X X V』茨城県教育財団文化財調査報告第 437 集
- 10) 小松崎和治 2006 年『鳥名境松遺跡 鳥名前野東遺跡 鳥名・福田坪一帯型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 X VI』茨城県教育財団文化財調査報告第 281 集

- 11) 文献3に同じ
- 12) 鹿島直樹 2004 年 「鳥名・町田遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書」 茨城県教育財団文化財調査報告第 230 集
- 13) 近江屋成陽 2016 年 「高須賀堂ノ前遺跡 高須賀道城入遺跡 一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」 茨城県教育財団文化財調査報告第 406 集
- 14) 川井正一 1986 年 「研究学園都市計画手子生工業団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書 大城遺跡」 茨城県教育財団文化財調査報告第 34 集
- 15) 鹿島直樹 2004 年 「鳥名関ノ台南B遺跡 野野井北ノ前遺跡 常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書2」 茨城県教育財団文化財調査報告第 231 集
- 16) 文献13に同じ
- 17) 茂木悦男 1998 年 「一般県道赤浜谷田部線県単道路改良に伴う埋蔵文化財調査報告書 高須賀中台遺跡」 茨城県教育財団文化財調査報告第 145 集
- 18) 石川太郎 飯塚守人 2016 年 「上郷院内山遺跡第3次試掘調査 手子生城跡第4・5・6次確認調査 上河原崎八幡脇遺跡第1・2次試掘・確認調査 鳥名八幡前遺跡隣接地第4次確認調査」 「つくば市内遺跡～平成27年度発掘調査報告～」 つくば市教育委員会
- 19) 近江屋成陽 石橋充 2008 年 「酒久遺跡～住宅地造成に伴う発掘調査報告書～」 有限会社山武考古学研究所 つくば市教育委員会
- 20) 稲田義弘 2001 年 「鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ 鳥名前野遺跡」 茨城県教育財団文化財調査報告第 175 集
- 21) 塙厚宜 2019 年 「鳥名中代遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XⅩⅦ」 茨城県教育財団文化財調査報告第 438 集
- 22) 小泉光正 1991 年 「一般県道土浦岩井線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 神谷森遺跡」 茨城県教育財団文化財調査報告第 66 集
- 23) 小林和彦 2014 年 「面野井古墳群 都市計画道路新都市中央通り線バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書」 茨城県教育財団文化財調査報告第 391 集
- 24) 坂本勝彦 清水哲 2022 年 「上河原崎前山遺跡 元中北東藤四郎遺跡 上河原崎・中西特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」 茨城県教育財団文化財調査報告第 469 集
- 25) 文献24に同じ
- 26) 文献15に同じ
- 27) 根本佑 菅川貴之 本橋弘巳 塙厚宜 見越広幸 高屋原平 2020 年 「茨城県南部における古墳時代中期の集落変遷」 「研究ノート」 第 17 号 公益財団法人茨城県教育財団
- 28) 吹野富美夫 吉本仁昌 2003 年 「鳥名八幡前遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」 茨城県 埋蔵文化財調査報告書第 201 集
- 29) 平岡和夫 岡宮政光 1996 年 「高野南遺跡～住宅地造成に伴う発掘調査報告書～」 有限会社山武考古学研究所 つくば市教育委員会
- 30) 石川太郎 飯塚守人 2017 年 「鳥名八幡前遺跡第5次確認調査 手子生城跡第7・8次確認調査」 「つくば市内遺跡～平成28年度発掘調査報告～」 つくば市教育委員会



第2図 鳥名境松道跡周辺道跡分布図(国土地理院 25,000 分の 1「筑波」に加筆)

第1表 島名境松遺跡周辺遺跡一覧

番 号	遺 跡 名	時 代					番 号	遺 跡 名	時 代						
		旧 石 器	縄 文	弥 生	古 奈 良・ 平安	鎌 倉・ 桃 山 戸			旧 石 器	縄 文	弥 生	古 奈 良・ 平安	鎌 倉・ 桃 山 戸		
①	島 名 境 松 遺 跡	○	○		○		45	谷 田 部 新 郭 前 遺 跡					○	○	○
2	島 名 タカ ドロ 遺 跡		○		○		46	谷 田 部 本 郷 北 遺 跡					○	○	○
3	谷 田 部 陣 場 西 遺 跡	○				○	47	谷 田 部 中 城 古 墳				○			
4	島 名 一 丁 田 西 遺 跡		○				48	谷 田 部 櫓 下 遺 跡	○			○	○	○	○
5	島 名 一 町 田 遺 跡	○	○		○		49	谷 田 部 不 動 台 遺 跡			○	○	○	○	○
6	島 名 前 野 古 墳				○		50	谷 田 部 西 原 遺 跡			○	○	○	○	○
7	島 名 前 野 東 遺 跡	○			○	○	51	上 堂 丸 古 屋 敷 遺 跡			○		○		○
8	島 名 前 野 遺 跡	○	○				52	真 瀬 三 度 山 遺 跡	○		○				
9	平 後 遺 跡				○		53	萩 砂 遺 跡	○				○	○	
10	大 白 畚 西 ノ 裏 遺 跡				○		54	神 明 遺 跡	○				○		
11	大 白 畚 板 下 遺 跡				○		55	二 本 松 遺 跡	○						○
12	大 白 畚 民 部 山 遺 跡				○		56	苗 代 山 遺 跡	○						
13	小 白 畚 民 部 山 遺 跡				○		57	真 瀬 西 原 塚					○	○	
14	小 白 畚 水 表 遺 跡				○		58	真 瀬 中 畑 遺 跡	○		○			○	
15	谷 田 部 山 合 遺 跡		○			○	59	真 瀬 神 田 谷 津 遺 跡	○						
16	谷 田 部 陣 場 遺 跡		○		○		60	真 瀬 新 田 古 墳 群			○				
17	谷 田 部 大 堀 遺 跡					○	61	真 瀬 中 道 古 墳					○		
18	谷 田 部 漆 遺 跡		○				62	真 瀬 堀 附 南 遺 跡	○		○				
19	真 瀬 戸 崎 遺 跡				○	○	63	真 瀬 堀 附 北 遺 跡			○				
20	島 名 榎 内 南 遺 跡	○			○	○	64	鍋 沼 新 田 長 峰 遺 跡	○		○				
21	島 名 榎 内 西 古 墳				○		65	下 河 原 崎 高 山 竈 跡							
22	島 名 榎 内 遺 跡				○		66	下 河 原 崎 高 山 道 跡	○	○	○				
23	島 名 榎 内 古 墳 群				○		67	下 河 原 崎 高 山 古 墳 群	○		○				
24	島 名 ツ バ タ 遺 跡	○	○		○	○	68	下 河 原 崎 谷 中 台 遺 跡	○	○	○	○			
25	島 名 八 幡 前 遺 跡	○	○		○	○	69	島 名 本 田 遺 跡	○	○	○	○	○	○	○
26	島 名 薬 師 遺 跡				○		70	島 名 中 代 遺 跡	○		○	○	○	○	○
27	水 堀 道 後 前 遺 跡					○	71	島 名 熊 の 山 遺 跡	○	○	○	○	○	○	○
28	平 北 田 遺 跡	○			○		72	島 名 熊 の 山 古 墳 群				○			
29	柳 橋 遺 跡				○		73	水 堀 下 道 遺 跡				○			
30	柳 橋 仲 畑 遺 跡				○	○	74	水 堀 屋 敷 添 遺 跡	○		○				
31	柳 橋 谷 津 遺 跡				○		75	水 堀 遺 跡			○				
32	小 白 畚 海 道 端 遺 跡		○			○	76	下 河 原 崎 古 墳 群				○			
33	小 白 畚 海 道 端 塚 群					○	77	元 中 北 東 藤 西 部 遺 跡				○			
34	谷 田 部 カ ロ ウ ド 塚 古 墳				○		78	上 河 原 崎 前 山 遺 跡				○			
35	上 横 場 道 心 塚 古 墳 群				○		79	島 名 関 の 台 遺 跡				○			
36	谷 田 部 台 成 井 遺 跡		○				80	島 名 関 ノ 台 古 墳 群				○			
37	谷 田 部 下 成 井 遺 跡		○			○	81	島 名 関 ノ 台 塚					○	○	
38	谷 田 部 台 町 古 墳 群				○		82	島 名 関 ノ 台 南 A 遺 跡				○	○		
39	谷 田 部 福 田 遺 跡		○		○		83	島 名 関 ノ 台 南 B 遺 跡	○	○		○		○	
40	谷 田 部 福 田 前 遺 跡		○	○	○		84	面 野 井 城 跡					○		
41	谷 田 部 漆 出 口 遺 跡		○		○	○	85	面 野 井 西 ノ 台 塚					○	○	
42	谷 田 部 城 跡					○	86	面 野 井 北 前 遺 跡				○			
43	谷 田 部 搦 遺 跡				○	○	87	面 野 井 古 墳 群				○			
44	谷 田 部 宮 下 遺 跡					○	88	面 野 井 南 遺 跡				○	○	○	

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

島名境松遺跡は、つくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高約22mの台地上に立地している。調査面積は、平成30年度が21,426㎡、令和元年度が10,124㎡、令和5年度が532㎡で、調査前の現況は山林・畑地である。

調査の結果、石器集中地点1か所（旧石器時代）、竪穴建物跡79棟（縄文時代67、古墳時代12）、土坑733基（縄文時代222、古墳時代1、時期不明510）、炉跡21基（縄文時代）、陥し穴14基（縄文時代）、土器埋設遺構1基（縄文時代）、ピット群1か所（縄文時代）、遺物包含層1か所（縄文時代）、古墳1基（古墳時代）、溝跡5条（時期不明）、柱穴列1条（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に280箱出土している。主な出土遺物は、縄文土器（深鉢・鉢・浅鉢・両耳壺・注口土器・釣手土器）、土師器（坏・埴・高坏・甕・甗）、須恵器（高坏）、土製品（耳飾り・土器片・土盤）、石器（2次加工のある剥片・石核・剥片・搔器・石鏃・楔形石器・磨製石斧・打製石斧・石皿・磨石・敲石・凹石・石錘）などである。

第2節 基本層序

調査区を北東部と南東部に分断する埋没谷を挟んで、南側の台地平坦部（G-1i9区）にテストピット1を、第1号石器集中地点付近（I1i6区）にテストピット2を、北側の台地縁辺部（G6e3区）にテストピット3を設定し、基本土層（第4図）の観察を行った。

第Ⅰ層は暗褐色を呈する表土層である。ローム粒子を少量含み、粘性は弱く、締まりは普通で、層厚は30～42cmである。上部は暗褐色を呈する耕作土で、下部は暗褐色を呈する黒ボク土である。

第Ⅱ層は褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりは弱く、層厚は4～16cmである。テストピット2の本層から、UG（立川ローム層上部ガラス質テフラ）が検出されている。

第Ⅲ層は褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりは普通で、層厚は6～35cmである。

第Ⅳ層は第3層より色調の暗い褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は40～59cmである。テストピット3の本層上部からAT（始良丹沢テフラ）が検出されている。

第Ⅴ層は褐色を呈するハードローム層である。赤色粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりは強く、層厚は15～36cmである。

第Ⅵ層は第5層より色調の暗い褐色を呈するハードローム層である。赤色粒子を微量含み、粘性は強く、締まりは普通で、層厚は24～58cmである。

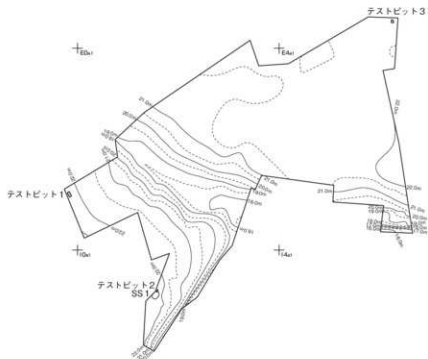
第Ⅶ層はにぶい黄褐色を呈するハードローム層である。赤色粒子を少量含み、粘性は極めて強く、締まりは普通で、層厚は55～68cmである。

第Ⅷ層は暗褐色を呈するハードローム層である。粘性は強く、締まりは普通で、層厚は27～37cmである。

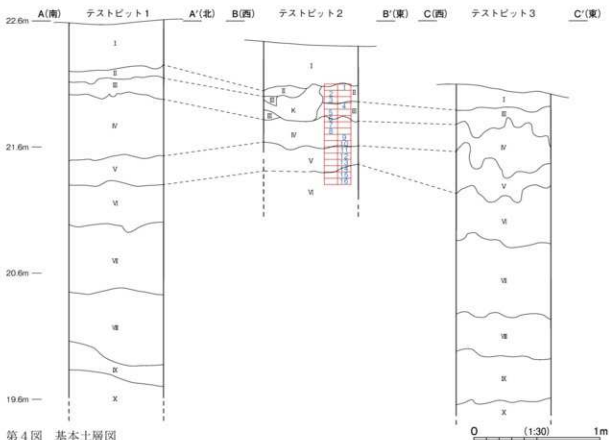
第Ⅸ層はにぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は強く、締まりは普通で、層厚は37～46cmである。

第X層は黄褐色を呈するハードローム層である。赤色粒子・砂粒を少量含み、粘性は強く、締まりは普通である。層厚は不明であるが、26cmまで確認した。

遺構は、第Ⅱ・Ⅲ層の上面で確認した。



第3図 テストピット・第1号石器集中地点位置図



第4図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 旧石器時代の遺構と遺物

遺構確認作業及び遺構調査の中で、旧石器時代の遺物が出土したことから、調査区南西部のⅠ116・Ⅰ117・Ⅰ115・Ⅰ116区に4m四方のグリッドを設定し、ローム層の掘り下げを行った。その結果、石器集中地点1か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

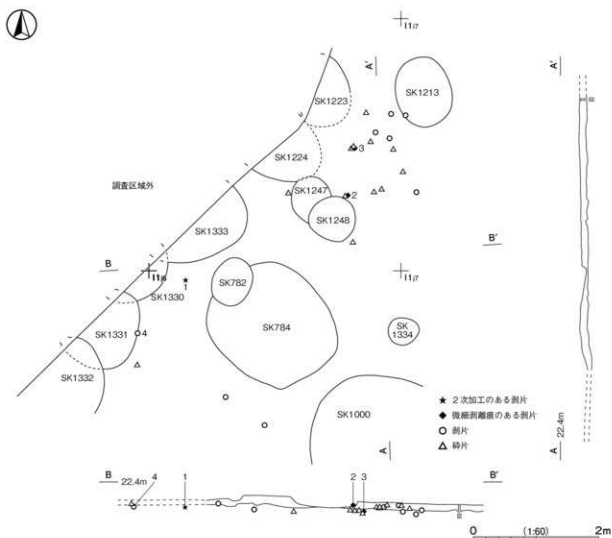
(1) 石器集中地点

第1号石器集中地点（第5・6図 第2表 PL.4）

位置 調査区南東部のⅠ116・Ⅰ117・Ⅰ115・Ⅰ116区、標高約22mの台地平坦部に位置している。

出土層位 基本層序の第Ⅱ層のソフトローム層下部から、第Ⅲ層のハードローム層上部である。

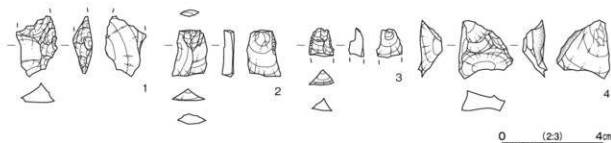
遺物出土状況 石器23点（2次加工のある剥片1、微細剥離痕のある剥片2、剥片8、砕片12）が出土している。石材は、いずれも黒曜石である。平面分布は、東西4.6m、南北5.2mの範囲である。分布状況に偏り



第5図 第1号石器集中地点出土遺物分布図

が認められ、北東部は密集し、南西部は散在している。垂直分布は、北東部が標高 21.90～22.03 m、南西部が標高 21.97～22.07 mで、ほぼ同一の標高から出土している。1 は 2 次加工のある剥片で、小型のナイフ形石器の可能性が高い。上半部は欠損している。2・3 は微細剥離痕のある剥片で、細石刃の可能性が高い。4 は剥片である。石器の接合関係は認められなかった。

所見 確認した石器群は、長径約 6 m、短径約 3 m の狭い分布範囲で、出土点数も 21 点と限定的である。本来、石器集中地点の範囲は調査区域外の北部と西部に広がる可能性が高い。時期は、石器の特徴や出土層位から、武蔵野台地Ⅲ層中部～Ⅳ層上部段階、下総編年Ⅱ c 期からⅢ a 期併行で、性格は小規模な石器製作跡と考えられる。



第 6 図 第 1 号石器集中地点出土遺物実測図

第 2 表 第 1 号石器集中地点遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	2 次加工のある剥片	(2.4)	1.6	0.75	(2.51)	黒曜石	横長剥片を素材 裏面側からの刃直し 上半部欠損 ナイフ形石器の可能性あり	第Ⅲ層	
2	微細剥離痕のある剥片	1.9	1.4	0.49	1.16	黒曜石	縦長剥片を素材 左側縁の裏面に微細剥離痕 細石刃の可能性あり	第Ⅲ層	
3	微細剥離痕のある剥片	(1.1)	1.0	0.61	(0.51)	黒曜石	縦長剥片を素材 両側縁の表面に微細剥離痕 細石刃の可能性あり	第Ⅲ層	
4	剥片	2.3	2.1	0.86	2.90	黒曜石	横長剥片を素材 右側縁に自然面	第Ⅲ層	

2 縄文時代の遺構と遺物

竪穴建物跡 67 棟、土坑 222 基、炉跡 21 基、陥し穴 14 基、土器埋設遺構 1 基、ピット群 1 か所、遺物包含層 1 か所を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

なお、平成 12 年度の調査分についての詳細は、『茨城県教育財団文化財調査報告第 191 集』（以下『第 191 集』と略す）を参照されたい。

(1) 竪穴建物跡

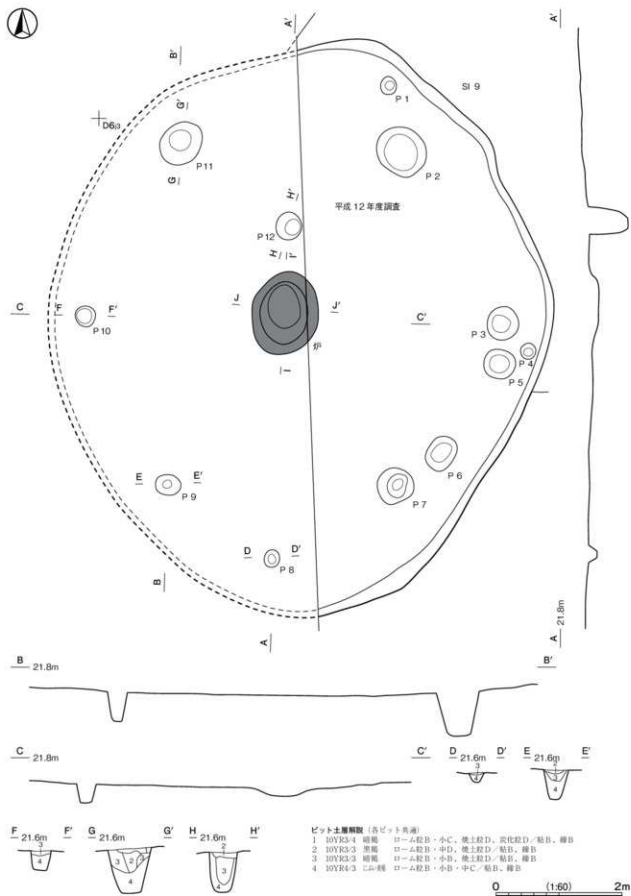
第 8 号竪穴建物跡（第 7・8 図 第 3 表 PL 4）

位置 調査区北東部の D 6 3 区、標高約 22 m の台地上に位置している。

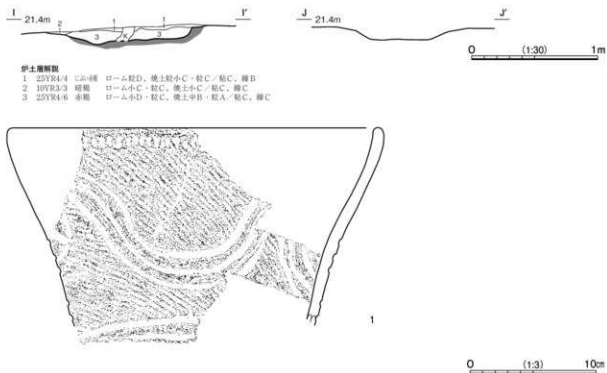
調査年度 東部の半分は平成 12 年度に調査し、『第 191 集』で報告している。

重複関係 東部を第 9 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径 8.98 m、短径 8.00 m の楕円形と推定できる。主軸方向は、炉とピットの配列から N-2°-E である。壁は、平成 12 年度の調査では高さ 17～30 cm で外傾していたが、当調査では削平のため確認できなかった。



第7図 第8号竪穴建物跡実測図



第8図 第8号竪穴建物跡・出土遺物実測図

床 平成12年度の調査では平坦な床を確認したが、当調査では削平のため確認できなかった。

炉 中央部に位置している。長径124cm、短径108cmの楕円形を呈する地床炉である。床面からの深さは12cmで、皿状を呈している。炉床面は、赤変硬化している。

ピット 12か所。P2・P3・P7・P9～P11は、深さ32～82cmで、炉を中心としてはほぼ円形に配列されることから、主柱穴と考えられる。P1・P4～P6・P8は、深さ12～28cmで、炉の北側に位置している。P12は深さ62cmで、いずれも性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 平成12年度の調査では14層に分層でき、自然堆積をしていたが、当調査では削平のため確認できなかった。

遺物出土状況 縄文土器片5点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期5点（加曾利E式）である。1はP11の覆土から出土している。

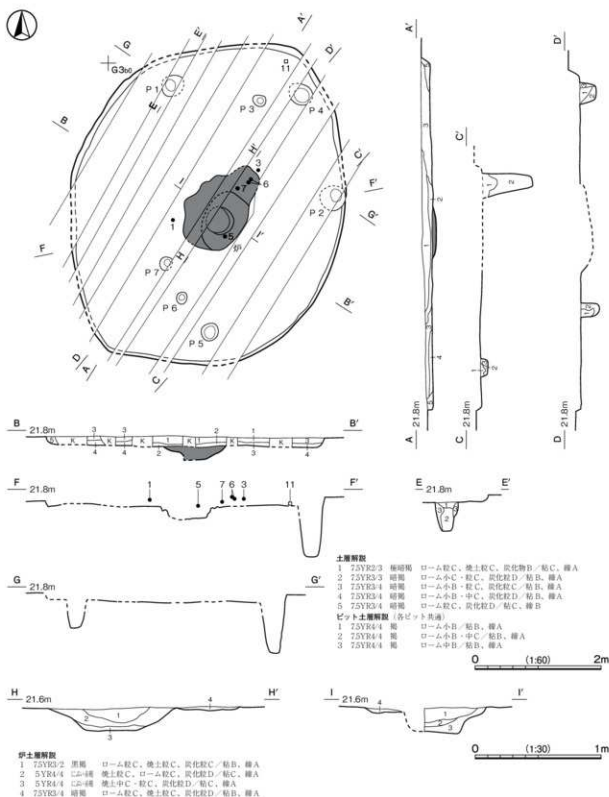
所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式古段階期）と考えられる。

第3表 第8号竪穴建物跡出土遺物一覧（第8図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[29.0]	[15.7]	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位1段単筋縄文（口縁部直下に竹簽による刺突文） 口縁部磨消痕状文 胴部磨消平行沈線文	P.11 覆土	10% PL.21

第47号竪穴建物跡（第9・10図 第4表 PL.4）

位置 調査区北西部のG3b0区、標高約22mの台地上に位置している。



第9図 第47号堅穴建物跡実測図

規模と形状 長径5.60m、短径4.40mの楕円形で、主軸方向は炉とビットの配列からN-2°-Eである。壁は高さ15cmで、外傾している。

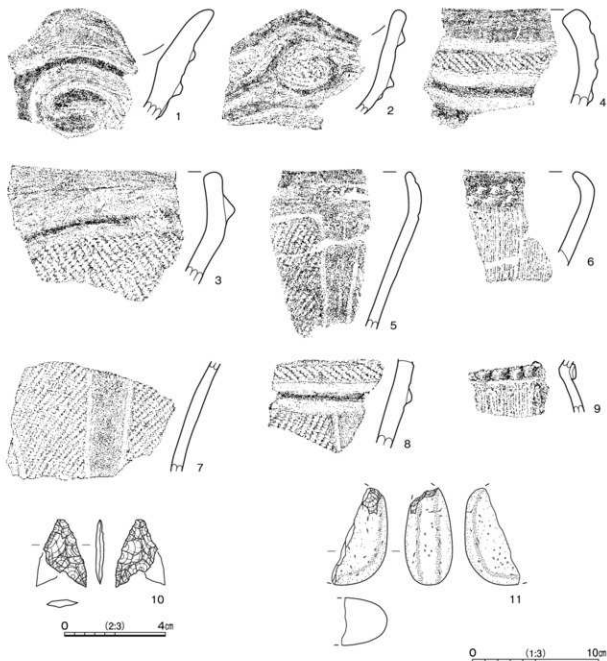
床 平坦で、硬化していない。

炉 中央部に位置している。長径152cm、短径100cmの不整楕円形を呈する地床炉である。北東側から南西側にかけては床面から深さ6cmの皿状を呈し、南東側は長径96cm、短径66cmの楕円形で、深さ20cmのピット状を呈している。炉床面は、赤変硬化している。

ピット 7か所。P1・P2は、深さ44・78cmで、炉の長径方向に直交して位置していることから、主柱穴と考えられる。P3～P7は、深さ8～26cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 5層に分層でき、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片546点（深鉢）、石器7点（チャート製石鏃1、安山岩製磨石2、剥片4〔チャート2、黒曜石2〕）が出土している。縄文土器片の時期は、中期514点（阿玉台式17、加曾利E式480、曾利式15、不明2点）、後期9点（不明）、不明23点である。破片が多く、主に中央部の覆土上層から下層にかけて出土



第10図 第47号堅穴建物跡出土遺物実測図

しており、中期後葉の加曾利E式が主体である。11は北部の床面から、1・3・5～7は中央部の覆土上層から、それぞれ出土している。後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式新段階期）と考えられる。

第4表 第47号竪穴建物跡出土遺物一覧（第10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	液状口縁 隆帯による渦巻文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(8.2)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	液状口縁 横位のRL単筋縄文を地文 隆帯による渦巻文	覆土	5% PL21
3	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	長石・石英	橙	普通	横位のRL単筋縄文を地文 隆帯文	覆土上層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(7.6)	—	長石・石英	橙	普通	横位のRL単筋縄文を地文 隆帯による区画文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(12.4)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口唇部直下に竹管による刻文 縦位のRL単筋縄文を地文 沈線による塗り字状文	砂覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	長石・石英	橙	普通	口唇部直下に竹管による刻文 クシ状工具による条線文を地文	覆土上層	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	横位のRL単筋縄文を地文 沈線による磨消磨痕文	覆土上層	5%
8	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部と胴部の境を隆帯文で区画 口縁部に横位のRL単筋縄文を地文 胴部に沈線による磨消磨痕文	覆土	5%
9	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部と胴部の境を磨消押圧文のある隆帯文で区画 条線文を地文	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
10	石版	265	(174)	0.30	(121)	チャート	円蓋無茶	覆土	80%
11	磨石	7.7	(4.4)	3.8	(148.9)	安山岩	全面磨耗痕 欠損面の一部に摩耗痕・剥離痕	床面	40%

第49号竪穴建物跡（第11・12図 第5表 PL4）

位置 調査区南東部のJ15区、標高約21～22mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第50号竪穴建物跡を掘り込み、上位に第1号遺物包含層が堆積している。重複している第768・770号土坑との関係は不明である。

規模と形状 南西側は調査区外のため、確認できた規模は、長径4.46m、短径4.32mである。平面形は楕円形と推定される。主軸方向は平面形と炉の位置からN-58°-Wである。北東壁が削平のため不明であるが、壁の高さは最大40cmで外傾している。

床 平坦で、東側と南側に向かって緩やかに低くなっている。炉の周辺と北側の一部が硬化している。

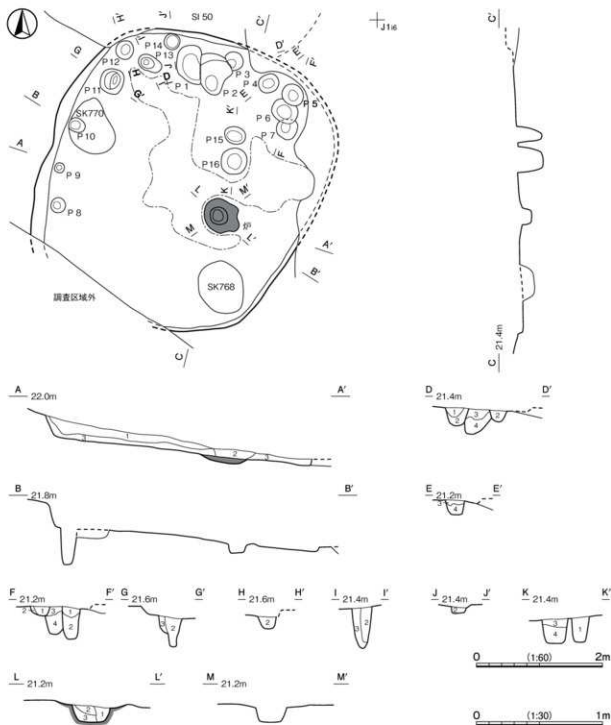
炉 中央部の南東寄りに位置している。長径62cm、短径48cmの不整楕円形を呈する地床炉である。中央部は、長径30cm、短径27cmの楕円形で、深さ14cmのビット状を呈している。炉床面は中央部のビット状の凹みとその周囲で、特にビット状の凹みの南西側が赤変硬化している。

ビット 16か所。P1～P14は、西壁際から北壁際にかけて位置し、深さ8～48cmで、壁柱穴と考えられる。P15は、深さ38cm、P16は、深さ38cmで、いずれも炉の北側に位置するが、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 3層に分層でき、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片609点（深鉢608、蓋1）が覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期27点、後期533点、時期不明49点で、後期が主体である。

所見 時期は、出土土器から後期前葉（堀之内1式期）と考えられる。



土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒C・小D、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 5YR2/3 暗褐色 ローム小B・粒C、焼土中C、焼土粒B/粘B、雜B
- 3 10YR4/3 赤褐色 ローム粒B・小B・中D/粘B、雜B

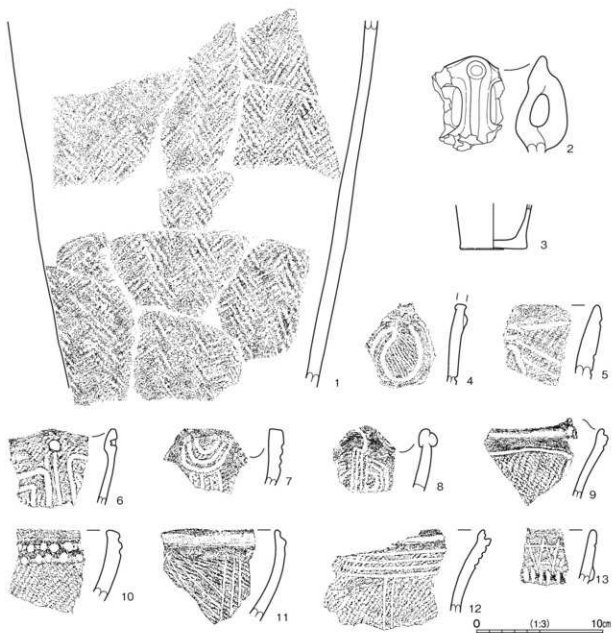
灰土層解説

- 1 25YR2/2 極暗褐色 焼土小C・粒C/粘B、雜C
- 2 5YR4/3 赤褐色 焼土粒B・小C、ローム粒C・中D/粘B、雜B
- 3 25YR2/2 極暗褐色 焼土粒B・小C・中C、ローム粒D・中D、炭化粒C/粘B、雜B

ビット土層解説 (各ビット共通)

- 1 75YR3/2 赤褐色 ローム中C・粒C、焼土粒D、炭化粒C/粘B、雜B
- 2 75YR3/3 暗褐色 ローム粒B・小C、焼土粒D、炭化粒C/粘B、雜B
- 3 75YR3/4 暗褐色 ローム粒B・小C、焼土粒D、炭化粒C/粘B、雜B
- 4 75YR4/4 暗褐色 ローム粒B、炭化粒D/粘B、雜B

第11図 第49号堅穴建物跡実測図



第12図 第49号堅穴建物跡出土遺物実測図

第5表 第49号堅穴建物跡出土遺物一覧（第12図）

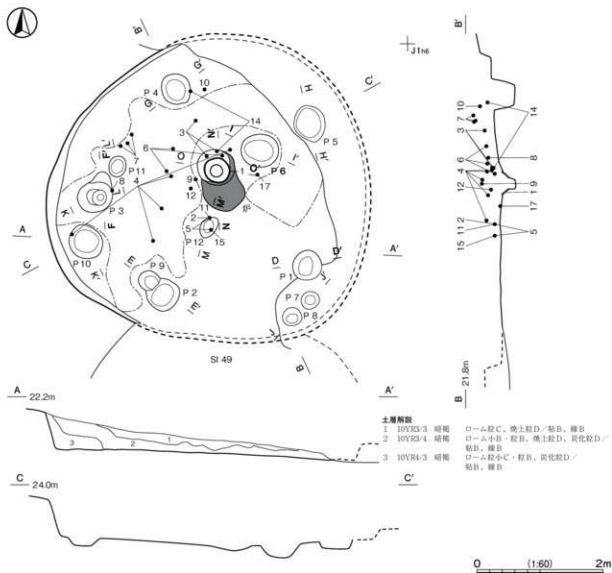
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(29.0)	—	長石・石英	橙	普通	縦位 RL・LR 半筋縄文による羽状縄文	覆土	25%
2	縄文土器	深鉢	—	(7.6)	—	長石・石英	明赤褐	普通	小波状口縁 波頂部直下横状把手	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(3.5)	5.0	長石・石英	にぶい黄橙	普通	無文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 LR 半筋縄文 沈瀬による磨消 C 字文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	長石・石英	橙	普通	地文横位 LR 半筋縄文 沈瀬文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 半筋縄文 口唇部直下竹管による刷文 込縄文	覆土	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	角筒状の小波状口縁 地文縦位 R 無筋縄文 波頂部沈瀬による磨消文 沈瀬による4本一組の磨消文	覆土	5%
8	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	小波状口縁 地文縦位 R 無筋縄文 波頂部直下沈瀬による4本一組の磨消文	覆土	5%
9	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	小波状口縁 地文横位 LR 半筋縄文 沈瀬文	覆土	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
10	縄文土器	深鉢	-	(56)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位ⅠL 単節縄文 口唇部直下浅線文・交互刻突文	覆土	5%
11	縄文土器	深鉢	-	(72)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位ⅠL 無節縄文 3本一組の条線文	覆土	5%
12	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文横位ⅠR 単節縄文 口唇部浅線文 半截竹節による平行浅線文	覆土	5%
13	縄文土器	深鉢	-	(42)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	キザミのある陰帯文	覆土	5%

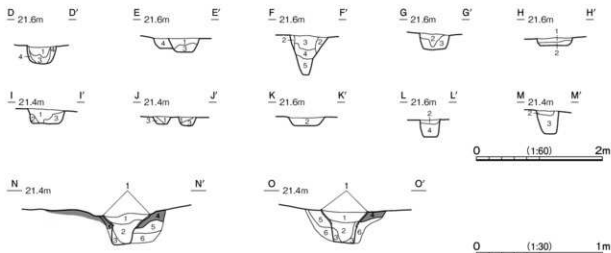
第50号竪穴建物跡（第13～18図 第6表 PL 4・5）

位置 調査区南東部のJ1h5区、標高約21～22mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第769号土坑を掘り込み、第49号竪穴建物に掘り込まれている。



第13図 第50号竪穴建物跡実測図(1)



ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小D・粒C、焼土小D・粒D、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR4/4 暗褐色 ローム大D・中C・小C・粒B/粘B、雜B
- 3 10YR4/3 暗褐色 ローム粒B/粘B、雜B
- 4 7.5YR4/3 暗褐色 ローム小B・粒B/粘B、雜B
- 5 7.5YR4/3 暗褐色 ローム粒B/粘B、雜B

伊土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒D、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小D/粘B、雜B
- 3 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒B/粘B、雜B
- 4 5YR3/2 暗赤褐色 ローム粒C、焼土大C・中C・小C/粘B、雜B
- 5 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C/粘B、雜B
- 6 10YR4/4 暗褐色 ローム小C・粒B/粘B、雜B

第14図 第50号堅穴建物跡実測図(2)

規模と形状 東部は削平、南部は重複のため、確認できた規模は長径4.46m、短径4.42mである。平面形は円形と推定でき、主軸方向は炉とピットの配列からN-23°-Wである。壁の高さは最大58cmで、外傾している。

床 平坦で、東側に向かって緩やかに低くなっている。炉の周辺と西側は硬化している。

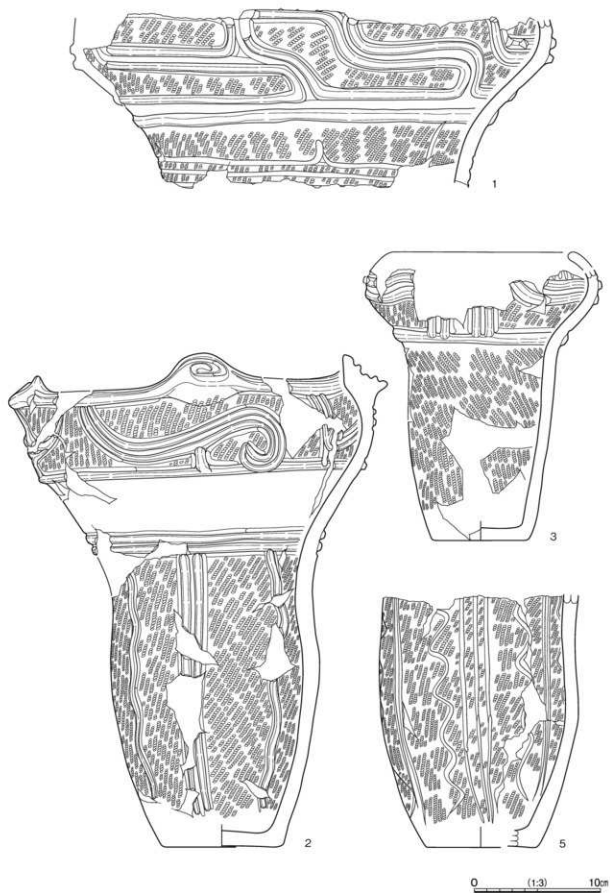
炉 はほぼ中央部に位置している。長径100cm、短径64cmの楕円形で、深さ5cmの土器埋設炉である。炉体土器は、北部に位置し、深鉢の上半部を正位の状態に埋設している。覆土は6層に分層でき、第1～3層は炉体土器内の覆土、第4～6層は掘方埋土である。掘方は、径55cmの円形で、深さ26cmのピット状である。炉床面は、炉体土器の南側に位置し、赤変硬化している。

ピット 12か所。P1～P4は、深さ22～64cmで、P5は、深さ6cmである。P1～P5は、P5の深さが浅いものの、炉を中心に五角形に配置されることから、主柱穴と考えられる。P6～P12は、深さ12～36cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

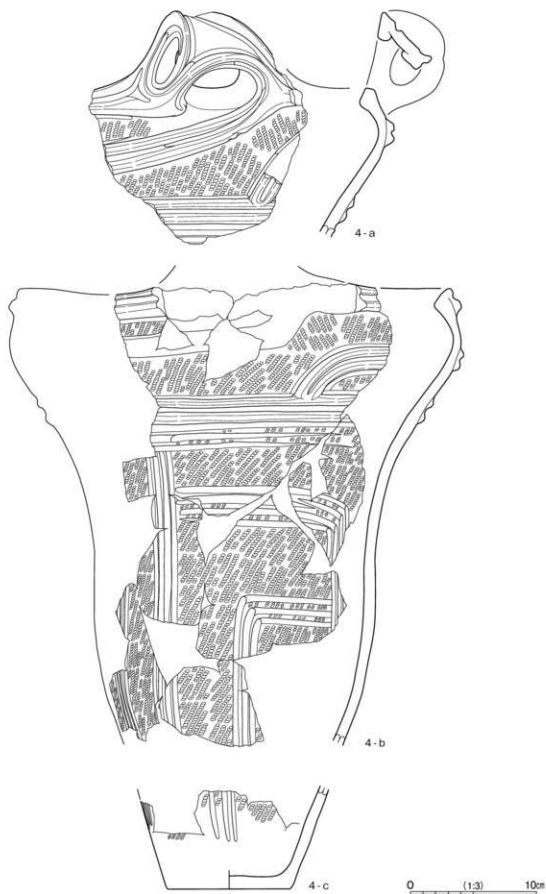
覆土 3層に分層でき、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片1111点(深鉢1110、鉢1)、土製品1点(土器片円盤)、石器3点(安山岩製磨石1、剥片2〔チャート製、頁岩製〕)が出土している。縄文土器片は、中期中葉2点(阿玉台式)、中期後葉168点(加曾利E式)、中期106点、後期初頭2点(称名寺式)、後期中葉4点(加曾利B式)、時期不明146点である。1は炉体土器である。2～15は覆土上層から出土したほぼ完形土器と大型破片で、廃棄された状態で出土している。17は床面から出土している。

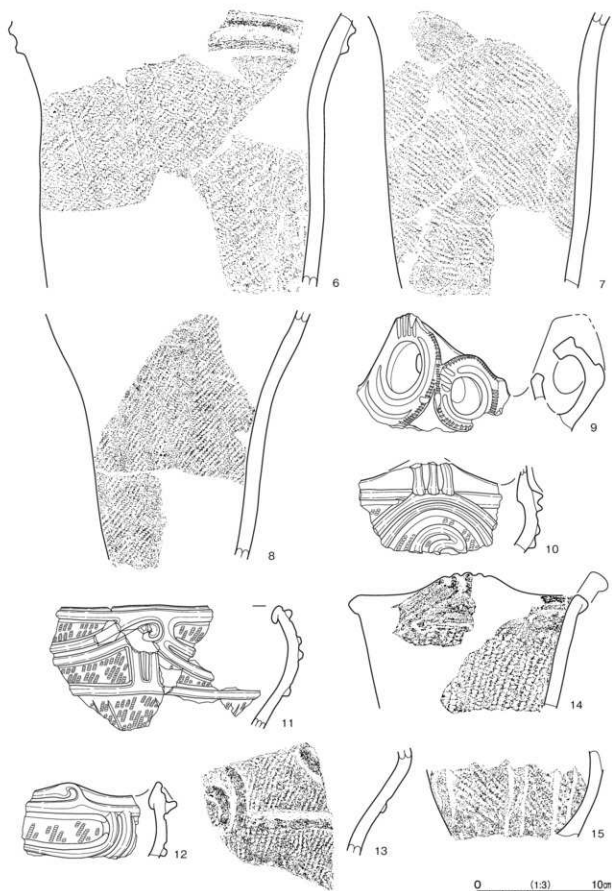
所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利E I式中段階期)と考えられる。



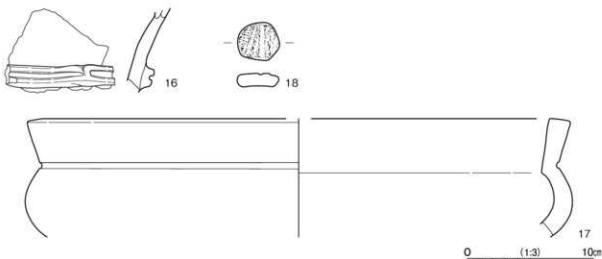
第 15 图 第 50 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 16 图 第 50 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第 17 图 第 50 号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)



第18図 第50号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

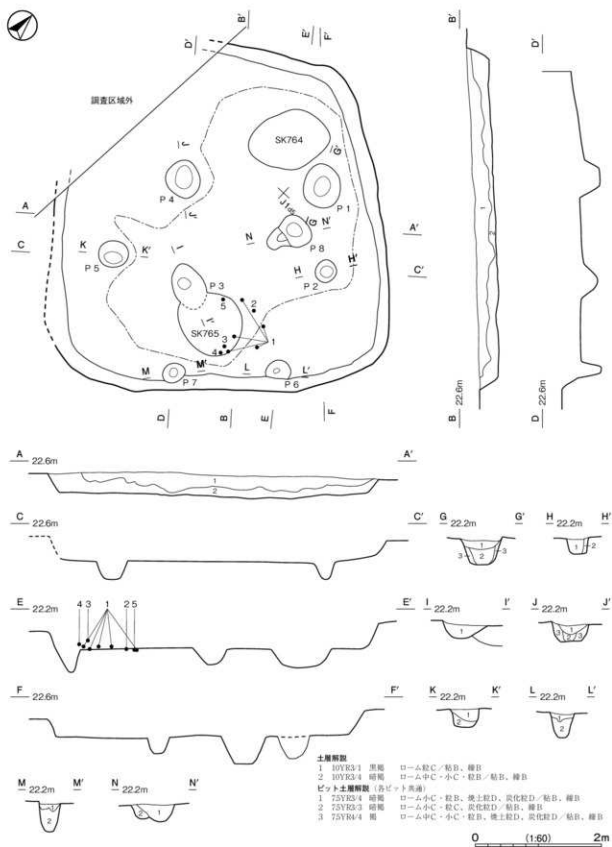
第6表 第50号竪穴建物跡出土遺物一覧(第15～18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	[143]	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 口縁部と胴部の間に隆起文 口縁部に2本一組の隆起によるクラシク文 胴部に沈線文	伊賀段	25% PL.21
2	縄文土器	深鉢	24.3	39.2	9.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	小波状口縁 波頂部無文 地文斜位 RL 単節縄文 口縁部端部が明ける2本一組の隆起による横S字文 胴部無文 胴部2本一組の隆起文・波状隆起文を呈出	覆土上層	90% PL.21
3	縄文土器	深鉢	[142]	[229]	7.6	長石・石英	明赤褐	普通	地文縦位・横位 RL 単節縄文 口縁部2本一組の隆起によるクラシク文	覆土上層	70% PL.21
4	縄文土器	深鉢	[340]	[528]	9.8	長石・石英・雲母	橙	普通	波状口縁 波頂部無文 地文縦位・横位 RL 単節縄文 口縁部と胴部の間に隆起文 口縁部背に沈線のある隆起によるクラシク文 胴部4本一組の沈線文・沈線によるクラシク文を呈出	覆土上層	40% PL.22
5	縄文土器	深鉢	—	[201]	8.7	長石・石英	明褐	普通	地文縦位 RL 単節縄文 胴部3本一組の沈線文・波状隆起文を呈出	覆土上層	50% PL.21
6	縄文土器	深鉢	—	[21.1]	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 胴部背に沈線のある隆起文	覆土上層	20%
7	縄文土器	深鉢	—	[21.5]	—	長石・石英・雲母	橙	普通	縦位 LR 単節縄文	覆土上層	15%
8	縄文土器	深鉢	—	[19.7]	—	長石・石英	にぶい褐	普通	縦位 RL 単節縄文	覆土上層	5%
9	縄文土器	深鉢	—	[9.0]	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	波状口縁 波頂部無文 地文縦位 RL 単節縄文 口縁部2本一組の隆起による波状文	覆土上層	5% PL.21
10	縄文土器	深鉢	—	[7.0]	—	長石・石英・雲母	橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 口縁部2本一組の隆起による波状文	覆土上層	5% PL.21
11	縄文土器	深鉢	—	[10.0]	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	地文縦位 RL 単節縄文 口縁部2本一組の隆起による波状文 胴部沈線文を呈出	覆土上層	5% PL.22
12	縄文土器	深鉢	—	[6.0]	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	小波状口縁 波頂部に波状文 地文縦位 RL 単節縄文 口縁部2本一組の隆起によるクラシク文	覆土上層	5% PL.22
13	縄文土器	深鉢	—	[8.0]	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 口縁部2本一組の隆起文	覆土	5%
14	縄文土器	深鉢	—	[10.8]	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	小波状口縁 波頂部がギザミ 縦位 RL 単節縄文	覆土上層	15%
15	縄文土器	深鉢	—	[6.8]	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	縦位 LR 単節縄文 胴部2本一組の沈線を呈出	覆土上層	5%
16	縄文土器	深鉢	—	[6.7]	—	長石・石英	にぶい褐	普通	胴部無文 胴部背に沈線のある隆起文	覆土	5%
17	縄文土器	鉢	[43.2]	[9.4]	—	長石・石英	橙	普通	無文	床面	5% PL.22
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
18	土器片 [18]	3.0	3.3	1.2	13.12	長石・石英	橙	地文 RL 単節縄文 沈線文	覆土	100%	

第51号竪穴建物跡(第19・20図 第7表 PL.5)

位置 調査区南東部のJ1d4区、標高約22mの台地上に位置している。

重複関係 第765号土坑を掘り込み、第764号土坑に掘り込まれている。



第19図 第51号竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸 5.62 m、短軸 5.38 m の隅丸台形で、長軸方向は N-43°-W である。壁は高さ 22～35 cm で、外傾している。

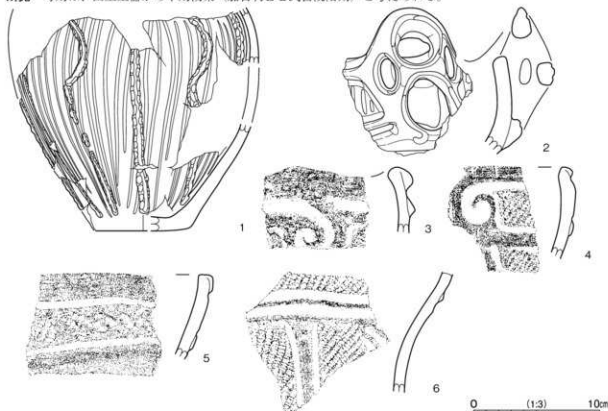
床 平坦で、南東側に向かって緩やかに低くなっている。南東壁際から北東壁際まで硬化している。

ピット 8 か所。P1～P5 は、深さ 26～42 cm で、主柱穴と考えられる。P6・P7 は、深さ 38・46 cm で、2 基 1 対で南東壁際に位置していることから、出入口施設に伴うピットの可能性がある。P8 は、深さ 26 cm で、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 2 層に分層でき、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 1680 点（深鉢）、石器 1 点（チャート製剥片）が覆土中から出土している。縄文土器片の時期は、中期後葉 128 点（加曾利 E 式 109、曾利式 19）、中期 4 点、後期前葉 1305 点（称名寺式 101、堀之内式 1204）、後期後葉 2 点（加曾利 B 式）、後期 119 点、時期不明 122 点である。1～5 は、いずれも南東壁際中央部の覆土下層からまとめて出土している。2 の加曾利 E I 式土器と後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E II 式古段階期）と考えられる。



第 20 図 第 51 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 7 表 第 51 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 20 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特 徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(18.3)	(7.5)	長石・石英	橙	普通	地文染織文 指頭押圧のある隆帯を懸垂	覆土下層	40% PL22
2	縄文土器	深鉢	-	(11.6)	-	長石・石英	橙	普通	膨脹状把手 隆帯による区画文 縦位沈織文光	覆土下層	5% PL22
3	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	小波状口縁 隆帯による渦巻文	覆土下層	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石・石英	灰褐	普通	地文縦位 RL 華節縄文 口縁部隆帯による渦巻文 胴部磨治懸垂文	覆土下層	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位・横位 RL 華節縄文 隆帯による区画	覆土下層	5%
6	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 華節縄文 胴部隆帯文で区画 胴部磨治懸垂文	覆土	5%

第52号竪穴建物跡（第21・22図 第8表 PL5）

位置 調査区南東部のJ1g5区、標高約21mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第60号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 西側から南側にかけて攪乱のため、確認できた規模は、長径294m、短径284mである。平面形は楕円形と推定でき、主軸方向は平面形と炉の位置からN-30°-Wである。壁の高さは最大で14cmで、外傾している。

床 は平坦で、硬化していない。南東部に向かって緩やかに低くなっている。

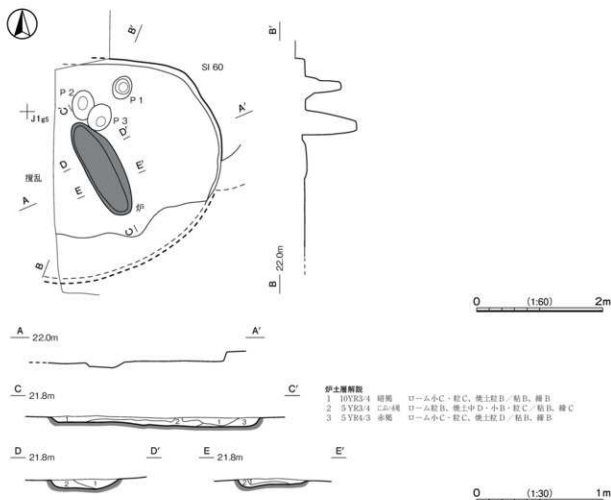
炉 は中央部に位置している。長径156cm、短径56cmの長楕円形で、深さ6cmの地床炉である。炉床面は平坦で、南部が強く赤変硬化している。

ピット 3か所。P1～P3は、深さ27～74cmである。P1は、位置と深さから主柱穴と考えられる。その他の性格は不明である。

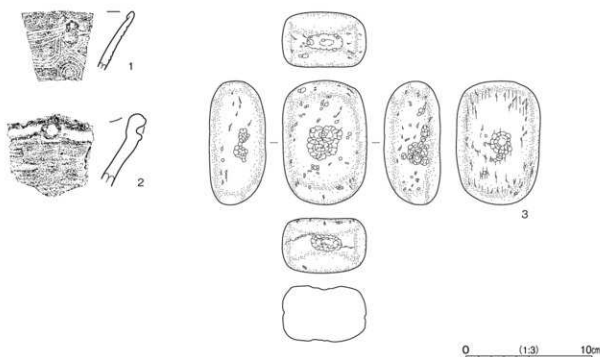
覆土 上部が攪乱などのため、北部に一部残存していただけで、記録できなかった。

遺物出土状況 縄文土器片423点（深鉢）、石器1点（安山岩製凹石）が覆土から散在した状態で出土している。縄文土器片の時期は、中期8点、後期415点である。1は炉内から、2・3は覆土から、それぞれ出土している。中期の縄文土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期中葉（堀之内2式期）と考えられる。



第21図 第52号竪穴建物跡実測図



第22図 第52号竪穴建物跡出土遺物実測図

第8表 第52号竪穴建物跡出土遺物一覧（第22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	断土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	8字状胎付文 条線による渦巻文	炉覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	長石・石英	にぶい赤褐	普通	小波状口縁 波頂部直下円形刺突文	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	門石	9.7	6.7	4.5	437.9	安山岩	全面磨光 表裏面凹痕 両側縁不規則な凹痕 上下端部敲打痕	覆土	100% PL22

第54号竪穴建物跡（第23・24図 第9表）

位置 調査区南東部のJ1b6区、標高22mほどの台地上に位置している。

重複関係 第755・821・1142号土坑を掘り込み、第751・825・826・1056・1131号土坑に掘り込まれている。第998・1057・1161・1162号土坑との関係は不明である。

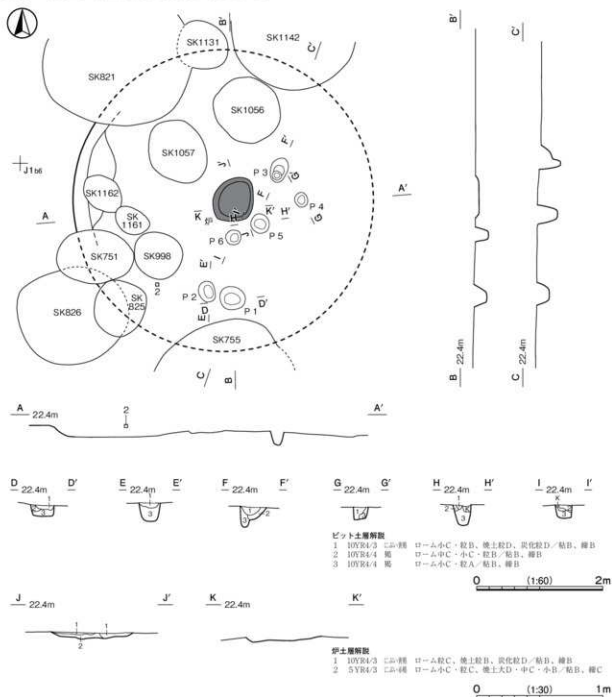
規模と形状 上部が削平のため、西壁の一部とともに、炉とピット、床の一部を確認した。径4.76mで、円形と推定できる。壁は高さ14cmで、外傾している。

炉 は中央部に位置している。長径78cm、短径64cmの楕円形をで、深さ5cmの地床炉である。炉床面は、赤変硬化している。

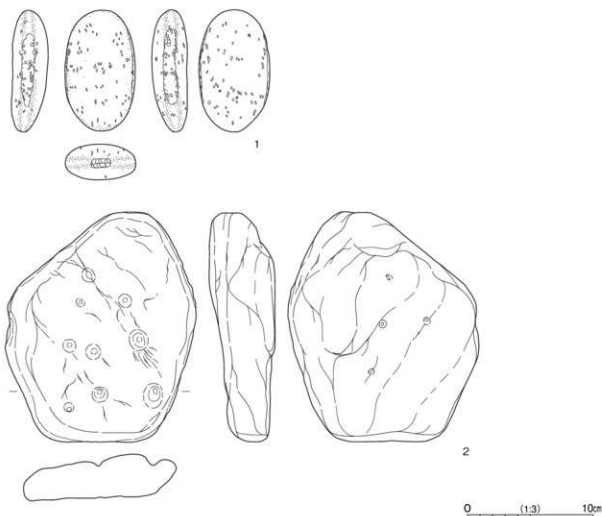
ピット 6か所。P1・P2は深さ17cm・29cmで、南壁寄りに位置している。P3～P6は、深さ18～32cmで、炉の周囲に位置している。いずれも性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片 1834 点（深鉢 1832、浅鉢 1、釣手土器 1）、石器 3 点（安山岩製敲石 1、雲母片岩製凹石 1、黒曜石製剥片 1）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 131 点（加曾利 E 式 111、曾利式 7、不明 13）、後期 1697 点（称名寺式 91、堀之内式 262、不明 1344）、不明 6 点である。縄文土器片は後期のものが主体で、中期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期と考えられる。



第 23 図 第 54 号竪穴建物跡実測図



第24図 第54号竪穴建物跡出土物実測図

第9表 第54号竪穴建物跡出土遺物一覧(第25図)

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
1	敲石	9.7	5.7	2.8	208.57	安山岩	下部部・両側縁敲打痕	覆土	100% PL23
2	門石	18.2	15.2	5.2	167.23	雲母片岩	表面凹痕9か所 裏面凹痕4か所	覆土上層	100% PL23

第55号竪穴建物跡(第25～28図 第10表 PL5・6)

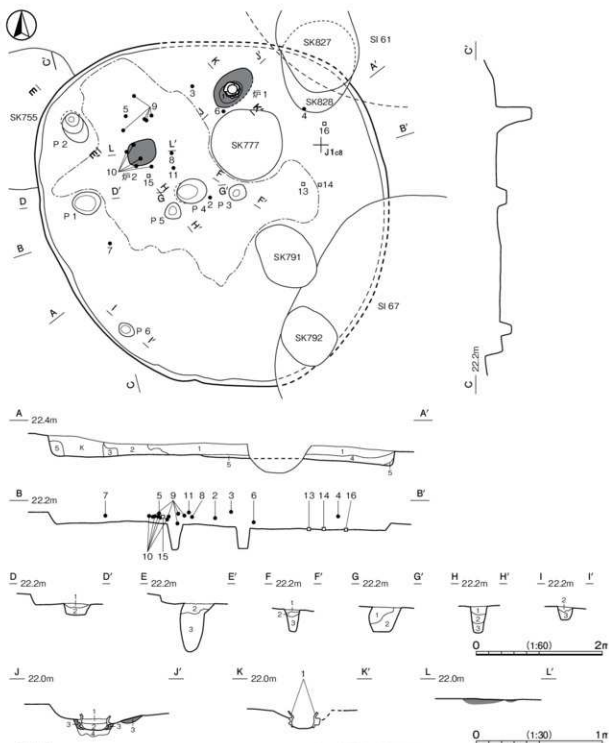
位置 調査区南東部のJ1c7区、標高約22mの台地上に位置している。

重複関係 第755・790号土坑を掘り込み、第61・67号竪穴建物、第777・791・792・827・828号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径5.98m、短径5.42mの楕円形である。主軸方向は平面形と炉の位置からN-54°-Eである。壁は高さ12～26cmで外傾している。

床 平坦で、中央部から北部にかけて硬化している。中央部がやや高くなり、東部に向かって低くなっている。

炉 2か所。炉1は、北壁寄りに位置し、長径148cm、短径93cmの楕円形で、深さ12cmの土器埋設炉である。炉体土器は、中央部に位置し、深鉢の上半部を正位に埋設している。4層に分層され、第1・2層は炉体土器



土層解説

- | | |
|---------------|-----------------------------|
| 1 10YR3/2 黒褐色 | ローム中D・小C・粒C、焼土粒D、炭化粒D／粘B、雜B |
| 2 10YR3/3 暗褐色 | ローム小D・粒C、炭化粒D／粘B、雜B |
| 3 10YR4/3 灰褐色 | ローム小B・粒A／粘B、雜B |
| 4 10YR3/4 暗褐色 | ローム小C・粒B／粘B、雜B |
| 5 10YR4/3 灰褐色 | ローム粒B、焼土粒D／粘B、雜B |

炉土層解説

- | | |
|---------------|--------------------------|
| 1 10YR3/4 暗褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒D、炭化粒D／粘B、雜B |
| 2 10YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒D、炭化粒D／粘B、雜B |
| 3 75YR3/4 赤褐色 | ローム小C・粒C、焼土小C、粒B／粘B、雜B |
| 4 10YR3/4 暗褐色 | ローム粒B、焼土粒D／粘B、雜B |

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 10YR3/4 暗褐色 | ローム中D・小C・粒B／粘B、雜B |
| 2 10YR4/4 灰褐色 | ローム小C・粒B、焼土粒D／粘B、雜B |
| 3 10YR4/4 暗褐色 | ローム粒B、焼土粒D／粘B、雜B |

第25図 第55号竪穴建物跡実測図

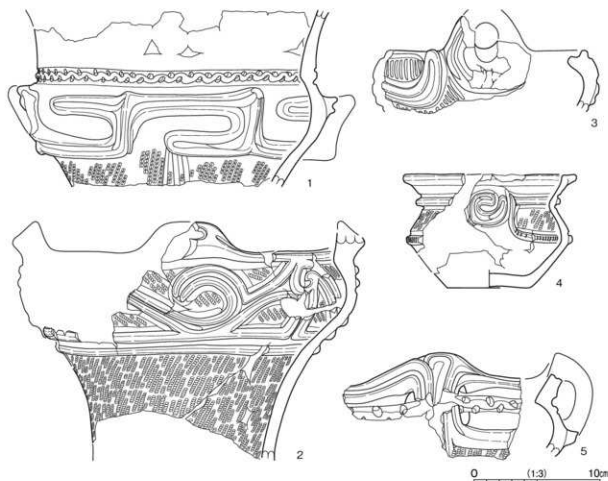
内の覆土、第3・4層は掘方埋土である。掘方は、径30cmの円形で、深さ12cmのビット状である。炉の南西壁は外傾しているが、北東壁は緩やかである。埋設土器の周囲と北東壁はわずかに赤変硬化している。炉2は、北西壁寄りに位置し、長径52cm、短径40cmの楕円形の地床炉である。炉床面は床面と同じ高さで、赤変硬化している。

ビット 6か所。P1・P2・P6は、深さ12cm・55cm・19cmで、壁寄りに位置している。P3～P5は、深さは34～40cmで、中央部に位置している。いずれも性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

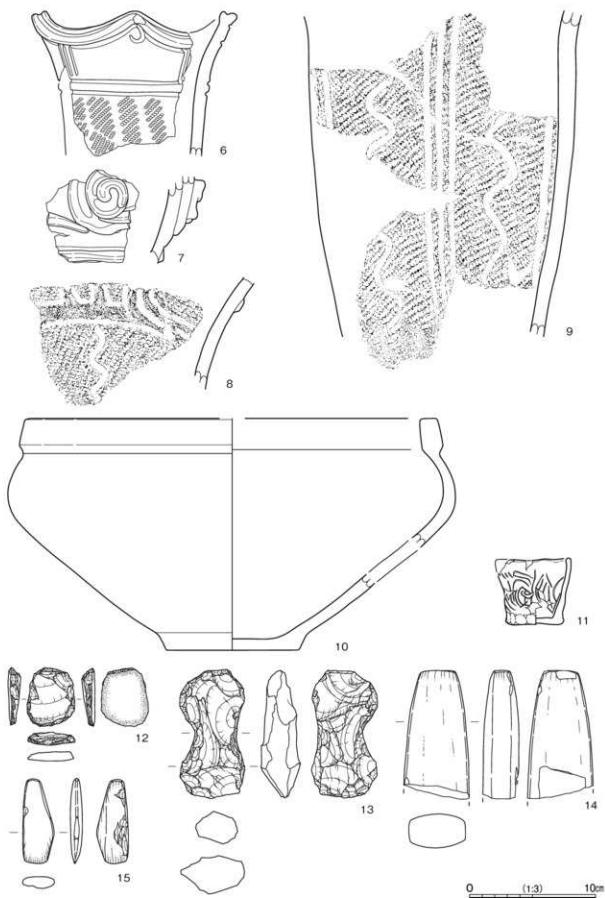
覆土 5層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片1513点（深鉢1495、鉢1、浅鉢16、ミニチュア1）、石器9点（流紋岩製搔器1、ホルンフェルス製打製石斧1、緑色凝灰岩製磨製石斧2、安山岩製磨石1、安山岩製敲石1、安山岩製凹石1、剥片2〔チャート製、頁岩製〕）が出土している。縄文土器片の時期は、中期439点（阿玉台式1、加曽利E式354、曾利式2、不明82）、後期724点（称名寺式32、堀之内式97、不明595）、時期不明350点である。1は炉1の炉体土器である。13・14・16は東部の床面から、それぞれ出土している。2は中央部、5・8・9・10・11・15は北西部、4・6は北部の覆土上層から廃棄された状態で出土している。9・10はそれぞれ近接して出土した破片が接合したものである。後期の縄文土器片は混入したものである。

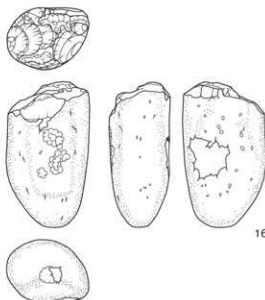
所見 時期は、出土土器から縄文時代中期後葉（加曽利EⅠ式中段階期）と考えられる。



第26図 第55号堅穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 27 图 第 55 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



16

0 (1:3) 10cm

第28図 第55号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第10表 第55号竪穴建物跡出土遺物一覧(第26～28図)

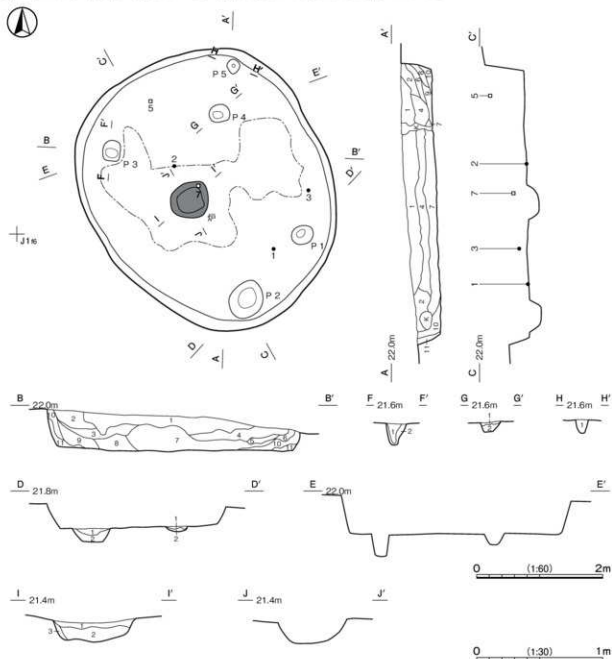
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(139)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部無文帯下に交互刺突文。背に沈線を有する隆帯によるケラシク文。胴部地文縦位RLR。横位縦文。3本一組の沈線による彫文	伊理段	40% PL23
2	縄文土器	深鉢	[242]	(189)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	流道部に高卷文を有する4単位の波状口縁。口縁部地文横位RL。単筋横文。胴部地文縦位RL。単筋横文。口縁部沈線が沿う2本一組の隆帯による横S字状文。縦位小面卷文	覆土上層	40% PL23
3	縄文土器	深鉢	[153]	(72)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部状把手。背に沈線のある隆帯文。縦位集合沈線文充填	覆土上層	10% PL23
4	縄文土器	鉢	136	9.0	6.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部無文。流文縦位RL。単筋横文。胴部上位背に沈線のある隆帯による横い高卷文。胴部中位ケガシを有する隆帯文	覆土上層	60% PL23
5	縄文土器	深鉢	—	(82)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	小波状口縁。流道部下置袋状把手。口縁部交互刺突文。胴部縦位RL。単筋横文	覆土上層	5%
6	縄文土器	深鉢	[161]	(115)	—	長石・石英	橙	普通	4単位の波状口縁。流道部下に沈線による高卷文。波底部下3本一組の沈線文。胴部2本一組の沈線文。胴部縦位RL。単筋横文	覆土上層	20% PL23
7	縄文土器	深鉢	—	(70)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部高卷状突起。胴部沈線の沿う隆帯文	覆土上層	5%
8	縄文土器	深鉢	—	(84)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位RL。単筋横文。胴部の地に沈線の沿う隆帯文。口縁部背に沈線のある隆帯文。胴部純行沈線文彫文	覆土上層	5%
9	縄文土器	深鉢	—	(255)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文縦位RL。単筋横文。胴部3本一組沈線文。純行沈線文彫文	覆土上層	15% PL24
10	縄文土器	鉢	[326]	[184]	104	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部肥厚。無文	覆土上層	15%
11	縄文土器	小口鉢	[59]	5.3	4.3	長石・石英	橙	普通	沈線による幾何学文	覆土上層	90% PL23
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
12	磁器	4.6	3.8	1.0	21.88	流紋岩	素材自然面を残した縦長割片。周縁急角度の連続調整			覆土	100% PL24
13	打製石斧	10.2	5.2	3.1	161.14	ホルンフェルス	分銅形。周縁から全面調整。中央部抉り込み			床面	100% PL24
14	磨製石斧	(10.3)	5.2	2.8	(258.9)	緑色凝灰岩	定角式。全面研磨。另部欠損			床面	70% PL24
15	磨製石斧	6.8	2.5	0.9	26.0	緑色凝灰岩	側縁部に敲打調整。全面研磨			覆土上層	100%
16	敲石	11.6	6.6	4.9	533.01	安山岩	素材分割した楕円形。分銅面を周縁から調整。両面に敲打痕			床面	100% PL24

第56号竪穴建物跡 (第29・30図 第11表 PL 6)

位置 調査区南東部のJ1e6区、標高約22mの台地上に位置している。

規模と形状 長径4.45m、短径3.78mの楕円形で、主軸方向は、平面形と炉の位置からN-50°-Eである。
壁の高さは最大で60cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が硬化している。南部に向かって緩やかに低くなっている。



土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小粒・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR4/3 二色性 暗褐色 ローム粒C、焼土小D/粘B、雜B
- 3 10YR4/3 二色性 暗褐色 ローム小C・粒C、焼土粒C、炭化粒D/粘B、雜B
- 4 10YR3/4 暗褐色 ローム粒B、焼土粒C、炭化粒B/粘B、雜B
- 5 5YR4/4 二色性 暗褐色 ローム粒C、焼土中C・小粒・粒B/粘B、雜B
- 6 10YR4/6 暗褐色 ローム小粒・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B
- 7 10YR4/4 暗褐色 ローム中C・小C・粒B、炭化粒D/粘B、雜B
- 8 10YR4/4 暗褐色 ローム小粒・粒B、炭化粒D/粘B、雜B
- 9 10YR4/3 二色性 暗褐色 ローム中B・粒B、焼土粒C、炭化粒D/粘B、雜B
- 10 10YR4/6 暗褐色 ローム中C・小粒/粘B、雜B
- 11 10YR4/6 暗褐色 ローム中B・小粒/粘B、雜B

ビッド土層解説 (各ビッド共通)

- 1 10YR4/3 二色性 暗褐色 ローム中D・小C・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YR4/4 暗褐色 ローム小B・粒B/粘B、雜B

伊土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C、焼土小D・粒D、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 5YR4/3 二色性 暗褐色 ローム粒C、焼土小C・粒B、炭化粒D/粘B、雜B
- 3 7.5YR4/4 暗褐色 ローム粒C/粘B、雜B

第29図 第56号竪穴建物跡実測図

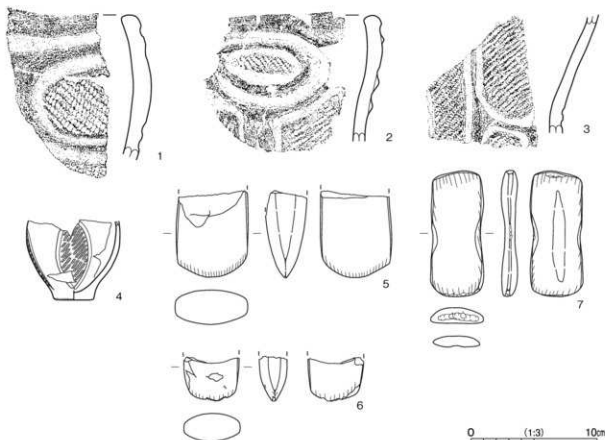
炉 中央部やや南西寄りに位置している。長径 67cm、短径 59cm の楕円形で、深さを 18cm の地床炉である。炉床面は、赤変硬化している。

ピット 5 か所。P 1～P 4 は、深さ 9～35cm で、壁際に位置している。P 5 は、深さ 22cm である。位置と深さから P 3・P 4 が柱穴と考えられ、その他の性格はいずれも不明である。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 11 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 1270 点（深鉢 1269、ミニチュア土器 1）、石器 8 点（砂岩製磨製石斧 1・安山岩製磨製石斧 2・緑色片岩製磨製石斧 1、安山岩製磨石 1、剥片 3〔チャート製、黒曜石製、石英製〕）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 92 点（阿玉台式 4、加曾利 E 式 44、不明 44）、後期 1135 点（称名寺式 91、堀之内式 49、不明 995）、不明 43 点である。1 は南東部、2 は中央部の床面から、3 は東部、7 は中央部の覆土下層から、5 は北部の覆土上層から、それぞれ出土している。後期の縄文土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E Ⅲ式新段階期）と考えられる。



第 30 図 第 56 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第 11 表 第 56 号堅穴建物跡出土遺物一覧（第 30 図）

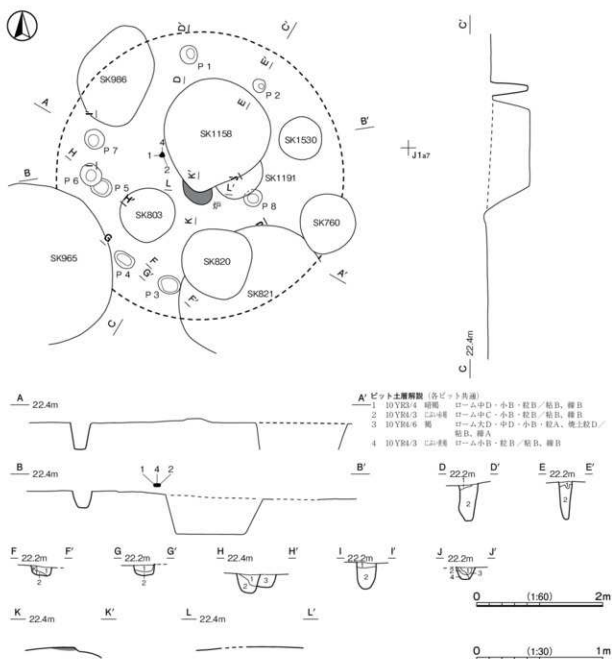
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(11.5)	—	長石・石英	橙	普通	地文横位 RL 単筋縄文 沈殿による区画文	床面	5%
2	縄文土器	深鉢	(10.0)	—	—	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部地文横位 RL 単筋縄文 胴部縦位 RL 単筋縄文 底部による楕円区画文 磨消型垂文	床面	5%
3	縄文土器	深鉢	(9.4)	—	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 磨消型垂文	覆土下層	5%
4	縄文土器	ミニチュア土器	(6.3)	3.0	—	長石・石英	にぶい黄	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 沈殿による区画文	覆土	30% PL24

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
5	磨製石斧	(6.9)	5.8	3.3	(177.35)	砂岩	定角式 全面研磨 基部欠損	覆土上層	40% PL24
6	磨製石斧	(3.5)	4.4	2.2	(41.80)	安山岩	定角式 全面研磨 基部欠損	覆土	30%
7	磨製石斧	10.0	4.2	1.3	94.26	緑色片岩	全面研磨 刃部摩耗 敲石痕用	覆土下層	100% PL24

第57号竪穴建物跡 (第31・32図 第12表)

位置 調査区南東部のI16区、標高約22mの台地上に位置している。

重複関係 第821号土坑を掘り込み、第760・803・820・965・1158・1191号土坑に掘り込まれている。第986・1530号土坑との関係は不明である。



第31図 第57号竪穴建物跡実測図

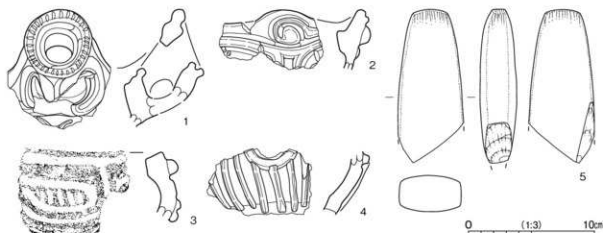
規模と形状 上部が削平のため、炉とピットのみを確認した。規模は、ピットの配置や床面の範囲から径4.60mの円形と推定できる。

炉 中央部に位置し、第1158号土坑に掘り込まれているため、確認できた規模は、長径43cm、短径40cmである。平面形は楕円形と推定でき、床を掘りくぼめない地床炉である。確認できた炉床面は、赤変硬化している。

ピット 8か所。P1～P7は、深さ12～58cmで、壁際に沿って位置していることから、壁柱穴と考えられる。P8は、深さ22cmで、中央部東寄りに位置し、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片511点（深鉢）、石器6点（砂岩製磨製石斧1、安山岩製磨石1、剥片4〔チャート製1、黒曜石製3〕）が床面精査中の覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期74点（加曽利E式12、不明62）、後期419点（称名寺式2、堀之内式3、不明414）、時期不明18点である。1～5は、遺構精査時の覆土から、それぞれ出土している。後期の縄文土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。



第32図 第57号堅穴建物跡出土遺物実測図

第12表 第57号堅穴建物跡出土遺物一覧（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	器底状把手 頂部キズミを有する隆帯による環状突起	覆土	5% PL24
2	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	液滴部沈線の沿う隆帯による渦巻文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	背に沈線のある隆帯文 縦位集合沈線文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	縦位集合隆帯文	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	磨製石斧	(122)	5.2	2.9	(288.86)	砂岩	定角式 全面研削 刃部欠損	覆土	70% PL24

第60号堅穴建物跡（第33図 第13表 PL5）

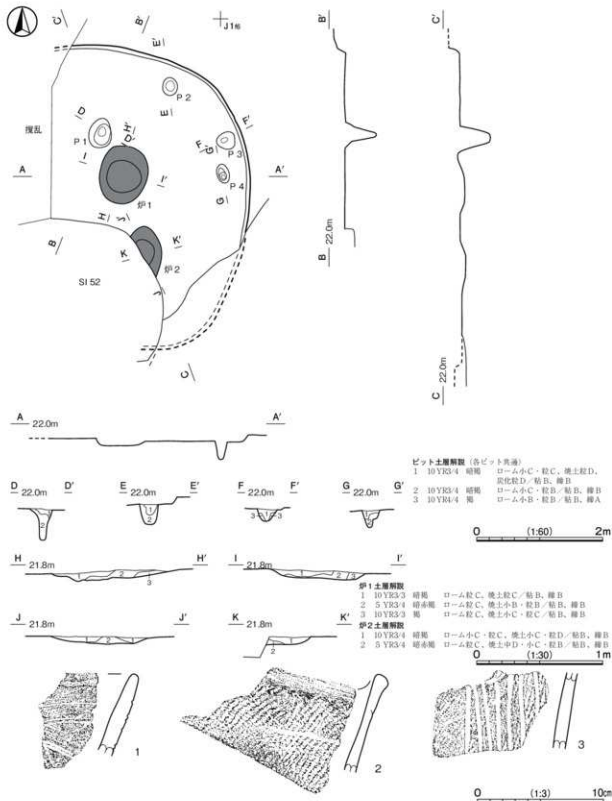
位置 調査区南東部のJ15区、標高約21mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第52号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 西半部から南部にかけて重複や攪乱のため、確認できた規模は、長径4.24m、短径3.15mである。平面形は楕円形と推定できる。壁の高さは最大14cmで、外傾している。

床 平坦で、硬化していない。

炉 2 か所。炉 1 は、中央部北寄りに位置し、長径 91cm、短径 76cm の楕円形で、深さ 6cm の地床炉である。炉床面は、わずかに赤変硬化している。炉 2 は、中央部南東寄りに位置し、確認できた規模は、長径 72cm、短径 52cm である。平面形は楕円形と推定でき、深さ 6cm の地床炉である。確認できた炉床面は、わずかに赤変硬化している。



第 33 図 第 60 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 4か所。P 1は、深さ48cmで、炉1の北側に位置している。P 2～P 4は、深さ18～30cmで、壁際に位置している。位置や深さからP 1・P 2は主柱穴と考えられ、その他の性格はいずれも不明である。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 上部が攪乱などのため、北部に一部残存していただけで、記録できなかった。

遺物出土状況 縄文土器片61点（深鉢）が覆土から散在した状態で出土している。縄文土器片の時期は、中期1点、後期60点である。中期の縄文土器片は混入したものである。1～3は、床面精査中の覆土や床面から、それぞれ出土している。

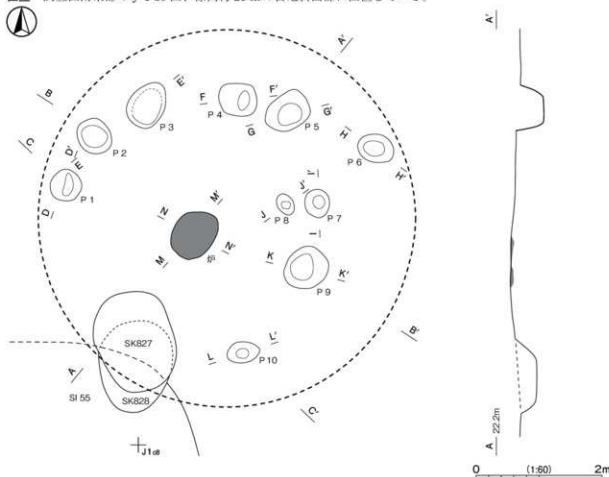
所見 時期は、出土土器から後期前葉（堀之内1式期）と考えられる。

第13表 第60号竪穴建物跡出土遺物一覧（第33図）

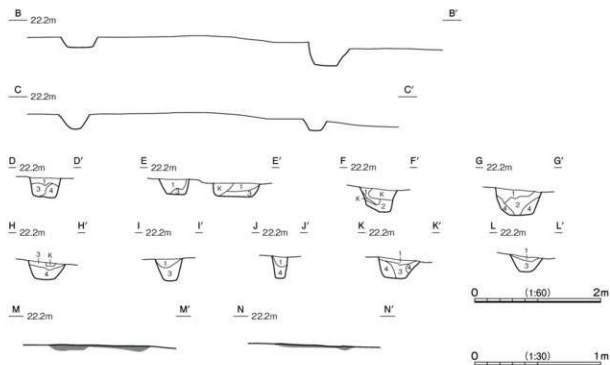
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	長石・石英	橙	普通	棒状工具による条線文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	長石・石英	浅黄橙	普通	波状口縁 地文模位LR 卑部縄文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	長石・石英	橙	普通	地文模位RL 卑部縄文 縦位集合浅線文	覆土	5%

第61号竪穴建物跡（第34・35図 第14表 PL 6）

位置 調査区南東部のJ 1 b8区、標高約21mの台地斜面部に位置している。



第34図 第61号竪穴建物跡実測図



ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YR4/3 にみせ rome小C・粒B、炭化粒D/粒B、糠B
 2 10YR4/3 にみせ rome小D・粒C/粒B、糠B
 3 10YR4/4 黒 rome小C・粒B/粒B、糠B
 4 10YR4/6 黒 rome大D・中C・粒B/粒B、糠B



第35図 第61号竪穴建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第55号竪穴建物跡を掘り込み、第827・828号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 上部が削平のため、炉とピットのみを確認した。ピットの配置から、径5.96mの円形と推定される。

炉 中央部西寄りに位置している。長径84cm、短径64cmの楕円形で、赤変硬化した炉床面を確認した。

ピット 10か所。P1～P6は、深さ20～36cmである。壁際に沿うように位置していることから、壁柱穴の可能性もある。P7～P10は、深さ24～34cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 床面精査中の覆土から、縄文土器片59点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期6点、後期53点である。中期の縄文土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第14表 第61号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第35図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英	橙	普通	頭部王冠状把手 キザミのある隆帯文・沈線文	覆土	5% PL25
2	縄文土器	深鉢	-	(3.6)	-	長石・石英	明赤褐	普通	キザミのある隆帯文	覆土	5%

第 62 号竪穴建物跡 (第 36・37 図 第 15 表 PL 7)

位置 調査区北西部の F 3c8 区、標高 21.5 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 3.70 m、短径 3.57 m の不整形円形である。主軸方向は平面形と炉の位置から N-32°-E である。

壁は高さ 20 cm で、外傾している。

床 平坦で、硬化していない。

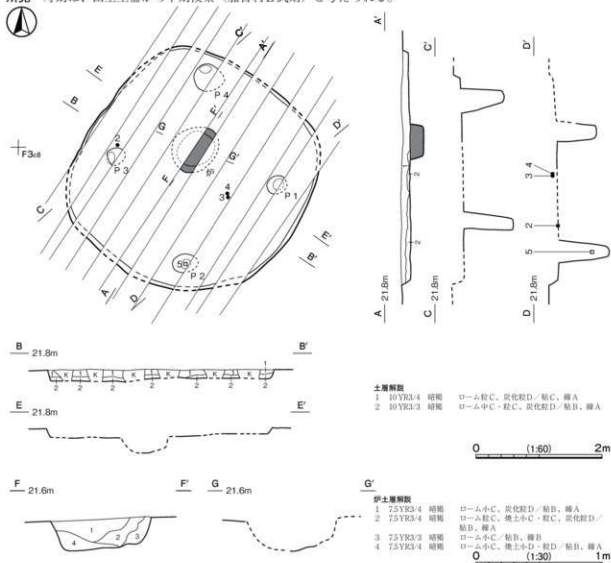
炉 中央部北寄りに位置している。長径 80 cm、短径 66 cm の楕円形で、深さ 25 cm の地床炉である。炉床面は、わずかに赤変硬化している。

ピット 4 か所。P 1～P 4 は、深さ 36～79 cm で、位置と深さから主柱穴と考えられる。

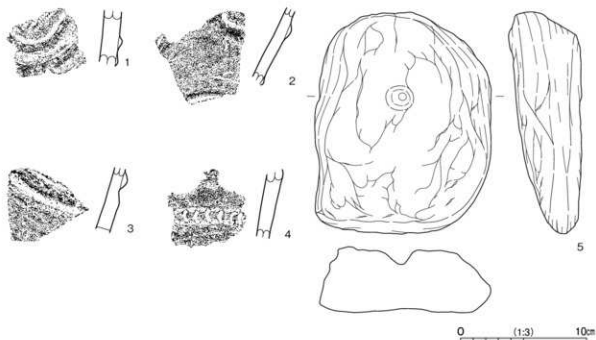
覆土 2 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 122 点 (深鉢)、石器 1 点 (雲母片岩裂凹石) が覆土から散在した状態で出土している。縄文土器片の時期は、中期 109 点 (加曾利 E 式 77、不明 32)、後期 1 点 (称名寺式)、時期不明 12 点である。2 は西部の覆土下層から、3・4 は中央部の覆土上層から、5 は P 2 の覆土下層から、それぞれ出土している。後期の縄文土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利 E 式期) と考えられる。



第 36 図 第 62 号竪穴建物跡実測図



第 37 図 第 62 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 15 表 第 62 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 37 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	-	(43)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線の沿う 2 本一組の隆帯文 横位 LR 平筋縄	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(58)	-	長石・石英	褐灰	普通	隆帯文	覆土下層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(49)	-	長石・石英	に灰・黄緑	普通	沈線の沿う隆帯文	覆土上層	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(55)	-	長石・石英	橙	普通	平載竹筥による刺突文	覆土上層	5%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
5	門石	17.7	14.0	5.8	1986.5	雲母片岩	表面に凹痕 1 か所	第 2 覆土下層	100% PL24

第 63 号竪穴建物跡 (第 38・39 図 第 16 表 PL 7)

位置 調査区北西部の E 4 g2 区、標高 21.5 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 4.60 m、短径 4.18 m の楕円形である。主軸方向は、平面形から N - 31° - E である。壁は高さ 7 ~ 11 cm で、外傾している。

床 平坦で、硬化していない。

炉 中央部北寄りに位置している。長径 140 cm、短径 112 cm の楕円形で、深さ 18 cm の地床炉である。炉床面は、赤変硬化している。

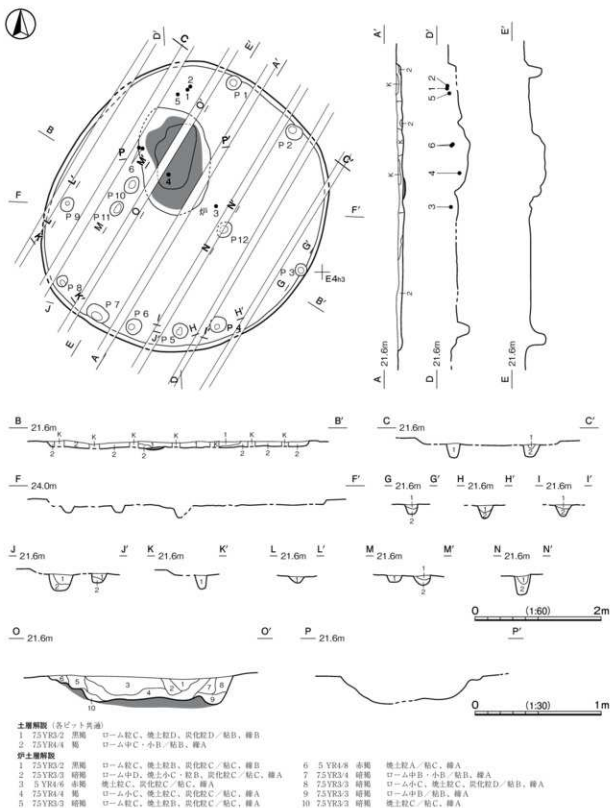
ピット 12 か所。P 1 ~ P 9 は、深さ 10 ~ 27 cm で、壁際に沿うように位置していることから、壁柱穴と考えられる。P 10 ~ P 12 は、深さ 10 ~ 29 cm で、炉の周囲に位置している。性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 2 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

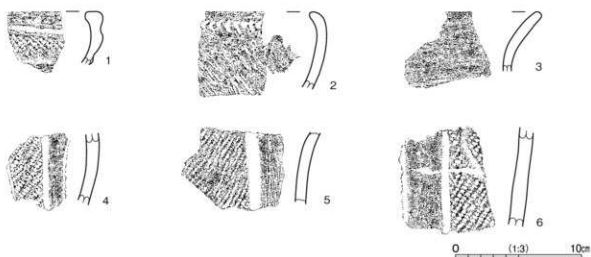
遺物出土状況 縄文土器片 189 点 (深鉢)、石器 1 点 (黒曜石製剥片) が出土している。縄文土器片の時期は、いずれも中期後葉 (加曾利 E 式) である。3・4 は中央部の覆土下層から、1・2・5 は北部、6 は中央部の

覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、中期後葉（加曾利EⅢ式古段階期）と考えられる。



第38図 第63号堅穴建物跡実測図



第39図 第63号竪穴建物跡出土遺物実測図

第16表 第63号竪穴建物跡出土遺物一覧(第39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英	橙	普通	沈殿の沿う隆帯による区画文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英	橙	普通	半截竹管による刺突文 縦位L無銘縄文	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英	橙	普通	無文	覆土下層	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英	明赤褐	普通	地文縦位RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土下層	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土上層	5%
6	縄文土器	深鉢	-	(7.4)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土上層	5%

第64号竪穴建物跡(第40図 第17表 PL 7)

位置 調査区北西部のE3g0区、標高21.5mの台地平坦部に位置している。

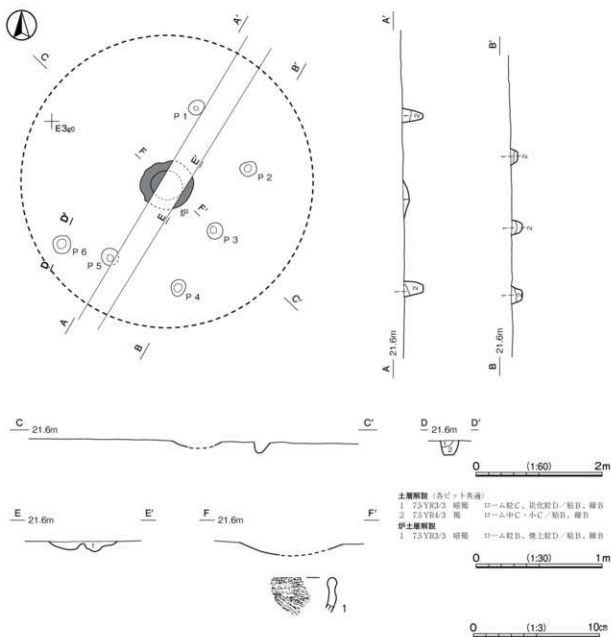
規模と形状 削平のため、炉とピットのみを確認した。規模は、ピットの配置から径4.64mの円形と推定できる。

炉 中央部に位置している。長径84cm、短径75cmの楕円形で、深さ10cmの地床炉である。炉床面は、赤変硬化している。

ピット 6か所。P1～P6は、深さ12～33cmである。P1・P5は位置と深さから主柱穴と考えられ、その他の性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢)が遺構精査中の覆土などから出土している。縄文土器片の時期は、後期9点、時期不明1点である。1は炉の覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期と考えられる。



第40図 第64号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第17表 第64号堅穴建物跡出土遺物一覧 (第40図)

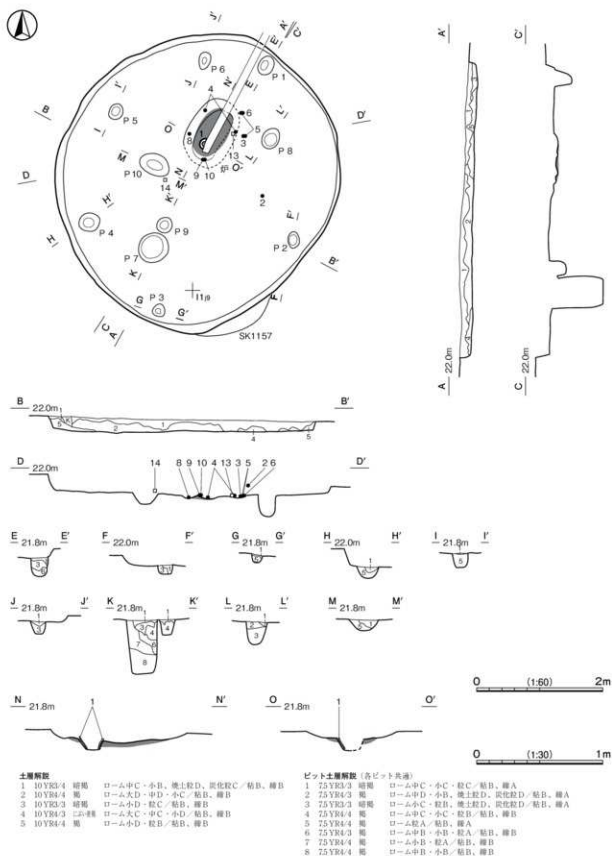
番号	種別	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(28)	—	長石・石英	橙	普通	櫛歯状工具による条線文	炉覆土	3%

第66号堅穴建物跡 (第41～43図 第18表 PL7)

位置 調査区南東部のI19区、標高22.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1157号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径4.60m、短径4.26mの楕円形で、主軸方向は、平面形と炉の位置からN-36°-Eである。壁は高さ24cmで、外傾している。



第 41 図 第 66 号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、硬化していない。

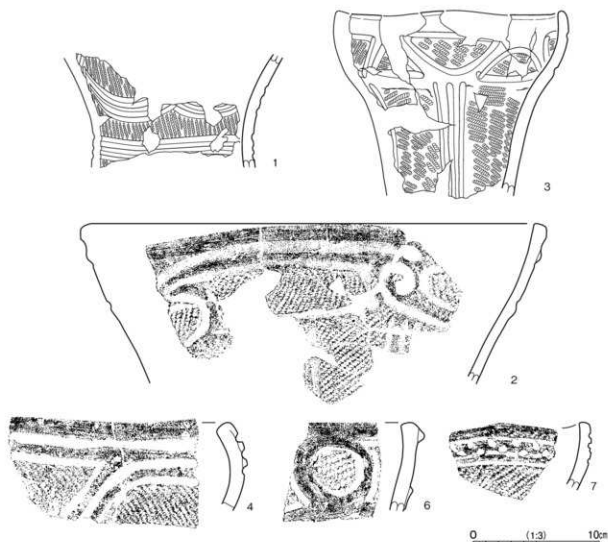
炉 中央部北寄りに位置している。長径108cm、短径75cmの楕円形で、深さ8cmの土器埋設炉である。炉体土器は、中央部南寄りに位置し、深鉢の上半部を正位の状態で埋設している。掘方は、径20cmの円形で、深さ10cmのビット状である。炉床面は、赤変硬化している。

ビット 10か所。P1～P6は、深さ15～30cmで、壁際に位置していることから、壁柱穴と考えられる。P7～P10は、深さ16～85cmで、配列が不規則なことから、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片618点（深鉢614、鉢2、浅鉢1、釣手土器1）、石器15点（安山岩製石皿4、雲母片岩製凹石1、安山岩製磨石2、剥片8〔チャート製6、黒曜石製1、頁岩製1〕）が出土している。縄文土器片の時期は、中期473点（加曾利E式391、曾利式10、不明71）、後期33点（称名寺式5、堀之内式6、不明22）、時期不明111点である。遺物は主に炉と炉の周囲に集中して出土している。1は炉の埋設土器で、4・8～10・13・14は炉覆土下層、3・5・6は炉の東側の覆土下層、2は炉の南東側の覆土上層から、それぞれ出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式古段階期）と考えられる。



第42図 第66号堅穴建物跡出土遺物実測図1)



第 43 図 第 66 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 18 表 第 66 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 42・43 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	(87)	—	長石	赤褐色	普通	地文裾位 R 磨光文 口縁部沈線による 3 本一組の垂直文 くびれ部 3 本一組の沈線文	伊羅設	15%
2	縄文土器	深鉢	[35.2]	(127)	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	地文裾位 RL 単節縄文 口縁部沈線のうす縁帯による磨光文 胴部沈線による 3 本一組の磨消垂直文	覆土上層	10% PL25
3	縄文土器	深鉢	[18.0]	(147)	—	長石・石英	橙	普通	4 単位の小波状口縁 地文 RL 単節縄文 口縁部沈線による区画文 胴部沈線による 3 本一組の磨消垂直文	覆土下層	25% PL25

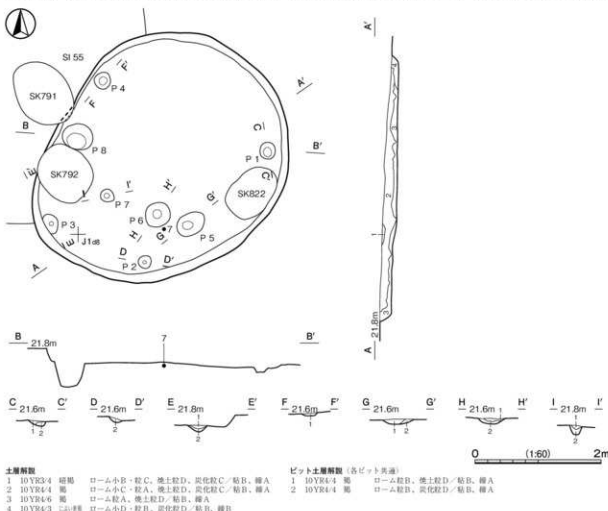
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	縄文横位ⅧL 卑胎縄文 口縁部沈線の沿う2本一組の隆起文	伊賀土下層	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(16.7)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	縄文横位ⅧL 卑胎縄文 口縁部直下2本1組の沈線文 口縁部一側部沈線による磨消懸垂文	伊賀土下層	10%
6	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	長石・石英	にぶい褐色	普通	縄文横位ⅧL 卑胎縄文 口縁部沈線の沿う隆起による凹線文	伊賀土下層	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	小流状口縁 縄文横位ⅧL 卑胎縄文 口縁部直下3本一組の沈線文・交互刺突文	覆土	5%
8	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	小流状口縁 波道部の口縁部に沈線による磨消文 縄文横位ⅧL 卑胎縄文 口縁部2本一組の沈線文	伊賀土下層	5%
9	縄文土器	鉢	—	(4.7)	—	長石・石英	にぶい赤	普通	無文 外面赤彩	伊賀土下層	5%
10	縄文土器	鉢	—	(6.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部沈線の沿う2本一組の隆起による磨消文 外面赤彩	伊賀土下層	5%
11	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部内面肥厚帯 半截竹管による平行沈線文	覆土	5%
12	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	長石・石英	褐色	普通	縄文横位ⅧL 卑胎縄文 沈線による磨消懸垂文	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
13	円石	(7.5)	7.2	(4.9)	(276.5)	安山岩	全面研磨 表面中央部凹痕2か所 側縁端部截打痕 欠損	伊賀土下層	30%
14	石皿	(16.5)	(13.0)	11.3	(120.1)	安山岩	全面研磨・截打磨形 隅丸長方形で、浅鉢形 外に凹く円錐形の脚部 無垢と裏面凹痕多数	伊賀土下層	25%

第 67 号竪穴建物跡 (第 44・45 図 第 19 表 PL 7)

位置 調査区南東部の J 1 c 8 区、標高 21.5 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 55 号竪穴建物跡を掘り込み、第 792・822 号土坑に掘り込まれている。第 791 号土坑との関係は



第 45 図 第 67 号竪穴建物跡実測図

不明である。

規模と形状 長径 4.28 m、短径 3.62 m の楕円形で、長軸方向は、平面形から N-46°-E である。壁は高さ 20cm で、外傾している。

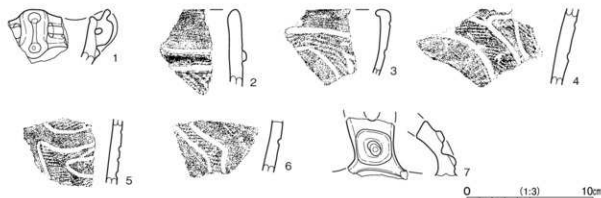
床 平坦で、硬化していない。

ピット 8 か所。P1～P4 は、深さ 5～11cm で、壁際に位置していることから、壁柱穴と考えられる。P5～P7 は、深さ 8～14cm と浅く、P8 は、深さ 37cm と深く、配列や深さが不規則であるため、いずれも性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 4 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 298 点（深鉢 297、釣手土器 1）、石器 1 点（チャート製剥片）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 15 点（加曽利 E 式 13、不明 2）、後期 199 点（称名寺式 36、不明 163）、時期不明 84 点である。7 は南部の床面から出土している。中期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺 I 式期）と考えられる。



第 45 図 第 67 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 19 表 第 67 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 45 図）

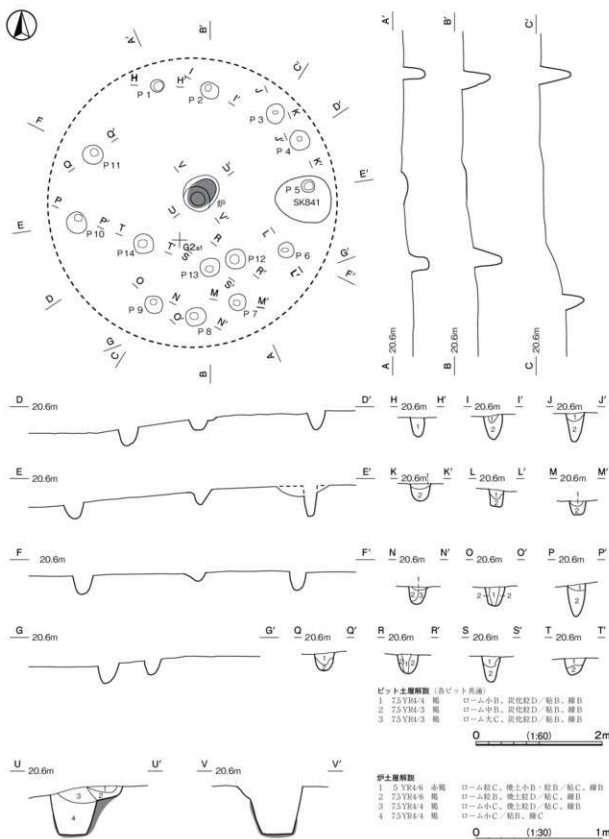
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(43)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	小波状口縁 楕状把手	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(61)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部沈隆の沿う隆帯文 地文縦位し無節縄文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(52)	—	長石・石英	灰褐色	普通	沈隆による区画文内に LR 単節縄文充填	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(60)	—	長石・石英	橙	普通	沈隆による区画文内に LR 単節縄文充填	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(52)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	沈隆による区画文内に LR 単節縄文充填	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(40)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	沈隆による区画文内に LR 単節縄文充填	覆土	5%
7	縄文土器	釣手土器	—	(43)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	釣り手部 上部に貫通孔	床面	5%

第 69 号竪穴建物跡（第 46 図 PL 8）

位置 調査区北西部の F 2jl 区、標高 20.5 m の台地斜面部に位置している。

重複関係 第 841 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 削平のため、炉とピットのみを確認した。ピットの位置から、径 4.60 m の円形と推定される。



第46図 第69号堅穴建物跡実測図

主軸方向は、平面形と炉の位置からN-45°-Eと推定される。

炉 中央部に位置している。長径60cm、短径52cmの楕円形を呈する地床炉である。南西側は、長径44cm、短径38cmの楕円形で、深さ38cmのビット状を呈している。炉床面は、北東側の深さ10cmの平坦面とビット状の凹みで、赤変硬化している。

ビット 14か所。P1～P11は、深さ26～50cmで、壁際に沿って位置していることから、壁柱穴と考えられる。P12～P14は、深さ24～30cmで、性格は不明である。覆土は、P9とP12の第1層が柱痕跡、P9とP12の第2層が掘方埋土で、他のビットが周囲からの流入土である。

所見 時期は、遺構の特徴から縄文時代と考えられる。

第70号竪穴建物跡（第47・48図 第20表 PL 8）

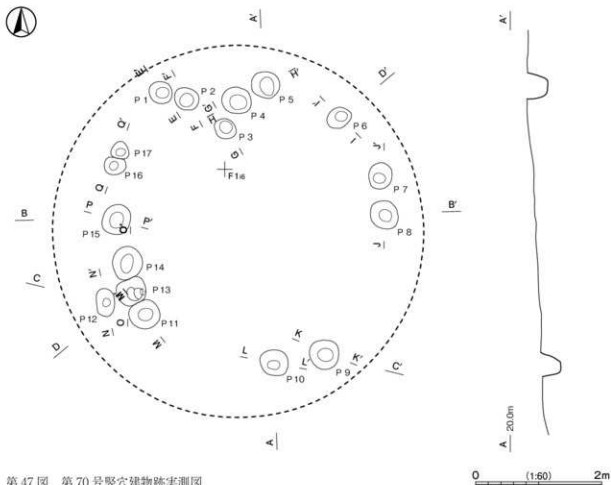
位置 調査区北西部のF16区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 削平のため、ビットのみを確認した。規模は、ビットの配置から径5.90mの円形と推定される。

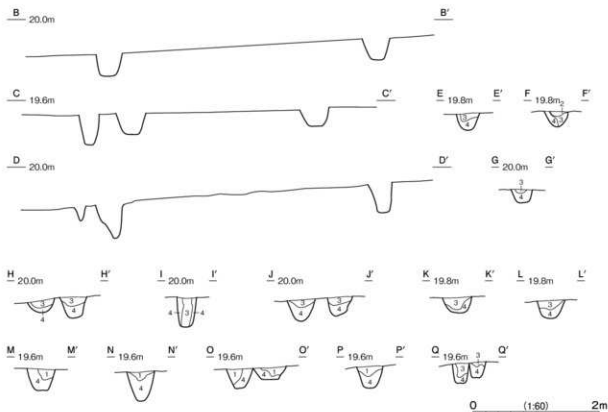
ビット 17か所。P1～P17は深さ18～46cmで、壁際に沿って位置していることから、壁柱穴と考えられる。覆土は、P6の第3層が柱痕跡、第4層が掘方埋土で、他のビットが周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片46点（深鉢45、両耳壺1）が遺構精査時の覆土などから出土している。縄文土器片の時期は、中期10点（不明）、中期後葉～後期初頭36点（加曾利EⅣ～称名寺Ⅰ式）である。1～4は床面精査中の覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭（加曾利EⅣ～称名寺Ⅰ式期）と考えられる。

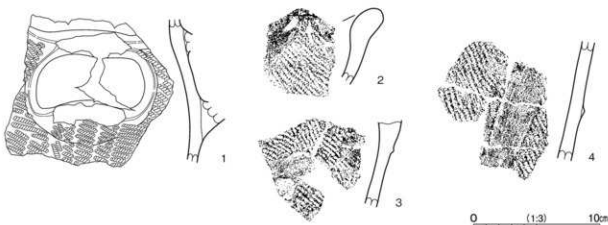


第47図 第70号竪穴建物跡実測図



ピット土層断面図 (各ピット共通)

- 1 75 YK3-3 硝焼 ローム小粒・粒C、炭化粒D／粘土、雜A
 2 75 YK3-4 硝焼 ローム粒C／粘土、雜B
 3 75 YK4-4 焼 ローム小粒・粒C／粘土、雜B
 4 75 YK4-4 焼 ローム中粒／粘土、雜A



第48図 第70号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第20表 第70号堅穴建物跡出土遺物一覧 (第48図)

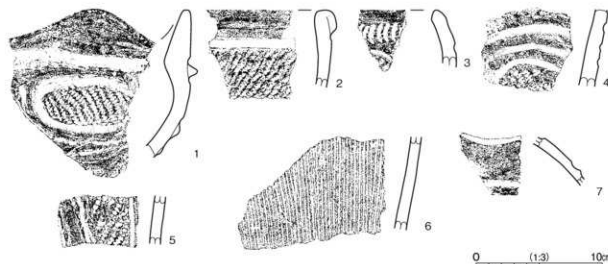
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	両耳甕	—	(11.3)	—	長石・石英	橙	普通	横状把手欠損 微隆帯文 縦位LR半筋縄文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	橙	普通	小波状口縁 波道部の小突起を起点に微隆帯文 縦位LR半筋縄文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位LR半筋縄文 磨研文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(9.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位LR半筋縄文 微隆帯による区画文外を磨研	覆土	5%

- 56 -

られる。P 12は深さ12cmで、ピットの配列の外側に位置するため、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片72点（深鉢71、壺1）が炉の覆土と遺構精査時の覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期59点（加曽利E式54、不明5）、後期2点（不明）である。1・6・7は炉の覆土下層、4は炉の覆土上層からそれぞれ出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利EⅢ式古段階期）と考えられる。



第50図 第72号竪穴建物跡出土遺物実測図

第21表 第72号竪穴建物跡出土遺物一覧（第50図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(11.7)	—	長石・石英	橙	普通	液状口縁 口縁部沈殿の沿う隆帯による区画文 区画内横位 凹 半節縄文を充填	炉覆土下層	5% PL25
2	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部沈殿の沿う隆帯による区画文 地文横位 1/2 半節縄文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	長石・石英	橙	普通	口縁直下爪形文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	橙	普通	地文横位 RL 半節縄文 磨消波状文	炉覆土上層	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	地文縦位 RL 半節縄文 磨消垂文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	長石・石英	橙	普通	10条1組の条線文	炉覆土下層	5%
7	縄文土器	壺	—	(3.8)	—	長石・石英	灰黒	普通	沈線文	炉覆土下層	5%

第74号竪穴建物跡（第51図 PL 8）

位置 調査区北西部のF 1g7区、標高20.5mの台地斜面部に位置している。

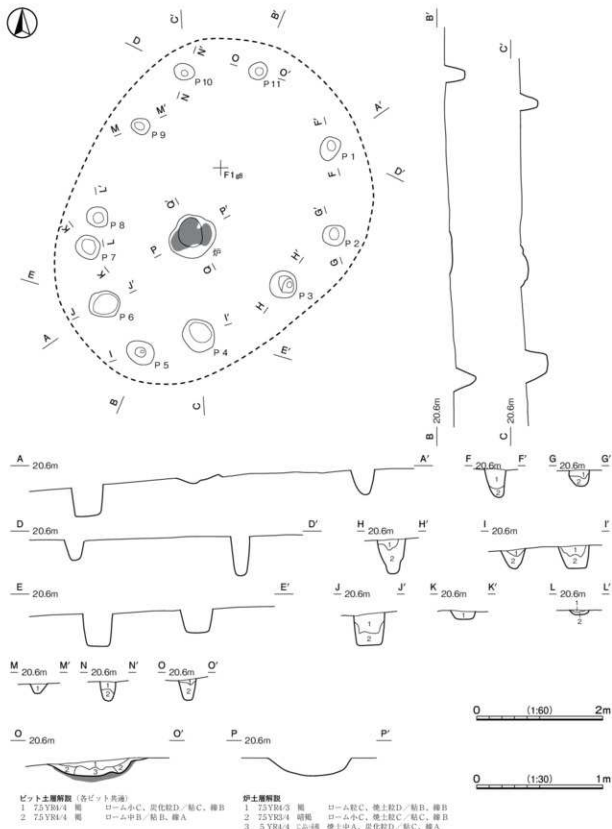
規模と形状 削平のため、炉とピットのみを確認した。ピットの配置から長径5.58m、短径4.48mの不整楕円形と推定される。主軸方向は、平面形と炉の位置からN-38°-Eと推定される。

炉 中央部のやや南西寄りに位置している。長径77cm、短径66cmの楕円形で、深さ14cmの地床炉である。断面は皿状で、炉床面は赤変硬化している。

ピット 11か所。P 1～P 11は、深さ6～54cmで、楕円形に配列していることから、壁柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 中期の縄文土器片3点（深鉢）が遺構精査時の覆土から出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中期と考えられる。



第51図 第74号堅穴建物跡実測図

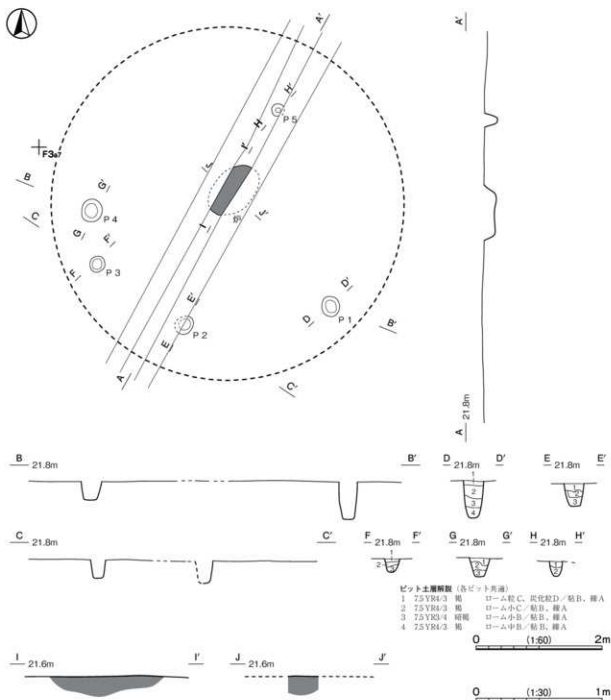
第76号竪穴建物跡 (第52・53図 第22表)

位置 調査区北西部のF 3a7区、標高21.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 削平のため、炉とピットのみを確認した。ピットの配置から、径5.60mの円形と推定される。主軸方向は、平面形と炉の位置からN-44°-Eと推定される。

炉 中央部やや北寄りに位置している。視乱のため、長径92cm、短径64cmの楕円形と推定される赤変硬化した炉床面を確認した。

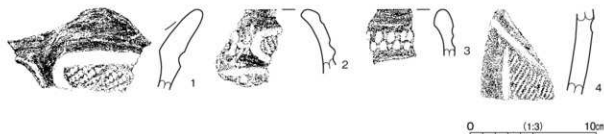
ピット 5か所。P1～P4は、深さ24～58cmで、炉を中心に円形配列していることから、壁柱穴と考えられる。P5は、深さ24cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。



第52図 第76号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片 21 点（深鉢）が遺構精査時の覆土などから出土している。縄文土器片の時期は、中期 21 点（加曾利 E 式 12、不明 9）である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E Ⅲ 式期）と考えられる。



第 53 図 第 76 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第 22 表 第 76 号堅穴建物跡出土遺物一覧（第 53 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	小波状口縁、口縁部沈線の沿う隆帯による区画文、地文横位 RL、横筋縄文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部沈線の沿う隆帯による区画文、地文横位 RL、横筋縄文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部直下沈線文・交互斜交文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	長石・石英	褐色	普通	地文縦位 RL、横筋縄文、磨消懸垂文	覆土	5%

第 77 号堅穴建物跡（第 54・55 図 第 23 表 PL 8）

位置 調査区北西部の E 1j0 区、標高 21.5 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 4.48 m、短径 4.22 m のほぼ円形で、主軸方向は、平面形と炉の位置から N - 40° - W と推定される。壁は高さ 26cm である。

床 平坦で、硬化していない。

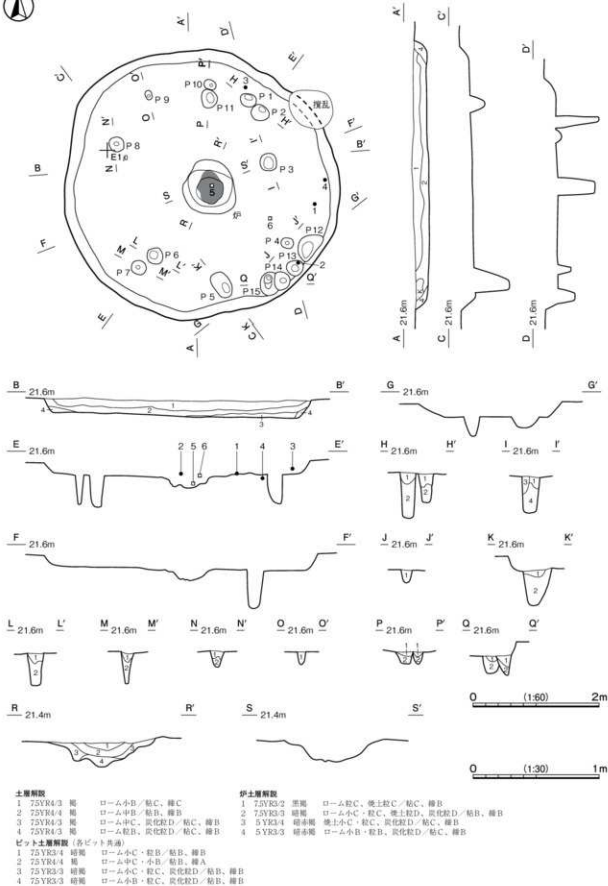
炉 中央部に位置している。径 86cm の不整形円形で、深さ 19cm の地床炉である。炉床面は、皿状で、赤変硬化している。

ピット 15 か所。P 3～P 6・P 8・P 11 は、深さ 20～58cm で、炉を中心に 6 角形に配列されることから、主柱穴と考えられる。不規則に配列する P 1・P 2・P 7・P 9・P 10、壁際に縦列する P 12～P 15 は、深さ 18～50cm で、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

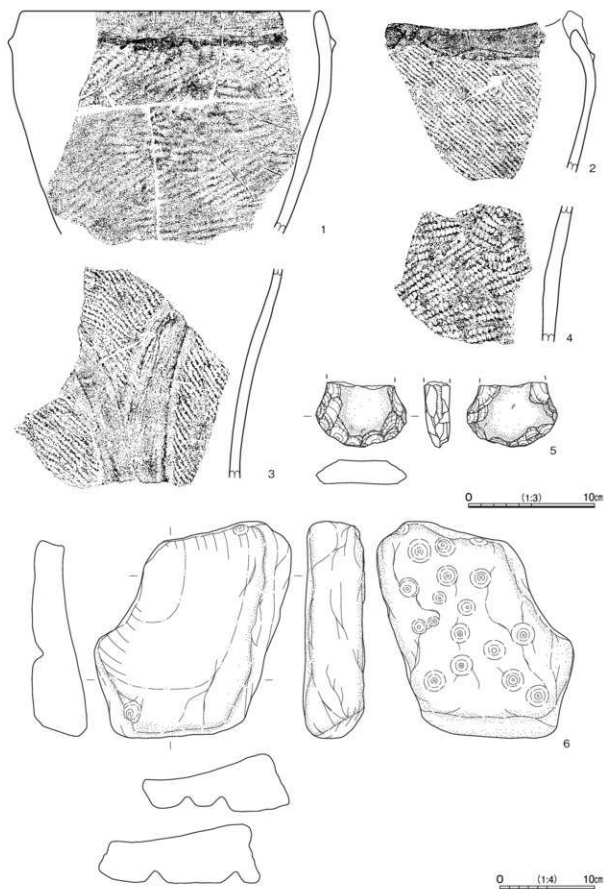
覆土 4 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 14 点（深鉢）、石器 2 点（安山岩製打製石斧、安山岩製石皿）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 1 点（不明）、中期後葉～後期初頭 13 点（加曾利 EⅣ～称名寺 I 式）である。4 は東部の床面、5 は炉覆土下層、1～3・6 は北部から東部にかけての覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭（加曾利 EⅣ～称名寺 I 式期）と考えられる。



第54図 第77号竪穴建物跡実測図



第55图 第77号竖穴建物跡出土遺物実測図

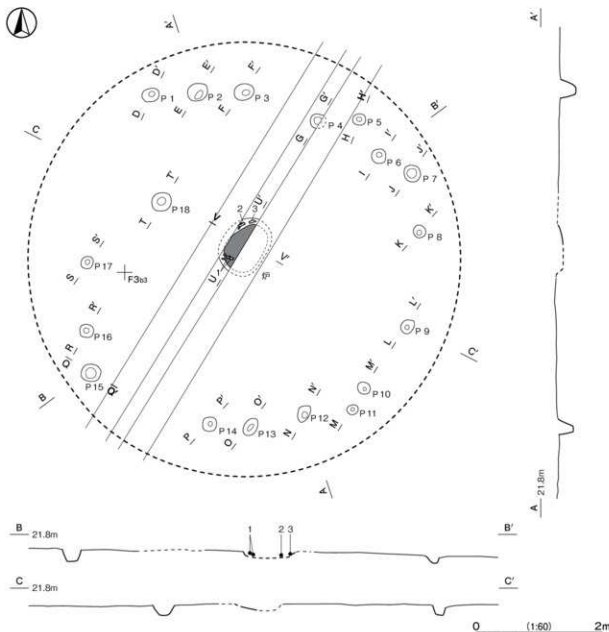
第23表 第77号竪穴建物跡出土遺物一覧（第55図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[216]	(175)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部無文・口縁直下隆帯文・胴部上位横位L京・単節縄文・胴位L京・単節縄文	覆土下層	20% PL25
2	縄文土器	深鉢	-	(128)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	小波状口縁・口縁部無文・波頂部小突起を起点に微隆帯文・胴位RL・単節縄文	覆土下層	10% PL25
3	縄文土器	深鉢	-	(165)	-	長石・石英	橙	普通	微隆帯による区画文外を管消・胴位RL・単節縄文・光州	覆土下層	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(117)	-	長石・石英	橙	普通	横位・胴位RL・単節縄文	床面	5%

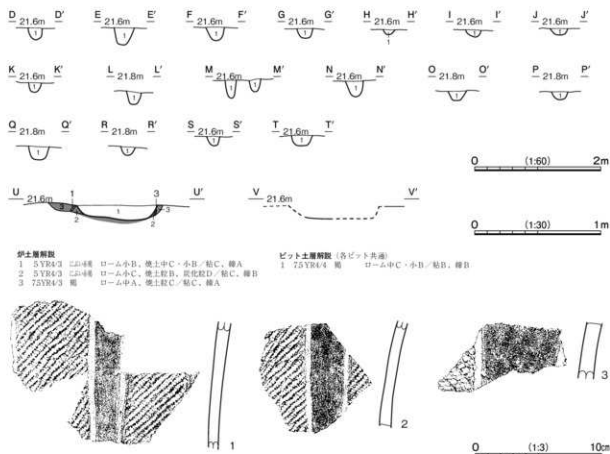
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	打製石斧	(52)	7.2	2.0	(105.8)	安山岩	分銅形・素材扁平・周縁より測線調整・自然面残す	伊覆土下層	40%
6	石器	(229)	20.8	6.4	(396.6)	雲母片岩	全面研磨・敲打整形・研磨面風状・平滑面2ヶ所・裏面18ヶ所・凹石多用	覆土下層	30% PL25

第78号竪穴建物跡（第56・57図 第24表）

位置 調査区北西部のF 3 b3区、標高22 mほどの台地平坦部に位置している。



第56図 第78号竪穴建物跡実測図



第57図 第78号竪穴建物跡・出土遺物実測図

規模と形状 削平のため、炉とビットのみを確認した。ビットの配置から、径6.78mの円形と推定される。主軸方向は、平面形と炉の位置からN-26°-Eと推定される。

炉 中央部に位置している。撓乱のため、長径96cm、短径72cmの楕円形と推定され、深さ12cmの土器片囲炉である。覆土は第1層で、その下面が炉床面である。炉床面は、わずかに起伏があり、赤変硬化している。第2・3層は炉の掘方埋土である。

ビット 18か所。P1～P17は、深さ10～28cmで、炉を中心に円形に配列していることから、壁柱穴と考えられる。P18は深さ17cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片21点（深鉢）が遺構精査時の覆土などから出土している。縄文土器片の時期は、中期21点（加曾利E式）である。1～3は土器片囲炉の炉体土器片である。

所見 時期は、土器片囲炉の炉体土器片から中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第24表 第78号竪穴建物跡出土遺物一覧（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英	にみちみち青黄	普通	地文縦位R.L.単節縄文 磨消型垂文	炉埋設	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位R.L.単節縄文 磨消型垂文	炉埋設	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位L.R.L.後節縄文 磨消型垂文	炉埋設	5%

第 80 号竪穴建物跡 (第 58 図)

位置 調査区南東部の I 18 区、標高 21.5 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1147 号土坑を掘り込み、第 1251・1252 号土坑に掘り込まれている。第 807・1231 号土坑との関係は不明である。

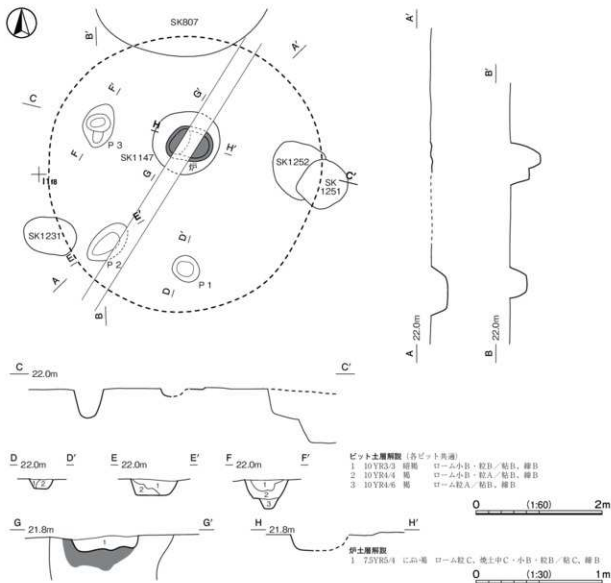
規模と形状 削平のため、炉とピットのみを確認した。ピットの配置から、長径 4.38 m、短径 4.26 m の円形と推定される。主軸方向は、平面図と炉の位置から N-24°-E と推定される。

炉 中央部北寄りに位置している。攪乱のため、長径 75 cm、短径 60 cm の楕円形と推定され、深さ 10 cm の地床炉である。断面は皿状を呈し、炉床面は西側が一段深くなっており、赤変硬化している。

ピット 3 か所。P 1～P 3 は、深さ 26～48 cm で、炉を中心に弧状に配列していることから、主柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片 9 点 (深鉢) が遺構精査時の覆土などから出土している。縄文土器片の時期は、中期 1 点、後期 8 点であるが、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、遺構の特徴から縄文時代と考えられる。



第 58 図 第 80 号竪穴建物跡実測図

第84号竪穴建物跡（第59図）

位置 調査区南東部のI1h8区、標高220mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれている。第817・818号土坑との関係は不明である。

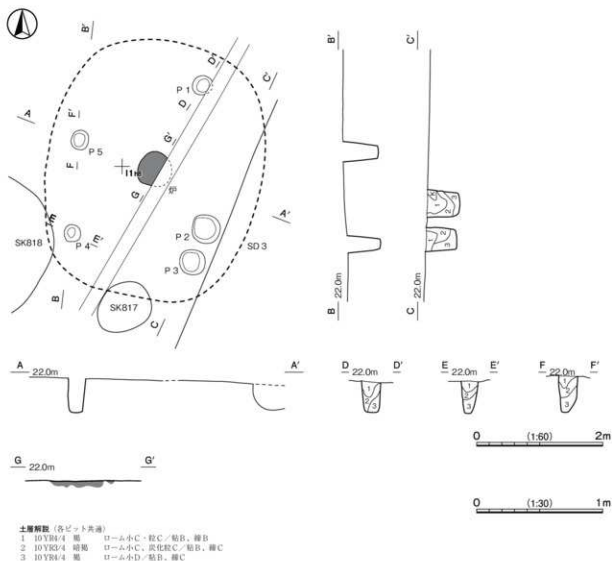
規模と形状 削平のため、炉とピットのみを確認した。ピットの配置から、長径4.06m、短径3.40mの楕円形と推定される。主軸方向は、平面形と炉の位置からN-14°-Eである。

炉 中央部に位置している。削平のため、赤変硬化した炉床面下部を確認した。径54cmの円形で、形状から地床炉と推定される。

ピット 5か所。P1～P5は、深さ48～56cmで、炉を中心に楕円形に配列していることから、主柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片13点（深鉢）が遺構精査時の覆土などから出土している。縄文土器片の時期は、中期8点、後期3点、時期不明2点であるが、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、遺構の特徴から縄文時代と考えられる。



第59図 第84号竪穴建物跡実測図

第 86 号竪穴建物跡 (第 60・61 図 第 25 表)

位置 調査区南東部の I 2 h2 区、標高 21.0 m の台地斜面部に位置している。

重複関係 第 87 号竪穴建物跡との関係は不明である。

規模と形状 削平のため、炉とピットののみを確認した。ピットの配置から、径 4.96 m の円形と推定される。

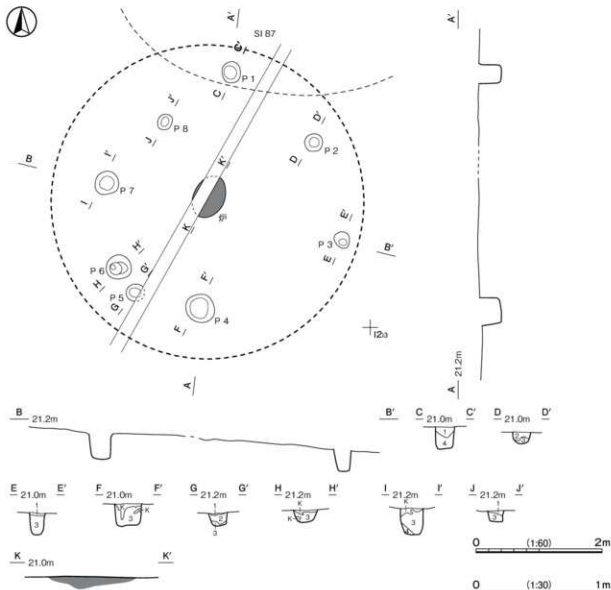
主軸方向は、平面図と炉の位置から $N-28^{\circ}-E$ と推定される。

炉 中央部に位置している。削平のため、赤変硬化した炉床面を確認した。長径 70cm、短径 50cm の楕円形で、形状から地床炉と推定される。

ピット 8 か所。P 1～8 は、深さ 18～43cm で、炉を中心に楕円形に配列していることから、壁柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 後期の縄文土器片 2 点 (深鉢) が炉精査時の覆土から出土している。

所見 時期は、出土遺物から後期と考えられる。



ピット土器関係 (含ピット充填)

- | | | | |
|---|---------|-----|--------------------------|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粒B、雜B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム大C・中B・小B・粒B/粒B、雜B |
| 3 | 10YR4/4 | 灰 | ローム小A・粒A/粒B、雜B |
| 4 | 10YR4/4 | 灰 | ローム中D・小C・粒B/粒B、雜B |

第 60 図 第 86 号竪穴建物跡実測図



0 (1:3) 10cm

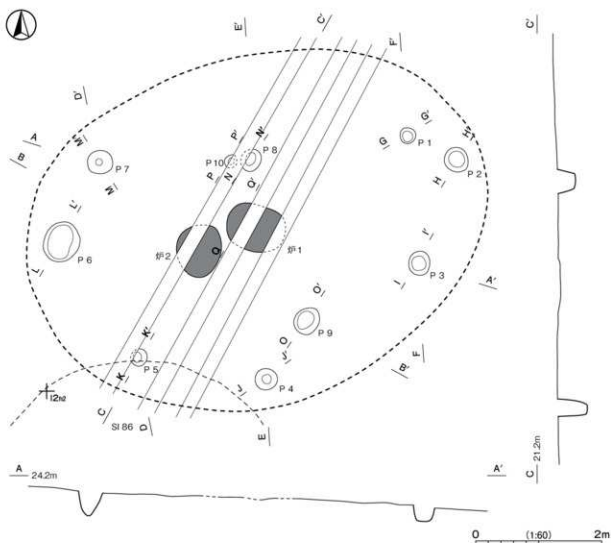
第 61 図 第 86 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 25 表 第 86 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 61 図)

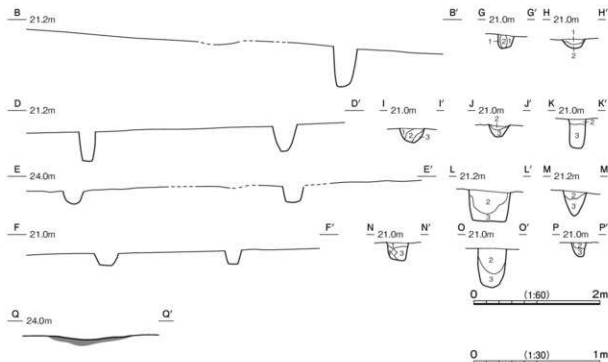
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	漆鉢	-	(5.5)	-	長石・石英	橙	普通	比叢文	炉覆土	3%

第 87 号竪穴建物跡 (第 62・63 図)

位置 調査区南東部の I 2 g2 区、標高 21.0 m の台地斜面部に位置している。



第 62 図 第 87 号竪穴建物跡実測図(1)



ビット土層断図（各ビット共通）

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小B・粒A、炭化粒D／粘土B、障B
2 10YR4/4 黒 ローム小C・粒A／粘土B、障A
3 10YR4/4 黒 ローム中C・小B・粒A／粘土B、障A

第63図 第87号竪穴建物跡実測図(2)

重複関係 第86号竪穴建物跡との関係は不明である。

規模と形状 削平のため、炉とビットのみを確認した。ビットの配置から、長径734m、短径552mの楕円形と推定される。主軸方向は、平面形と炉の位置からN-66°-Eと推定される。

炉 2か所。炉1は、中央部に位置している。削平のため、長径94cm、短径73cmの楕円形の赤変硬化した炉床面を確認した。炉2は、中央部西寄りに位置している。削平のため、長径82cm、短径72cmの楕円形の赤変硬化した炉床面を確認した。

ビット 10か所。P1～P7は、深さ21～48cmで、炉を中心に楕円形に配列していることから、壁柱穴である。P8～P10は、深さ22～65cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片11点（深鉢）が遺構精査時の覆土などから出土している。縄文土器片の時期は、後期11点であるが、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から後期と考えられる。

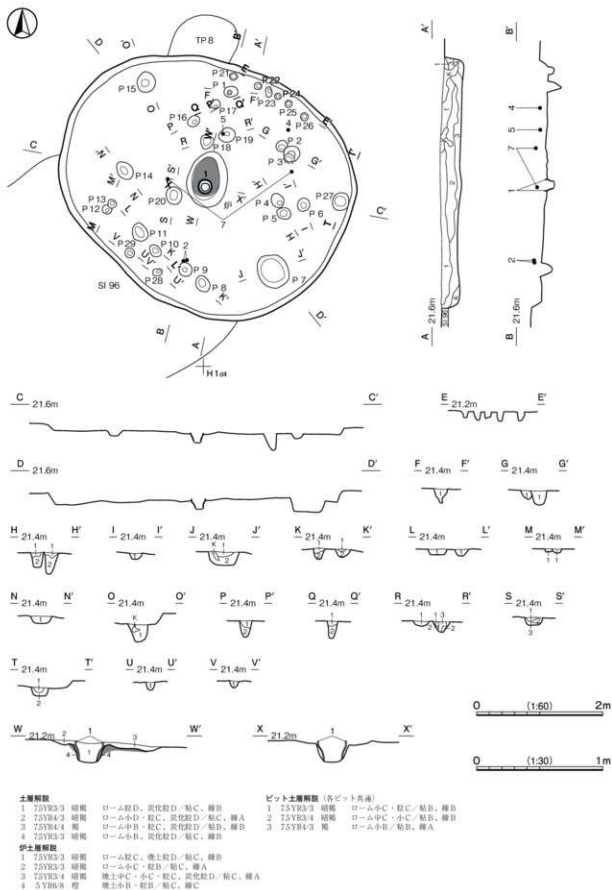
第89号竪穴建物跡（第64・65図 第26表 PL 8・9）

位置 調査区南西部のH1c3区、標高22.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第96号竪穴建物跡・第8号陥し穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径4.72m、短径3.94mの楕円形である。主軸方向は、平面形と炉の位置からN-56°-Wである。壁は高さ20cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部がわずかに硬化している。



第 64 図 第 89 号竪穴建物跡実測図

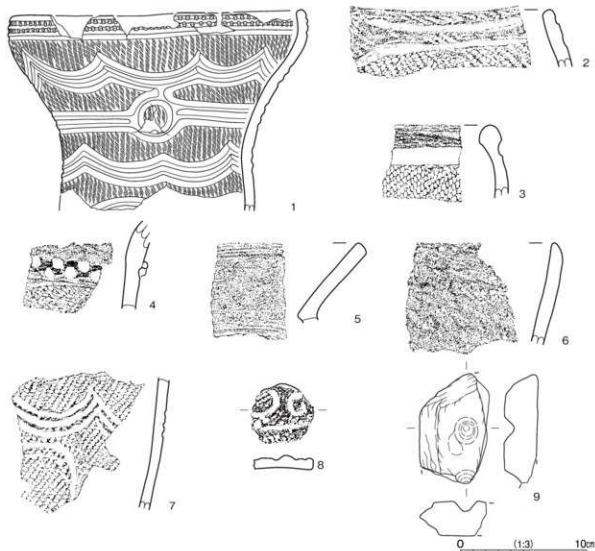
炉 中央部に位置している。長径89cm、短径64cmの楕円形で、深さ4cmの土器埋設炉である。覆土は、4層に分層でき、第1層が炉体土器内の覆土、第2・3層の下面が炉床面で、第4層が掘方埋土である。炉体土器は、中央部南寄りに位置し、深鉢の上半部を正位の状態で埋設している。掘方は、径24cmで、深さ14cmのピット状である。断面は皿状を呈し、炉床面は赤変硬化している。

ピット 29か所。P 1～P 20は深さ10～35cmで、配列が不規則であることから、性格は不明である。P 21～P 29は、深さ10～15cmで、壁際に沿って位置していることから、壁柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 4層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片190点（深鉢188、鉢1、壺1）、土製品1点（土器片円盤）、石器2点（雲母片岩製凹石1、安山岩製磨石1）が出土している。縄文土器片の時期は、中期190点（加曽利E式147、曾利1、不明42）である。1は炉体土器である。2は南部、4・5は北部、7は東部と西部の破片が接合したもので、いずれも覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利EⅡ式新段階期）と考えられる。



第65図 第89号竪穴建物跡出土遺物実測図

第26表 第89号竪穴建物跡出土遺物一覧(第65図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	模 成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	(230)	(160)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 横赤文 口唇部直下3本一組の沈線文・交互刻文文 口縁部沈線による3本一組の連弧文と連結した3本一組の沈線文 胴部沈線による3本一組の連弧文	炉埋設	60% PL26
2	縄文土器	深鉢	—	(45)	—	長石・石英	橙	普通	地文横位 RL 単筋縄文 横位沈線文	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(58)	—	長石・石英	明赤褐	普通	玉縁口縁 地文横位 LR 単筋縄文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(70)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	隆帯文に交互刻文文 地文横位 LR 単筋縄文	覆土上層	5%
5	縄文土器	鉢	—	(63)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	無文	覆土上層	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(80)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	無文	覆土	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(102)	—	長石・石英	明赤褐	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 沈線による3本一組の連弧文 沈線による並行字状文	覆土上層	5%
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考	
8	土器片 円盤	44	49	1.1	23.31	長石・石英	褐灰	地文 RL 単筋縄文 沈線の沿う隆帯文	覆土	100% PL26	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考		
9	西石	(88)	(53)	27	(169.28)	雲母片岩	敲打整形 表面凹痕2か所 欠損		覆土	15%	

第90号竪穴建物跡(第66・67図 第27表 PL9)

位置 調査区南西部のH1e4区、標高220mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 西側が調査区域外で、東側の大半が削平されており、ピットの分布などから、長径7.32m、短径6.48mの楕円形と推定される。主軸方向は、平面形と炉の位置からN-75°-Wである。壁は最大で20cmで、外傾している。

床 西側一部で確認した。ほぼ平坦で、硬化していない。

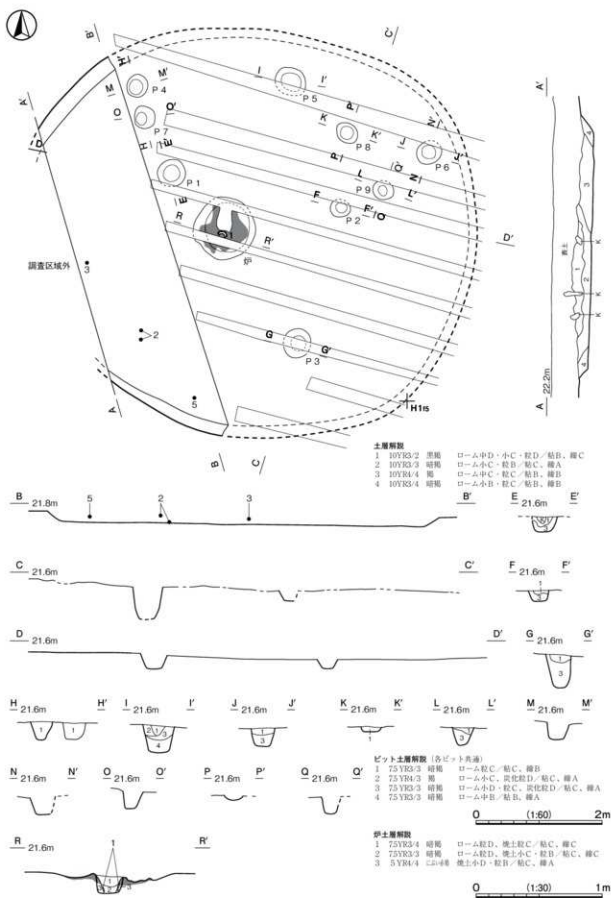
炉 中央部のやや西寄りに位置している。長径98cm、短径96cmの円形で、深さ5cmの土器埋設炉である。炉体土器は、中央部南寄りに位置し、深鉢の上半部を正位の状態で埋設している。覆土は3層に分層でき、第1・2層が炉体土器内の覆土、第3層が掘方埋土である。掘方は、径21cm、深さ13cmのピット状である。断面は皿状を呈し、炉床面は赤変硬化している。

ピット 9か所。P1～P9は深さ8～54cmで、配列が不規則であることから、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

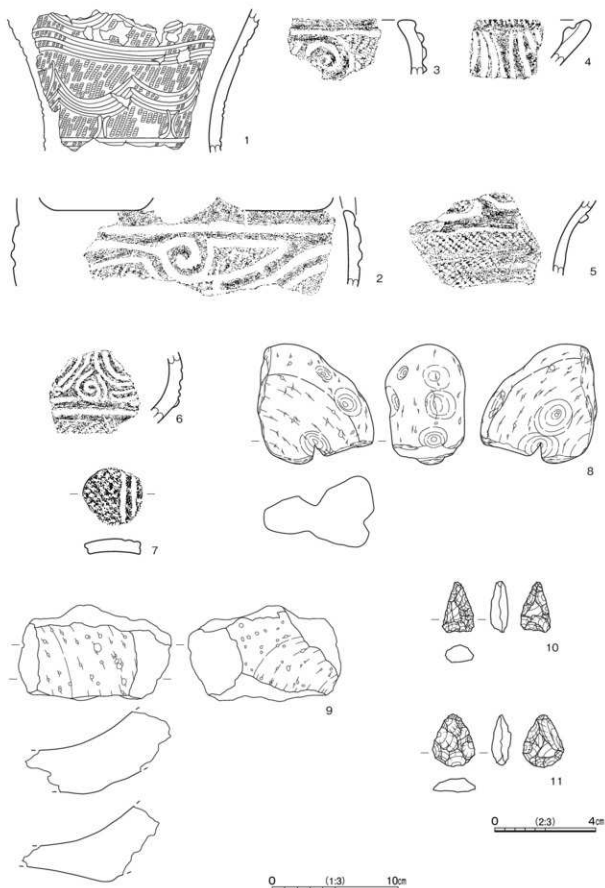
覆土 4層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片286点(深鉢)、土製品1点(土器片円盤)、石器9点(安山岩製石皿2、石簾未製品2〔黒曜石製、チャート製〕、チャート製剥片5)が出土している。縄文土器片の時期は、中期244点(加曾利E式193、曾利式5、不明46)、後期2点(称名寺式)、不明40点である。1は炉体土器である。2・5は南部、3は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式古段階期)と考えられる。



第 66 図 第 90 号竪穴建物跡実測図



第 67 图 第 90 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第27表 第90号竪穴建物跡出土遺物一覧（第67図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	(11.3)	—	長石・石英	明褐色	普通	地文縦位RL,卑部縄文 沈殿による3状一組の遺文・沈殿文	砂埋設	20%
2	縄文土器	深鉢	(25.6)	(7.0)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	小波状口縁 地文縦位RL,卑部縄文 沈殿が沿う2本一組の隆帯による遺文	覆土下層	10%
3	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位RL,卑部縄文 沈殿が沿う隆帯による遺文	覆土下層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(3.6)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部内面肥厚帯 口唇部キザミ 縦位集合沈殿文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	長石・石英	灰褐色	普通	沈殿の沿う隆帯文で区画 胴部縦位RL,卑部縄文	覆土下層	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	長石・石英	橙	普通	隆帯文で区画 口縁部沈殿による遺文 胴部縦位RL,卑部縄文	覆土	5%
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考
7	土器片 内型	4.5	4.7	1.3	25.73	長石・石英	橙	地文L,RL,縦位縄文	磨消態垂直文	覆土	100% PL.36
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴			出土位置	備 考
8	磁石	(9.6)	(9.2)	(6.3)	(424.1)	安山岩	右腹片を磁石に再加工し 全面磨削・磨打整形 両面磨削面直状 凹痕表面1か所 側面5か所 裏面に凹痕2か所 凹石家用			砂覆土	25% PL.36
9	石皿	(5.7)	(12.1)	4.0	(399.3)	安山岩	両面磨削面直状 欠損			砂覆土	10%
10	石皿 未製品	2.0	1.2	0.7	1.61	黒曜石	凹基無茶盤 裏面主要磨削面を残す			覆土	100% PL.36
11	石皿 未製品	2.1	1.7	0.7	2.57	チャート	凹基無			覆土	100% PL.36

第91号竪穴建物跡（第68・69図 第28表 PL.9）

位置 調査区南西部のH1g4区、標高22.0mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第95号竪穴建物跡、第1217・1218・1220号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 西側が調査区域外で、東側の大半が削平されているため、確認できた規模は長径が6.40m、短径が6.06mの楕円形と推定できる。主軸方向は、平面形と炉の位置からN-52°-Eである。壁は高さが最大で20cmで、外傾している。

床 西側一部で確認した。ほぼ平坦で、硬化していない。

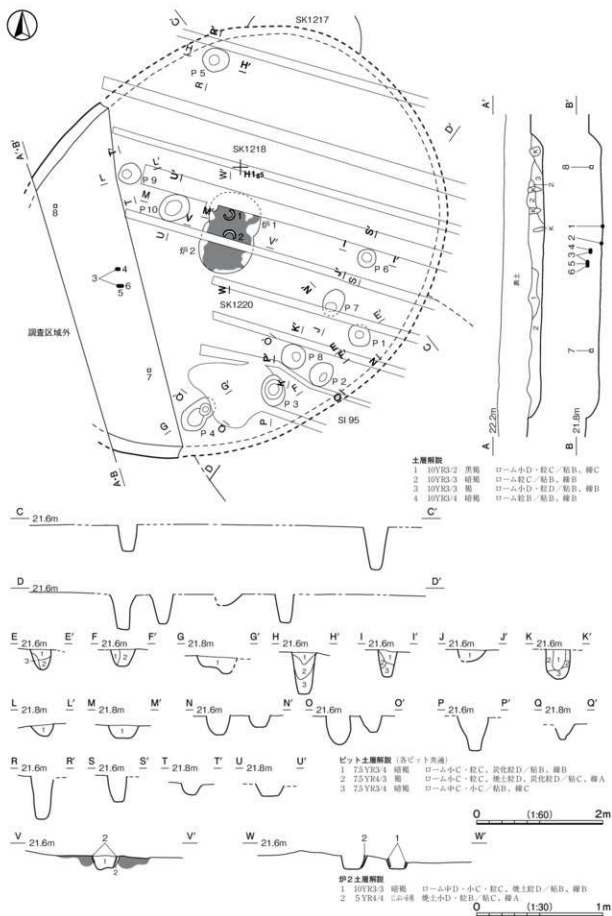
炉 2か所。中央部で重複している。削平により、どちらも赤変硬化した炉床面のみを確認したため、新旧関係は不明である。炉1は、径82cmの円形と推定される土器埋設炉である。炉体土器は、中央部やや西寄りに位置し、深鉢胴部を正位の状態で埋設している。掘方は、径15cm、深さ8cmのビット状である。炉2は、径85cmの円形で、土器埋設炉である。炉体土器は、中央部北寄りに位置し、深鉢胴部を正位の状態で埋設している。覆土は2層に分層でき、第1層は炉体土器内の覆土、第2層は掘方埋土である。掘方は、径23cm、深さ10cmのビット状である。

ビット 10か所。P1～P10は、深さ18～64cmである。P1～P4、P6～P8は、南部の壁際の上に弧状に配列しており、壁柱穴の可能性があり、P5・P9・P10は、不規則な配列であることから、性格は不明である。覆土は、P8の第1層が柱痕跡、第2・3層が掘方埋土で、他のビットが周囲からの流入土である。

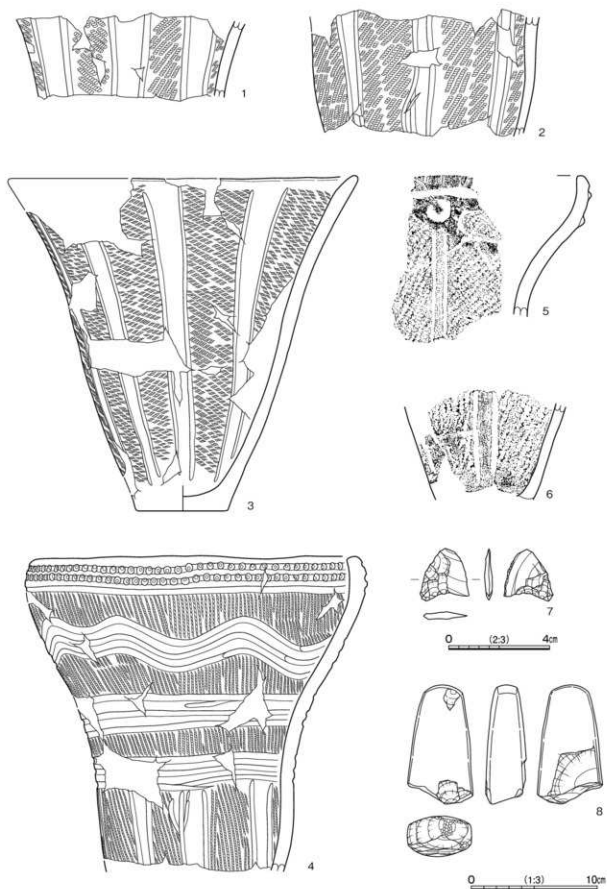
覆土 4層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片162点（深鉢155、浅鉢7）、石器12点（黒曜石製石鏃未製品、砂岩製磨製石斧、剥片10〔チャート製2、黒曜石製8〕）が出土している。縄文土器片の時期は、中期157点（加曾利E式120、不明37）、後期1点、時期不明6点である。遺物は、西部中央に一括廃棄を示す集中地点があり、それ以外は散在して出土している。1は炉1、2は炉2の炉体土器である。3～6は西部中央の覆土上層から出土したもので、3・4は破片同士が接合し、器形を復元できたものである。7は南部の覆土上層から、8は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式新段階期）と考えられる。



第 68 図 第 91 号堅穴建物跡実測図



第 69 图 第 91 号竖穴建物跡出土遺物実測図

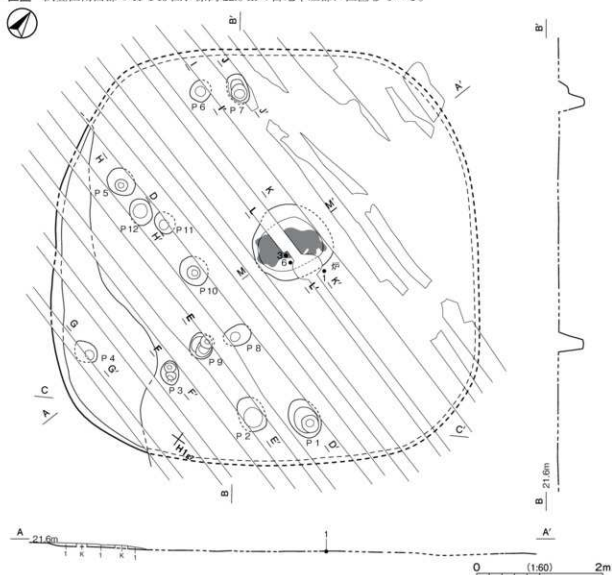
第28表 第91号竪穴建物跡出土遺物一覧(第69図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	模 成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	地文縦位 RL 単筋縄文・縦位 LR 単筋縄文・磨消懸垂文	炉埋設	23% PL26
2	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	地文縦位 RL 単筋縄文・磨消懸垂文	炉埋設	23% PL26
3	縄文土器	深鉢	[27.6]	36.5	7.1	長石・石英	明赤褐色	普通	地文縦位 LR 横糸文・磨消懸垂文	覆土上層	60% PL26
4	縄文土器	深鉢	25.5	(25.0)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 R 横糸文・口縁部直下3本一組の沈線文・交互研究文・口縁部沈線による3本一組の磨消波状文・くびれ部3本一組の磨消沈線文・胴部磨消懸垂文	覆土上層	50% PL26
5	縄文土器	深鉢	—	(11.2)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文・口縁部沈線による垂きのみ・交互研究文・区画文・胴部磨消懸垂文	覆土上層	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文・磨消懸垂文	覆土上層	10%

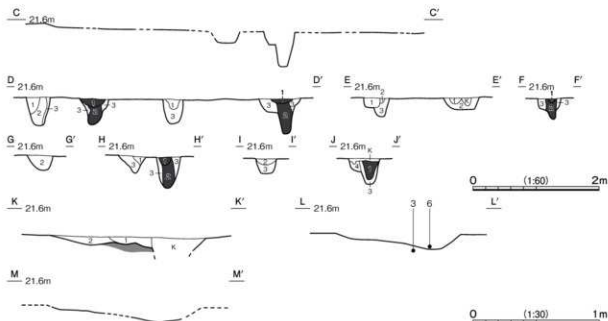
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
7	石皿 未製品	2.1	2.0	0.3	0.78	黒曜石	素材横長割片・素材割片の片面両面に平直な調整・未調整の残線に微細磨痕	覆土上層	100% PL27
8	磁石	(9.5)	5.2	3.4	(29.0)	砂岩	定角式磨製石斧転用 刃部破断面最打痕	覆土上層	70% PL27

第92号竪穴建物跡(第70・71図 第29表)

位置 調査区西南部のH16区、標高22.0mの台地平坦部に位置している。



第70図 第92号竪穴建物跡実測図



土層解説

1 10YR3/4 暗褐色 ローム小C・粒C、焼土粒C、炭化粒C／粘B、雜B

伊土層解説

1 5YR3/3 暗赤褐色 ローム粒C、焼土粒C／粘B、雜B

2 5YR3/4 暗赤褐色 ローム小B、焼土中C／粘B、雜B

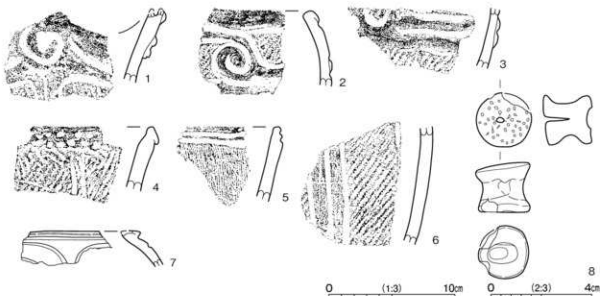
ビット土層解説 (各ビット共通)

1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小D／粘B、雜B

2 7.5YR4/3 暗褐色 ローム中D、炭化粒D／粘B、雜B

3 7.5YR4/4 暗褐色 ローム中C・小C／粘B、雜A

4 7.5YR4/3 暗褐色 ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D／粘B、雜B



第71図 第92号堅穴建物跡・出土遺物実測図

規模と形状 東側の大半が削平され、全面にわたり攪乱を受けているが、一部の壁や炉、ビットなどの分布から、東西軸6.74m、南北軸6.60mの隅丸台形と推定される。主軸方向は、平面形と炉の位置からN-36°-Wである。壁は高さが最大で5cmで、外傾している。

床 西側一部で確認した。ほぼ平坦で、硬化していない。

炉 中央部に位置している。長径126cm、短径118cmの不整円形で、深さ7cmの地床炉である。炉床面は起伏があり、赤変硬化している。

ビット 12か所。P1～P7は、深さ18～56cmで、壁際に位置することから、壁柱穴と考えられる。P8～

P 12は深さ28～48cmで、配列が不規則であることから、性格は不明である。P 1・3・7・10・12の第1・2層が柱痕跡、第3層が掘方埋土で、他のピットが周囲からの流入土である。

覆土 単層である。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片237点（深鉢232、壺1、浅鉢4）、土製品1点（耳飾り）、石器4点（黒曜石製剥片1、チャート製剥片3）が出土している。縄文土器片の時期は、中期237点（加曽利E式206、曾利式3、不明28）である。1は覆土下層から、3・6は炉床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。

第29表 第92号竪穴建物跡出土遺物一覧（第71図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	長石・石英	橙	普通	底状口縁 地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土下層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	長石	明赤褐	普通	地文縦位 RL 単節縄文 沈澱の沿う隆帯による 磨消文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	長石	明赤褐	普通	地文縦位 RL 単節縄文 口縁部直下背に沈澱の ある隆帯文	炉床面	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	長石・石英	橙	普通	口唇部直下横位 RL 単節縄文 側部地文縦位 RL 単節縄文 口唇部直下交り斜交文 沈澱による 2本一組の懸垂文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 L 磨消文 口唇部直下2本の沈澱文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	炉床面	5%
7	縄文土器	壺	—	(2.7)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	沈澱による区画文 全面研磨	炉覆土	5%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
8	耳飾り	2.0	2.2	—	(8.30)	長石・石英	明赤褐	菱形 表面に斜交文 中央の斜交文のみ深い	覆土	80% PL27

第94号竪穴建物跡（第72・73図 第30表 PL 9・10）

位置 調査区南西部のH 1 h7区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第98号竪穴建物、第1309・1314号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径5.30m、短径5.20mのほぼ円形と推定される。主軸方向は、平面形と炉の位置から、N－60°－Eである。壁は高さ10cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部から南西部にかけてわずかに硬化している。

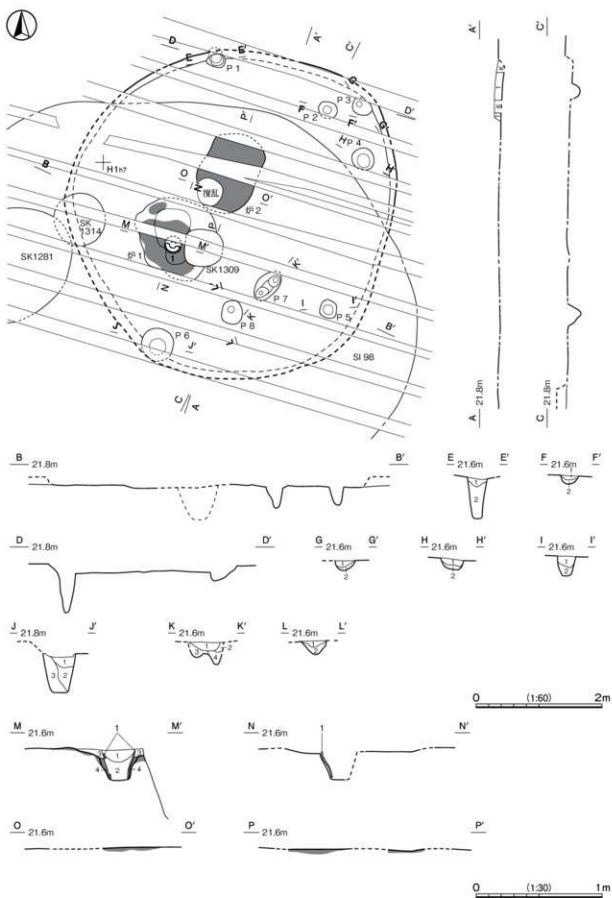
炉 2か所。炉1は、中央部の南西寄りに位置し、長径140cm、短径126cmの不整楕円形で、深さが6cmの土器埋設炉である。炉体土器は、炉のほぼ中央部に位置し、胴下部を欠いた深鉢を正位の状態で埋設している。4層に分層でき、第1・2層は炉体土器内の覆土、第3層は炉の覆土、第4層は掘方埋土である。掘方は、径30cm、深さ18cmのピット状である。炉床面は赤変硬化している。炉2は、中央部の北寄りに位置し、長径140cm、短径90cmの楕円形と推定される地床炉である。炉床面は、床面とはほぼ同じ高さで、赤変硬化している。

ピット 8か所。P 1～P 6は、深さ18～64cmで、壁際に位置していることから、壁柱穴と考えられる。P 7・P 8は、深さ34・22cmで、配列が不規則であることから、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 単層である。堆積状況は、層厚が薄いため、不明である。

遺物出土状況 縄文土器片223点（深鉢）、石器5点（石鏃2〔チャート製1、黒曜石製1〕、チャート製石核1、剥片2〔チャート製1、黒曜石製1〕）が出土している。縄文土器片の時期は、中期210点（加曽利E式203、曾利式1、不明6）、後期13点（不明）である。1は炉体土器である。後期の土器片は混入したものである。

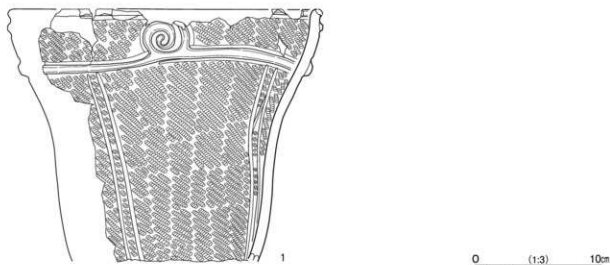
所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利EⅠ式新段階期）と考えられる。



第 72 图 第 94 号竖穴建物跡実測图

土層解説	
1 75Y24/3 堀	ローム小B・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜A
ピット2土層解説	
1 10YR3/3 堀堀	ローム小C・粒B、炭化粒D/粘B、雜B
2 10YR4/6 堀	ローム中C・小B・粒A/粘B、雜B
ピット4土層解説	
1 10YR3/3 堀堀	ローム中C・小B・粒B/粘B、雜B
2 10YR4/4 堀	ローム大C・中B・小B・粒A/粘B、雜B
ピット6土層解説	
1 10YR3/4 堀堀	ローム中D・小C・粒B/粘B、雜B
2 10YR3/3 堀堀	ローム中C・小B・粒B/粘B、雜B
3 10YR4/6 堀	ローム中B・小A・粒A/粘B、雜B
ピット8土層解説	
1 10YR3/3 堀堀	中B・小B・ローム粒B/粘B、雜A
2 10YR4/4 堀	ローム大C・中B・小A・粒A/粘B、雜A
歩1土層解説	
1 10YR3/4 堀堀	ローム粒C、焼土粒B/粘B、雜C
2 10YR3/3 堀堀	ローム粒D、焼土粒D/粘B、雜C
3 10YR4/4 堀堀	ローム小D・粒B、焼土小D・粒C/粘B、雜B
4 5YR3/3 堀堀堀	ローム小C・粒C、焼土小B・粒B/粘B、雜B

ピット1土層解説	
1 10YR3/4 堀堀	ローム小C・粒B/粘B、雜B
2 10YR3/3 堀堀	ローム中C・小B・粒B/粘B、雜B
ピット3土層解説	
1 10YR3/4 堀堀	ローム小C・粒B/粘B、雜B
2 10YR4/6 堀	ローム小B・粒B/粘B、雜B
ピット5土層解説	
1 10YR3/4 堀堀	ローム中D・小C・粒C/粘B、雜B
2 10YR4/4 堀	ローム中C・小B・粒B/粘B、雜B
ピット7土層解説	
1 10YR3/2 堀堀	ローム小D・粒C/粘B、雜A
2 10YR3/3 堀堀	ローム小D・粒D/粘B、雜A
3 10YR4/3 堀	ローム中B、炭化粒D/粘B、雜A
4 10YR4/3 堀	ローム中B/粘A、雜A



第73図 第94号堅穴建物跡出土遺物実測図

第30表 第94号堅穴建物跡出土遺物一覧（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[242]	(200)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位LR単筋縄文 口縁部沈線の沿う隆帯による溝帯文 胴部2本一組の沈線による壁垂文	炉1埋設	30% P1.27

第95号堅穴建物跡（第74図 PL10）

位置 調査区南西部のH1h5区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第91号堅穴建物、第1215・1236号土坑に掘り込まれている。第1210号土坑との関係は不明である。

規模と形状 西側が第91号堅穴建物に掘り込まれ、北東部の大半が削平されているため、南西壁際の一部しか確認できなかった。推定される規模は、短径が4.60mで、長径の現存値が3.60mである。平面形は楕円形で、主軸方向は、平面形と炉の位置からN-50°-Wと推定される。壁は高さ10cmほどで、外傾している。

床 南西側の一部を確認した。残存している範囲は、ほぼ平坦である。

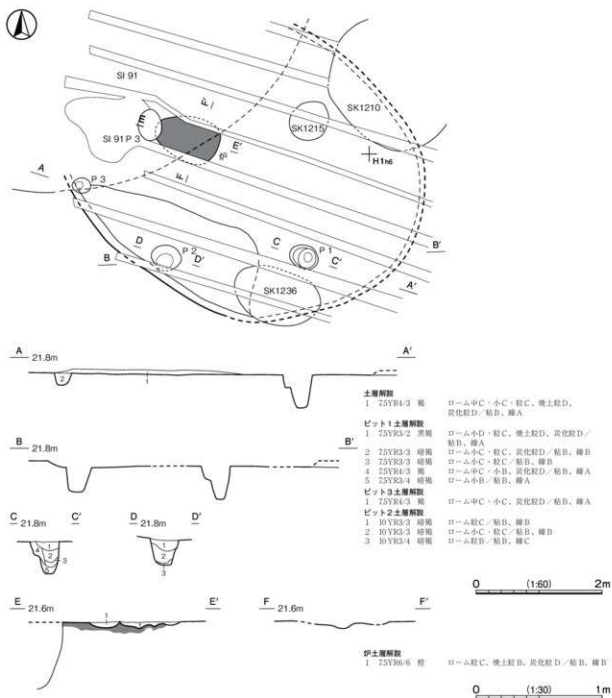
炉 炉は、中央部の西寄りに位置し、長径100cm、短径70cmの楕円形と推定され、深さ6cmの地床炉である。炉床面は、起伏があり、赤変硬化している。

ピット 3か所。P1～P3は、深さ20～50cmで、壁際に位置していることから、壁柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 単層である。堆積状況は、層厚が薄いため、不明である。

遺物出土状況 中期の縄文土器片3点（深鉢）が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中期と考えられる。



第74図 第95号竪穴建物跡実測図

第96号竪穴建物跡 (第75・76図 第31表 PL10)

位置 調査区西南部のH1c3区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第89号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 西側は調査区域外、東側は第89号竪穴建物に掘り込まれているため、確認できた規模は、南北径3.98mで、東西径は3.62mである。平面形は楕円形で、主軸方向は、N-68°-Eと推定される。壁は高さ28cmほどで、外傾している。

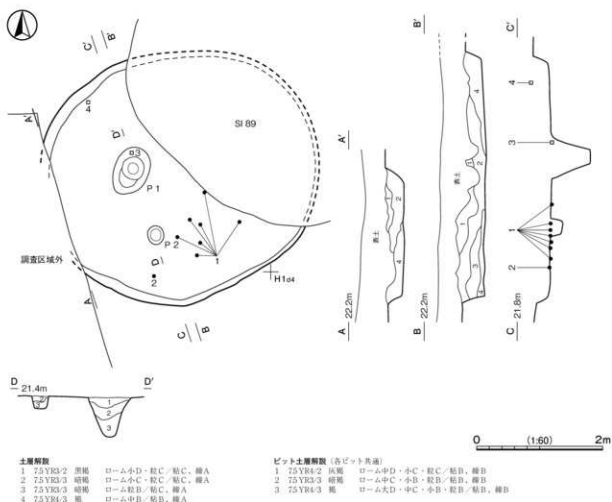
床 はほぼ平坦である。

ピット 2か所。P1・P2は、深さ60・18cmで、配置から主柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

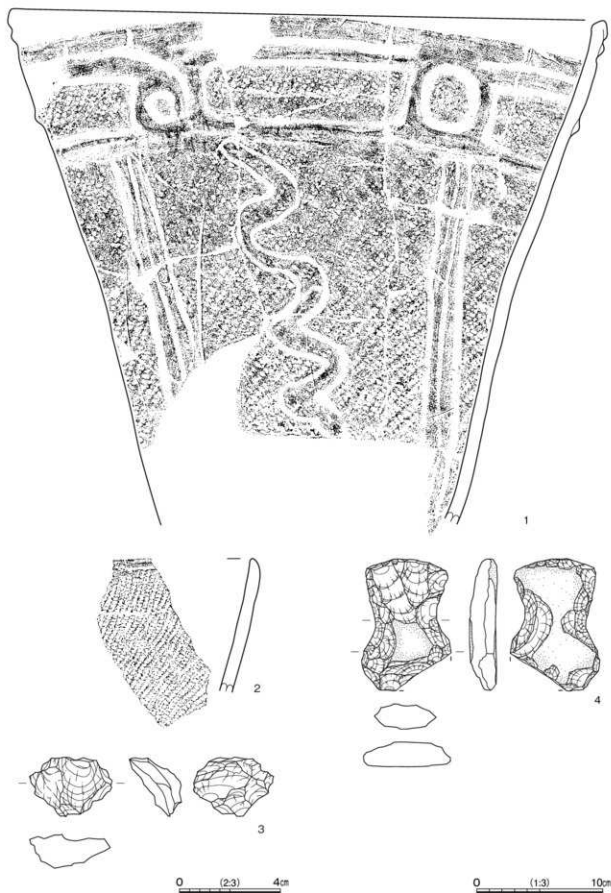
覆土 4層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片114点(深鉢113、浅鉢1)、石器2点(チャート製石核1、砂岩製打製石斧1)が出土している。縄文土器片の時期は、中期95点(加曾利E式79、不明16)、後期7点(堀之内式)、不明12点である。1は南部の覆土下層から散在した状態で出土している。2は南部、3は北部の覆土下層から、それぞれ出土している。4は北部の覆土上層から出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式新段階期)と考えられる。



第75図 第96号竪穴建物跡実測図



第 76 图 第 96 号竖穴建物跡出土遺物実測図

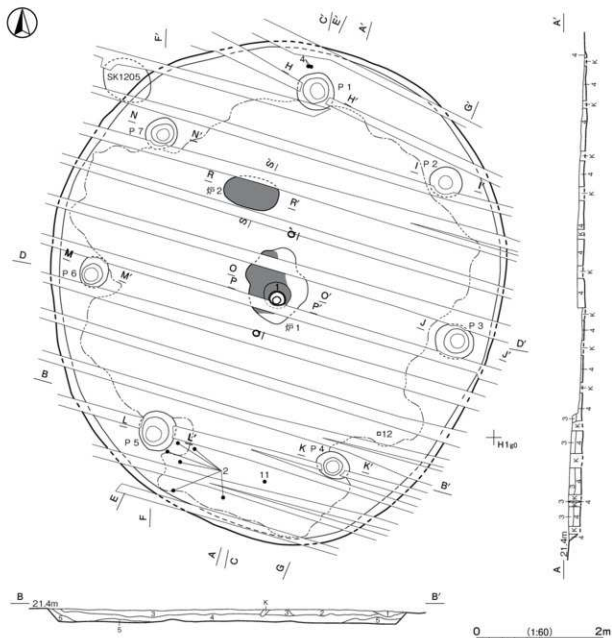
第31表 第96号竪穴建物跡出土遺物一覧(第76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	47.0	(40.0)	—	長石・石英	赤褐色	普通	地文:縦位 RL, 単節縄文 (口縁部と腹の間の狭帯による渦巻文・内文 網目状消色点文・蛇行点文)	覆土下層	60% PL27
2	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	縦位 RL 単節縄文	覆土下層	5%

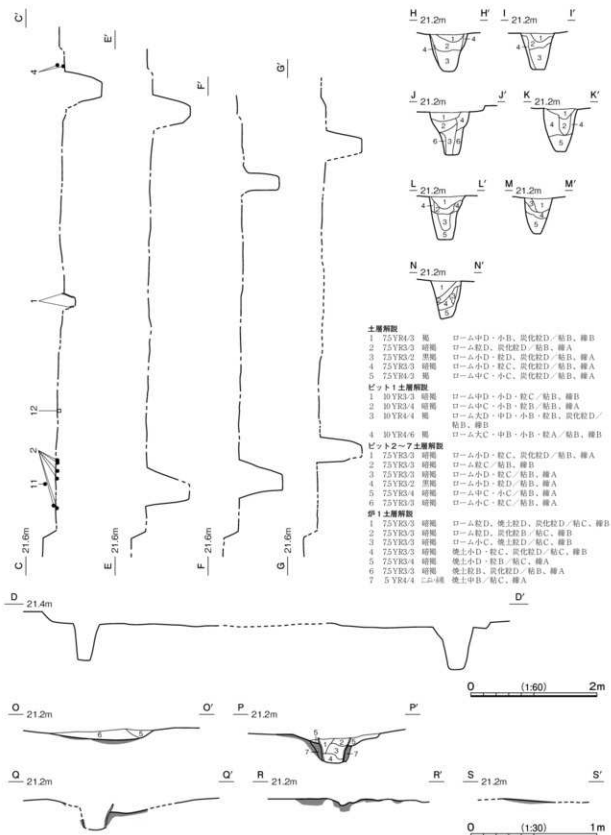
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	石核	2.3	3.2	1.4	9.80	チャート	素材横長割片 幅広縦長割片の潤磨	覆土下層	100% PL27
4	打製石斧	10.5	7.1	2.2	(190.55)	砂岩	分銅形 素材扁平様 両面の周縁より潤磨調整 自然面を残す	覆土上層	80% PL27

第97号竪穴建物跡(第77～80図 第32表 PL10)

位置 調査区南西部の H 1 9 区、標高 22 ほど m の台地平坦部に位置している。



第77図 第97号竪穴建物跡実測図(1)

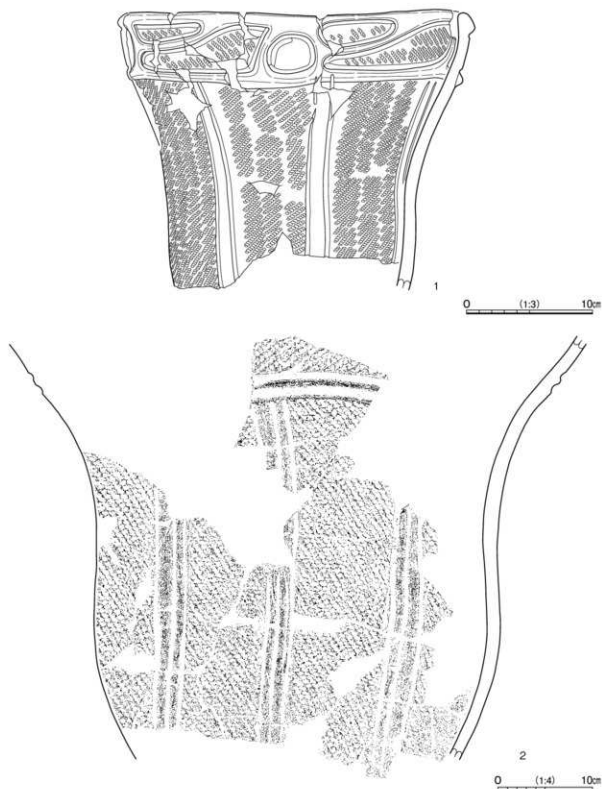


第78図 第97号竪穴建物跡実測図(2)

重複関係 第1205号土坑との関係は不明である。

規模と形状 長径7.96m、短径7.20mの楕円形である。主軸方向は、平面形と炉の位置から、N-16°-Wである。壁は高さ24cmほどで、外傾している。

床 平坦で、壁際を除いた中央部がわずかに硬化している。



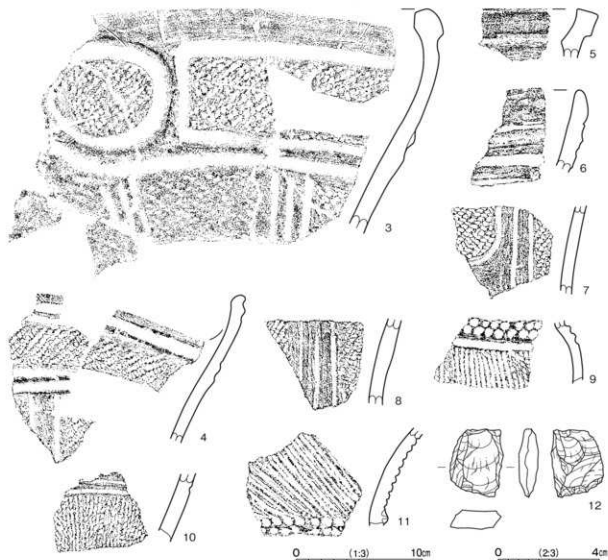
第79図 第97号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)

炉 2か所。炉1は、中央部の南西寄りに位置し、長径120cm、短径94cmの不整楕円形で、深さが12cmほどの土器埋設炉である。炉体土器は、中央部の南寄りに位置し、胴下部を欠いた深鉢を正位の状態で埋設している。7層に分層でき、第1～4層は炉体土器内の覆土、第5・6層は炉の覆土、第7層は掘方埋土である。掘方は、径36cm、深さ14cmのビット状である。炉床面は、赤変硬化している。炉2は、中央部の北寄りに位置し、長径98cm、短径50cmの楕円形と推定され、床面とはほぼ同じ高さの地床炉である。炉床面は、赤変硬化している。ビット 7か所。P1～P7は、深さ60～68cmで、炉1を中心に円形にされることから主柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 5層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片283点(深鉢)、石器1点(チャート製楔形石器)が出土している。縄文土器片の時期は、中期280点(加曾利E式197、曾利式15、不明68)、後期3点(称名寺式)である。1は炉1の炉体土器である。2は南壁際の覆土下層から散在した状態で出土した破片が接合したものである。3・9は、2の散在した破片とともに出土したものである。4は北壁際、12は南東壁際の覆土下層から、それぞれ出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式古段階期)と考えられる。



第80図 第97号堅穴建物跡出土物実測図(2)

第32表 第97号竪穴建物跡出土遺物一覧（第79・80図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	26.6	(22.3)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部地文横位 RL 単筋縄文 胴部縦位 RL 単筋縄文 口縁部沈線の沿う隆帯による内文・直線状クランク文 胴部磨消痕文	炉裡設	50% PL28
2	縄文土器	深鉢	—	(44.8)	—	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部地文横位 LR 単筋縄文 胴部縦位 LR 単筋縄文 口縁部直下2条の沈線文 胴部沈線による3本一組の磨消痕文	覆土下層	40% PL28
3	縄文土器	深鉢	—	(17.8)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部地文横位 LR 単筋縄文 胴部縦位 LR 単筋縄文 口縁部沈線の沿う隆帯による内文・区画文 胴部沈線による3本一組の磨消痕文	覆土	10% PL28
4	縄文土器	深鉢	—	(11.7)	—	長石・石英	明期	普通	小波状口縁 地文縦位 RL 単筋縄文 口縁部沈線の沿う隆帯文 胴部磨消痕文	覆土下層	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(3.8)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	無文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線文	覆土	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 沈線によるU字状区画文・磨消痕文	覆土	5%
8	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 沈線による3本一組の磨消痕文	覆土	5%
9	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	長石・石英	橙	普通	地文 L 磨消文 口縁部直下3本一組の沈線文・交互斜交文	覆土	5%
10	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文 R 磨消文 横位磨消沈線文	覆土	5%
11	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	手載竹留による平行沈線文 口縁部直下隆帯文・交互斜交文	覆土上層	5%
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴			出土位置	備 考
12	埴形石器	2.7	2.1	0.7	5.80	チャート	両端打法による上下で対向する洞眼痕			覆土下層	100% PL28

第98号竪穴建物跡（第81・82図 第33表 PL10）

位置 調査区南西部の H 1 h7 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第94号竪穴建物跡、第1238・1239・1281号土坑を掘り込み、第1309・1310号土坑に掘り込まれている。第1311・1314号土坑との関係は不明である。

規模と形状 長径 750 m、短径 674 m の楕円形と推定される。主軸方向は、平面形から N - 63° - W である。壁は高さ 12 cm ほどで、外傾している。

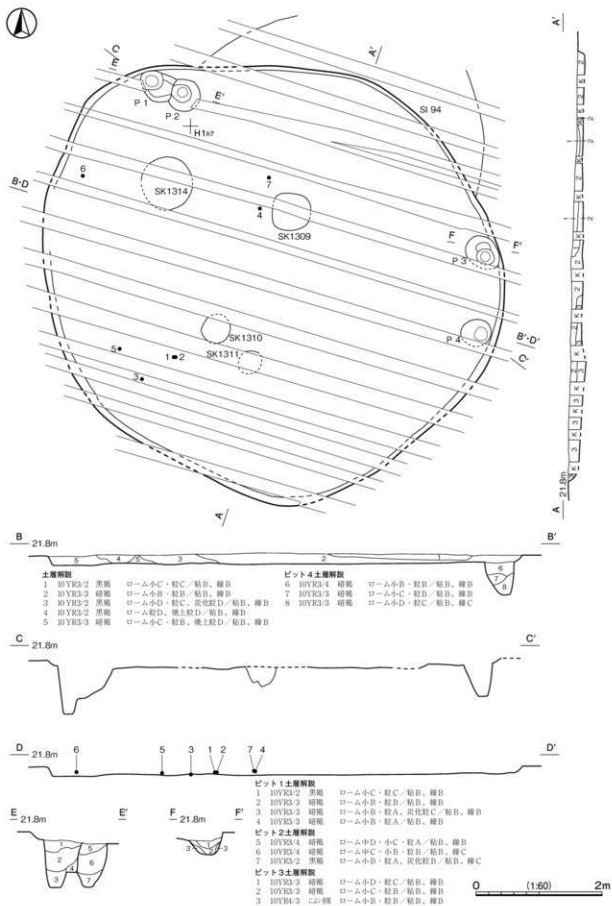
床 平坦である。

ピット 4 か所。P 1 ～ P 4 は、深さ 34 ～ 79 cm で、壁際に沿うように位置していることから壁柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

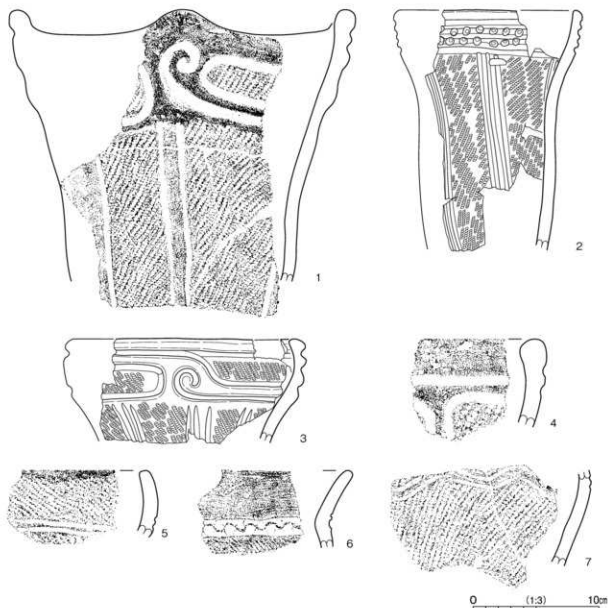
覆土 5 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 130 点（深鉢）、石器 3 点（剥片 3（チャート製 1、黒曜石製 2））が出土している。縄文土器片の時期は、中期 124 点（加曾利 E 式）、後期 6 点（不明）である。1・2・3・5 は南西壁際、4・7 は中央部、6 は西壁際の覆土下層から、それぞれ出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E II 式古段階期）と考えられる。



第81図 第98号竪穴建物跡実測図



第 82 図 第 98 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 33 表 第 98 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 82 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	[26.0]	(21.5)	-	長石・石英	橙	普通	小波状口縁・地文縦位 L 系単節縄文・波頂部下の口縁部沈線の沿う隆帯による渦巻文・胴部磨消懸垂文	覆土下層	20% PL28
2	縄文土器	深鉢	[14.0]	(19.0)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 系単節縄文・口縁部 4 本一組の沈線文に交互斜突文・胴部沈線による 3 本一組の磨消懸垂文	覆土下層	20% PL28
3	縄文土器	深鉢	[17.5]	(8.2)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 L 系単節縄文・口縁部沈線の沿う隆帯による渦巻文・胴部沈線による 3 本一組の磨消懸垂文	覆土下層	10% PL28
4	縄文土器	深鉢	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文縦位 RL 系単節縄文・口縁部沈線の沿う隆帯	覆土下層	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文横位 RL 系単節縄文・2 本一組の沈線文	覆土下層	5%
6	縄文土器	深鉢	-	(6.1)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 系単節縄文・2 本一組の沈線文・交互斜突文	覆土下層	5%
7	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 系単節縄文・2 本一組の磨消乾行沈線文	覆土下層	5%

第99号竪穴建物跡 (第83・84図 第34表)

位置 調査区南西部のH 2il区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

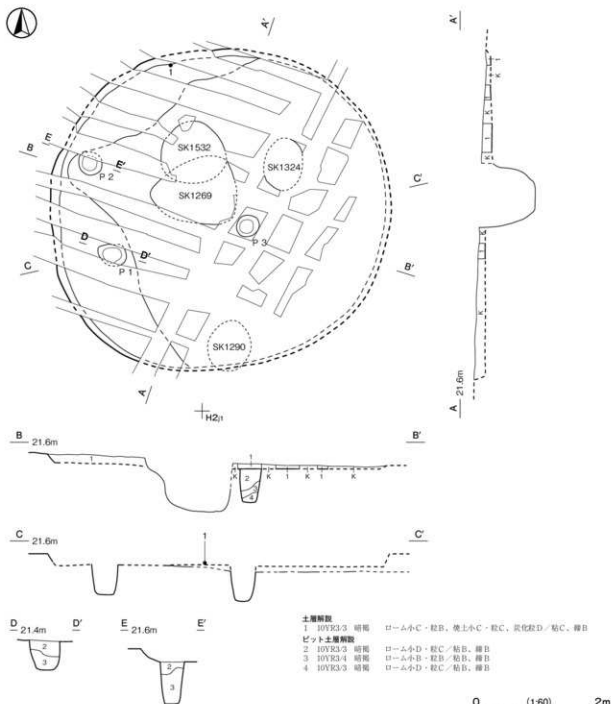
重複関係 第1269・1532号土坑に掘り込まれている。第1290・1324号土坑との関係は不明である。

規模と形状 全面にわたって攪乱を受けている。確認した壁とピットなどから、長径5.40m、短径5.04mのほぼ円形と推定される。壁は高さ10cmほどで、外傾している。

床 西側一部で確認した。ほぼ平坦で、硬化していない。

ピット 3か所。P1・P2は、深さ48・64cmで、壁際に沿うように位置していることから壁柱穴と考えられる。

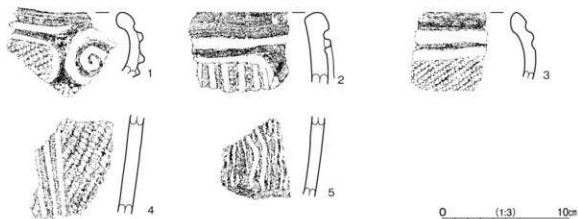
P3は、深さ55cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。



第83図 第99号竪穴建物跡実測図

覆土 単層である。全面にわたって攪乱を受けているため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片 63 点（深鉢）、石器 3 点（剥片 3〔チャート製 1、黒曜石製 2〕）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 63 点（加曽利 E 式 49、曾利式 14）である。1 は北壁際の覆土下層から出土している。所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利 E II 式期）と考えられる。



第 84 図 第 99 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 34 表 第 99 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 84 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(51)	—	長石・石英	明褐色	普通	地文横位 LRL 後部縄文 沈殿の沿う隆帯による区画文	覆土下層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(57)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位沈殿文 沈殿の沿う隆帯による区画文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(53)	—	長石・石英	橙	普通	地文横位 L 及 単部縄文 口縁部沈殿の沿う隆帯による区画文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(75)	—	長石・石英	にぶい褐色	普通	地文縦位 RL 単部縄文 沈殿による 3 本一組の縦行区画文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(62)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 R 照形文 沈殿による 2 本一組の縦行区画文	覆土	5%

第 101 号竪穴建物跡（第 85 図）

位置 調査区南東部の 12e4 区、標高 21 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 削平のため、炉とピットのみを確認した。ピットの配置から、長径 7.88 m、短径 5.78 m の隅丸長方形と推定される。長軸方向は、炉とピットの位置から、N-38°-E である。

炉 2 か所。炉 1 は、中央部の北寄りに位置し、長径 90cm、短径 82cm の楕円形と推定され、深さ 9cm の地床炉である。炉床面はわずかに赤変硬化している。炉 2 は、中央部の南寄りに位置し、長径 120cm、短径 88cm の楕円形で、深さ 7cm の地床炉である。炉床面は、赤変硬化している。

ピット 7 か所。P1～P5 は、深さ 10～28cm で、炉を中心に五角形に配置されることから、主柱穴と考えられる。P6・P7 は、深さ 36・14cm で、配列が不規則であることから、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片 3 点（深鉢）が炉の精査時に覆土から出土している。縄文土器片の時期は、いずれも後期で、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から後期と考えられる。

第102号竪穴建物跡 (第86図 PL10)

位置 調査区北東部のG5h5区、標高21mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第103号竪穴建物跡との関係は不明である。

規模と形状 削平のため、炉とビットのみを確認した。ビットの配置から、径4.52mの円形と推定される。

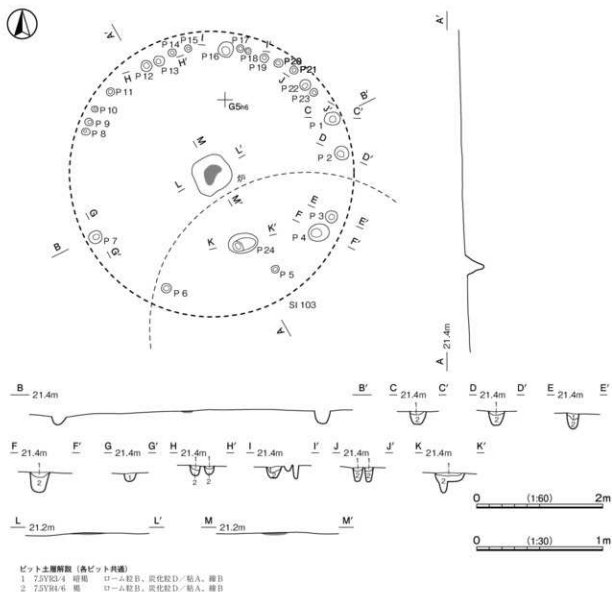
炉 中央部に位置し、長径60cm、短径56cmの不整形円形の地床炉である。炉床面は、床面と同じ高さで、わずかに赤変硬化している。

ビット 24か所。P1～P23は、深さ13～32cmで、壁際に沿って位置していることから、壁柱穴と考えられる。

P24は、深さ32cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が炉の覆土から出土している。縄文土器片の時期は、後期で、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から後期と考えられる。



第86図 第102号竪穴建物跡実測図

第 103 号竪穴建物跡 (第 87 図 PL10)

位置 調査区北東部の G 5 h6 区、標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 102 号竪穴建物跡との関係は不明である。

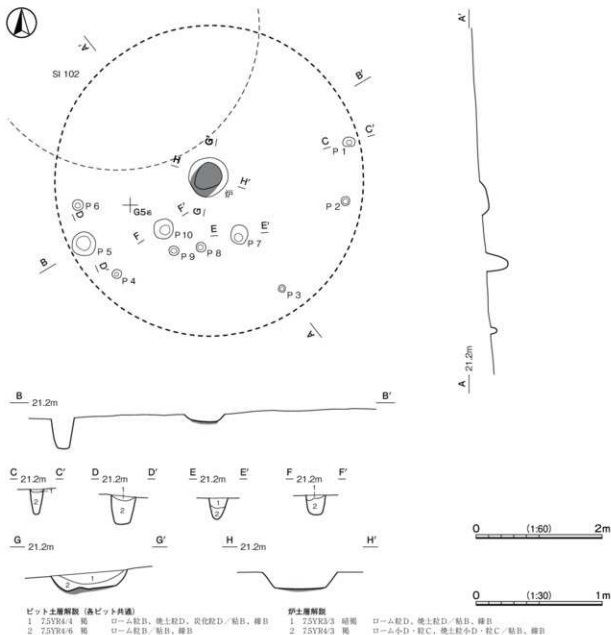
規模と形状 削平のため、炉とピットのみを確認した。ピットの配置から、径 4.92 m の円形と推定される。

炉 中央部に位置し、長径 64 cm、短径 60 cm のほぼ円形で、深さ 13 cm ほどの地床炉である。炉床面は、深さ 13 cm で、赤変硬化している。

ピット 10 か所。P 1 ~ P 6 は、深さ 10 ~ 45 cm で、壁際に沿うように位置していることから、壁柱穴と考えられる。P 7 ~ P 10 は、深さ 10 ~ 36 cm で、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片 3 点 (深鉢) が炉精査時の覆土から出土している。縄文土器片の時期は、いずれも後期で、細片のため図示できなかった。

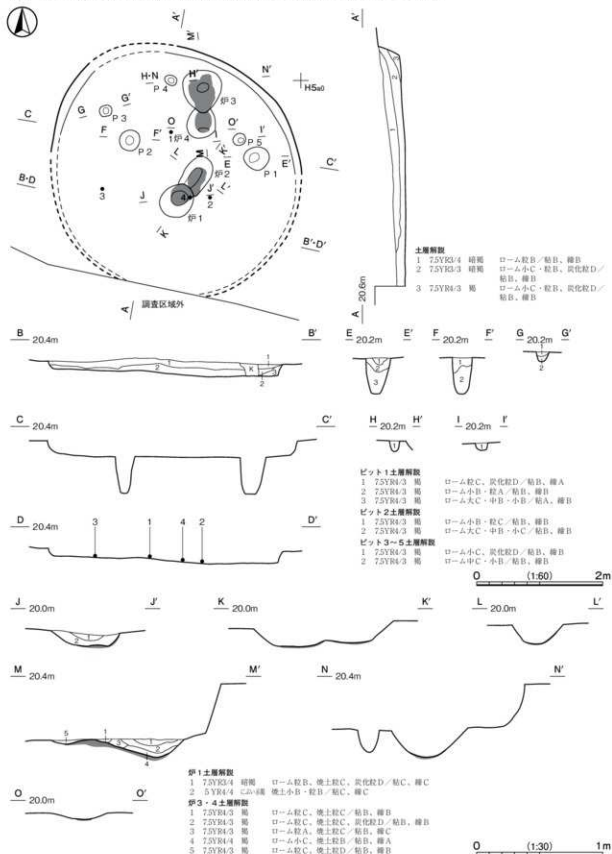
所見 時期は、出土土器から後期と考えられる。



第 87 図 第 103 号竪穴建物跡実測図

第104号竪穴建物跡 (第88・89図 第35表 PL10・11)

位置 調査区北東部のH 5a9区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

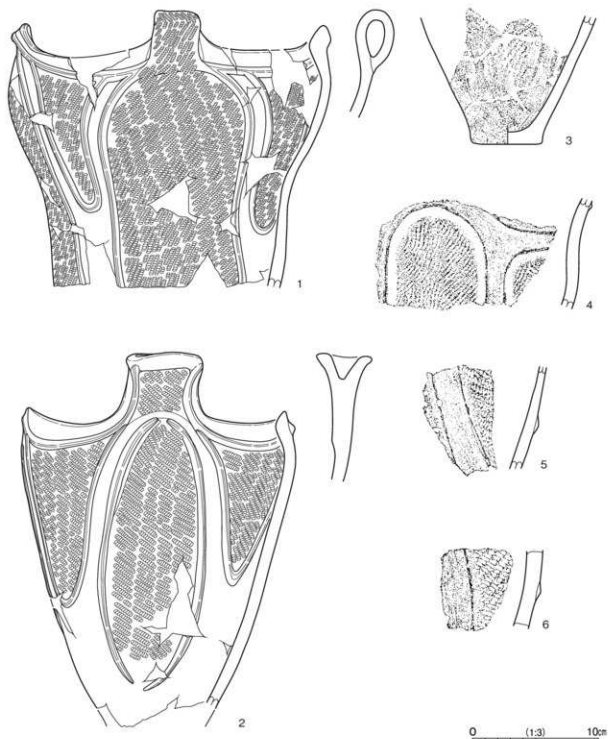


第88図 第104号竪穴建物跡実測図

規模と形状 南側が調査区域外のため、確認できた規模は、長径4.02 m、短径3.78 mで、ほぼ円形である。主軸方向は、平面形と炉の位置から、N-16°-Eである。壁は高さ24cmで、外傾している。

床 平坦で、硬化していない。

炉 4か所。土層観察の結果、炉2から炉1へ、炉4から炉3へ作り替えている。炉1は、中央部の南寄りに位置し、長径56cm、短径50cmの楕円形で、深さが12cmの地床炉である。炉2は、中央部に位置し、確認できた規模は長径64cm、短径40cmで、楕円形と推定され、深さ15cmの地床炉である。炉3は、北壁際の中央部に



第89図 第104号竪穴建物跡出土物実測図

位置し、径62cmの円形で、深さ14cmの地床炉である。炉4は、北壁寄りの中央部に位置し、確認できた規模は長径46cm、短径44cmで、円形と推定され、深さ5cmの地床炉である。炉1から炉4の炉床面は、いずれも赤変硬化している。

ピット 5か所。P1・P2は、いずれも深さ56cmで、主軸方向に直交する位置に対峙していることから、主柱穴と考えられる。P3～P5は、深さ12～16cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。
覆土 3層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片63点（深鉢）、石器1点（チャート製剥片）が出土している。縄文土器片の時期は、中期19点（不明）、中期後葉～後期初頭44点（加曾利EⅣ～称名寺Ⅰ式）である。1～4は、床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。

第35表 第104号竪穴建物跡出土遺物一覧（第89図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特 徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	236	(220)	—	長石・石英	にぶ黄褐色	普通	1単位のみを筒状把手とする4単位の液状口縁部隆起帯による長格円区画文、或底部下隆起帯によるじ字状区画文、R1.単軸縄文充填	床面	70%
2	縄文土器	深鉢	205	(298)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	1単位のみを筒状把手とする4単位の液状口縁部隆起帯による長格円区画文、或底部下隆起帯によるじ字状区画文、L1R.単軸縄文充填	床面	90%
3	縄文土器	深鉢	—	(100)	5.3	長石・石英	橙	普通	散隆帯による区画文 R1.単軸縄文充填	床面	10%
4	縄文土器	深鉢	—	(85)	—	長石・石英	橙	普通	頸部散隆帯によるじ字状文 胴部散隆帯による流じ字状文、R1.単軸縄文充填	床面	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(80)	—	長石・石英	橙	普通	散隆帯による区画文 L1R.単軸縄文充填	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(62)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	散隆帯による区画文 R1.単軸縄文充填	覆土	5%

第105号竪穴建物跡（第90・91図 第36表）

位置 調査区北東部のG48区、標高22mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第1335号土坑との関係は不明である。

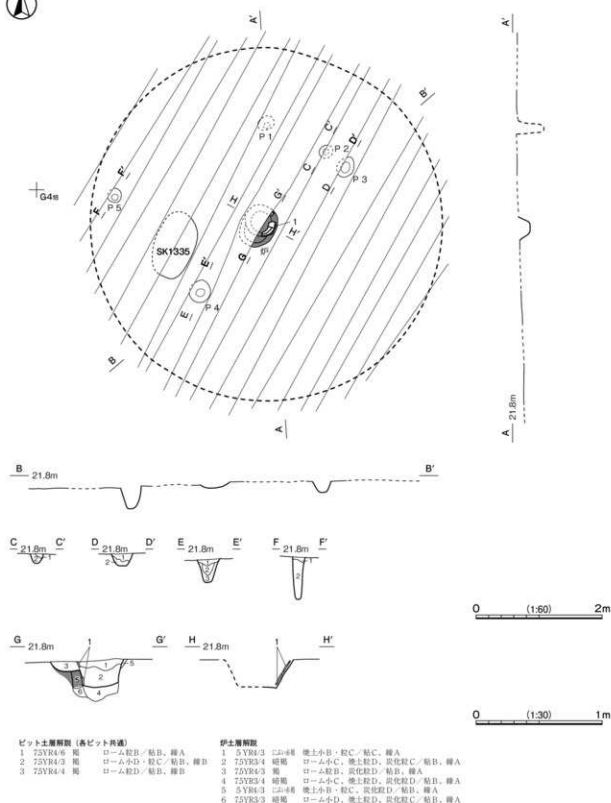
規模と形状 全面にわたる削平と攪乱のため、炉とピットのみを確認した。ピットの配置から、径5.58mの円形と推定される。

炉 はほぼ中央部に位置し、大半が攪乱のため、確認できた規模は長径66cm、短径55cmの楕円形と推定され、深鉢の胴部を埋設した土器埋設炉である。攪乱により全容が不明であるため、土器片囲炉の可能性も考えられる。炉体土器は、径36cmの円形で、深さ21cmのピット状のくぼみに正位の状態でも埋設している。炉体土器の内部には焼土層は確認できなかった。炉体土器南西側に床面を8cm掘りくぼめた炉床面があり、赤変硬化している。覆土は3層に分層でき、第1・2層が炉体土器内の覆土、第3層は炉床面の覆土である。第4～6層は掘方の埋土である。

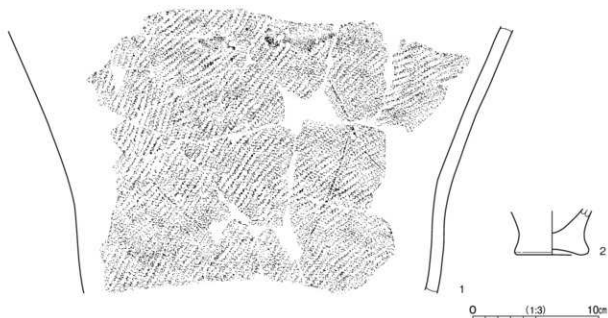
ピット 5か所。P1～P5は、深さ15～66cmで、配列が不規則であることから、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片22点（深鉢）が炉とピットの覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期22点（加曾利E式16、不明6）である。1は、土器埋設炉の炉体土器である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E式期）と考えられる。



第 90 図 第 105 号竪穴建物跡実測図



第 91 図 第 105 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 36 表 第 105 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 91 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	(208)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	横位・縦位 RL 半路縄文	炉埋設	15%
2	縄文土器	深鉢	—	(35)	5.7	長石・石英	明赤褐	普通	無文	炉覆土	10%

第 106 号竪穴建物跡 (第 92 図)

位置 調査区北東部の G 4 g0 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

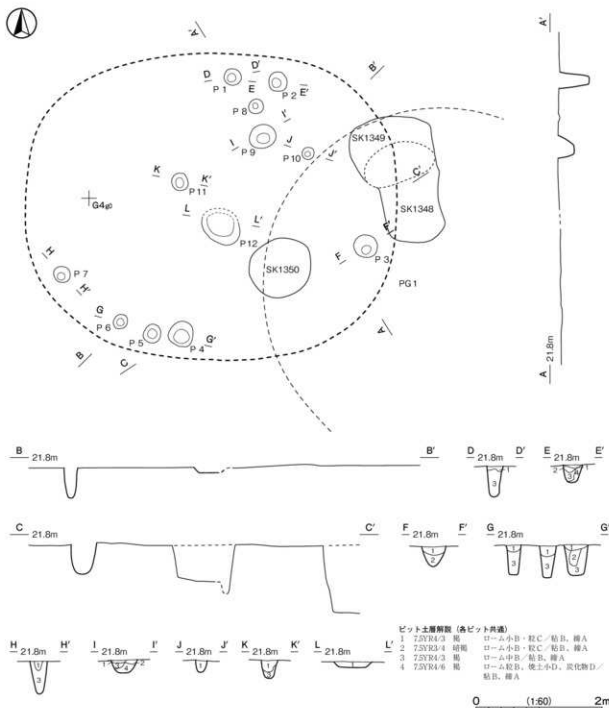
重複関係 第 1348・1349 号土坑に掘り込まれている。第 1350 号土坑、第 1 号ピット群との関係は不明である。

規模と形状 削平のため、ピットのみを確認した。ピットの配置から、長径 5.90 m、短径 4.85 m の楕円形と推定される。

ピット 12 か所。P 1～P 7 は、深さ 29～52 cm で、壁際に沿うように位置していることから、壁柱穴と考えられる。P 8～P 12 は、深さ 18～50 cm で、配列が不規則なことから、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片 7 点 (深鉢) がピットの覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期 7 点 (加曾利 E 式 5、不明 2) で、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利 E 式期) と考えられる。



第 92 図 第 106 号竪穴建物跡実測図

第 107 号竪穴建物跡 (第 93 図 第 37 表 PL11)

位置 調査区北東部の G 6 h2 区、標高 22 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 109 号竪穴建物跡との新旧関係は不明である。

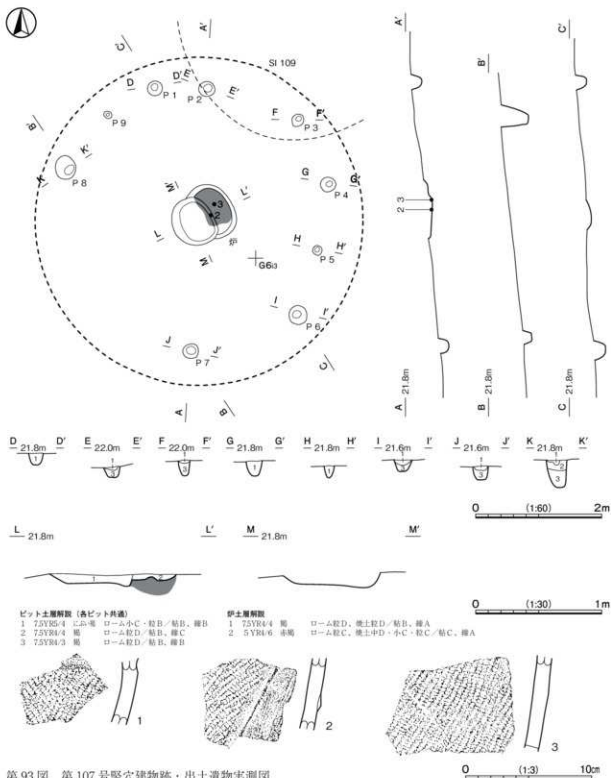
規模と形状 削平のため、炉とビットのみを確認した。ビットの配置から、径 5.20 m の円形と推定される。

炉 中央部に位置し、長径 100 cm、短径 90 cm の不整楕円形で、北東側が深さ 5 cm、南西側が深さ 9 cm で段差のある地床炉である。炉床面は、深さの浅い炉の北東側に位置し、赤変硬化している。

ピット 9か所。P1～P9は、深さ15～42cmで、壁際に沿うように位置していることから、壁柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片16点（深鉢）、石器1点（黒曜石製剥片）が炉の覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期2点（不明）、中期後葉～後期初頭14点（加曾利EⅣ～称名寺I式）である。2・3は炉床面より出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭（加曾利EⅣ～称名寺I式期）と考えられる。



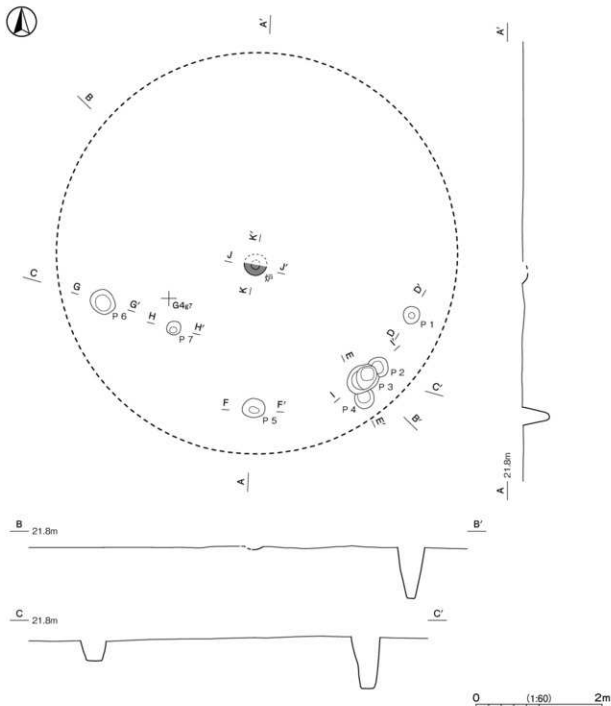
第93図 第107号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 37 表 第 107 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 93 図)

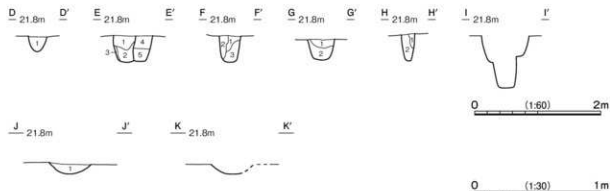
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英	橙	普通	微隆帯による区画文 横位・縦位 RL 半筋縄文	炉覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英	橙	普通	微隆帯による区画文 縦位 RL 半筋縄文	炉床面	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英	明黒	普通	微隆帯による区画文 縦位 RL 半筋縄文	炉床面	5%

第 108 号竪穴建物跡 (第 94・95 図)

位置 調査区北東部の G 4 f7 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 94 図 第 108 号竪穴建物跡実測図(1)



ビット土層解説 (各ビット共通)

- | | | |
|---|-------------|---------------------|
| 1 | 75YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粒B、炭化粒D／粘B、雜A |
| 2 | 75YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粒C、炭化粒D／粘C、雜B |
| 3 | 75YR4/3 暗褐色 | ローム小B／粒D、雜A |
| 4 | 75YR4/3 暗褐色 | ローム小B・粒B、炭化粒D／粘B、雜A |
| 5 | 75YR4/3 暗褐色 | ローム小B・粒C／粘B、雜A |

伊土層解説

- | | | |
|---|-------------|--------------------------|
| 1 | 5YR3/3 暗赤褐色 | ローム粒C、焼土小C・粒B、炭化粒D／粘B、雜B |
|---|-------------|--------------------------|

第95図 第108号竪穴建物跡実測図(2)

規模と形状 削平のため、炉とビットのみを確認した。ビットの配置から、径6.40mの円形と推定される。

炉 中央部に位置し、径35cmの円形と推定され、深さ8cmの地床炉である。炉床面は、わずかに赤変硬化している。

ビット 7か所。P1～P6は、深さ22～82cmで、壁際に沿って位置していることから、壁柱穴と考えられる。P3はP4を掘り込んでいる。P7は深さ43cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が炉の覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期(加曾利E式)で、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利E式期)と考えられる。

第109号竪穴建物跡(第96図 第38表)

位置 調査区北東部のG6g3区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第107号竪穴建物跡との関係は不明である。

規模と形状 西部が攪乱、南部が削平されており、長径4.80m、短径4.40mの楕円形と推定される。壁は高さ5cmで、外傾している。

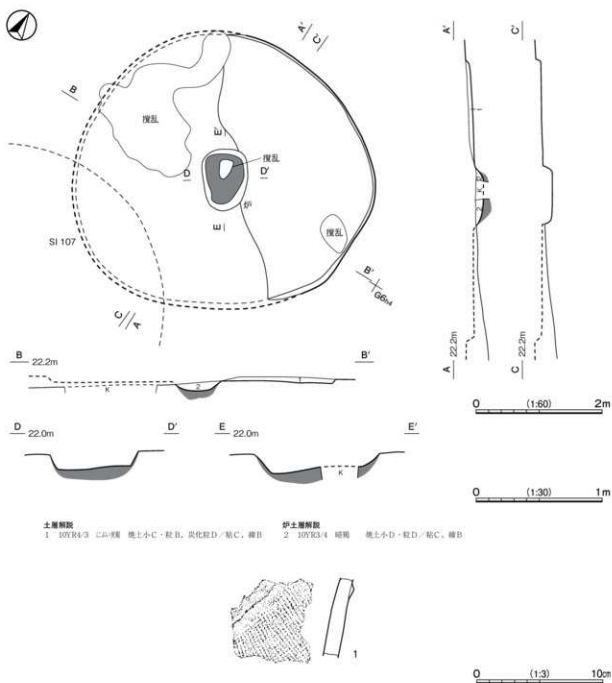
床 東部のみを確認した。平坦である。

炉 中央部に位置し、長径98cm、短径73cmの不整楕円形で、深さ8cmの地床炉である。炉床面は、赤変硬化している。

覆土 単一層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 縄文土器片17点(深鉢)が覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期4点(不明)、中期後葉～後期初頭13点(加曾利EⅣ～称名寺Ⅰ式)である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭(加曾利EⅣ～称名寺Ⅰ式)と考えられる。



第96図 第109号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第38図 第109号竪穴建物跡出土遺物実測図（第96図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	炭陰帯による区画文 縦位RL 半趾縄文	覆土	5%

第115号竪穴建物跡 (第97～99図 第39表 PL11)

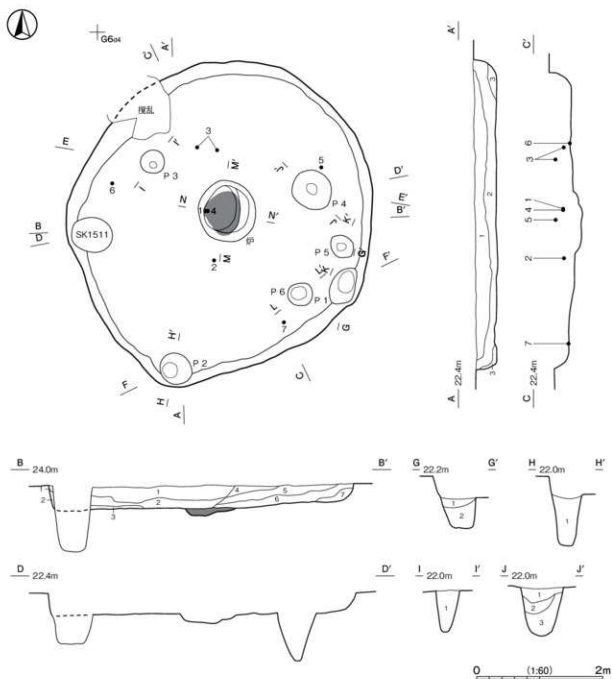
位置 調査区北東部のG 6 d4区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1511号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径4.72mの不整形円形である。主軸方向は、平面形と炉の位置から、 $N-26^{\circ}-W$ である。壁は高さ40cmで、外傾している。

床 平坦で、ほぼ全面がわずかに硬化している。

炉 中央部に位置している。長径96cm、短径91cmのほぼ円形で、深さ15cmの地床炉である。壁は外傾しているが、東部は底面から10cmのところで段を有している。炉床面は、赤変硬化している。



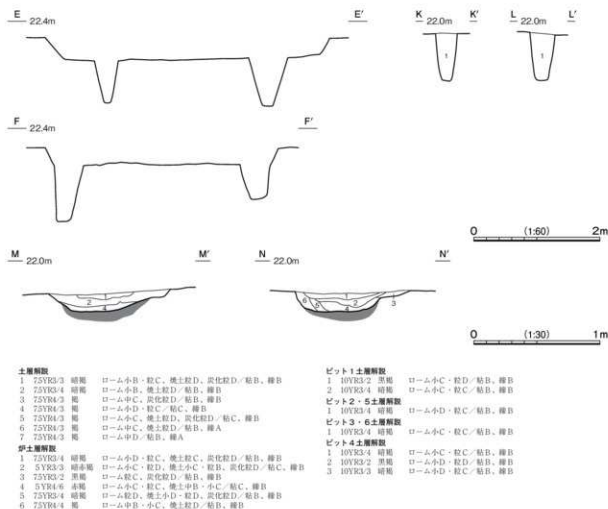
第97図 第115号竪穴建物跡実測図(1)

ピット 6か所。P1～P4は、深さ46～90cmで、規模と配列から、主柱穴と考えられる。P5・P6は、深さ76cm・72cmで、壁寄りに位置しているが、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

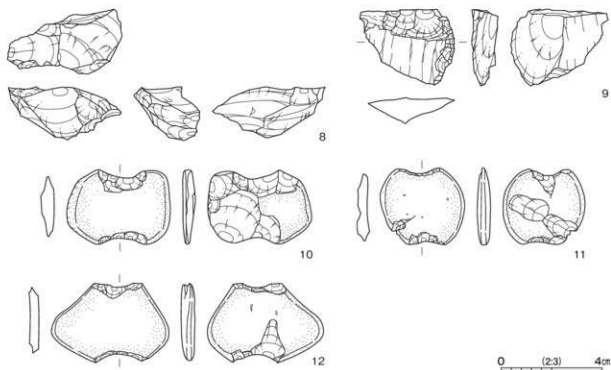
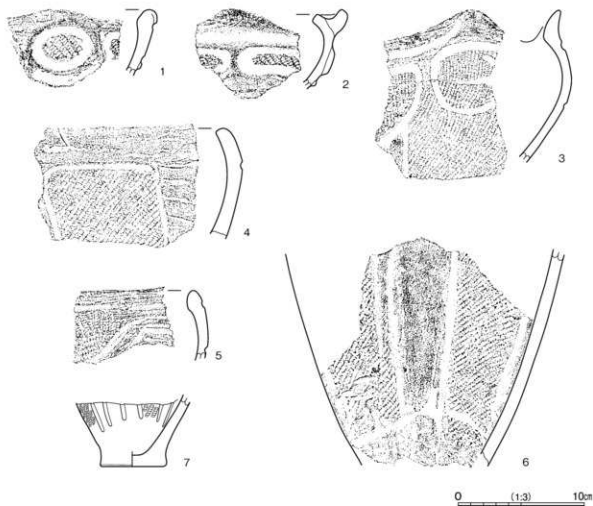
覆土 7層に分層できる。東側からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片450点（深鉢）、石器4点（石錘3〔安山岩製1、凝灰岩製2〕、安山岩製剥片1）が出土している。炉の覆土から、石器280点（チャート製石核1、2次加工のあるチャート製剥片1、剥片26〔チャート製7、頁岩製17、黒曜石製2〕、砕片252〔チャート製35、頁岩製217〕）が出土している。縄文土器片の時期は、早期2点（条痕文系）、中期428点（加曾利E式364、不明64）、後期1点（不明）である。早期と後期の土器片は、混入したものである。1～5は中央部の覆土上層から、6は北西部壁際、7は南西部壁際の床面から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式新段階期）と考えられる。炉の覆土から出土した石器は、石器製作に伴うもので、本跡で石器製作が行なわれた可能性がある。



第98図 第115号竪穴建物跡実測図(2)



第99图 第115号竖穴建物跡出土遺物実測図

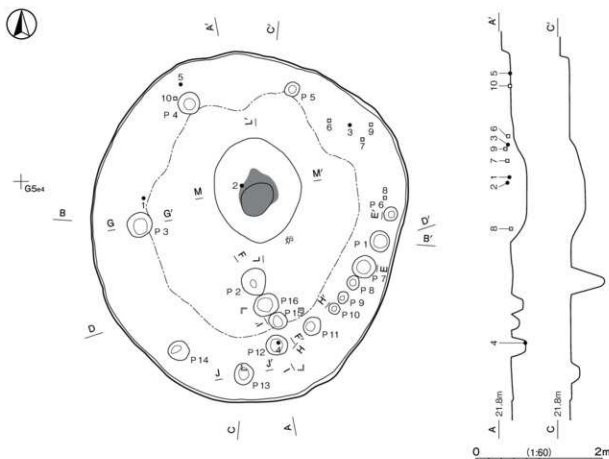
第 39 表 第 115 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 99 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	長石・石英	橙	普通	地文横位 RL 卑胎縄文 沈殿の沿う隆帯による 唇内縁の溝文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口唇部に小突起 地文横位 RL 卑胎縄文 沈殿 の沿う隆帯による区画文	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(12.0)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	浅状口縁 地文縦位 RL 卑胎縄文 浅溝部下沈 部による細い溝帯文 胴部微凸懸垂文	覆土上層	10%
4	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 卑胎縄文 沈殿による逆 J 字状区 画文外を磨消	覆土上層	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文横位・縦位 RL 卑胎縄文 口唇部直下に沈 殿文 口縁部沈殿による横位の磨消浅状文	覆土上層	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(16.7)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 卑胎縄文 磨消懸垂文	床面	10%
7	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	4.9	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 卑胎縄文 磨消懸垂文	床面	10%

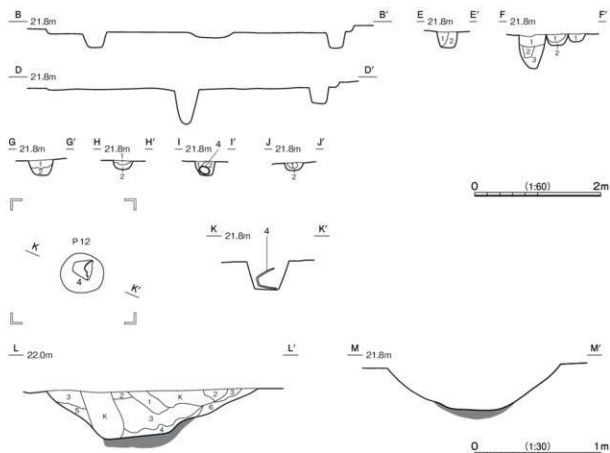
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
8	石杖	21	4.5	26	17.29	チャート	打面転移 縦長割片剥離	砂覆土	100% PL29
9	2 次加工の ある割片	3.0	3.8	1.1	11.06	チャート	処理面のある扁平磨の折断面割片 右側縁に連続的な調整	砂覆土	100% PL29
10	石鐮	3.0	4.2	0.5	9.46	安山岩	素材扁平円磨 短軸方向に両側縁から対向する切目調整割離	覆土	100% PL29
11	石鐮	3.0	3.4	0.5	6.30	凝灰岩	素材扁平円磨 両側縁から対向する切目調整割離	覆土	100% PL29
12	石鐮	3.1	4.7	0.5	8.69	凝灰岩	素材扁平円磨 短軸方向に両側縁から対向する切目調整割離	覆土	100% PL29

第 116 号竪穴建物跡 (第 100 ~ 102 図 第 40 表 PL11)

位置 調査区北東部の G 5e4 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 100 図 第 116 号竪穴建物跡実測図(1)



ビット土層断面 (各ビット共通)

- | | | |
|---|-------------|--------------------------|
| 1 | 10YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒D/粘B、雜B |
| 2 | 10YR3/4 暗褐色 | ローム小D・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B |
| 3 | 10YR4/4 褐色 | ローム中B・小B/粘B、雜B |

伊土層断面

- | | | |
|---|--------------|-----------------------|
| 1 | 7.5YR2/2 黒褐色 | ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B |
| 2 | 7.5YR3/2 黒褐色 | ローム小D・粒D、焼土粒D/粘B、雜A |
| 3 | 7.5YR4/3 褐色 | ローム小C/粘B、雜B |
| 4 | 7.5YR4/3 褐色 | ローム小D/粘B、雜B |
| 5 | 7.5YR3/4 暗褐色 | ローム小C、焼土粒C/粘B、雜B |
| 6 | 7.5YR3/4 暗褐色 | ローム小C・粒C/粘A、雜A |
| 7 | 7.5YR4/3 褐色 | ローム小C、焼土小C・粒C/粘A、雜A |

第 101 図 第 116 号堅穴建物跡実測図(2)

規模と形状 長径5.56m、短径5.06mの楕円形である。主軸方向は、平面形と炉の位置から、N-12°-Wである。

壁は高さ14cmで、外傾している。

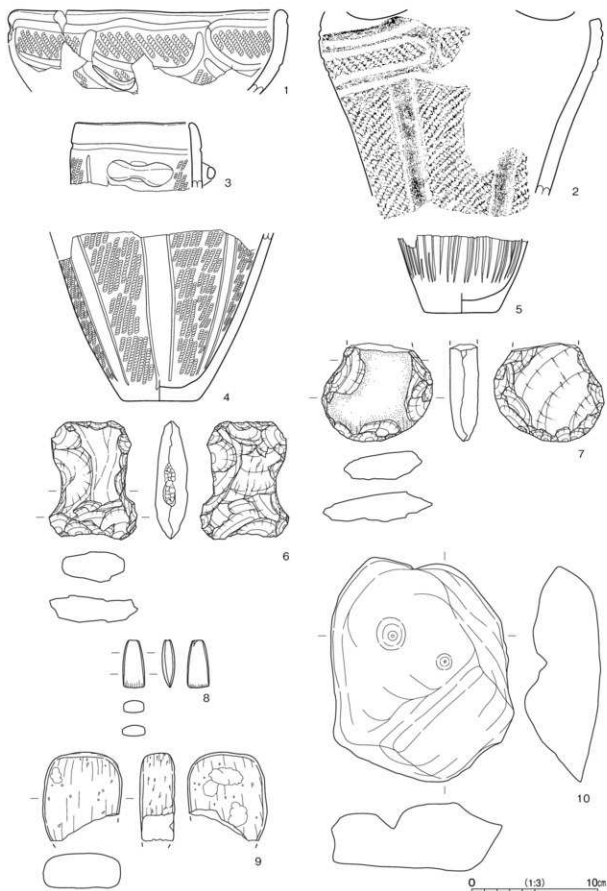
床 平坦で、中央部が硬化している。

炉 中央部に位置している。長径164cm、短径138cmの楕円形で、深さ20cmの地床炉である。壁は外傾し、炉床面は赤変硬化している。

ビット 16か所。P1～P3は、深さ25～52cmで、規模と配列から、主柱穴と考えられる。P4～P11・P13・P14は、深さ14～16cmで、壁際に沿うように位置していることから、壁柱穴と考えられる。P12・P15・P16は、深さ12～23cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片11点(深鉢10、壺1)、石器7点(打製石斧2〔ホルンフェルス製、安山岩製〕、蛇紋岩製磨石1、安山岩製磨石1、雲母片岩製凹石1、チャート製剥片2)が出土している。縄文土器片の時期は、中期11点(阿玉台式1、加曾利E式5、不明5)である。1～3・5～10は床面から、4はP12の覆土下層から、それぞれ出土している。早期と後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式新段階期)と考えられる。



第 102 図 第 116 号堅穴建物跡出土遺物実測図

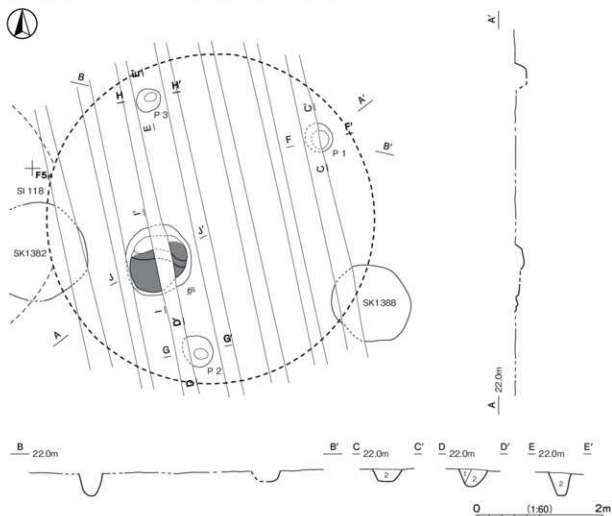
第40表 第116号竪穴建物跡出土遺物一覧(第102図)

番号	器 種	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	21.2	(6.6)	—	長石・石英	橙	普通	地文磨位・一部縦位 RL 単筋縄文 沈瀬による 箱尸形区画文	床面	20% PL29
2	縄文土器	深鉢	[22.0]	(14.5)	—	長石・石英	橙	普通	流状口縁 口縁部地文磨位 RL 単筋縄文 胴部 縦位 RL 単筋縄文 口縁部沈瀬の沿う隆帯によ る区画文 胴部磨消磨文	床面	10% PL29
3	縄文土器	甕	8.8	(5.3)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部磨位沈瀬文 地文縦位 RL 単筋縄文 胴 部土位に横位流状交絡	床面	20% PL29
4	縄文土器	深鉢	—	(13.4)	5.7	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 胴部磨消磨文	P 12 層上下層	30% PL29
5	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	5.8	長石・石英	橙	普通	縦位糸縄文	床面	10% PL29

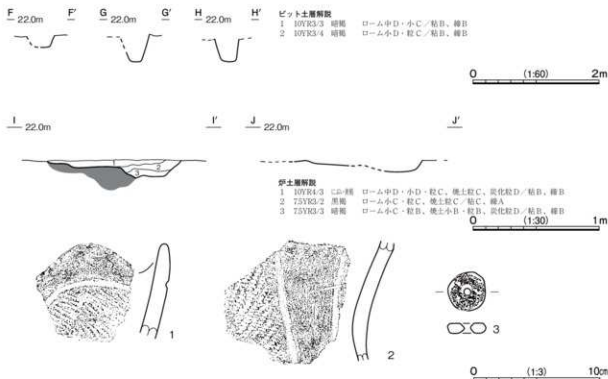
番号	器 種	長 さ	幅	厚 さ	重 量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
6	打製石斧	9.3	7.0	2.6	195.17	ホルンフェルス	刃縁からの両面削離調整 中央部敲打による挟り込み・潰れ 下縁方部内加工による挟り込み	床面	100% PL29
7	打製石斧	(7.4)	8.8	2.2	(201.35)	安山岩	刃縁からの両面削離調整 中央部挟 り込み 欠損	床面	60%
8	磨製石斧	3.8	1.8	1.0	11.06	蛇紋岩	定角式 全面研磨	床面	100% PL29
9	磨石	(7.0)	6.3	2.8	(102.12)	安山岩	全面研磨 欠損	床面	70%
10	門石	17.8	14.5	5.8	199.26	雲母片岩	表面に凹痕2か所	床面	100% PL29

第117号竪穴建物跡(第103・104図 第41表)

位置 調査区北東部のF5j4区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。



第103図 第117号竪穴建物跡実測図(1)



第104図 第117号竪穴建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第1382号土坑に掘り込まれている。第118号竪穴建物跡、第1388号土坑との関係は不明である。

規模と形状 削平のため、炉とビットのみを確認した。ビットの配置から、径5.20mの円形と推定される。

炉 中央部の南西寄りに位置している。長径114cm、短径106cmのほぼ円形の地床炉である。炉床南部は深さ5cmでほぼ平坦であるが、炉床北部は深さ13cmと一段深くなる。炉床面は、南部を中心に赤変硬化している。

ビット 3か所。P1～P3は、深さが20～36cmで、壁際に沿うように位置していることから、壁柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片39点（深鉢）、土製品1点（有孔円盤）が遺構構査中の覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期39点（加曽利E式33、不明6）である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。

第41表 第117号竪穴建物跡出土遺物一覧（第104図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	長石・石英	赤褐色	普通	地文模位 RL 単筋縄文 沈線による区画文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(9.2)	—	長石・石英	に灰・黄褐色	普通	地文模位 RL 単筋縄文 磨消型垂文	覆土	5%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
3	有孔円盤	3.1	3.1	0.8	7.09	長石・石英・雲母	陶灰	沈線文 表面より穿孔	覆土	100% PL30

第118号竪穴建物跡（第105図 第42表）

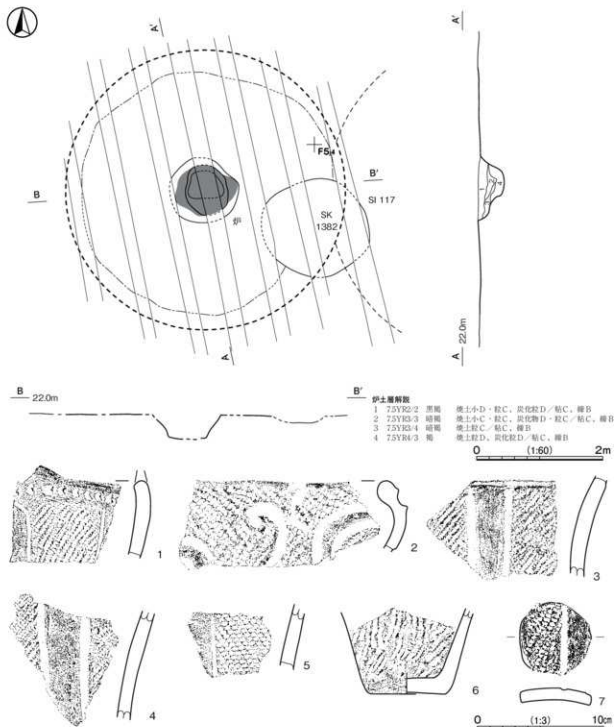
位置 調査区北東部のF5j3区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1382号土坑に掘り込まれている。第117号竪穴建物跡との関係は不明である。

規模と形状 削平のため、炉と床面のみを確認した。床面の範囲から、径4.45mの円形と推定される。

床 は平坦で、炉の周囲がわずかに硬化している。

炉 中央部に位置している。長径110cm、短径106cmのほぼ円形で、深さ36cmの地床炉である。壁は外傾している。炉床面及び壁の一部は、赤変硬化している。



第105図 第118号竪穴建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 184 点（深鉢）、土製品 1 点（土器片円盤）、石器 2 点（チャート製剥片）が遺構精査時の覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期 184 点（加曾利 E 式 150、不明 34）である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E Ⅲ式新段階期）と考えられる。

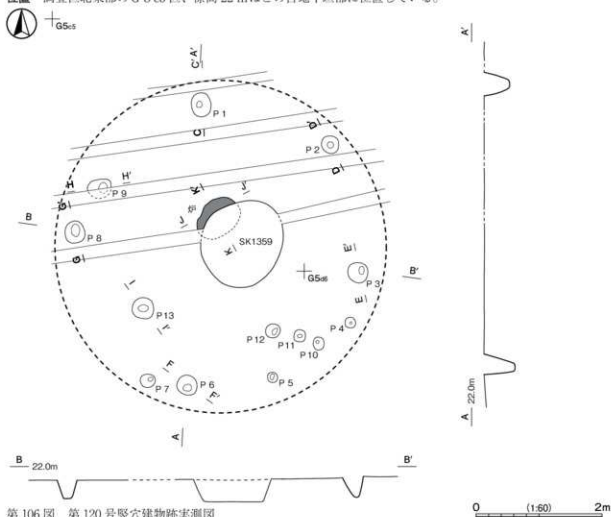
第 42 表 第 118 号竪穴建物跡出土物一覧（第 105 図）

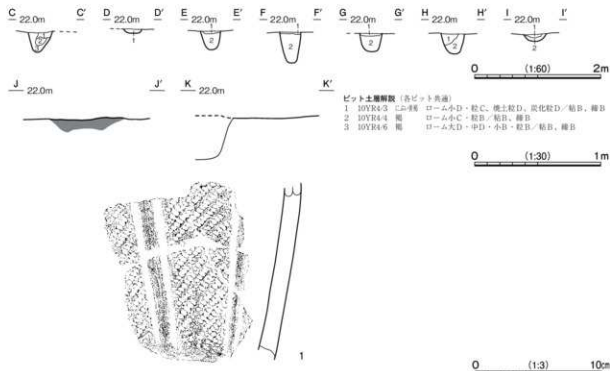
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位 RL 単節縄文 沈殿による区画文 口縁部直下平軌片貫による刺突文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位 RL 単節縄文 沈殿による縦い渦巻文 磨消沈縄文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(7.6)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(8.4)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位 RL R 複節縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	6.0	長石・石英	橙	普通	縦位 R 無節縄文	覆土	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
7	土器片 円盤	5.8	5.7	1.6	35.48	長石・石英	橙	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土	100% PL30

第 120 号竪穴建物跡（第 106・107 図 第 43 表）

位置 調査区北東部の G 5 c5 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。





第107図 第120号竪穴建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第1359号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 削平のため、炉とピットのみを確認した。ピットの配置から、径5.24mの円形と推定される。

炉 中央部に位置している。削平及び第1359号土坑に掘り込まれているため、赤変硬化した炉床面を確認した。長径74cm、短径56cmの楕円形で、形状からと地床炉と推定される。

ピット 13か所。P1～P9は、深さが6～48cmで、壁際に沿うように位置していることから、壁柱穴と考えられる。P10～P13は、深さ5～12cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）が遺構精査時の覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期4点（加曽利E式1、不明3）である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。

第43表 第120号竪穴建物跡出土遺物一覧（第107図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(13.9)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位RL, 卑部縄文, 磨消懸垂文	覆土	5%

第121号竪穴建物跡（第108～110図 第44表 PL11）

位置 調査区北東部のG4a0区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1371号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径4.56mの円形である。壁は高さ14cmで、外傾している。

床 平坦である。

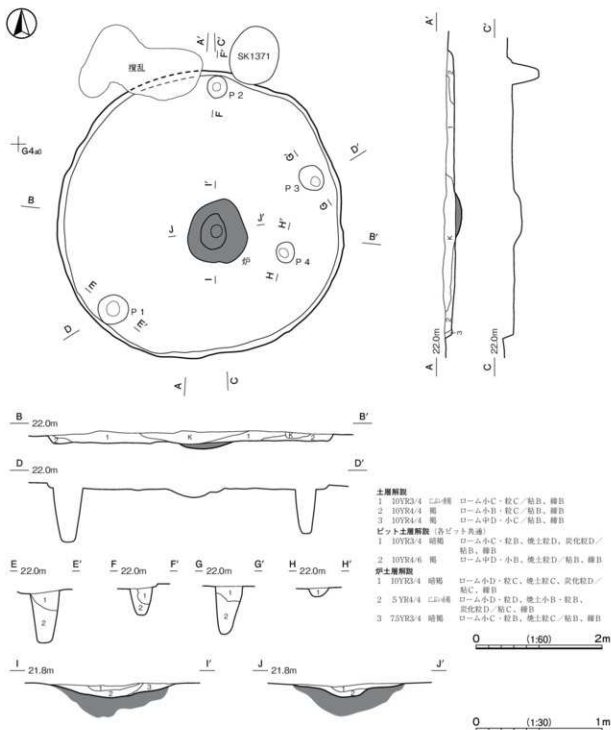
炉 中央部の南東寄りに位置している。長径100cm、短径94cmのほぼ円形で、深さ11cmの地床炉である。断面は皿状を呈し、炉床面は赤変硬化している。

ピット 4か所。P1～P3は、深さ42～86cmで、規模と配列から、主柱穴と考えられる。P4は、深さ14cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

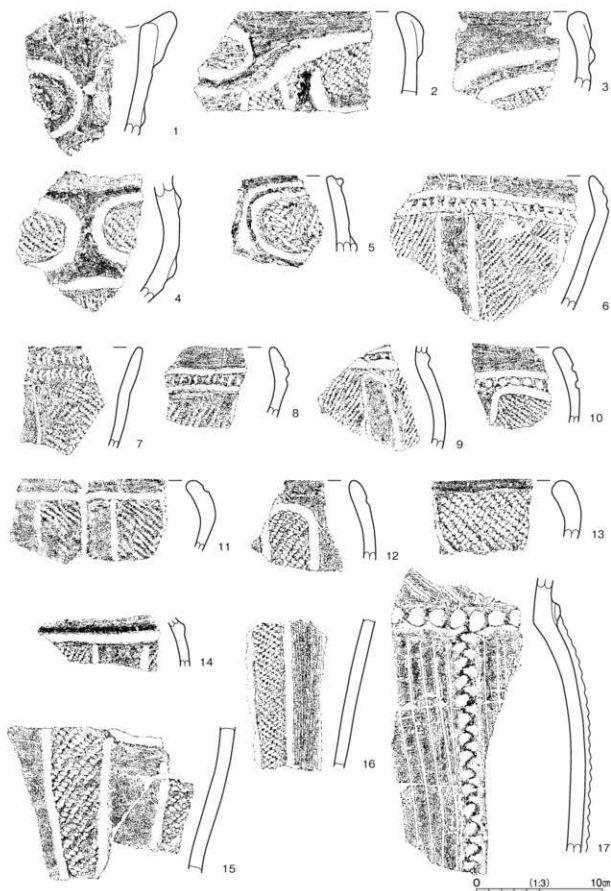
覆土 3層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 覆土から、縄文土器片319点(深鉢)、石器2点(安山岩製磨石、チャート製剥片)が出土している。縄文土器片の時期は、中期317点(阿玉台式1、加曾利E式273、曾利式2、不明41)、不明2点である。1～18は、いずれも覆土から出土している。

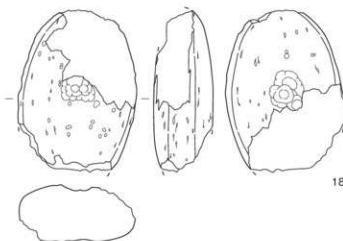
所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式古段階期)と考えられる。



第108図 第121号竪穴建物跡実測図



第109图 第121号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



18

0 (1:3) 10cm

第110図 第121号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第44表 第121号竪穴建物跡出土遺物一覧(第119・110図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(9.7)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口唇部小突起 地文縦位LR単筋縄文 沈瀬の沿う隆帯による区画文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(6.6)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部地文縦位RL単筋縄文 胴部地文縦位RL単筋縄文 沈瀬の沿う隆帯による区画文	覆土	5% PL30
3	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文横位RL単筋縄文 沈瀬の沿う隆帯文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(10.0)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	地文横位RL単筋縄文 沈瀬の沿う隆帯による区画文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位・横位附加条2條縄文 沈瀬の沿う隆帯による区画文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	-	(10.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位RL単筋縄文 口唇部直下2条1單位の爪形文 磨消懸垂文	覆土	5%
7	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位・横位RL単筋縄文 口唇部直下2段の爪形文 磨消懸垂文	覆土	5%
8	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位RL単筋縄文 口唇部直下2条1單位の爪形文に爪形文	覆土	5%
9	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位RL単筋縄文 2本一組の沈瀬文に爪形文	覆土	5%
10	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位LR単筋縄文 口唇部直下沈瀬文下に内形切突文 沈瀬による区画文	覆土	5%
11	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位LR単筋縄文 口唇部直下沈瀬文 磨消懸垂文	覆土	5%
12	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英	明褐色	普通	地文縦位RL単筋縄文 沈瀬による逆J字状文	覆土	5%
13	縄文土器	深鉢	-	(4.6)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文横位RL単筋縄文 沈瀬文	覆土	5%
14	縄文土器	深鉢	-	(3.8)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位LR単筋縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
15	縄文土器	深鉢	-	(11.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位RL単筋縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
16	縄文土器	深鉢	-	(11.6)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位LR単筋縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
17	縄文土器	深鉢	-	(21.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文赤褐色 胴部押圧文を有する隆帯文 胴部交互押圧文のある隆帯文	覆土	5% PL30

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
18	磨石	(12.8)	9.4	4.7	(500.8)	安山岩	全面研磨 表裏面中央部凹痕 上下両端部欠損	覆土	70% PL30

第122号竪穴建物跡(第111・112図 第45表 PL12)

位置 調査区北東部のF64区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東側が調査区域外のため、確認できた規模は、長径4.26m、短径3.14mである。平面形は不整形円形と推定される。主軸方向は、平面形と炉の位置から、N-78°-Eである。壁は高さ14cmで、外傾している。

床 平坦である。

炉 中央部の北西寄りに位置している。長径142cm、短径88cmの楕円形で、深さ10cmの地床炉である。断面

は皿状を呈し、炉床面は赤変硬化している。

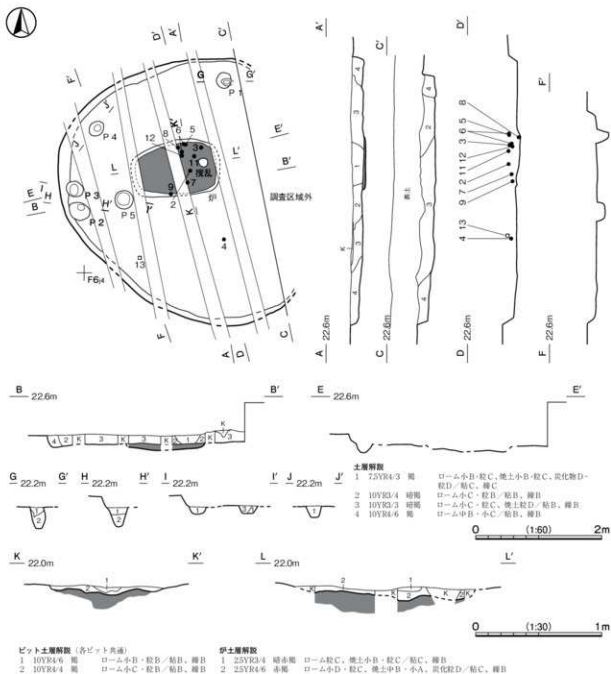
ピット 5か所。P1～P4は、深さ12～34cmで、壁際に沿って位置していることから、壁柱穴と考えられる。

P5は、深さ12cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

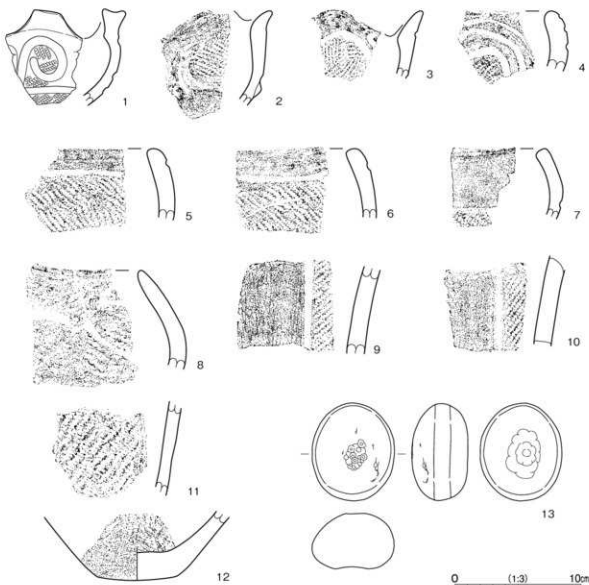
覆土 4層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片141点（深鉢140、ミニチュア1）、石器3点（安山岩製磨石、チャート製石鏃、チャート製剥片）が出土している。縄文土器片の時期は、中期141点（阿玉台式2、加曾利E式133、不明6）である。2～7・9・11～13は覆土上層から、8は炉床面から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式新段階期）と考えられる。



第111図 第122号堅穴建物跡実測図



第 112 図 第 122 号竪穴建物跡出土遺物実測図

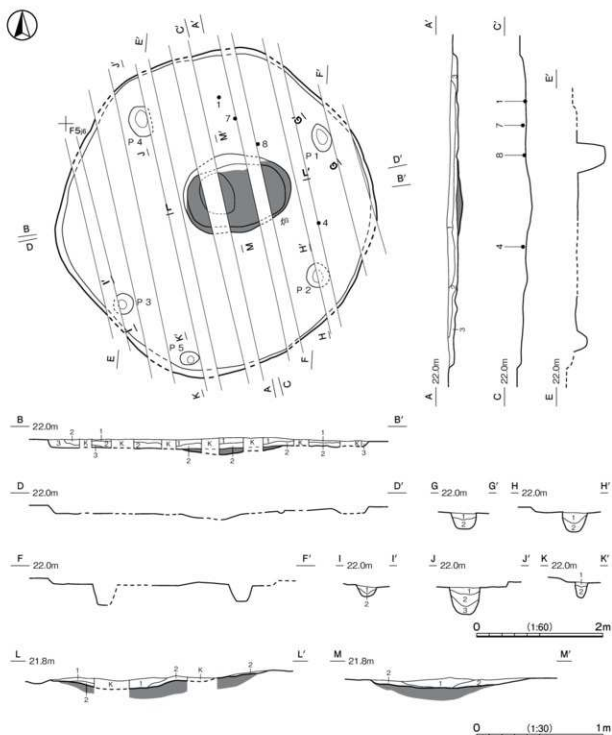
第 45 表 第 122 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 112 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(7.6)	-	長石・石英	橙	普通	流状口縁 底肩部歪状突起 地文横位・縦位 RL 単筋縄文 沈澱による縦い高条文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英	橙	普通	地文横位 RL 単筋縄文 沈澱の沿う隆帯による区画文	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	流状口縁 地文横位・縦位 LR 単筋縄文 沈澱による区画文	覆土上層	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	長石・石英	橙	普通	地文横位 LR 単筋縄文 3条1単位の磨消流状文	覆土下層	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文横位 RL 単筋縄文 口唇部に沿う沈線文	覆土上層	5%
6	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文横位 RL 単筋縄文 口唇部に沿う沈線文	覆土上層	5%
7	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英	明橙	普通	地文横位 RL 単筋縄文 口唇部に沿う沈線文	覆土上層	5%
8	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横位し無筋縄文 胴部縦位し無筋縄文	炉床面	5%
9	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土上層	5%
10	縄文土器	深鉢	-	(7.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土上層	5%
11	縄文土器	深鉢	-	(6.9)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文	覆土上層	5%
12	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	6.2	長石・石英	にぶい黄橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文	覆土上層	5%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
13	磨石	7.7	6.5	4.4	296.68	安山岩	全面研磨 表裏面中央部凹痕	覆土上層	100% PL30

第123号竪穴建物跡 (第113・114図 第46表 PL12)

位置 調査区北東部のF5j6区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。



第113図 第123号竪穴建物跡実測図

土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム小D・粒C、焼土粒C／粘B、雜B
 2 10YR3/3 暗褐色 ローム粒C、焼土粒C／粘B、雜B
 3 10YR4/6 褐色 ローム小A・粒A／粘B、雜B

炉土層解説

- 1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C、焼土小C・粒C／粘B、雜B
 2 5YR4/6 赤褐色 ローム粒D、焼土小B・粒A／粘B、雜B

ビット土層解説（各ビット共通）

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒B／粘B、雜B
 2 10YR3/4 暗褐色 ローム小B・粒B／粘B、雜B
 3 10YR4/4 褐色 ローム中B・小B／粘B、雜B

規模と形状 長径5.08m、短径4.98mの円形である。主軸方向は、平面形と炉の位置からN-76°-Eである。壁は高さ12cmで、外傾している。

床 平坦で、炉の周囲がわずかに硬化している。

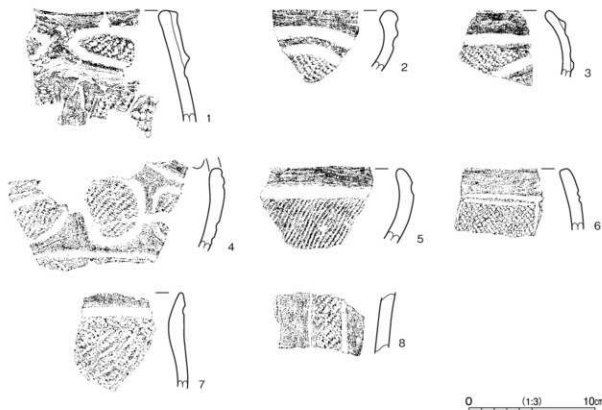
炉 中央部に位置している。長径172cm、短径127cmの楕円形で、深さ10cmの地床炉である。断面は皿状を呈し、炉床面は赤変硬化している。

ビット 5か所。P1～P4は、深さ16～42cmで、炉を中心に四角形に配列していることから、支柱穴と考えられる。P5は、深さ26cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 覆土から、縄文土器片143点（深鉢）、石器2点（チャート製剥片）が出土している。縄文土器片の時期は、中期142点（阿玉台式2、加曾利E式124、不明16）、時期不明1点である。1・4・7・8は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式新段階期）と考えられる。



第114図 第123号堅穴建物跡出土遺物実測図

第46表 第123号竪穴建物跡出土遺物一覧(第114図)

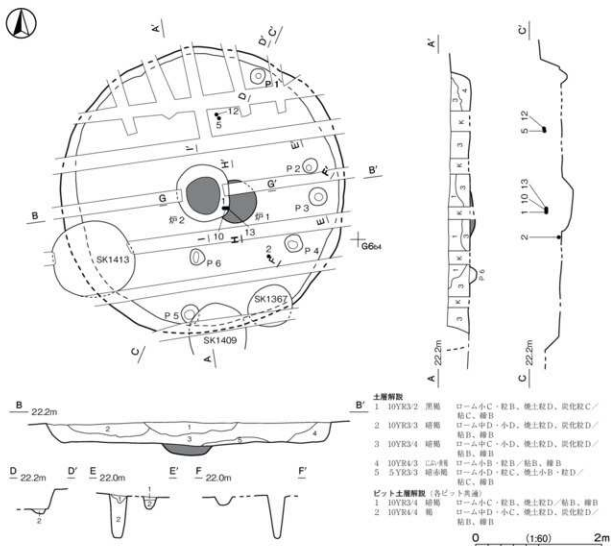
番号	種別	器種	口徑	器高	底徑	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(88)	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	地文横位 L 京 卑胎縄文 口縁部隆帯による区画文 胴部磨消垂文	覆土下層	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	長石・石英	明褐色	普通	地文横位 京 卑胎縄文 沈線に沿う隆帯による区画文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(53)	-	長石・石英	橙	普通	地文横位 京 卑胎縄文 沈線による区画文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	変状口縁 口縁部地文横位 京 卑胎縄文 沈線による箱門形区画文	覆土下層	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(59)	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	地文横位 京 卑胎縄文 口唇部に沿う沈線文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	長石・石英	橙	普通	地文横位 京 卑胎縄文 口唇部に沿う沈線文	覆土	5%
7	縄文土器	深鉢	-	(76)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部地文横位 京 卑胎縄文 胴部地文横位 京 卑胎縄文 口唇部に沿う沈線文	覆土下層	5%
8	縄文土器	深鉢	-	(43)	-	長石・石英	灰褐色	普通	胴部横位 京 卑胎縄文 磨消垂文	覆土下層	5%

第124号竪穴建物跡(第115～117図 第47表 PL12)

位置 調査区北東部の G 6 a3 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1367・1413号土坑に掘り込まれている。第1409号土坑との関係は不明である。

規模と形状 径 4.50 m の円形である。壁は高さ 32 cm で、外傾している。



第115図 第124号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、炉の周囲がわずかに硬化している。

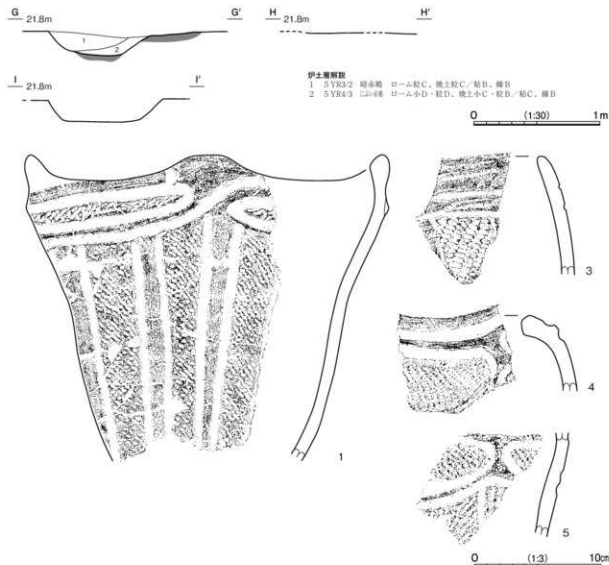
炉 2か所。炉1は、中央部東寄りに位置している。確認できた規模は、長径68cm、短径43cmで、ほぼ円形と推定され、床面と同じ高さの地床炉である。炉床面は、赤変硬化している。炉2は、中央部に位置している。長径90cm、短径81cmの楕円形で、深さ18cmの皿状を呈する地床炉である。炉床面は、赤変硬化している。炉1は炉2に掘り込まれている。

ピット 6か所。P1～P5は、深さ12～66cmで、壁際に沿って位置していることから、壁柱穴と考えられる。P6は、深さ10cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

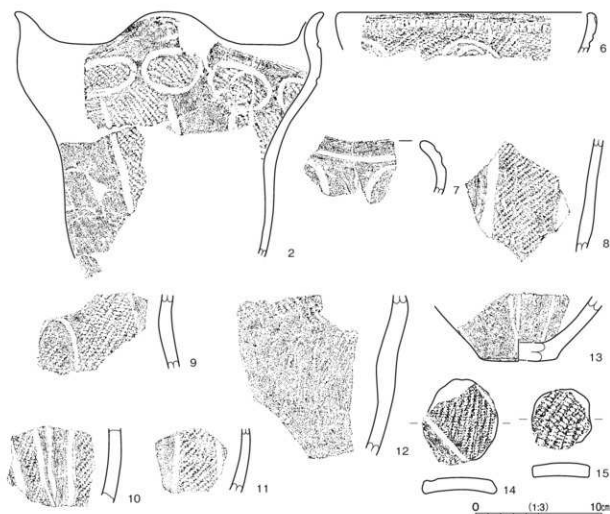
覆土 5層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片358点（深鉢357、壺1）、石器4点（チャート製剥片3、黒曜石剥片1）、土製品2点（土器片円盤）が出土している。縄文土器片の時期は、早期1点（条痕文系）、中期355点（阿玉台式7、加曽利E式305、不明43）、後期2点である。1・10・13は中央部、2は南東部、12は北部の覆土下層から、それぞれ出土している。早期と後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利EⅢ式新段階期）と考えられる。



第116図 第124号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第117図 第124号堅穴建物跡出土遺物実測図

第47表 第124号堅穴建物跡出土遺物一覧(第116・117図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[28.0]	[24.2]	-	長石・石英	明期	普通	流状口縁 L線部地文横位し無銘縄文 沈線の沿う隆帯による区画文 胴部地文縦位し無銘縄文 磨消懸垂文	覆土上層	25% P1.30
2	縄文土器	深鉢	[24.0]	[19.4]	-	長石・石英	にぶい黄黒	普通	地文縦位 L&R 単筋縄文 口縁部沈線による横円形区画文 胴部磨消懸垂文	覆土下層	10%
3	縄文土器	深鉢	-	[9.4]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	L線部2本一組の横位沈線文 胴部地文縦位 RL 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	-	[6.0]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 沈線の沿う隆帯による区画文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	-	[8.2]	-	長石・石英	にぶい黄黒	普通	口縁部地文横位 RL 単筋縄文 沈線による横円形区画文 胴部地文縦位 RL 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土上層	5%
6	縄文土器	深鉢	[20.0]	[3.2]	-	長石・石英	にぶい黄黒	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 口唇部直下連続斜突文 L線部横位磨消流状文	覆土	5%
7	縄文土器	壺	-	[4.3]	-	長石・石英	橙	普通	口唇部に沿う沈線文 沈線による区画文	覆土	5%
8	縄文土器	深鉢	-	[8.5]	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文	覆土	5%
9	縄文土器	深鉢	-	[5.6]	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
10	縄文土器	深鉢	-	[5.9]	-	長石・石英	明赤褐	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 3本一組磨消懸垂文	覆土上層	5%
11	縄文土器	深鉢	-	[5.0]	-	長石・石英	明赤褐	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
12	縄文土器	深鉢	-	[12.6]	-	長石・石英	橙	普通	胴部上位横位 RL 単筋縄文 胴部縦位 RL 単筋縄文	覆土上層	5%
13	縄文土器	深鉢	-	[4.4]	[6.0]	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土上層	5%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
14	土器片 円盤	6.8	6.0	1.0	4655	長石・石美	にぶい地	地文RL単筋縄文 磨消懸垂文	覆土	90% PL30
15	土器片 円盤	4.8	4.7	1.0	2736	長石・石美	澄	LR単筋縄文	覆土	100% PL30

第 125 号竪穴建物跡 (第 118・119 図 第 48 表)

位置 調査区北東部の F 5 g7 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 削平のため、炉と床面のみを確認した。床面の範囲から径 4.60 m の円形と推定される。

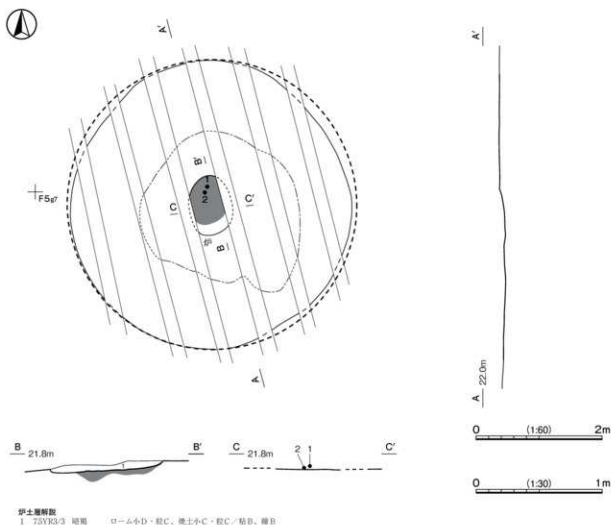
床 はほぼ平坦で、炉の周囲が硬化している。

炉 中央部に位置している。攪乱のため、長径 94cm、短径 70cm の楕円形と推定され、深さ 7 cm の地床炉である。

断面は皿状を呈し、炉床面は赤変硬化している。

遺物出土状況 縄文土器片 11 点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期 11 点(加曾利 E 式 9、不明 2)である。1・2 は炉床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利 E Ⅲ式期)と考えられる。



第 118 図 第 125 号竪穴建物跡実測図



第119図 第125号竪穴建物跡出土遺物実測図

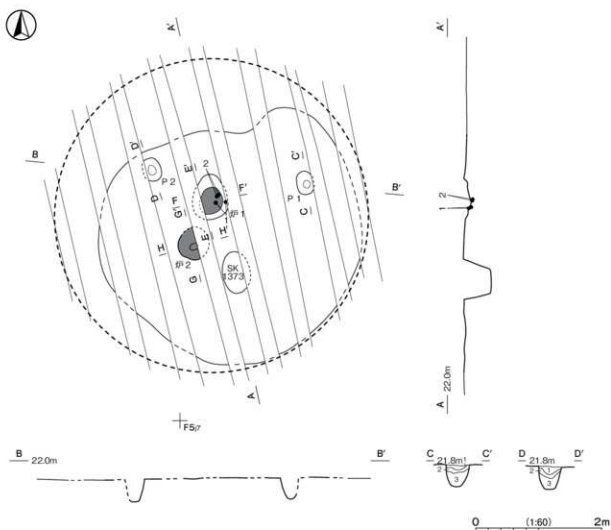
第48表 第125号竪穴建物跡出土遺物一覧（第119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(28)	-	長石・石英	橙	普通	花綱による区画文	炉床面	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(38)	-	長石・石英	黄橙	普通	横位 RL 単節縄文	炉床面	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(23)	-	長石・石英	黄橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消整垂文	炉床土	5%

第126号竪穴建物跡（第120・121図 第49表）

位置 調査区北東部のF5i6区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1373号土坑との関係は不明である。



第120図 第126号竪穴建物跡実測図

規模と形状 削平のため、炉とピットと床面のみを確認した。径4.98mで、円形と推定される。主軸方向は、炉の位置から、N-26°-Eである。

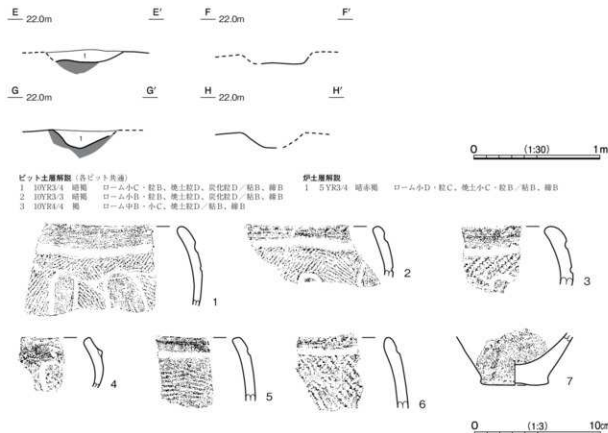
床 平坦で、硬化していない。

炉 2か所。炉1は、中央部の北寄りに位置している。長径70cm、短径56cmの楕円形と推定され、深さ10cmの地床炉である。断面は皿状で、炉床面は赤変硬化している。炉2は、中央部南寄りに位置している。長径52cm、短径48cmのは円形と推定され、深さ12cmの地床炉である。断面は皿状で、炉床面は赤変硬化している。

ピット 2か所。P1・P2は、深さ34・36cmで、主軸方向に直交する位置に対峙していることから主柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片24点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期3点（不明）、中期後葉～後期初頭21点（加曾利EⅣ～称名寺Ⅰ式）である。1・2は、炉1の炉床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期末葉～後期初頭（加曾利EⅣ～称名寺Ⅰ式期）と考えられる。



第121図 第126号竪穴建物跡・出土遺物実測図

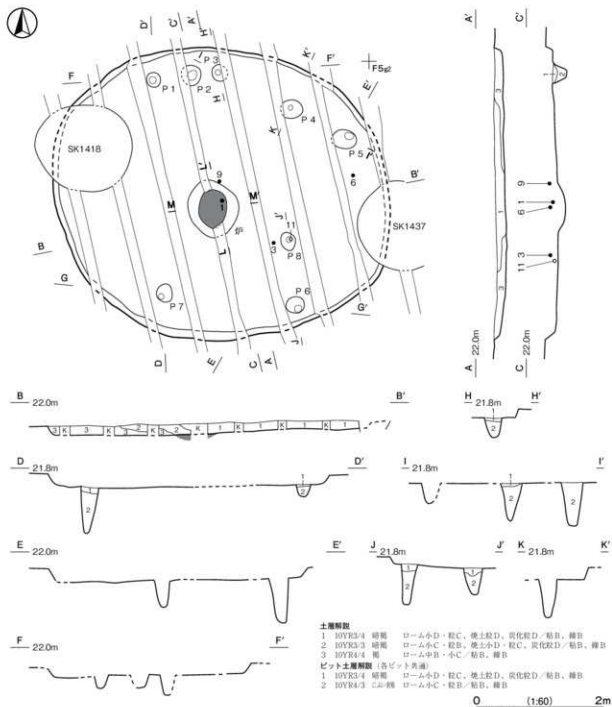
第49表 第126号竪穴建物跡出土遺物一覧（第121図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英	赤褐色	普通	口唇部直下沈殿文・胎土に黄文・胎土に黄文	炉1炉床面	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英	赤褐色	普通	口唇部直下沈殿文・胎土に黄文・胎土に黄文	炉1炉床面	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石・石英	橙	普通	口唇部直下沈殿文・胎土に黄文・胎土に黄文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英	橙	普通	口唇部直下沈殿文・胎土に黄文・胎土に黄文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英	に黄褐色	普通	口唇部直下沈殿文・胎土に黄文・胎土に黄文	覆土	5%

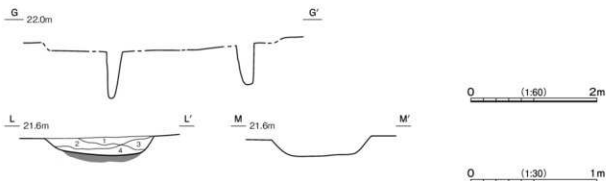
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
6	縄文土器	深鉢	-	(56)	-	長石・石英	橙	普通	口唇直下沈線文 横位RL 半筋縄文	覆土	5%
7	縄文土器	深鉢	-	(38)	(53)	長石・石英	に高い黄緑	普通	無文	覆土	5%

第127号竪穴建物跡 (第122・123図 第50表 PL12)

位置 調査区北東部のF5g1区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

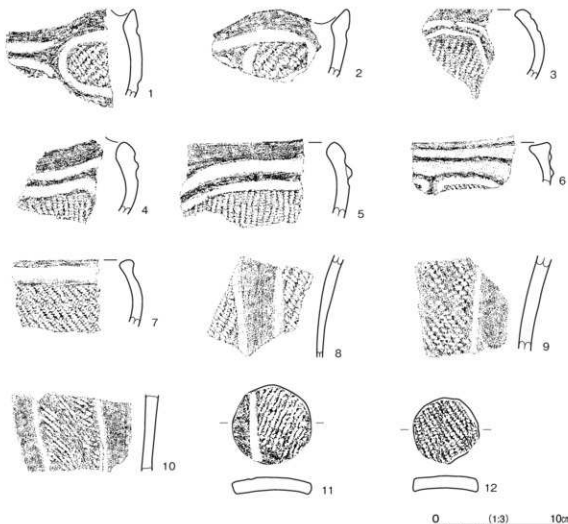


第122図 第127号竪穴建物跡実測図



伊土層解説

- | | |
|--------------|-----------------------------|
| 1 10YR4/3 褐色 | ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘土、雜土 |
| 2 10YR4/4 暗 | ローム小D・小C、粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘土、雜土 |
| 3 10YR4/4 暗黒 | ローム小B・粒C、焼土小D・粒D、炭化粒D/粘土、雜土 |
| 4 5YR4/6 赤黒 | ローム小C・粒C、焼土小B・粒C、炭化粒D/粘土、雜土 |



第123図 第127号竪穴建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第1418・1437号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径5.34m、短径4.64mの楕円形である。壁は高さ8～22cmで、外傾している。主軸方向は、平面形と炉の位置から、N-78°-Wである。

床 平坦で、硬化していない。

炉 中央部の南寄りに位置している。長径90cm、短径80cmの楕円形で、深さ15cmの地床炉である。断面は皿状で、炉床面は赤変硬化している。

ピット 8か所。P1～P7は、深さ22～73cmで、壁際に沿って位置することから壁柱穴と考えられる。P8は、深さ44cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片249点（深鉢）、土製品2点（土器片円盤）が出土している。縄文土器片の時期は、中期249点（阿玉台式1、加曾利E式235、不明13）である。1・3・6・9は覆土上層から、11は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式新段階期）と考えられる。

第50表 第127号竪穴建物跡出土遺物一覧（第123図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	長石・石英	橙	普通	小波状口縁、地文横位LR半節縄文、口縁部沈線による横四角区画文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	長石・石英	橙	普通	小波状口縁、地文横位LR半節縄文、口縁部沈線による縦い条垂文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	地文斜位RL半節縄文、口縁部2本一組の沈線による区画文	覆土上層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	小波状口縁、地文斜位RL半節縄文、口縁部沈線に沿う隆帯文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	橙	普通	地文斜位RL半節縄文、口縁部沈線に沿う隆帯文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位LR半節縄文、口縁部微隆帯文	覆土上層	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位RL半節縄文、口縁部沈線に沿う隆帯文	覆土	5%
8	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	長石・石英	橙	普通	地文横位LR半節縄文、磨消懸垂文	覆土	5%
9	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	地文縦位LRL後節縄文、磨消懸垂文	覆土上層	5%
10	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	長石・石英	橙	普通	地文L無節縄文、磨消沈線文	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
11	土器片円盤	6.3	6.3	1.3	46.47	長石・石英	にぶい橙	地文R無節縄文、磨消懸垂文	覆土下層	100% PL30
12	土器片円盤	5.2	5.2	1.2	(29.35)	長石・石英	橙	LR半節縄文	覆土	90% PL30

第128号竪穴建物跡（第124・125図 第51表）

位置 調査区北東部のF6bl区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1431号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径4.42m、短径4.14mの不整形円形である。壁は高さ10～18cmで、外傾している。主軸方向は、平面形と炉の位置から、N-28°-Eである。

床 平坦で、硬化していない。

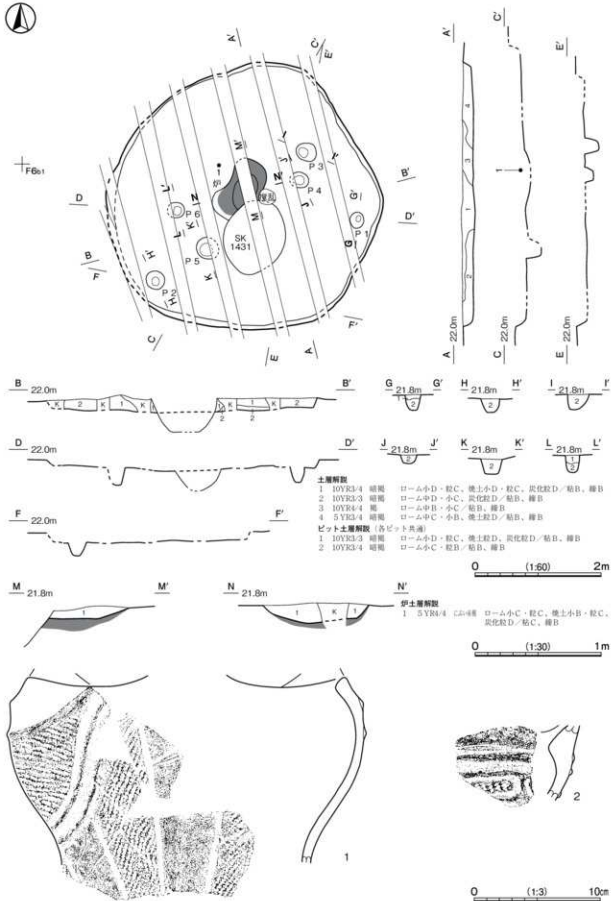
炉 中央部に位置している。長径102cm、短径70cmの不整楕円形と推定され、深さ15cmの地床炉である。断面は皿状で、炉床面は赤変硬化している。

ピット 6か所。P1・P2は、深さ22cmで、壁際に沿って位置することから壁柱穴と考えられる。P3～P6は、深さ12～28cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

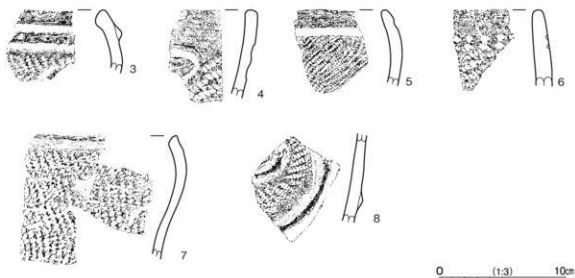
覆土 4層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片112点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期112点（加曾利E式98、不明14）である。1は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式新段階期）と考えられる。



第 124 図 第 128 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第125図 第128号竪穴建物跡出土遺物実測図

第51表 第128号竪穴建物跡出土遺物一覧（第124・125図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	〔250〕	〔147〕	—	長石・石英	橙	普通	3単位波状口縁 地文横位・縦位 RL, 単筋縄文口縁部之本一組の微隆帯による波状文 胴部磨面整平文	覆土上層	15% PL30
2	縄文土器	深鉢	—	〔59〕	—	長石・石英	橙	普通	小波状口縁 地文横位 RL, 単筋縄文 微隆帯による区画文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	〔50〕	—	長石・石英	橙	普通	地文横位 RL, 単筋縄文、口唇部直下隆帯文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	〔70〕	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL, 単筋縄文 沈線による区画文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	—	〔60〕	—	長石・石英	黄橙	普通	地文縦位 RL, 単筋縄文 口唇部直下沈線文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	〔60〕	—	長石・石英	にぶい黄	普通	地文縦位 RL, 単筋縄文 口唇部直下直紋片簪による刻文	覆土	5%
7	縄文土器	深鉢	—	〔98〕	—	長石・石英	橙	普通	横位 RL, 単筋縄文	覆土	5%
8	縄文土器	深鉢	—	〔69〕	—	長石・石英	にぶい黄	普通	微隆帯による渦巻文 RL, 単筋縄文を充填	覆土	5%

第131号竪穴建物跡（第126図 第52表）

位置 調査区北東部のF5b8区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1422号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 削平のため、炉とピットと床面の一部のみを確認した。径5.64mで、円形と推定される。

床 平坦で、炉の東側から南側で残存している。

炉 中央部に位置している。長径78cm、短径70cmの楕円形と推定され、床面を掘りくぼめない地床炉である。

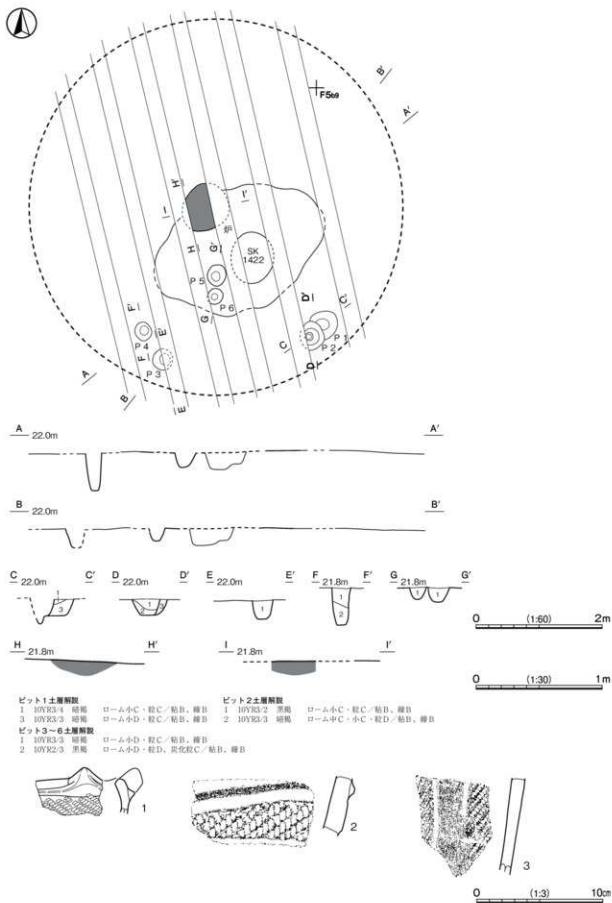
炉床面は、赤変硬化している。

ピット 6か所。P1～P3は、深さ30～42cmで、壁際に沿って位置していることから、壁柱穴と考えられる。

P4～P6は、深さ19～60cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片14点（深鉢）が主に遺構精査時の覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期14点（加曾利E式）である。1・2は炉の覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ～Ⅳ式期）と考えられる。



第126図 第131号竪穴建物跡・出土遺物実測図

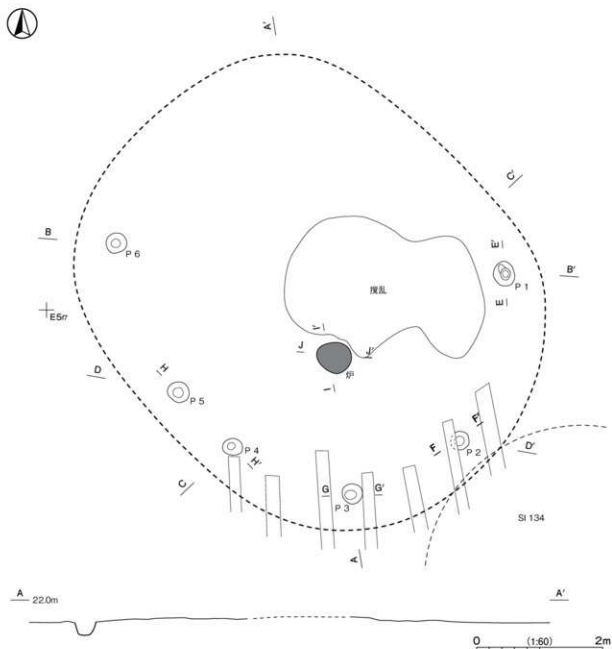
第52表 第131号竪穴建物跡出土遺物一覧（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(36)	-	長石・石英	明褐色	普通	口唇部小突起 口唇部直下隆帯文 縦位RL単節縄文	炉覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(45)	-	長石・石英	に高い黄褐色	普通	地文横位RL単節縄文 沈線の沿う隆帯文	炉覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(76)	-	長石・石英	褐色	普通	地文縦位RL単節縄文 磨消型垂文	覆土	5%

第132号竪穴建物跡（第127・128図 第53表）

位置 調査区北東部のE5e7区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第134号竪穴建物跡との関係は不明である。



第127図 第132号竪穴建物跡実測図

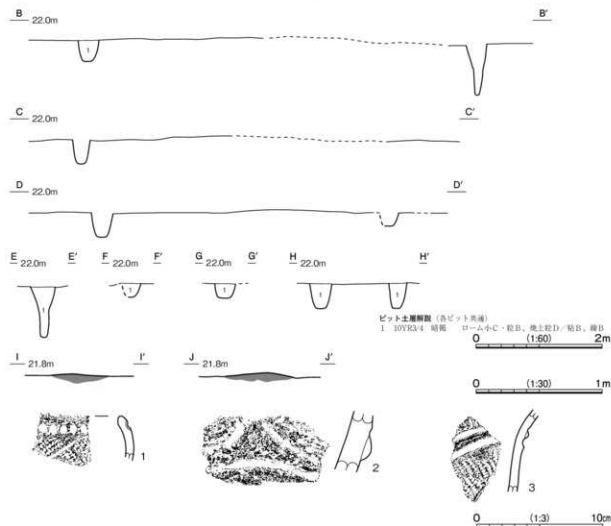
規模と形状 削平のため、炉とピットのみを確認した。ピットの配置から、長径 7.60 m、短径 6.20 で、楕円形と推定される。主軸方向は、平面形と炉の位置から、N - 40° - Wである。

炉 中央部の南寄りに位置している。長径 56cm、短径 48cmの楕円形で、赤変硬化した炉床面を確認した。形状から、地床炉と考えられる。

ピット 6か所。P 1～P 6は、深さ 20～78cmで、壁際の沿って位置していることから、壁柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片 30 点（深鉢）が遺構精査時の覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期 30 点（加曽利 E 式 23、不明 7）である。3 は P 5 の覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利 E Ⅲ式期）と考えられる。



第 128 図 第 132 号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第 53 表 第 132 号堅穴建物跡出土遺物一覧（第 128 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(3.5)	—	長石・石英	橙	普通	口部部直下沈殿文・内形利突文 横段 RL 単節	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	長石・石英	橙	普通	沈殿の沿う隆帯文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	橙	普通	沈殿の沿う隆帯文 内L 単節縄文	P 5 覆土	5%

第134号竪穴建物跡（第129・130図 第54表）

位置 調査区北東部のE5g8区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第132号竪穴建物跡、第1443・1468号土坑との関係は不明である。

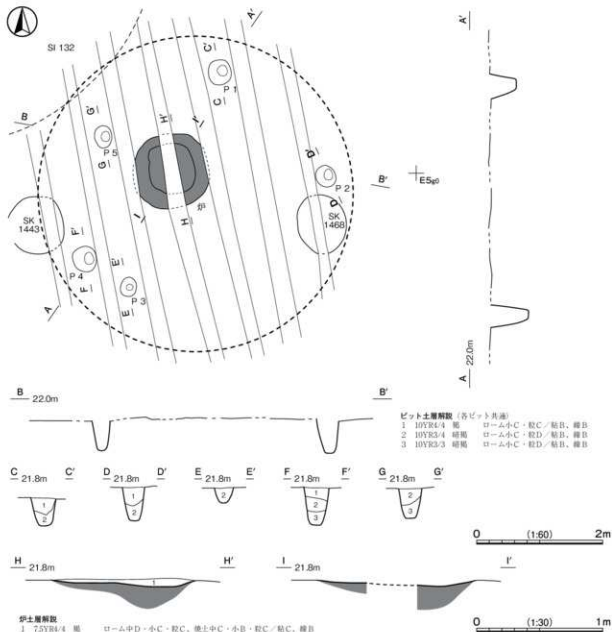
規模と形状 削平のため、炉とピットのみを確認した。ピットの配置から、径5.00mの円形と推定される。

炉 中央部の北西寄りに位置している。径124cmの円形で、深さ5cmの地床炉である。断面は皿状で、炉床面は赤変硬化している。

ピット 5か所。P1～P5は、深さ23～60cmで、壁際の沿って位置していることから、壁柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片16点（深鉢）が遺構精査時の覆土から出土している。縄文土器片の時期は、中期16点（加曽利E式12、不明4）である。3はP5覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利EⅢ式期）と考えられる。



第129図 第134号竪穴建物跡実測図



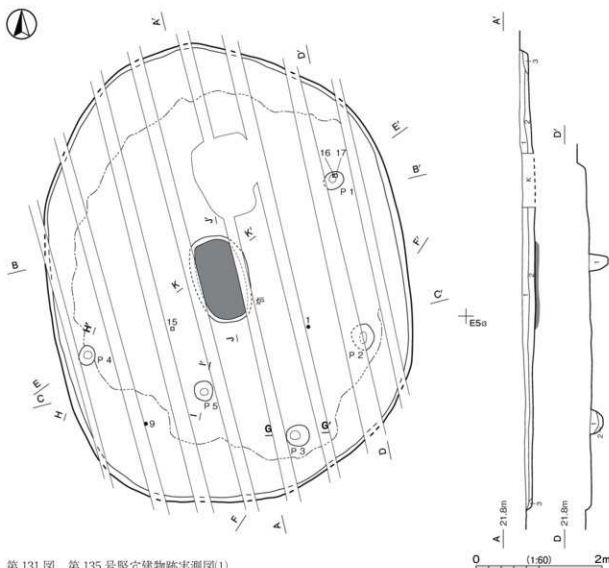
第 130 図 第 134 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 54 表 第 134 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 130 図)

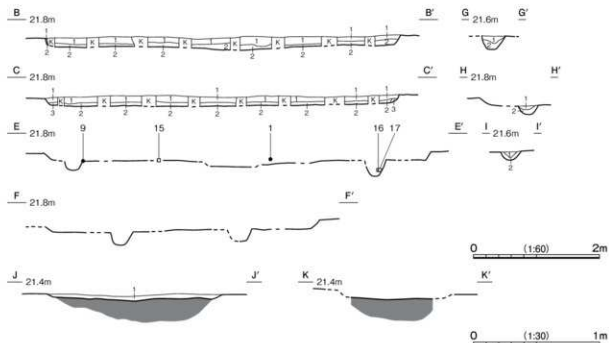
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	竇隆帯文 横位 RL 半筋縄文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(4.0)	-	長石・石英	橙	普通	縦位 RL 半筋縄文 磨消型点文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	条線文	P 5 覆土	5%

第 135 号竪穴建物跡 (第 131 ~ 134 図 第 55 表 PL12)

位置 調査区北東部の E 5 h1 区、標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 131 図 第 135 号竪穴建物跡実測図(1)



土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム中C・小C・粒D/粘B、層B
- 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C、焼土小D・粒D、炭化粒D/粘B、層B
- 3 10YR4/3 黒い砂 ローム小C・粒C/粘B、層B

伊土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム粒D、焼土小C/粘B、層B

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YR6/4 黄 ローム小C・粒D/粘B、層B
- 2 10YR4/3 黒い砂 ローム小D・粒D/粘B、層B

第132図 第135号竪穴建物跡実測図(2)

規模と形状 長径7.30m、短径5.68mの楕円形である。壁は高さ9～15cmで、外傾している。主軸方向は、平面形と炉の位置から、N-15°-Wである。

床 平坦で、壁際以外の全面にわたり硬化している。

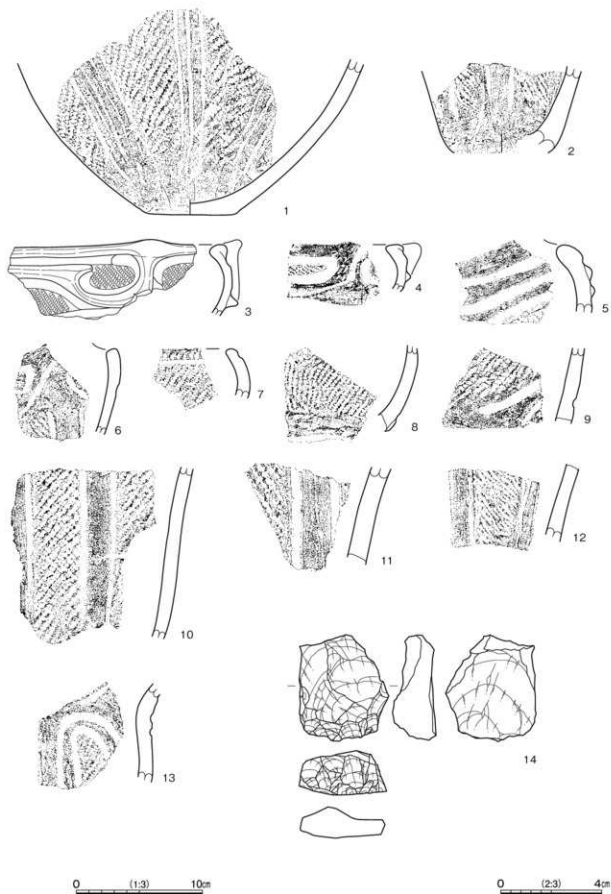
炉 中央部に位置している。長径140cm、短径90cmの楕円形で、深さ5cmの地床炉である。断面は皿状で、炉床面は赤変硬化している。

ピット 5か所。P1～P4は、深さ14～30cmで、壁際に沿って位置することから壁柱穴と考えられる。P5は、深さ12cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

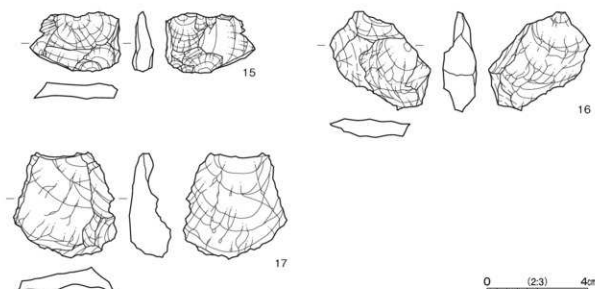
覆土 3層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片205点(深鉢)、石器6点(チャート製搔器1、チャート製楔形石器1、チャート製剥片4)が出土している。縄文土器片の時期は、中期205点(阿玉台式1、加曾利E式185、曾利式1、不明18)である。1は覆土上層から、9・15は床面から、16・17はP1覆土から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式古段階期)と考えられる。



第 133 图 第 135 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 134 図 第 135 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 55 表 第 135 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 133・134 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	地 成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	(124)	7.5	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土上層	15% PL30
2	縄文土器	深鉢	—	(64)	[7.4]	長石・石英	橙	普通	地文縦位 L 無節縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(60)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	地文横位 RL 単節縄文 沈線の沿う隆帯による軽い磨消文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(37)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文横位 RL 単節縄文 沈線の沿う隆帯による沈線文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(54)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	成状口縁 地文横位 RL 単節縄文 沈線の沿う隆帯文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(68)	—	長石・石英	明赤褐	普通	成状口縁 口縁部地文横位 RL 単節縄文 胴部地文縦位 RL 単節縄文 口縁部沈線による区画文 胴部磨消懸垂文	覆土	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(39)	—	長石・石英	明赤褐	普通	地文縦位 RL 単節縄文 口唇部直下平截竹管による刻染文・沈線文	覆土	5%
8	縄文土器	深鉢	—	(65)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	地文斜位・縦位 RL 単節縄文 沈線の沿う隆帯文	覆土	5%
9	縄文土器	深鉢	—	(59)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	地文縦位 RL 単節縄文 沈線文	床面	5%
10	縄文土器	深鉢	—	(134)	—	長石・石英	明黄褐	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
11	縄文土器	深鉢	—	(75)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	地文縦位 L RL 複節縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
12	縄文土器	深鉢	—	(57)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	地文縦位 L 無節縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
13	縄文土器	深鉢	—	(69)	—	長石・石英	明赤褐	普通	地文縦位 RL 単節縄文 胴下半部沈線による 2 本一組の並行字状区画文	覆土	5%

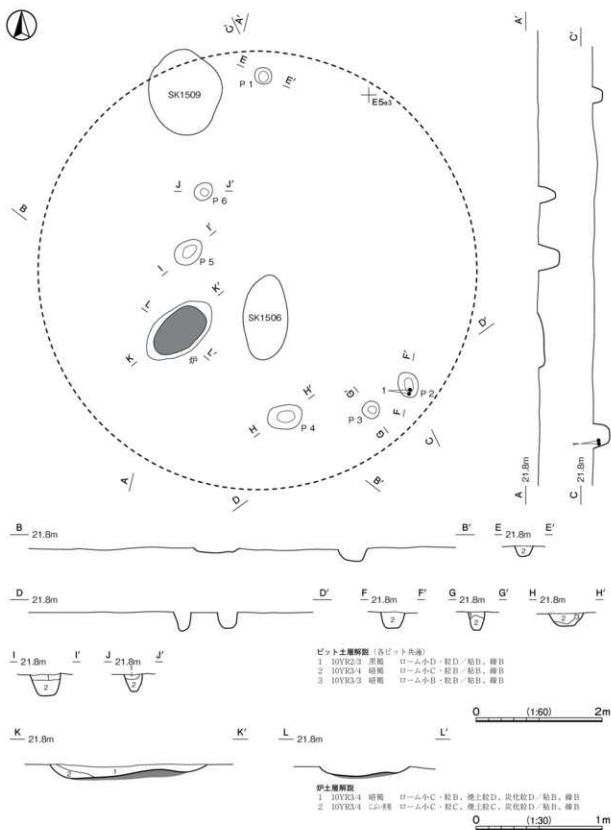
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
14	埴器	4.2	3.6	1.8	27.85	チャート	素材縦長割片 刃部背面側から透視した刃磨調整	覆土	100%
15	楔形石器	2.3	3.6	0.8	7.29	チャート	素材縦長割片 両端打法による上下で対向する刃磨	床面	100%
16	割片	3.9	4.0	1.3	15.64	チャート	縦長割片	P 1 覆土	100%
17	割片	4.2	4.1	1.6	17.16	チャート	縦長割片	P 1 覆土	100%

第 136 号竪穴建物跡 (第 135・136 図 第 56 表)

位置 調査区北東部の E 5 e2 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1506・1509 号土坑との関係は不明である。

規模と形状 削平のため、炉とピットと床面の一部のみを確認した。ピットの配置から、径 6.96 m の円形と推定される。



第135図 第136号竪穴建物跡実測図

炉 中央部の南西寄りに位置している。長径 126cm、短径 70cmの楕円形で、深さ 10cmの地床炉である。断面は皿状で、炉床面は赤変硬化している。

ピット 6か所。P 1～P 4は、深さ 16～28cmで、壁際の沿って位置していることから、壁柱穴と考えられる。P 5・P 6は、深さ 32・26cmで、性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片 7点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 7点（加曽利 E 式 3、不明 4）である。1 は P 2 の覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利 E II 式期）と考えられる。



第 136 図 第 136 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第 56 表 第 136 号堅穴建物跡出土遺物一覧（第 136 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	4.6	長石・石英	にぶい橙	普通	地文編位別, 卑跡縄文, 磨消懸垂文	P 2 覆土	15%

第 138 号堅穴建物跡（第 137・138 図 第 57 表 PL13）

位置 令和 5 年度調査区北部の G 7j6 区、標高約 22 m の台地縁辺の緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1528 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区外に延びているため、確認できた規模は南北径 5.23 m、東西径 2.53 m である。平面形は楕円形と推定され、主軸方向は平面形と炉の位置から N - 28° - E である。壁は高さ 16～30cm で、外傾している。

床 は平坦で、硬化していない。

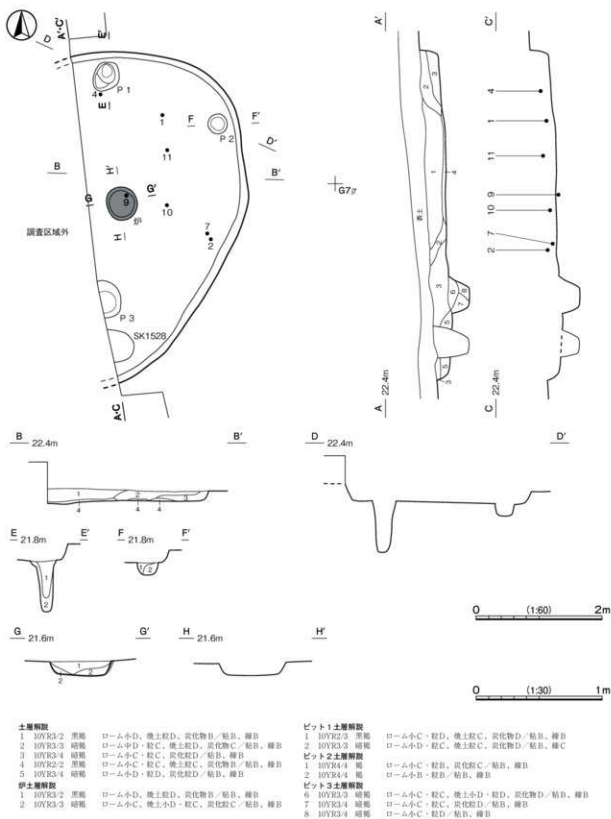
炉 中央部に位置している。長径 54cm、短径 50cm で、平面形は円形である。深さ 16cm で、鍋底状を呈する。底面と壁面はわずかに赤変硬化している。

ピット 3か所。P 1・3は、深さ 80・34cm で、規模や配置から主柱穴と考えられる。P 2 の性格は不明である。覆土は周囲からの流入土である。

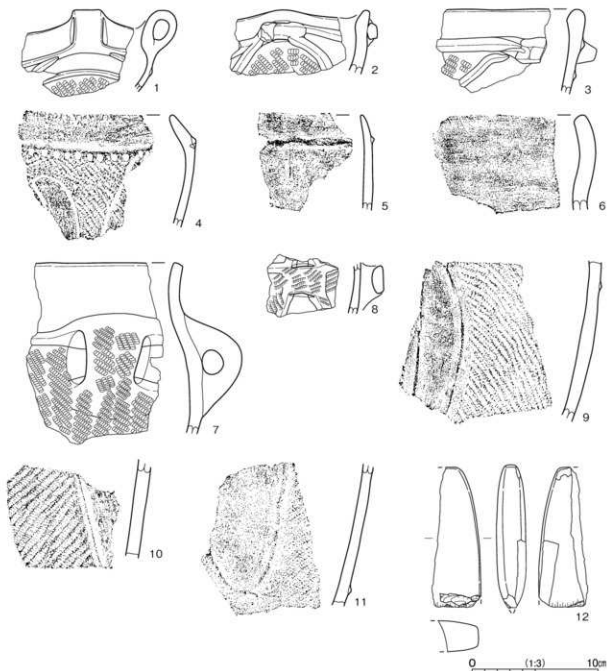
覆土 5層に分層できる。ロームブロックや炭化物を含み、不自然な堆積状況であることから人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 635 点（深鉢 632、鉢 1、両耳壺 1、壺 1）、石器 4 点（凝灰岩製磨製石斧 1、安山岩製石皿 1、チャート製刮片 2）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 140 点（不明）、中期後葉～後期初頭 246 点（加曽利 E IV～称名寺 I 式）、後期 36 点（不明）、不明 213 点である。1・2・4・10・11 は覆土上層、7 は覆土下層、9 は炉床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭（加曽利 E IV～称名寺 I 式期）と考えられる。



第137図 第138号竪穴建物跡実測図



第138図 第138号竪穴建物跡出土遺物実測図

第57表 第138号竪穴建物跡出土遺物一覧(第図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(69)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	流紋口縁・流紋部の横状把手を起点に微隆帯文・縦位LR単軸縄文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(50)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	流紋口縁・流紋部直下突起を起点に微隆帯文・縦位LR単軸縄文	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(67)	-	長石・石英	明黄褐色	普通	口縁部無文・口縁部下部の把手を起点に微隆帯文・縦位LR単軸縄文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(89)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部無文・口縁部下部に微隆帯文・斜交文・割変文・割変式による区間文・縦位LR単軸縄文充填	覆土上層	5% PL31
5	縄文土器	深鉢	-	(75)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部下部に微隆帯文・無文	覆土	5%
6	縄文土器	鉢	-	(74)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	無文	覆土	5%
7	縄文土器	四耳壺	-	(135)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部無文・口縁部下部の横状把手を起点に微隆帯文・縦位LR単軸縄文	覆土上層	10% PL31
8	縄文土器	壺	-	(40)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	横位横状突起部片・突起を起点に隆帯文・縦位LR単軸縄文	覆土	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
9	縄文土器	深鉢	—	(125)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	微隆帯による区画文 縦位LR 単節縄文	炉床面	5% PL31
10	縄文土器	深鉢	—	(72)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	微隆帯による区画文 縦位LR 単節縄文	覆土上層	5%
11	縄文土器	深鉢	—	(109)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	微隆帯による区画文 縦位LR 単節縄文	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	磨製石斧	(11.2)	(3.9)	2.5	(1860)	凝灰岩	定角式磨製石斧 長軸方向に欠損	覆土	70% PL31

第139号竪穴建物跡 (第139・140図 第58表 PL13)

位置 令和5年度調査区北東部のH7d8区、標高約20mの台地縁辺の緩斜面部に位置している。

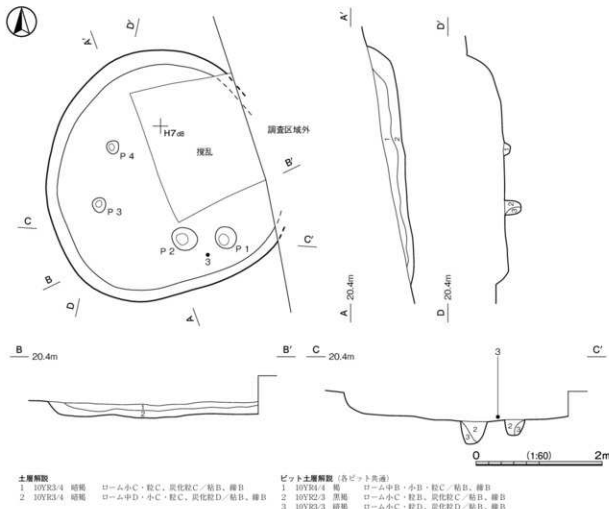
規模と形状 東部が調査区外に延びているため、確認できた規模は長径3.88m、短径3.46mである。平面形は、不整形円形と推定できる。壁は高さ5～56cmで、外傾している。

床 ほほ平坦であるが、南へ緩やかに傾斜している。硬化していない。

ビット 4か所。P1～4は、深さ10～36cmで、規模や配置から主柱穴と考えられる。覆土は周囲からの流入土である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含むことから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片46点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期14点(阿玉台式1、不



第139図 第139号竪穴建物跡実測図

明13)、中期後葉～後期初頭18点(加曾利EⅣ～称名寺I式)、後期2点(不明)、不明12点である。3は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭(加曾利EⅣ～称名寺I式期)と考えられる。



第140図 第139号竪穴建物跡出土遺物実測図

第58表 第139号竪穴建物跡出土遺物一覧(第140図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	灰石・石英	灰黄褐色	普通	小底状口縁、口縁部無文、口縁部下部微隆帯文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	灰石・石英	明赤褐色	普通	縦位LR平面縄文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(15.8)	-	灰石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部無文、斜位RL平面縄文	覆土下層	20%

第59表 縄文時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長径×短径 (m)	壁高 (cm)	床面	内部施設 柱穴 竪穴 土間 炉 竈	覆土	主な出土遺物	時期	備考
8	D6j3	N-2°-E	[楕円形]	[8.98]×[8.00]	-	-	6 - 6 1 -	-	深鉢	中期後葉 (加曾利EⅣ式前期)	本跡→SI 9
47	G360	N-2°-E	楕円形	5.60×4.40	15	平坦	2 - 5 1 -	-	自然 深鉢、磨石、石鏡	中期後葉 (加曾利EⅣ式前期)	本跡→SI 9
49	J115	N-58°-W	[楕円形]	[4.46]×[4.32]	40	平坦	- 14 2 1 -	-	自然 深鉢	後期前葉 (堀之内I式前期)	SI 50→本跡 SK759、770と重なり
50	J115	N-23°-W	[円形]	[4.46]×[4.42]	58	平坦	5 - 7 1 -	-	自然 深鉢、鉢、土器片内盤	中期後葉 (加曾利EⅣ式前期)	SK769→本跡 SI 49
51	J144	N-43°-W	隅丸台形	5.62×5.38	22-35	平坦	5 - 3 -	-	自然 深鉢	中期後葉 (加曾利EⅣ式前期)	SK765→本跡 SK764
52	J145	N-30°-W	[楕円形]	[2.94]×[2.48]	14	平坦	1 - 2 1 -	-	深鉢、磨石	後期中葉 (堀之内I式前期)	SI 60→本跡
54	J116	-	[円形]	[4.76]×[4.76]	14	平坦	- - 6 1 -	-	磨石、凹石	後期	SK735・821・1142→ 838→SK751・825・ 826・1056・1131 SK908・1057・ 1161・1162と重なり
55	J117	N-54°-E	楕円形	5.98×5.42	12-26	平坦	- - 6 2 -	-	自然 深鉢、鉢、土器片、土器、磨石、打製石斧、磨製石斧、磨石	中期後葉 (加曾利EⅣ式 中段前期)	SK755・790→本跡 →SI 61・67・ 792・827・828
56	J116	N-50°-E	楕円形	4.45×3.78	32-60	平坦	- - 5 1 -	-	自然 深鉢、土器片、土器、磨製石斧	中期後葉 (加曾利EⅣ式前期)	SK821→本跡 SK760・803・830・ 965・1158・1191 SK906・1530と重なり
57	I116	-	[円形]	[4.60]×[4.60]	-	-	7 1 1 -	-	深鉢、磨製石斧	中期後葉 (加曾利EⅣ式前期)	SK821→本跡 SK760・803・830・ 965・1158・1191 SK906・1530と重なり
60	J115	-	[楕円形]	[4.24]×[3.15]	14	平坦	- - 4 2 -	-	深鉢	後期前葉 (堀之内I式前期)	本跡→SI 52
61	J118	-	[円形]	[5.96]×[5.96]	-	-	6 4 1 -	-	深鉢	後期前葉 (堀之内I式前期)	SI 55→本跡 SK827・828
62	F3-8	N-32°-E	不整形円形	3.70×3.57	20	平坦	4 - - 1 -	-	自然 深鉢、凹石	中期後葉 (加曾利EⅣ式前期)	
63	E42	N-31°-E	楕円形	4.60×4.18	7-11	平坦	- 9 3 1 -	-	自然 深鉢	中期後葉 (加曾利EⅣ式前期)	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長径×短径 (m)			柱穴	壁柱	ヒコ	如					
64	E3g0	-	[円形]	[4.64]×[4.64]	-	-	2	-	4	1	-	深鉢	後期		
66	I119	N-36°-E	楕円形	4.60×4.36	24	平坦	-	6	4	1	-	人瓦、 漆鉢、鉢、石皿、 門石	中期後葉 (加曾利E式前期)	SK1157→本跡	
67	J108	N-46°-E	楕円形	4.28×3.62	20	平坦	-	4	4	-	-	自然	漆鉢、釣手土器	SI 87→SK1202と重複	
69	F2j1	N-45°-E	[円形]	[4.60]×[4.60]	-	-	-	11	3	1	-	-	縄文時代	本跡→SK841	
70	F116	-	[円形]	[5.90]×[5.90]	-	-	-	17	-	-	-	深鉢、両耳壺	中期後葉→ 後期初頭 (加曾利E-4E1式期)	本跡→SI 68	
72	F2b9	N-38°-W	[円形]	[5.40]×[5.40]	-	-	-	11	1	1	-	深鉢、壺	中期後葉 (加曾利E式前期)	本跡→SI 68	
74	F1g7	N-38°-E (不整形楕円形)	[円形]	[5.36]×[4.48]	-	-	-	11	-	1	-	-	中期		
76	F3a7	N-44°-E	[円形]	[5.60]×[5.60]	-	-	-	4	1	1	-	深鉢	中期後葉 (加曾利E式前期)		
77	E110	N-40°-W	円形	4.48×4.22	26	平坦	6	-	9	1	-	自然	漆鉢、石皿、 打製石斧	中期後葉→ 後期初頭 (加曾利E-4E1式期)	
78	F3b3	N-26°-E	[円形]	[6.78]×[6.78]	-	-	-	17	1	1	-	深鉢	中期後葉 (加曾利E式前期)		
80	I118	N-24°-E	[円形]	[4.38]×[4.26]	-	-	3	-	-	1	-	-	縄文時代	SK1147→本跡→1251、1252 SK807、1231と重複	
84	I118	N-14°-E	[楕円形]	[4.06]×[3.40]	-	-	5	-	-	1	-	-	縄文時代	本跡→SD 3 SK817、818と重複	
86	I2b2	N-28°-E	[円形]	[4.96]×[4.96]	-	-	-	8	-	1	-	深鉢	後期	SI 87と重複	
87	I2g2	N-66°-E	[楕円形]	[7.34]×[5.52]	-	-	-	7	3	2	-	-	後期	SI 86と重複	
89	H1c3	N-56°-W	楕円形	4.72×3.94	20	平坦	-	9	20	1	-	自然	漆鉢、鉢、土器片 門盤、門石、磨石、 石鏝木製品	中期後葉 (加曾利E式前期)	SI 96、TP 8→ 本跡
90	H1e4	N-75°-W	[楕円形]	[7.32]×[6.48]	20	平坦	-	9	1	-	-	自然	漆鉢、土器片門盤、 磨石、石皿、石鏝、 石鏝木製品	中期後葉 (加曾利E式前期)	
91	H1g4	N-52°-E	[楕円形]	[6.40]×[6.06]	20	平坦	-	7	3	2	-	自然	漆鉢、石鏝木製品、 磨石	中期後葉 (加曾利E式前期)	SI 95、SK1217、 1218、1230→本跡
92	H116	N-36°-W (隅丸長方形)	[円形]	[6.74]×[6.60]	5	平坦	-	7	5	1	-	-	漆鉢、壺、耳飾り	中期後葉 (加曾利E式前期)	
94	H1h7	N-60°-E	[円形]	[5.30]×[5.20]	10	平坦	-	6	2	2	-	深鉢	中期後葉 (加曾利E式前期)	本跡→SI 98、 SK1309、1314	
95	H1h5	N-50°-W	[楕円形]	[3.60]×4.06	10	平坦	-	3	-	1	-	-	中期	本跡→SI 91、 1215、1236 SK1219と重複	
96	H1c3	N-68°-E	楕円形	[3.98]×[3.62]	28	平坦	2	-	-	-	-	自然	漆鉢、石皿、 打製石斧	中期後葉 (加曾利E式前期)	本跡→SI 89
97	H119	N-16°-W	楕円形	7.96×7.20	24	平坦	7	-	-	2	-	自然	漆鉢、複形式石器	中期後葉 (加曾利E式前期)	SK1205と重複
98	H1h7	N-63°-W	[楕円形]	[7.50]×[6.74]	12	平坦	-	4	-	-	-	自然	深鉢	中期後葉 (加曾利E式前期)	SI 94、SK1208、 1209、1281→本跡 →SK1309、1310 SK1311、1314と重複
99	H211	-	[円形]	[5.40]×[5.04]	10	平坦	-	2	1	-	-	深鉢	中期後葉 (加曾利E式前期)	本跡→SK1269、1532 (加曾利E式前期)	
101	I2e4	N-38°-E (隅丸長方形)	[円形]	[7.88]×[5.78]	-	-	5	-	2	2	-	深鉢	後期		
102	G3b5	-	[円形]	[4.32]×[4.52]	-	-	-	23	1	1	-	深鉢	後期	SI 103と重複	
103	G5b6	-	[円形]	[4.92]×[4.92]	-	-	-	6	4	1	-	深鉢	後期	SI 102と重複	
104	H5a9	N-16°-E	円形	[4.02]×[3.78]	24	平坦	2	-	3	4	-	自然	漆鉢	後期初頭 (地名寺1式期)	
105	G4b8	-	[円形]	[5.58]×[5.58]	-	-	-	-	5	1	-	深鉢	中期後葉 (加曾利E式前期)	SK1335と重複	
106	G4g0	-	[楕円形]	[5.90]×[4.85]	-	-	-	-	7	5	-	深鉢	中期後葉 (加曾利E式前期)	本跡→SK1348、1349 SK1350、PG 1と重複	
107	G6b2	-	[円形]	[5.20]×[5.20]	-	-	-	-	9	-	1	深鉢	中期後葉→ 後期初頭 (加曾利E-4E1式期)	SI 109と重複	
108	G4f7	-	[円形]	[6.40]×[6.40]	-	-	-	-	6	1	1	深鉢	中期後葉 (加曾利E式前期)		
109	G6g3	-	[楕円形]	[4.80]×[4.40]	5	平坦	-	-	-	1	-	深鉢	中期後葉→ 後期初頭 (加曾利E-4E1式期)	SI 107と重複	
115	G6d4	N-26°-W	不整形円形	4.72×4.72	40	平坦	4	-	2	1	-	自然	漆鉢、石皿、石鏝、 2次加工のある土器片	中期後葉 (加曾利E式前期)	本跡→SK1511
116	G5e4	N-12°-W	楕円形	5.56×5.06	14	平坦	3	10	3	1	-	-	漆鉢、壺、打製石斧、 磨製石斧、磨石、門石	中期後葉 (加曾利E式前期)	
117	F5j4	-	[円形]	[5.20]×[5.20]	-	-	-	-	3	-	1	-	深鉢、有孔門盤	中期後葉 (加曾利E式前期)	本跡→SK1382、 SI 118、SK1388と重複
118	F5j3	-	[円形]	[4.45]×[4.45]	-	平坦	-	-	-	1	-	深鉢、土器片門盤	中期後葉 (加曾利E式前期)	本跡→SK1382、 SI 117と重複	
120	G5c5	-	[円形]	[5.24]×[5.24]	-	-	-	-	9	4	1	-	深鉢	中期後葉 (加曾利E式前期)	本跡→SK1359
121	G4a0	-	円形	4.56×4.56	14	平坦	3	-	1	1	-	自然	漆鉢、磨石	中期後葉 (加曾利E式前期)	本跡→SK1371
122	F614	N-78°-E (不整形円形)	[円形]	[4.26]×[3.14]	14	平坦	-	4	1	1	-	自然	漆鉢、磨石	中期後葉 (加曾利E式前期)	
123	F5j6	N-76°-E	円形	5.08×4.98	12	平坦	4	-	1	1	-	自然	深鉢	中期後葉 (加曾利E式前期)	
124	G6a3	-	円形	4.50×4.50	32	平坦	-	5	1	2	-	自然	漆鉢、壺、 土器片門盤	中期後葉 (加曾利E式前期)	本跡→SK1367、1413 SK1409と重複

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長径×短径 (m)	壁高 (cm)	床面	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考
							主柱穴	壁柱穴	ピット	炉				
125	F5g7	-	[円形]	[460]×[460]	-	平皿	-	-	-	1	-	漆鉢	中期後葉 (加曾利EⅡ式期)	
126	F5i6	N-26°-E	[円形]	[498]×[498]	-	平皿	2	-	-	2	-	漆鉢	中期末葉～ 後期初葉 (加曾利EⅡ式期)	SK1373と重複
127	F5g1	N-78°-W	楕円形	534×464	8～22	平皿	-	7	1	1	-	自然 漆鉢、土器片内側	中期後葉 (加曾利EⅡ式期)	本跡→SK1418・ 1437
128	F6b1	N-28°-E	不整形円形	4.2×4.14	10～18	平皿	-	2	4	1	-	自然 漆鉢	中期後葉 (加曾利EⅡ式期)	本跡→SK1431
131	F5b8	-	[円形]	[564]×[564]	-	平皿	-	3	3	1	-	漆鉢	中期後葉 (加曾利EⅡ式期)	本跡→SK1422
132	E5e7	N-40°-W	[楕円形]	[760]×[620]	-	-	-	6	-	1	-	漆鉢	中期後葉 (加曾利EⅡ式期)	SI 134と重複
134	E5g8	-	[円形]	[500]×[500]	-	-	-	5	-	1	-	漆鉢	中期後葉 (加曾利EⅡ式期)	SI 132、SK1443・ 1468と重複
135	E5b1	N-15°-W	楕円形	730×568	9～15	平皿	-	4	1	1	-	自然 漆鉢、漆器、模形 石器、銅片	中期後葉 (加曾利EⅡ式期)	SK1506・1509と 重複
136	E5e2	-	[円形]	[696]×[696]	-	-	-	4	2	1	-	漆鉢	中期後葉 (加曾利EⅡ式期)	
138	G7j6	N-28°-E	[楕円形]	523×[253]	16～30	平皿	2	-	1	1	-	人為 漆鉢、鉢、両耳甕、 注口土器、磨製石 斧	中期後葉～ 後期初葉 (加曾利EⅡ式期)	本跡→SK1528
139	H7d8	-	[不整形 円形]	[388]×346	5～56	平皿	4	-	-	-	-	人為 漆鉢	中期後葉～ 後期初葉 (加曾利EⅡ式期)	

(2) 土坑

222基のうち、特徴的な遺物が出土している87基について記載し、その他は実測図(第279～296図)及び一覧表で(第147表)で掲載する。

第751号土坑(第141・142図 第60表)

位置 調査区南東部のJ1b6区、標高22mの台地平坦部に位置している。

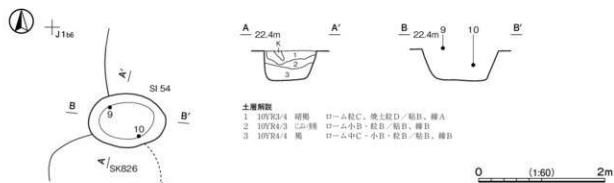
重複関係 第54号竪穴建物跡、第826号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.18m、短径0.86mの楕円形で、長径方向はN-84°-Wである。深さは46cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

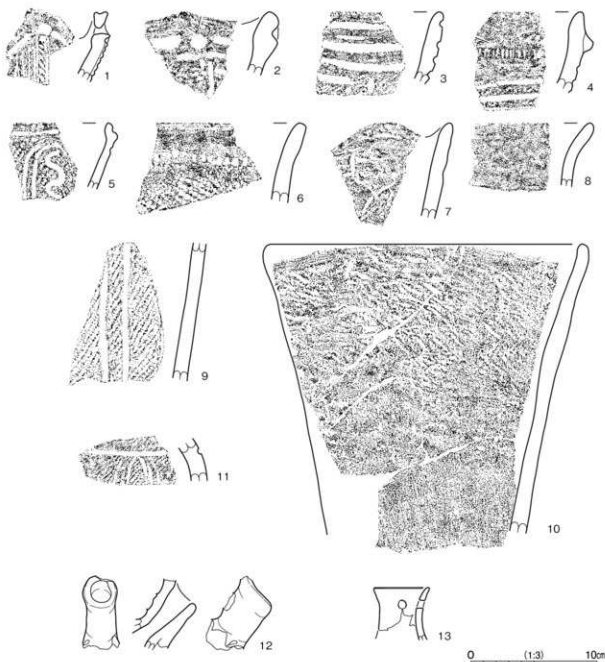
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックを多く含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片257点(深鉢254、鉢1、注口土器1、不明1)、石器1点(チャート製剥片)が出土している。縄文土器片の時期は、中期15点(阿玉台式1、加曾利EⅡ式11、不明3)、後期240点(称名寺式11、堀之内式62、不明167)である。9は北西部の覆土上層から、10は南西部の覆土下層から、それぞれ出土している。中期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉(堀之内I式期)と考えられる。



第141図 第751号土坑実測図



第 142 図 第 751 号土坑出土遺物実測図

第 60 表 第 751 号土坑出土遺物観察表 (第 142 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	流状口縁 地文横位LR単節縄文 底頂部直下内丸 ギザミのある隆帯を呈す	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	長石・石英	橙	普通	小流状口縁 地文縦位LR単節縄文 底頂部直下内丸細点文	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位し無節縄文 口縁部直下沈線文	覆土上層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位RL単節縄文 口唇部直下ギザミのある隆帯文	覆土下層	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	地文横位もLR単節縄文 口縁部直下沈線文 沈線による蛇行盤曲文	覆土上層	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部ギザミ 胴部縦位RL単節縄文	覆土	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(7.6)	—	長石・石英	橙	普通	小流状口縁 横位し無節縄文 沈線による蛇行盤曲文	覆土下層	5%
8	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	長石・石英	明赤褐	普通	無文	覆土上層	5%

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
9	縄文土器	深鉢	-	(10.8)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 R/L 単節縄文 沈線による懸垂文	覆土上層	5%
10	縄文土器	深鉢	(25.0)	(23.0)	-	長石・石英	橙	普通	縦位し無節縄文	覆土下層	15% PL31
11	縄文土器	鉢	-	(3.3)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位 R 無節縄文 口縁部と胴部の境に沈線	覆土上層	5%
12	縄文土器	注口土器	-	(5.8)	-	長石・石英	橙	普通	注口部 上部に把手の痕跡	覆土下層	5%
13	縄文土器	不明	4.3	(4.4)	-	長石・石英	橙	普通	無文 円孔	覆土下層	10%

第 752 号土坑 (第 143 図 第 61 表)

位置 調査区南東部の J 1 b5 区、標高 22 m の台地平坦部に位置している。

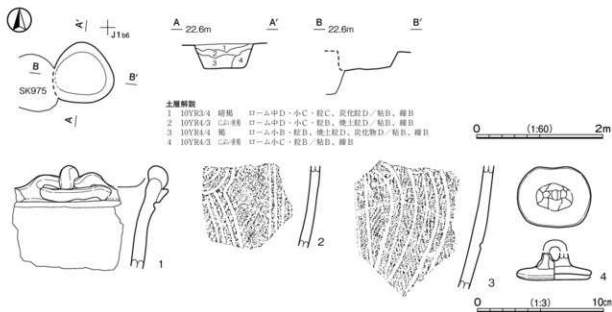
重複関係 第 975 号土坑との関係は不明である。

規模と形状 径 0.96 m ほどの円形である。深さは 38 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックや焼土粒子、炭化物を含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 88 点 (深鉢 87、蓋 1) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 3 点、後期 81 点 (堀之内式 27、不明 54)、不明 4 点である。中期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉 (堀之内 1 式期) と考えられる。



第 143 図 第 752 号土坑・出土遺物実測図

第 61 表 第 752 号土坑出土遺物観察表 (第 143 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	小底状口縁 波瀾部粘土層による十字状小突起	覆土	5% PL31
2	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英	橙	普通	地文横位 L 無節縄文 沈線による弧状の集合沈線	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(9.7)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文横位 L R 単節縄文 沈線による弧状の集合沈線	覆土	5%
4	縄文土器	蓋	5.9	(2.2)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	縦状狭み欠損	覆土上層	80% PL31

第754号土坑 (第144図 第62表)

位置 調査区南東部のI117区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1213号土坑に掘り込まれている。

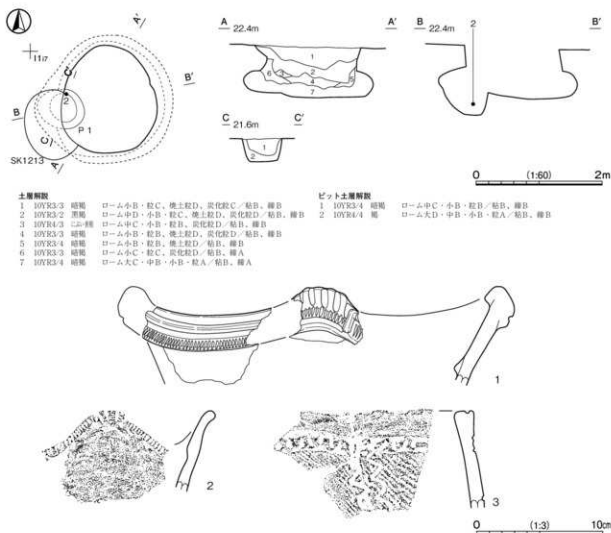
規模と形状 開口部は長径1.68m、短径1.50mの楕円形で、長径方向はN-4°-Wである。最大径は長径2.08m、短径2.02mで、底面は楕円形を呈し、ほぼ平坦である。確認面からの深さは82cmである。壁は中位まで内彎して袋状を呈し、底面から30-40cmのところできつれ、上位は直立している。

ビット 1か所。西部のオーバーハング付近に位置し、長径80cm、短径56cmの楕円形で、深さは38cmである。ロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックや焼土粒子、炭化粒子を含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片71点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期62点(加曾利E式10、不明52)、後期5点(称名寺式1、堀之内式4)、不明4点である。土器片は覆土上層から多く出土している。3はP1の覆土中層から出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第144図 第754号土坑・出土遺物実測図

第62表 第754号土坑出土遺物観察表（第144図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	〔29.4〕	〔7.7〕	—	長石・石英・雲母	橙	普通	底状口縁 波頭部低位沈殿文 蹄状の口縁部沈殿文・全半ミ 胴部無文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	〔6.4〕	—	長石・石英・雲母	橙	普通	底状口縁 口唇部キザミ	P1中層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	〔7.6〕	—	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	口縁部2本一組の沈殿文に交互斜交文 胴部低位1段半周縄文 沈殿による縦行断交文	覆土上層	5%

第755号土坑（第145図 第63表）

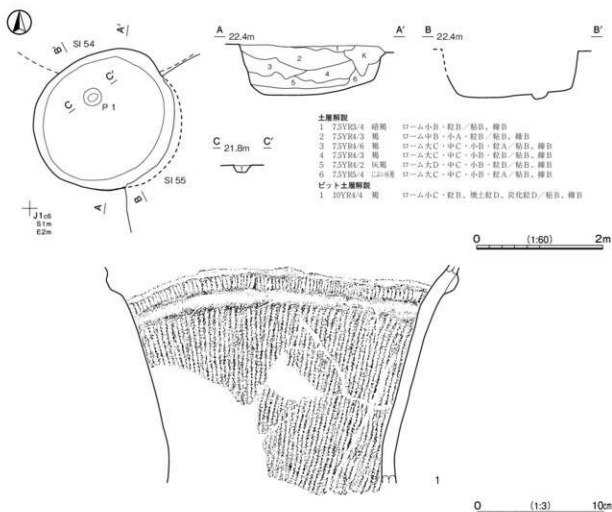
位置 調査区南東部のJ1b6区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第54・55号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径238m、短径217mの円形である。深さは73cmで、壁は外傾している。底面は、北から南に緩やかに傾斜している。

ピット 1か所。中央やや北寄りに位置している。径28cmほどの円形で、深さは10cmである。

覆土 6層に分類できる。各層にロームブロックやローム粒子を含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。



第145図 第755号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 77 点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期 15 点(加曾利 E 式 5、不明 10)、後期 55 点(称名寺式 9、堀之内式 5、加曾利 B 式 1、不明 40)、不明 7 点である。土器片は覆土上層から多く出土している。1 は覆土中から出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器と重複関係から中期後葉(加曾利 E I 式)と考えられる。

第 63 表 第 755 号土坑出土遺物観察表(第 145 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(17.0)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	本ササミのある陸奥市で区画 胴部斜位 RL 平面	覆土	25%, PL31

第 756 号土坑(第 146・147 図 第 64 表)

位置 調査区北西部の G 3 b5 区、標高 21 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 東西径 2.03 m、南北径 2.00 m の円形である。深さは 106 cm で、壁は直立している。底面は西から東へ傾斜している。

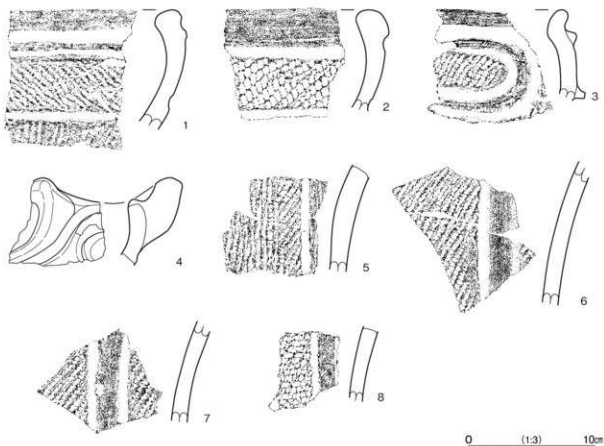
覆土 12 層に分層できる。第 1～5 層は、周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。第 6～12 層は、ロームブロックやローム粒子、焼土粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。中央部南壁寄りの第 9・10 層内には、長さ 50 cm、短径 10 cm の不整楕円形の範囲に焼土が集中して含有している。

遺物出土状況 縄文土器片 118 点(深鉢)、焼成粘土塊 1 点が出土している。縄文土器片の時期は、中期 107 点(加曾利 E 式 65、不明 42)、不明 11 点である。遺物は覆土上層から中層にかけて多く出土している。1 は南部、2・3・7 は東壁寄りの覆土上層から、4 は西部の覆土下層から、6・8 は中央やや南寄りの覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利 E III 式古段階期)と考えられる。



第 146 図 第 756 号土坑実測図



第147図 第756号土坑出土遺物実測図

第64表 第756号土坑出土遺物観察表(第147図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(9.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部地文横位RL, 単筋縄文 沈線の沿う隆帯による区画文 胴部縦位RL, 単筋縄文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部地文横位LR, 単筋縄文 沈線の沿う隆帯による区画文	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(7.2)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部地文横位LR, 単筋縄文 沈線の沿う隆帯による区画文	覆土上層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	小波状口縁 波痕部から懸垂する隆帯による区画文	覆土下層	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文斜位・縦位RL, 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(10.1)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	地文縦位RL, 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土中層	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(7.2)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位RL, 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土上層	5%
8	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位RL, 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土中層	5%

第764号土坑(第148図 第65表)

位置 調査区南東部のJ1c4区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第51号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

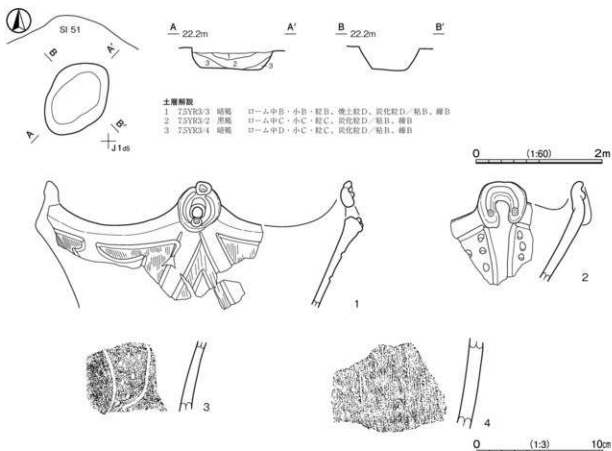
規模と形状 長径1.31m、短径0.93mの楕円形で、長径方向はN-40°-Eである。深さは36cmで、壁は外傾している。底面はほぼ平坦である。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片65点(深鉢)、焼成粘土塊1点が出土している。縄文土器片の時期は、中期7点(加

曾利E式)、後期48点(称名寺式16、不明32)、不明10点である。1～4はいずれも覆土から出土している。中期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期初頭(称名寺Ⅱ式期)と考えられる。



第148図 第764号土坑・出土遺物実測図

第65表 第764号土坑出土遺物観察表(第148図)

番号	種別	厚	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[25.8]	(10.0)	—	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	流状口縁、流頭部直下の同孔を中心に対弧文・内彩貼付文、口縁部区画内に条線文を施す	覆土	10%
2	縄文土器	深鉢	—	(8.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	流状口縁、流頭部直下に内彩貼付文を伴う流U字状貼付文、口縁部区画内に刻文文光堀	覆土	5% PL31
3	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	区画文内に刻文文光堀	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	長石・石英	橙	普通	条線文	覆土	5%

第765号土坑(第149図 第66表)

位置 調査区南東部のJ1d5区、標高22mの台地平坦部に位置している。

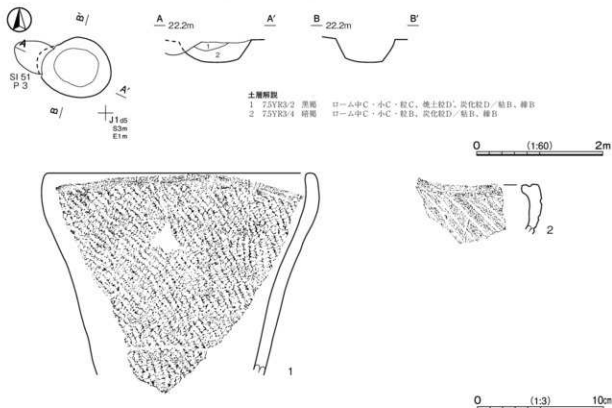
重複関係 第51号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第51号堅穴建物のピットに掘り込まれているため、確認できた規模は長径1.09m、短径0.96mである。楕円形と推定され、長径方向はN-83°-Eである。深さは37cmで、壁は外傾している。底面はほぼ平坦である。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 45 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 34 点（加曽利 E 式 12、曾利式 4、不明 18）、後期 6 点（称名寺式 3、不明 3）、不明 5 点である。1・2 は覆土中から出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利 E II 式期）と考えられる。



第 149 図 第 765 号土坑・出土遺物実測図

第 66 表 第 765 号土坑出土遺物観察表（第 149 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[21.0]	(16.0)	-	長石・石英	橙	普通	横位 RL 卑胎縄文	覆土	10% PL31
2	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英	橙	普通	口唇部沈着文 桑型文	覆土	5%

第 768 号土坑（第 150 図 第 67 表）

位置 調査区南東部の J 15 区、標高 21 m の台地斜面部に位置している。

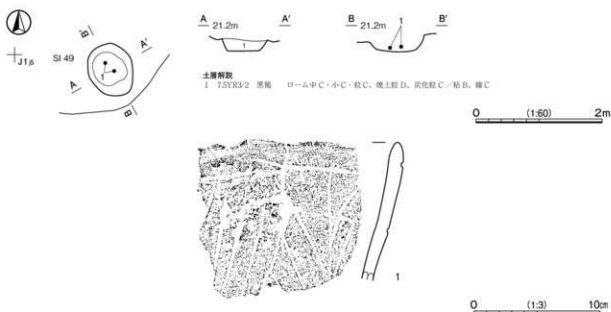
重複関係 第 49 号堅穴建物跡との関係は不明である。

規模と形状 長径 0.86 m、短径 0.70 m の楕円形で、長径方向は N - 33° - W である。深さは 22 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 単一層。ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子を含んでいることから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文後期土器片 11 点（深鉢）が出土している。1 は覆土下層から出土した 2 点が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。



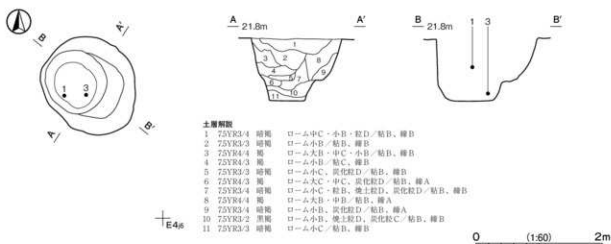
第67表 第768号土坑出土遺物観察表(第150図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(11.0)	—	長石・石英	橙	普通	条線文	覆土下層	5%

第771号土坑(第151・152図 第68表)

位置 調査区北西部のE4区、標高21mの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.62m、短径1.41mの楕円形で、長径方向はN-50°-Wである。深さは98cmで、壁は北部から西部が外傾して立ち上がり、東部から南部は底面から40cmのところまで段を有している。底面は平坦である。

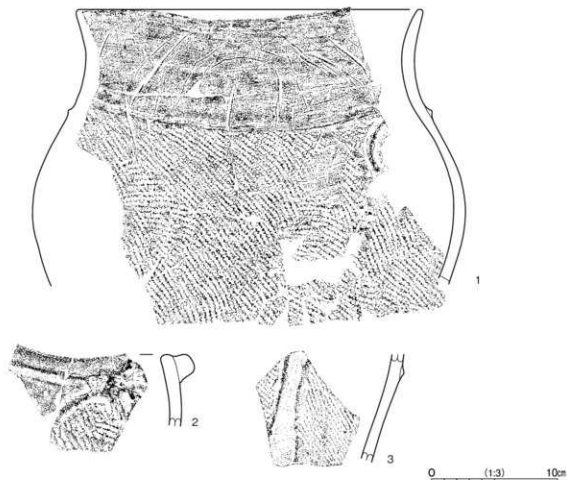


第151図 第771号土坑実測図

覆土 11層に分層できる。各層にロームブロックや焼土粒子、炭化粒子を含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 52点（深鉢51、両耳壺1）が出土している。縄文土器片の時期は、中期44点（不明）、中期後葉～後期初頭4点（加曾利EⅣ～称名寺I式）、後期4点（不明）である。1は南西部の覆土中層から、3は中央部の覆土下層から、それぞれ出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭（加曾利EⅣ～称名寺I式期）と考えられる。



第152図 第771号土坑出土遺物実測図

第68表 第771号土坑出土遺物観察表（第152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	両耳壺	[27.0]	(21.8)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部無文 胴部縦位LR半筋縄文	覆土中層	25% PL32
2	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	長石・石英	橙	普通	突起を起点に縦隆帯による区画文 縦位LR半筋縄文欠損	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	縦隆帯による区画文 縦位し無筋縄文欠損	覆土下層	5%

第773号土坑（第153図 第69表）

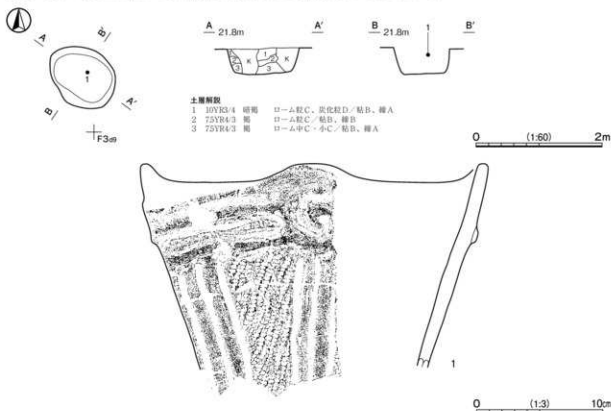
位置 調査区北西部のF 3c8区、標高21mの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.15m、短径0.93mの楕円形で、長径方向はN-56°-Wである。深さは40cmで、壁は外傾している。底面はほぼ平坦である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックやローム粒子、炭化粒子を含む褐色土主体の層が、周囲からの流入を示す堆積状況であることから、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文中期土器片 11 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 9 点（加曾利 E 式）、不明 2 点である。1 は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E II 式新段階期）と考えられる。



第 153 図 第 773 号土坑・出土遺物実測図

第 69 表 第 773 号土坑出土遺物観察表（第 153 図）

番号	種別	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[27.0]	[16.1]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	小波状口縁 口縁部地文模位 RL 卑路縄文 胴部地文模位 RL 卑路縄文 波痕部下に隆帯による渦巻文 胴部3本一組の筋消懸垂文	覆土上層	15%

第 776 号土坑（第 154 図 第 70 表）

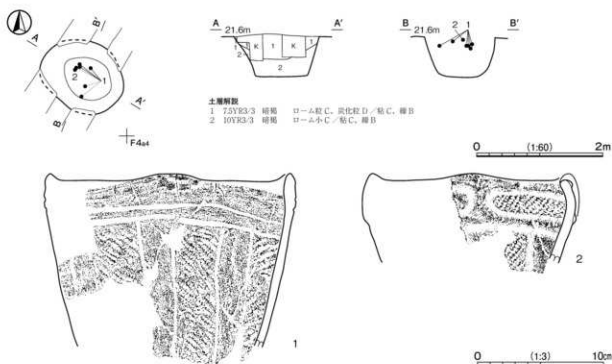
位置 調査区北西部の E 4 区、標高 21 m の台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.36 m、短径 1.12 m の楕円形で、長径方向は N - 63° - W である。深さは 65cm で、壁は外傾している。底面はほぼ平坦である。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 28 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 28 点（加曾利 E 式 27、不明 1）である。1 は中央部の覆土上層から出土した 6 点が接合している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E III 式古段階期）と考えられる。



第154図 第776号土坑・出土遺物実測図

第70表 第776号土坑出土遺物観察表(第154図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[190]	[137]	—	長石・石英	橙	普通	小波状口縁、地文縦位1無筋縄文、口縁部沈線文、胴部2本一組の散点状点文	覆土上層	25% PL31
2	縄文土器	深鉢	[154]	[71]	—	長石・石英	明赤褐	普通	地文縦位3短筋縄文、沈線の沿う縁帯による区画文、胴部直線点文	覆土上層	10%

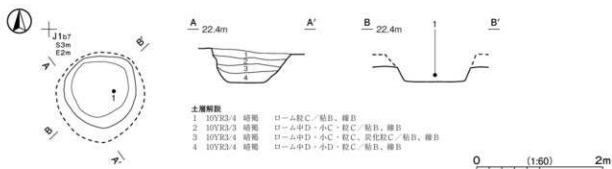
第777号土坑 (第155・156図 第71表)

位置 調査区南東部のJ1b7区、標高22mの台地上に位置している。

重複関係 第55号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 第55号竪穴建物跡の覆土中で確認したため、確認できた長径は1.14m、推定される短径は1.35mで、円形と推定される。深さは56cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックやローム粒子を含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。



第155図 第777号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 32 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、すべて中期で、覆土下層から多く出土している。1 は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



0 (1:3) 10cm

第 156 図 第 777 号土坑出土遺物実測図

第 71 表 第 777 号土坑出土遺物観察表（第 156 図）

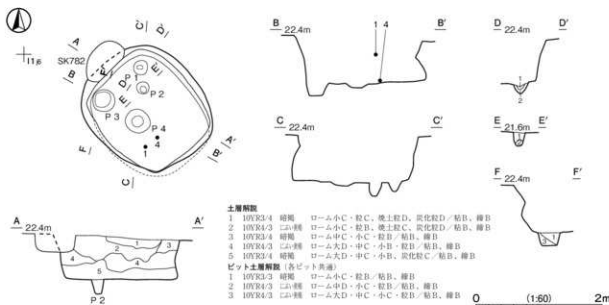
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	浅状口縁・波道部の高巻文を起点に 2 本一組の浅線文・交互斜交文	覆土下層	5 %

第 784 号土坑（第 157・158 図 第 72 表 PL13）

位置 調査区南東部の I 16 区、標高 22 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 782 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長軸 1.92 m、短軸 1.74 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 15° - W である。最大長は長軸 2.05 m、短軸 1.77 m で、底面は隅丸長方形を呈し、凹凸が見られる。深さは 69 cm で、壁は北部から東部は外傾しているが、西部から南部にかけては中位まで内彎して袋状を呈し、底面から 40 - 55 cm のところでぐびれ、上位は外傾している。



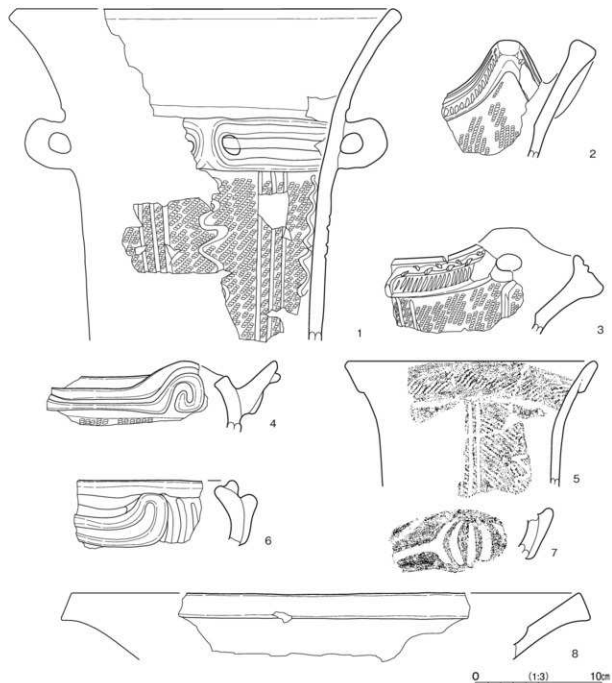
第 157 図 第 784 号土坑実測図

ビット 4か所。P1～P4は長径20～40cm、短径18～36cmの円形で、深さ8～22cmである。覆土は、ロームブロックやローム粒子を含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子を含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片242点(深鉢239、浅鉢2、鉢1)が出土している。縄文土器片の時期は、中期172点(加曾利E式101、不明71)、後期34点(不明)、不明36点である。遺物は覆土上層から中層にかけて多く出土している。1は南部の覆土中層から、4は南部の底面から、それぞれ出土している。後期土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅠ式中段階期)と考えられる。



第158図 第784号土坑出土遺物実測図

第72表 第784号土坑出土遺物観察表(第158図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[29.8]	(26.3)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部無文・胴部状況突起を起点に背に沈線のある隆帯による区画文・腹部地文縦位・L・単筋縄文・沈線による蛇行懸垂文・3本一組懸垂文	覆土中層	60% P132
2	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	成状口縁・肥厚した口唇部に2本一組沈線文・キザミ・縦位・L・単筋縄文	覆土中層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	成状口縁・成状口縁下に円孔・蹄状の肥厚口唇部・2本一組のL沈線文・交互斜交文・地文縦位・L・単筋縄文・沈線による懸垂文	覆土中層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤間	普通	口縁部状況突起の頂部に隆帯による渦巻文・縦位・L・単筋縄文	底面	5%
5	縄文土器	深鉢	[19.4]	(9.9)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	肥厚口縁部横位・無筋縄文・胴部地文縦位・L・無筋縄文・沈線による蛇行懸垂文・3本一組懸垂文	覆土中層	10%
6	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	地文縦位・L沈線文・背に沈線のある隆帯文	覆土中層	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	肥厚する突起頂部下に縦位対弧文	覆土上層	5%
8	縄文土器	浅鉢	[40.0]	(5.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	無文	覆土中層	5% P132

第805号土坑(第159図 第73表)

位置 調査区南東部のI17区、標高22mの台地上に位置している。

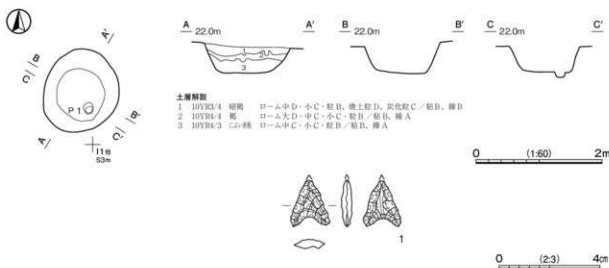
規模と形状 長径1.35m、短径1.18mの楕円形で、長径方向はN-19°-Eである。深さは41cmで、壁は外傾している。底面はほぼ平坦である。

ビット 1か所。P1は南東部に位置し、長径19cm、短径15cm、深さ18cmである。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)、石器1点(黒曜石製石鐮)が出土している。縄文土器片の時期は、中期1点(加曾利E式)、後期5点(不明)である。1は覆土中から出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期と考えられる。



第159図 第805号土坑・出土遺物実測図

第73表 第805号土坑出土遺物観察表(第159図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	石鐮	(18)	1.6	0.4	(10)	黒曜石	円基無茎鐮	覆土	95% P132

第 806 号土坑 (第 160・161 図 第 74 表)

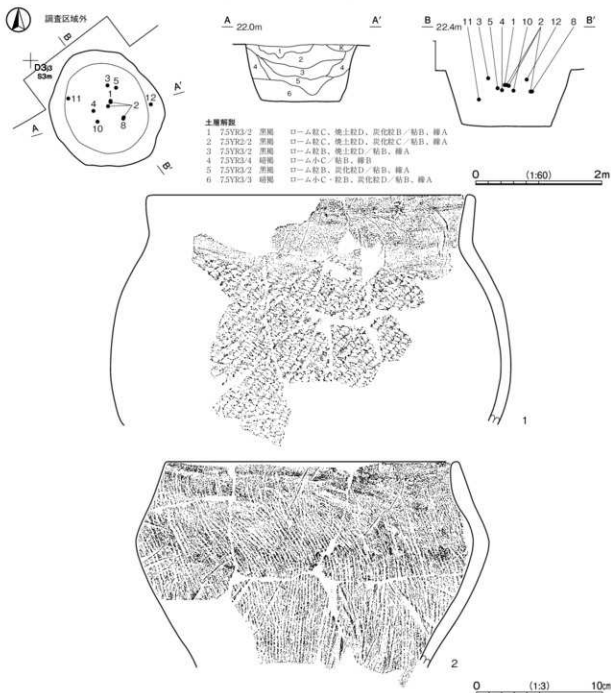
位置 調査区北西部の D 3 区、標高 22 m の台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.99 m、短径 1.68 m の楕円形で、長径方向は N - 38° - W である。深さは 90 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

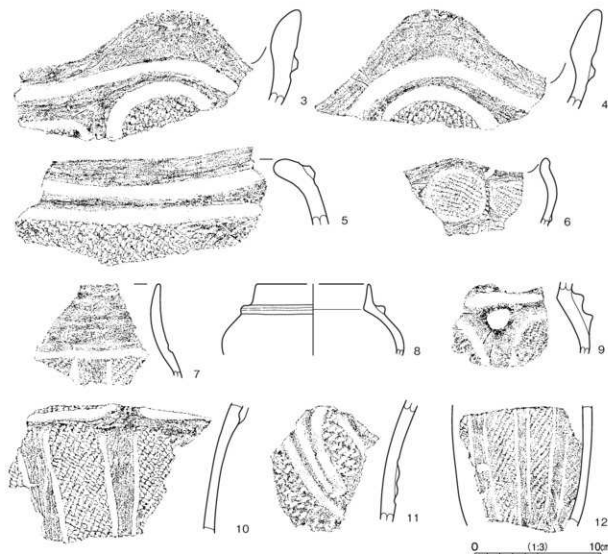
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子を含み、不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文中期土器片 185 点 (深鉢 184、壺 1)、石器 1 点 (チャート製剥片) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 185 点 (阿玉台式 5、加曾利 E 式 160、曾利式 1、不明 19) である。1・2・4・5・8・10・11 は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利 E Ⅲ 式古段階期) と考えられる。



第 160 図 第 806 号土坑・出土遺物実測図



第 161 図 第 806 号土坑出土遺物実測図

第 74 表 第 806 号土坑出土遺物観察表 (第 160・161 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	壺	[250]	(182)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部無文 胴部縦位 RL 単節縄文	覆土中層	15% PL32
2	縄文土器	深鉢	[230]	(163)	—	長石・石英	橙	普通	素縄文	覆土中層	20% PL32
3	縄文土器	深鉢	—	(74)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	浅状口縁 地文横位 RL 単節縄文 沈線の沿う陰帯文	覆土上層	5% PL32
4	縄文土器	深鉢	—	(78)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	浅状口縁 地文横位 RL 単節縄文 沈線の沿う陰帯文	覆土中層	5% 3 と同一個体
5	縄文土器	深鉢	—	(51)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文横位 RL 単節縄文 沈線の沿う陰帯文	覆土中層	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(53)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	小波状口縁 地文縦位 RL 単節縄文 沈線の沿う陰帯文	覆土	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(74)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文 地文横位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土上層	5%
8	縄文土器	壺	[88]	(56)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部直下陰帯文 無文	覆土中層	5%
9	縄文土器	深鉢	—	(53)	—	長石・石英	浅黄褐色	普通	地文縦位 RL 単節縄文 陰帯による渦巻文下に磨消懸垂文	覆土	5%
10	縄文土器	深鉢	—	(100)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土中層	5%
11	縄文土器	深鉢	—	(92)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位 LRL 複節縄文 2 本一組の陰帯文	覆土中層	5%
12	縄文土器	深鉢	—	(95)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土上層	30%

第 807 号土坑 (第 162 図 第 75 表 PL13)

位置 調査区南東部の I 1 e 8 区、標高 22 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 80 号竪穴建物跡との関係は不明である。

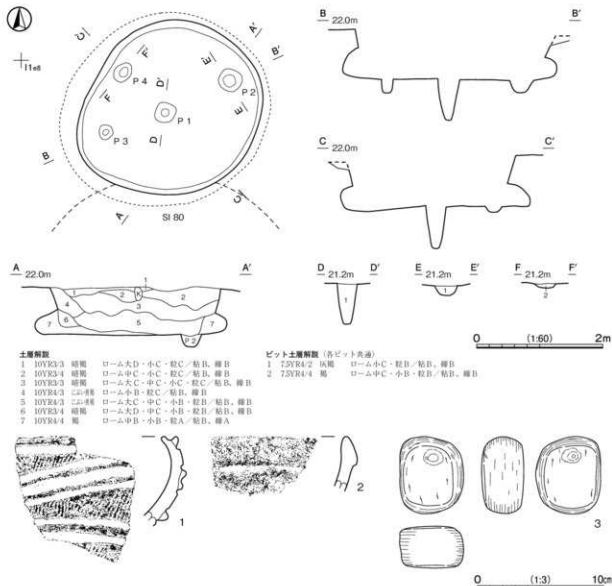
規模と形状 開口部は長径 3.06 m、短径 2.72 m の楕円形で、長径方向は N - 64° - E である。最大径は長径 3.41 m、短径 3.01 m で、底面は楕円形を呈し、ほぼ平坦である。深さは 75 cm で、壁は、底面から 30 ~ 40 cm のところでぐびれ、上位は外傾、下位は内彎している。

ピット 4 か所。P 1 は、中央部に位置し、深さ 66 cm である。P 2 ~ P 4 は、壁際に沿うように位置し、深さ 8 ~ 21 cm である。覆土は、ロームブロックを主体とした周囲からの流入土である。

覆土 7 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 315 点 (深鉢)、石器 2 点 (斑れい岩製凹石、黒曜石製剥片) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 65 点 (加曾利 E 式 60、曾利式 I、不明 4)、後期 128 点 (称名寺式 21、不明 107)、不明 122 点である。後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利 E I 式期) と考えられる。



第 162 図 第 807 号土坑・出土遺物実測図

第75表 第807号土坑出土遺物観察表(第162図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	縄文前期位 L1, 卑路縄文 組の最上層	口縁部沈没の沿う 2 本	覆土上層 5%
2	縄文土器	深鉢	—	(4.3)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部沈没位 L1, 卑路縄文 組の最上層	口縁部沈没位 L1, 卑路縄文 組の最上層	覆土上層 5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	四石	6.1	5.1	3.3	185.82	硬い岩	全面研磨 表・裏面凹痕 1 か所	床面	100% PL32

第818号土坑(第163・164図 第76表)

位置 調査区南東部の I 1 h7 区、標高 22 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第84号竪穴建物跡との関係は不明である。

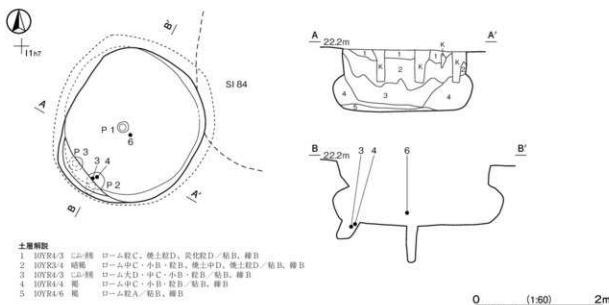
規模と形状 開口部は長径 2.46 m、短径 2.08 m の楕円形で、長径方向は N - 27° - E である。最大径は長径 2.68 m、短径 2.48 m で、底面は楕円形を呈し、ほぼ平坦である。深さは 97 cm で、壁は、底面から 50 - 60 cm のところでくびれ、上位は直立、下位は内彎している。

ピット 3 か所。P 1 は、中央部に位置し、深さ 57 cm である。P 2・P 3 は壁際に沿うように位置し、深さは P 2 が 28 cm、P 3 が 5 cm である。

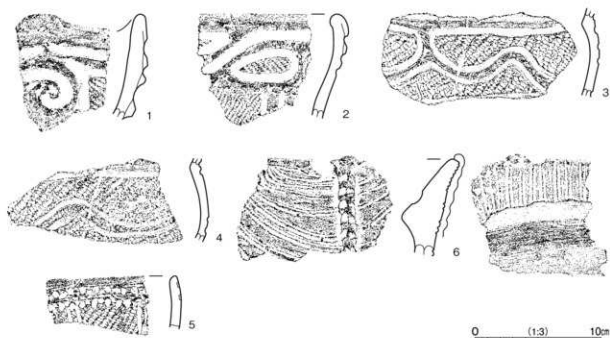
覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 291 点(深鉢 290、浅鉢 1)、石器 4 点(黒曜石製剥片)が出土している。縄文土器片の時期は、中期 187 点(加曽利 E 式 85、曾利式 2、不明 100)、後期 56 点(堀之内式 11、不明 45)、不明 48 点である。3・4 は P 2 の覆土から、6 は覆土下層から、それぞれ出土している。後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曽利 E II 式期)と考えられる。



第163図 第818号土坑実測図



第164図 第818号土坑出土遺物実測図

第76表 第818号土坑出土遺物観察表(第164図)

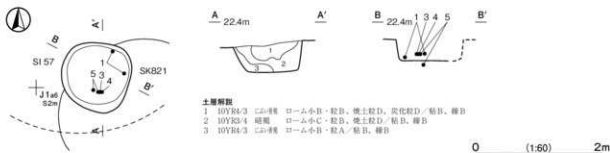
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(83)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	小波状口縁、地文横位ⅡL、単節縄文、底頂部下に沈線の沿う陰帯による渦巻文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(83)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部地文横位ⅡL、単節縄文、沈線の沿う陰帯による渦巻文、胴部地文縦位ⅡL、単節縄文、磨消整垂文	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(66)	—	長石・石英	にぶい青橙	普通	胴部地文縦位ⅡL、単節縄文、2本一組の磨消沈線文による区画文	P2覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(65)	—	長石・石英	橙	普通	胴部地文縦位ⅡL、単節縄文、2本一組の磨消沈線文による区画文	P2覆土	5% 3と同一個体
5	縄文土器	深鉢	—	(42)	—	長石・石英	にぶい青	普通	地文縦位ⅡL、単節縄文、口唇部直下2列の円形刺突文、2本一組の縦位沈線文	覆土上層	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(76)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内面磨消帯、外側地文手載竹管の平行沈線による産銘文、胴部文のある縦位陰帯文、内面手載竹管による縦位平行沈線文	覆土下層	5% PL32

第820号土坑(第165・166図 第77表 PL13)

位置 調査区南東部のJ1a6区、標高22mの台地上に位置している。

重複関係 第57号竪穴建物跡、第821号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.10mの円形である。深さは46cmで、壁は外傾している。底面はほぼ平坦である。

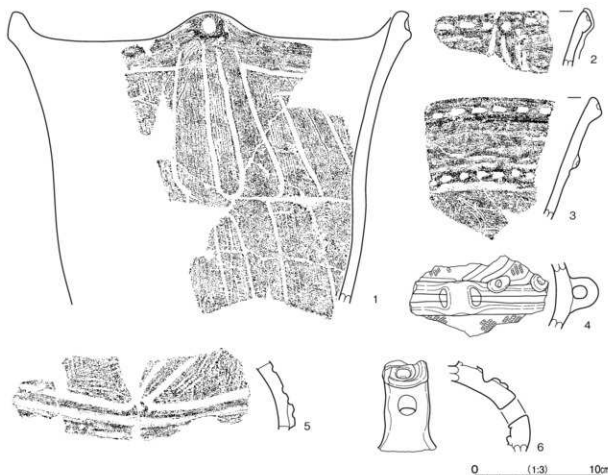


第165図 第820号土坑実測図

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 126 点（深鉢 123、鉢 2、釣手土器 1）、石器 3 点（チャート製剥片 1、黒曜石製剥片 2）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 36 点、後期 90 点（称名寺式 6、不明 84）である。1～6 は、覆土下層から出土している。中期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺Ⅱ式期）と考えられる。



第 166 図 第 820 号土坑出土遺物実測図

第 77 表 第 820 号土坑出土遺物観察表（第 166 図）

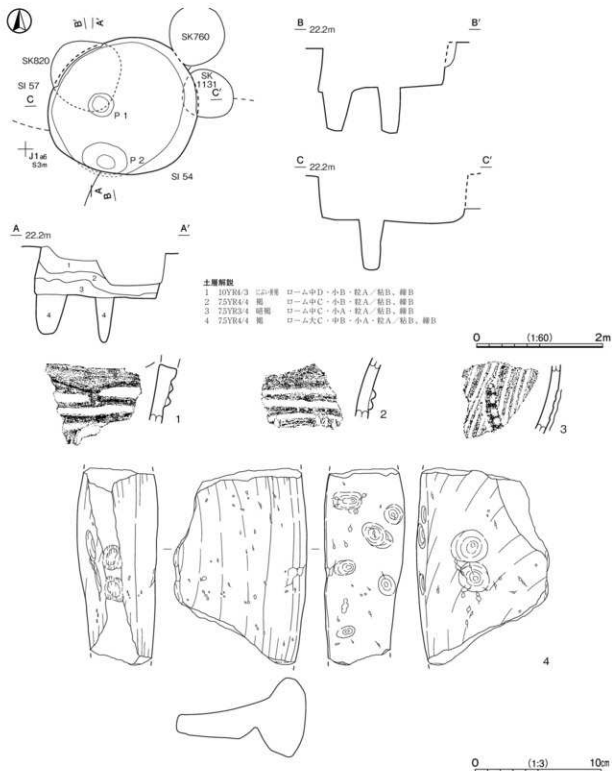
番号	種別	器種	口径	底径	胎土	色調	他成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	(31.0)	(23.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	液状口縁 液溜部直下円形貼付文 液溜部下に沈線によるし字状文・波し字状文 液溜部下に沈線による区画文・条線文充填	覆土下層 15% PL32
2	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英	橙	普通	口唇部直下に刺突文 腹部に円形刺突文を伴う風状貼付文	覆土下層 5%
3	縄文土器	深鉢	-	(9.7)	-	長石・石英	橙	普通	口唇部直下・腹部の隆帯に刺突文 胸部手載竹管による平行波線文	覆土下層 5% 2と同一個体
4	縄文土器	鉢	-	(5.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	頸部隆文横位 2L 単筋縄文 円形貼付文・沈線文 胸部縦位 2L 単筋縄文 横状突起のある 2 本一組の隆帯文	覆土下層 5%
5	縄文土器	鉢	-	(5.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	頸部隆文横位 2L 単筋縄文 円形貼付文・沈線文 胸部縦位 2L 単筋縄文	覆土下層 5%
6	縄文土器	釣手土器	-	(7.1)	-	長石・石英	橙	普通	釣り手部 円孔 円形刺突文に同心円貼付文	覆土下層 5%

第821号土坑 (第167図 第78表 PL13)

位置 調査区南東部のJ1a6区、標高22mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第54・57号竪穴建物、第820・1131号土坑に掘り込まれている。第760号土坑との関係は不明である。

規模と形状 長径240m、短径218mの楕円形で、長径方向はN-76°-Eである。深さは77cmで、壁は南部で内傾しているが、ほかは直立している。底面はほぼ平坦である。



第167図 第821号土坑・出土遺物実測図

ピット 2か所。P1は、中央部西寄りに位置し、深さ76cmである。P2は、南部の壁際に位置し、深さ60cmである。覆土は、ロームブロックを主体とした周囲からの流入土である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片97点(深鉢)、石器4点(安山岩製石皿1、黒曜石製剥片3)が出土している。縄文土器片の時期は、前期1点(不明)、中期62点(加曾利E式25、曾利式1、不明36)、後期28点(不明)、不明6点である。前・後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。

第78表 第821号土坑出土遺物観察表(第167図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	浅状口縁 2本一組の隆帯文	覆土下層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	背に沈線のある隆帯文	覆土下層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	長石・白色粒子	橙	普通	地文沈線文 押圧文のある隆帯文懸垂	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	石皿	(15.6)	(10.5)	6.4	(600.1)	安山岩	全面磨面・敲打彫形 両面磨面面積 凹面積面6か所・裏面2か所 縁断面一部敲打痕	覆土下層	15% PL33

第844号土坑(第168・169図 第79表)

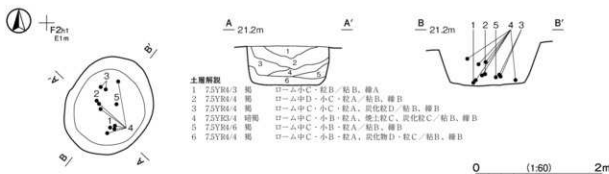
位置 調査区北西部のF2h1区、標高21mの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.60m、短径1.32mの楕円形で、長径方向はN-37°-Eである。深さは62cmで、壁は直立している。底面はほぼ平坦である。

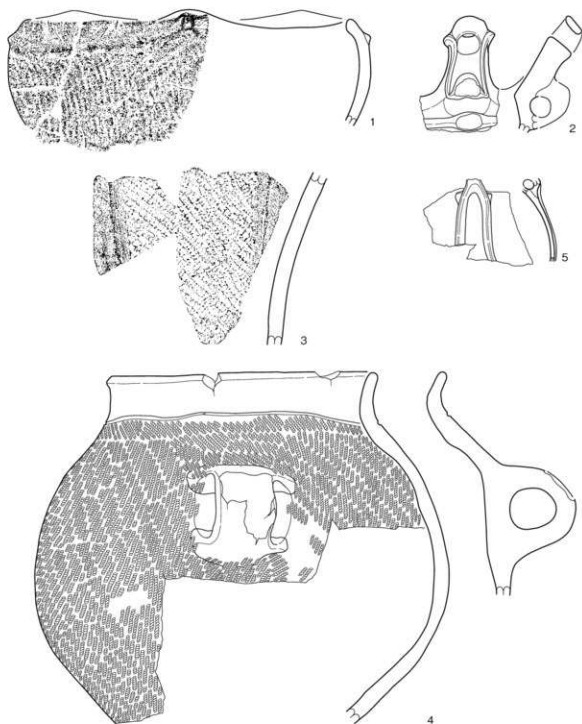
覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片80点(深鉢78、両耳壺1、注口土器1)が出土している。縄文土器片の時期は、中期11点(不明)、中期後葉～後期初頭62点(加曾利EⅣ～称名寺I式)、後期3点(称名寺式)、不明4点である。1～3・5は覆土下層から出土し、4は各層から出土したものが接合している。中期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭(加曾利EⅣ～称名寺I式期)と考えられる。



第168図 第844号土坑実測図



第 169 図 第 844 号土坑出土遺物実測図

第 79 表 第 844 号土坑出土遺物観察表 (第 169 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[25.6]	(9.2)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	浅状口縁 口縁部直下或肩部を起点に微隆帯文 横位 RL 半周縄文	覆土下層	5% 全面被熱
2	縄文土器	深鉢	—	(9.2)	—	長石・石英	橙	普通	把手部 肩部円孔 横状突起欠損	覆土下層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(13.1)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	地文縦位 RL 卑周縄文 微隆帯による区画文	覆土下層	5%
4	縄文土器	四耳甕	[20.7]	(27.9)	—	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部無文 胴部横状把手 横位・斜位 RL 卑周縄文	覆土下層～上層	40% PL33
5	縄文土器	注口土器	—	(6.5)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	横状突起欠損 突起より微隆帯文懸垂	覆土下層	5%

第 854 号土坑 (第 170 図 第 80 表)

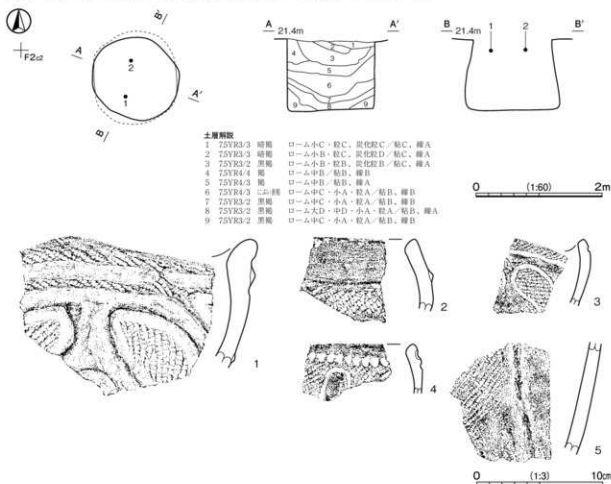
位置 調査区北西部の F 2 c2 区、標高 21 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.41 m、短径 1.26 m の楕円形で、長径方向は N - 49° - W である。深さは 112 cm で、壁は内傾している。底面は平坦である。

覆土 9 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 162 点 (深鉢)、石器 1 点 (チャート製剥片) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 151 点 (加曾利 E 式 62、不明 89)、後期 1 点 (不明)、不明 10 点である。1・2・4 は覆土上層から出土している。後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利 E III ~ IV 式期) と考えられる。



第 170 図 第 854 号土坑・出土遺物実測図

第 80 表 第 854 号土坑出土遺物観察表 (第 170 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英	にぶい青褐色	普通	底状口縁、地文模位 RL 半筋縄文、波頭部を起点に左右対称の微陰帯による区画文	覆土上層	5% PL33
2	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英	にぶい青褐色	普通	地文模位 LR 半筋縄文、口唇部直下に微陰帯文	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英	暗	普通	底状口縁、地文模位 LR 半筋縄文、波頭部を起点に花綱による左右対称の区画文	覆土中層	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英	暗	普通	地文模位 RL 半筋縄文、口唇部直下に系形文、上層部花綱による区画文	覆土上層	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(8.8)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	地文模位 RL 半筋縄文、微陰帯による区画文	覆土下層	5%

第 868 号土坑 (第 171 図 第 81 表)

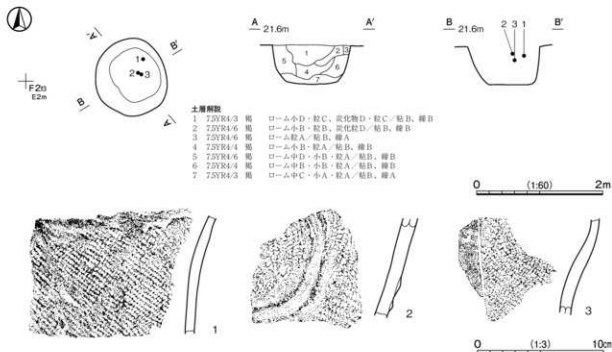
位置 調査区北西部の F 2 e3 区、標高 21 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.21 m、短径 1.16 m のほぼ円形である。深さは 61 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 7 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 26 点 (深鉢) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 23 点 (加曾利 E 式 15、不明 8)、後期 1 点 (不明)、不明 2 点である。1～3 は覆土上層から出土している。後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利 E Ⅲ 式期) と考えられる。



第 171 図 第 868 号土坑・出土遺物実測図

第 81 表 第 868 号土坑出土遺物観察表 (第 171 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	—	長石・石英	橙	普通	縦位 LR 単節縄文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	長石・石英・雲母	に白い黄斑	普通	2本一組の隆帯文による区画文 RL 単節縄文を基調	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(7.6)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 LR 単節縄文 磨消型垂文	覆土上層	5%

第 869 号土坑 (第 172～175 図 第 82 表 PL14)

位置 調査区北西部の F 2 g7 区、標高 21 m の台地平坦部に位置している。

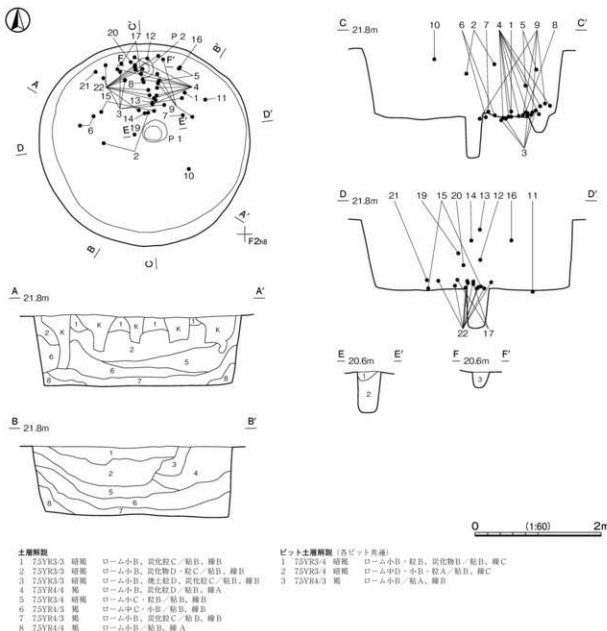
規模と形状 長径 3.35 m、短径 3.20 m のほぼ円形である。深さは 110 cm で、壁は直立している。底面はほぼ平坦である。

ピット 2か所。P1は、中央部に位置し、深さ64cmである。P2は、北部の壁際に位置し、深さ24cmである。覆土は、ロームブロックを主体とした周開からの流入土である。

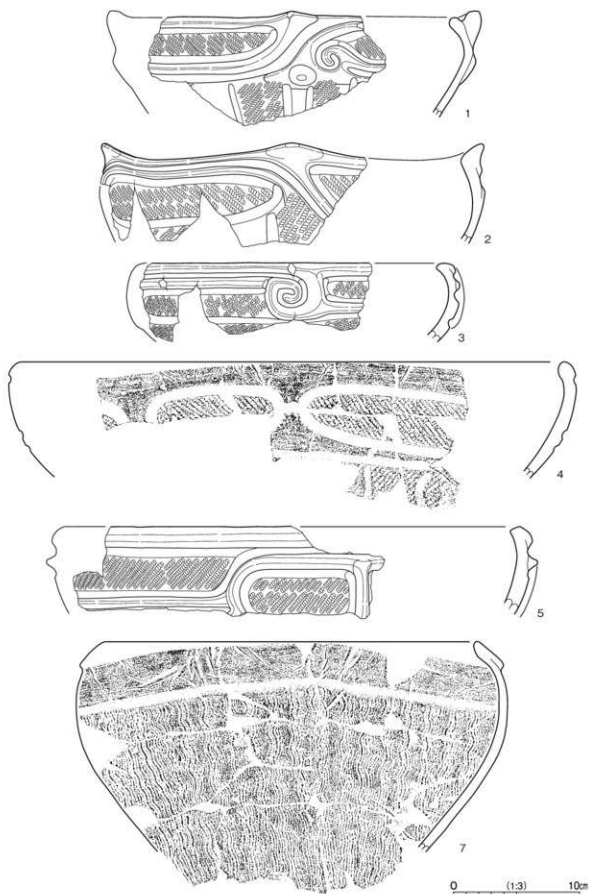
覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片759点(深鉢756、鉢3)、石器1点(安山岩製石皿)が北部に集中して出土している。縄文土器片の時期は、中期733点(阿玉台式1、加曽利E式596、不明136)、不明26点である。1・3・4・6～9・11・15・17・21・22は覆土下層から底面にかけて、2・5・10・12～14・16・19・20は覆土上層から、それぞれ出土している。いずれも廃棄されたものと考えられる。

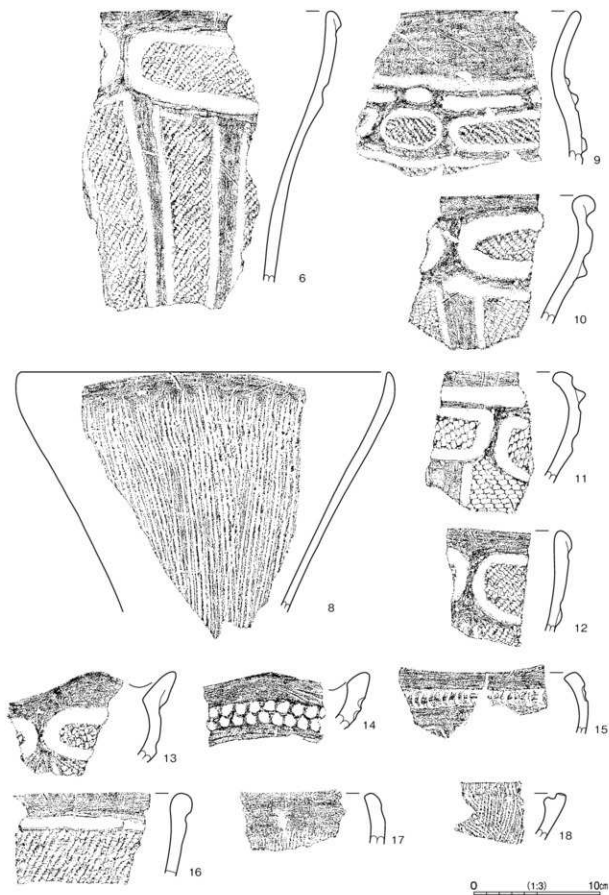
所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曽利EⅢ式古段階期)と考えられる。



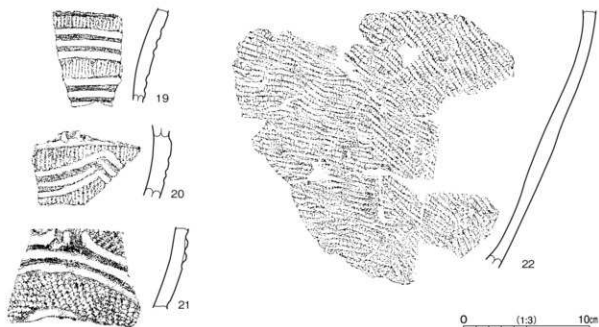
第172図 第869号土坑実測図



第 173 图 第 869 号土坑出土文物实图(1)



第 174 图 第 869 号土坑出土物实图(2)



第 175 図 第 869 号土坑出土遺物実測図(3)

第 82 表 第 869 号土坑出土遺物観察表 (第 173 ~ 175 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	[290]	(84)	—	長石・石英	にぶい黄緑	普通	小波状口縁 口縁部地文横位 LR 単節縄文 口縁部交角を起点に隆帯による入り組み区画文 胴部地文縦位 LR 単節縄文 磨消無垂文	覆土下層	10% PL33
2	縄文土器	深鉢	[300]	(79)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	小波状口縁 口縁部地文横位 LR 単節縄文 口縁部交角を起点に隆帯と沈線による入り組み区画文 胴部地文縦位 LR 単節縄文 磨消無垂文	覆土上層	15% PL33
3	縄文土器	深鉢	[240]	(62)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部地文横位 LR 後節縄文 隆帯による渦巻文を軸に隆帯と沈線による入り組み区画文 胴部地文縦位 LR 後節縄文	底面	10%
4	縄文土器	深鉢	[430]	(92)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部地文横位 LR 単節縄文 沈線の沿う隆帯による長楕円区画文 胴部地文横位 LR 単節縄文 磨消無垂文	覆土下層	10%
5	縄文土器	深鉢	[362]	(71)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部地文横位 LR 単節縄文 沈線の沿う隆帯による入り組み区画文	覆土上層	10%
6	縄文土器	深鉢	—	(21.5)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 LR 単節縄文 口縁部沈線の沿う隆帯による区画文 胴部磨消無垂文	覆土下層	10% PL33
7	縄文土器	鉢	[292]	(166)	—	長石・石英	橙	普通	口唇部直下肥厚部無文 轡面による波状条線文	覆土下層	20% PL33
8	縄文土器	鉢	[290]	(190)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	轡面による条線文	覆土下層	15% PL34
9	縄文土器	鉢	—	(121)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部直下無文 地文縦位 LR 単節縄文 隆帯による区画文 胴部磨消無垂文	底面	10% PL34
10	縄文土器	深鉢	—	(101)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部地文横位 LR 単節縄文 沈線の沿う隆帯による区画文 胴部磨消無垂文	覆土上層	5%
11	縄文土器	深鉢	—	(88)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部地文横位 LR 単節縄文 沈線の沿う隆帯による区画文 胴部地文縦位 LR 単節縄文 磨消無垂文	底面	5%
12	縄文土器	深鉢	—	(80)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	地文縦位 LR 単節縄文 沈線の沿う隆帯による区画文 胴部磨消無垂文	覆土上層	5%
13	縄文土器	深鉢	—	(72)	—	長石・石英	橙	普通	波状口縁 口縁部地文横位 LR 後節縄文 沈線の沿う隆帯による区画文 胴部地文縦位 LR 後節縄文 磨消無垂文	覆土上層	5%
14	縄文土器	深鉢	—	(45)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	小波状口縁 口唇部直下交互突文	覆土上層	5%
15	縄文土器	深鉢	—	(48)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部直下平軌竹管による刻突文	覆土下層	5%
16	縄文土器	深鉢	—	(65)	—	長石・石英	橙	普通	口唇部直下沈線文 縦位 LR 単節縄文	覆土下層	5%
17	縄文土器	深鉢	—	(40)	—	長石・石英	橙	普通	地文無垂文 口唇部直下無文	覆土下層	5%
18	縄文土器	深鉢	—	(37)	—	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部内面肥厚部 轡面による条線文	覆土	5%
19	縄文土器	深鉢	—	(74)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	地文無垂文 磨消平行文	覆土上層	5%
20	縄文土器	深鉢	—	(53)	—	長石・石英	橙	普通	地文無垂文 磨消連弧文	覆土上層	5%
21	縄文土器	深鉢	—	(63)	—	長石・石英	橙	普通	地文横位 LR 単節縄文 2 本一組の隆帯文	覆土下層	5%
22	縄文土器	深鉢	—	(30.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	縦位 LR 単節縄文	覆土下層	10%

第 874 号土坑 (第 176 図 第 83 表)

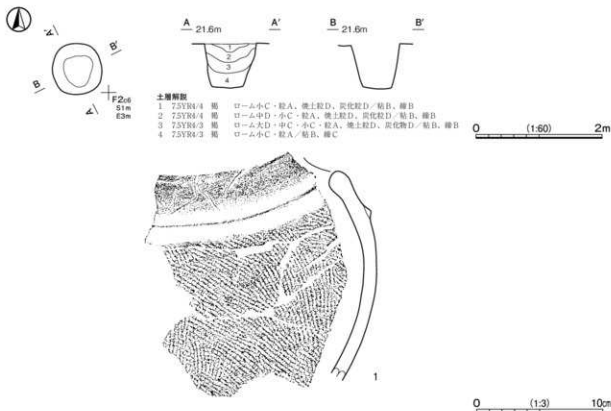
位置 調査区北西部の F 2 c6 区、標高 21 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.82 m、短径 0.80 m の円形である。深さは 70 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 2 点 (深鉢) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 1 点 (不明)、中期後葉～後期初頭 1 点 (加曾利 E IV～称名寺 I 式) である。1 は覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭 (加曾利 E IV～称名寺 I 式期) と考えられる。



第 176 図 第 874 号土坑・出土遺物実測図

第 83 表 第 874 号土坑出土遺物観察表 (第 176 図)

番号	種別	厚	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(16.5)	—	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	流状口縁・地文横紋・斜位瓦・單面縄文・口唇部直下隆起帯文	覆土	10% PL34

第 877 号土坑 (第 177 図 第 84 表)

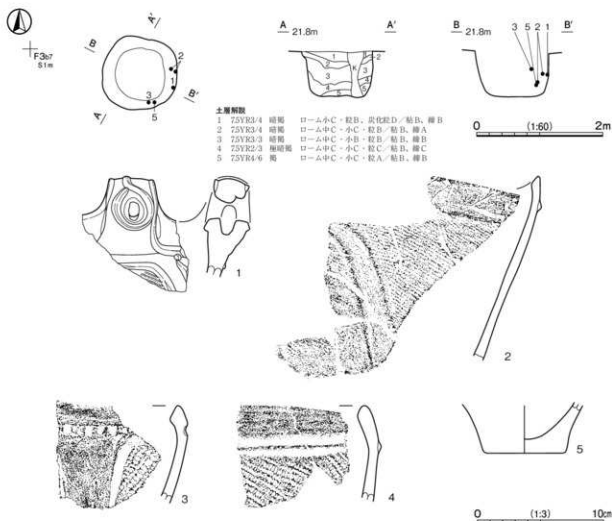
位置 調査区北西部の F 3 b7 区、標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.18 m、短径 1.10 m のほぼ円形である。深さは 67 cm で、壁は外傾している。底面は皿状である。

覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 39 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 16 点（不明）、中期後葉～後期初頭 23 点（加曾利 E IV～称名寺 I 式）である。1～3・5 は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺 I 式期）と考えられる。



第 177 図 第 877 号土坑・出土遺物実測図

第 84 表 第 877 号土坑出土遺物観察表（第 177 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(79)	—	長石・石英	橙	普通	棒状把手・凹孔に沿って微隆帯文・口縁部微隆帯による区画文・L 単節縄文を充填	覆土中層	5% PL34
2	縄文土器	深鉢	—	(146)	—	長石・石英	に白い漬	普通	口唇部直下に微隆帯文・微隆帯による区画文・L 無節縄文を充填	覆土中層	5% 1 上同一個体
3	縄文土器	深鉢	—	(78)	—	長石・石英	褐	普通	波状口縁・口唇部直下手段片管による斜交文・地文縦位 R/L 単節縄文・沈線による区画文	覆土中層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(56)	—	長石・石英	明褐色	普通	口唇部直下に微隆帯文・縦位 LR 単節縄文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(38)	66	長石・石英	明黄褐色	普通	無文	覆土中層	5%

第 883 号土坑（第 178 図 第 85 表）

位置 調査区北西部の E 3 d6 区、標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 東側が調査区域外のため、確認できた規模は、長径 1.75 m、短径 0.99 m で、平面は円形と推定

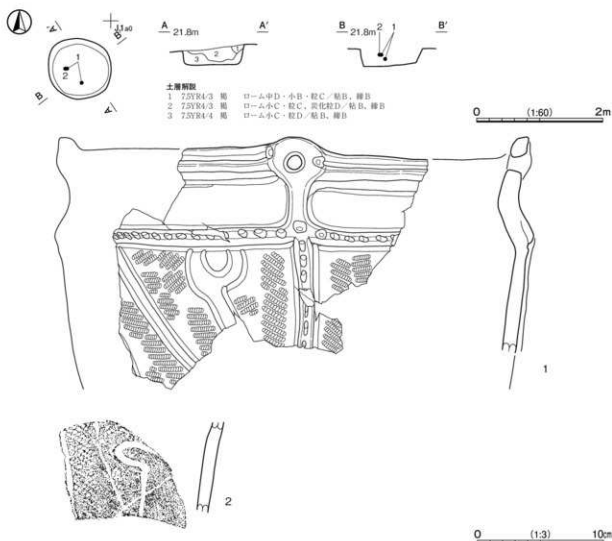
所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式新段階期）と考えられる。



覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、後期6点(称名寺Ⅰ式1、堀之内Ⅰ式1、不明4)である。1・2は、覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉(堀之内Ⅰ式期)と考えられる。



第179図 第886号土坑・出土遺物実測図

第86表 第886号土坑出土遺物観察表(第179図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[37.0]	(20.0)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部下面にキザミのある段帯文。底部に円孔・円形刺突文伴う縦段帯付文。胴部地文縦位LR単節縄文。2本一組の比喩文。	覆土上層	15% P1.34
2	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位LR単節縄文。比喩による区画文。	覆土上層	5%

第887号土坑(第180図 第87表)

位置 調査区南東部のI1j0区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.88m、短径0.86mで、円形である。深さは68cmで、壁は外傾している。底面は東西方向にわずかに傾斜している。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 17 点 (深鉢) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 2 点 (不明)、後期 15 点 (堀之内式 2、不明 13) である。1 は覆土上層、2 は覆土中層から出土している。中期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第 180 図 第 887 号土坑・出土遺物実測図

第 87 表 第 887 号土坑出土遺物観察表 (第 180 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(33.5)	-	長石・石英	1:4v+橙	普通	口縁部下端部帯文 縦位 R 無節縄文	覆土上層	10%
2	縄文土器	深鉢	-	(13.5)	-	長石・石英	1:4v+橙	普通	横歯による条縄文	覆土中層	5%

第 891 号土坑 (第 181 図 第 88 表)

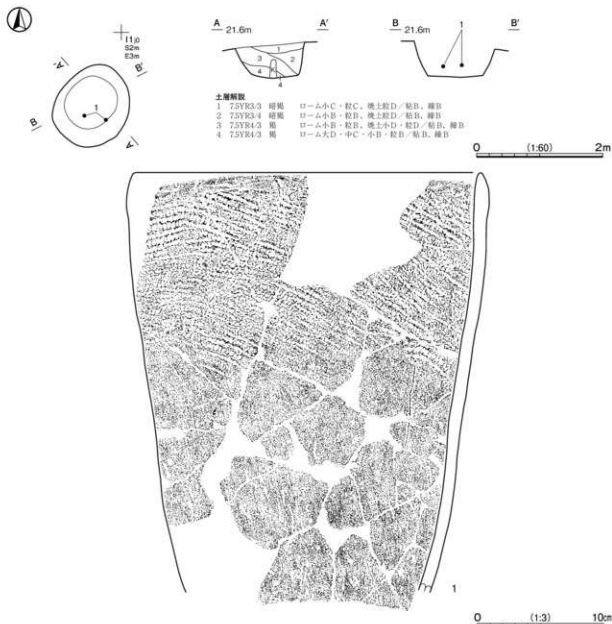
位置 調査区南東部の I 10 区、標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.31 m、短径 1.16 m の楕円形で、長径方向は $N-36^{\circ}-E$ である。深さは 56 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 107 点 (深鉢) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 16 点 (加曾利 E 式 12、不明 4)、後期 65 点 (称名寺式 9、不明 56)、不明 26 点である。1 は覆土下層から出土している。中期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第 181 図 第 891 号土坑・出土遺物実測図

第 88 表 第 891 号土坑出土遺物観察表 (第 181 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[27.8]	(33.3)	—	長石・石英	橙	普通	横位 RL 半輪縄文	覆土下層	25% PL34

第 894 号土坑 (第 182 図 第 89 表)

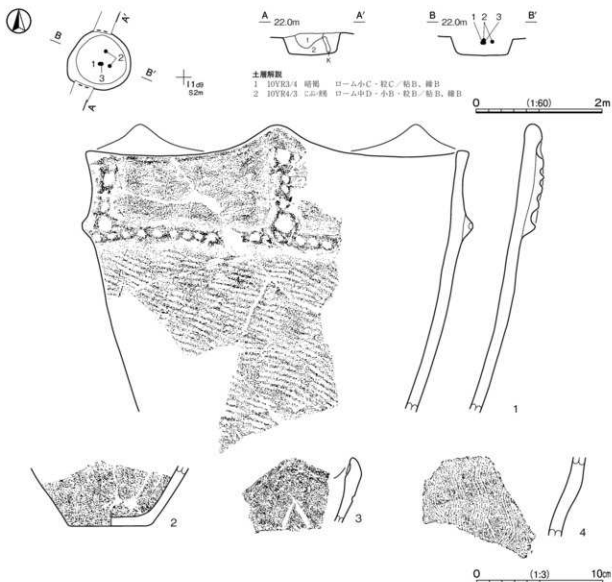
位置 調査区南東部の I 1 d8 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.03 m、短径 0.96 m のほぼ円形である。深さは 32 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 79 点 (深鉢) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 1 点 (不明)、後期 61 点 (称名寺式 25、不明 36)、不明 17 点である。1～4 は覆土上層から出土している。中期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉 (堀之内 1 式期) と考えられる。



第 182 図 第 894 号土坑・出土遺物実測図

第89表 第894号土坑出土遺物観察表(第182図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[29.6]	(22.8)	—	長石・石英	にぶい赤黄	普通	底状口縁 口縁部下端斜交文のある隆帯文 底状口縁 口縁部内面斜交文のある縦位貼付文 底状口縁 口縁部内面斜交文のある縦位貼付文 底状口縁 口縁部内面斜交文のある縦位貼付文	覆土上層	20% PL34
2	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	6.6	長石・石英	にぶい橙	普通	無文	覆土上層	10%
3	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	長石・石英	浅黄橙	普通	底状口縁 底頂部内面に円形斜交文 沈澱によ	覆土上層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	底状口縁 底頂部内面に円形斜交文 沈澱によ	覆土上層	5%

第895号土坑(第183・184図 第90表 PL14)

位置 調査区南東部の11g8区、標高22mの台地平坦部に位置している。

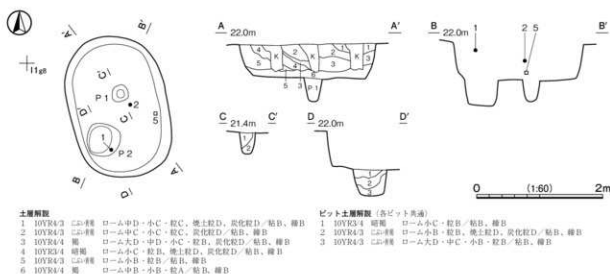
規模と形状 長径2.26m、短径1.56mの楕円形で、長径方向はN-22°-Wである。深さは55cmで、壁は外傾している。底面はほぼ平坦である。

ピット 2か所。P1は、中央部やや北寄りに位置し、深さ34cmである。P2は、南西部の壁際に位置し、深さ39cmである。覆土は、ロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

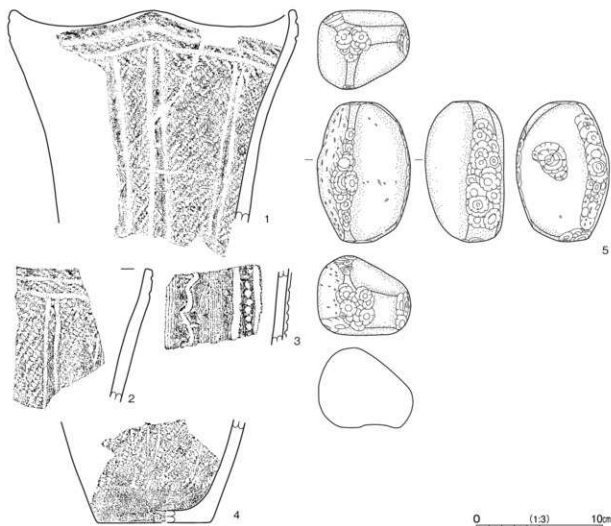
覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片95点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期47点(加曾利E式31、不明16)、後期45点(称名寺式3、堀之内式1、不明41)、不明3点である。1・2・4は覆土上層から、3は覆土中層から、それぞれ出土している。後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式古段階期)と考えられる。



第183図 第895号土坑実測図



第 184 図 第 895 号土坑出土遺物実測図

第 90 表 第 895 号土坑出土遺物観察表 (第 184 図)

番号	種別	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[220]	[168]	—	長石・石英	にぶい橙	普通	流状口縁 口縁部地文横位 RL 卑部縄文 胴部地文縦位 RL 卑部縄文 普通部赤文	覆土上層	25% PL35
2	縄文土器	深鉢	—	[105]	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部地文横位 RL 卑部縄文 胴部地文縦位 RL 卑部縄文 普通部赤文	覆土上層	5% 1 と同一個体
3	縄文土器	深鉢	—	[57]	—	長石・石英	赤褐	普通	何文のある隆帯文・沈線による蛇行沈線文部	覆土中層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	[79]	[88]	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 卑部縄文 沈線文部	覆土上層	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
5	敲石	11.2	7.4	6.3	700.0	砂石	素材精門礫 上下端部・側縁端部敲打痕 裏面凹痕 1 か所			覆土下層	100% PL35

第 896 号土坑 (第 185 図 第 91 表)

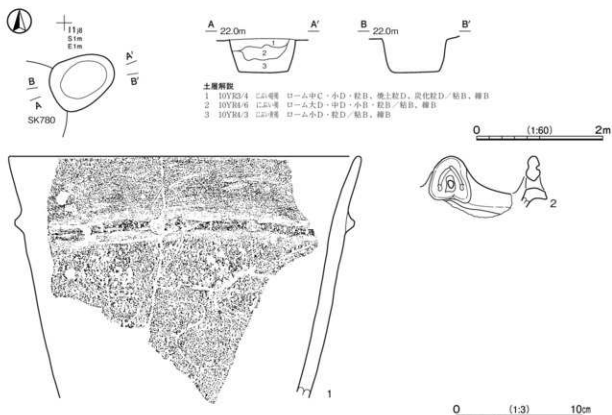
位置 調査区南東部の I 18 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 780 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.05 m、短径 0.83 m の楕円形で、長径方向は N-70°-E ある。深さは 54 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 34 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 4 点（加曾利 E 式）、後期 30 点（称名寺式 2、不明 28）である。1・2 は覆土から出土している。中期の土器片は、混入したものである。
所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺Ⅱ式期）と考えられる。



第 185 図 第 896 号土坑・出土遺物実測図

第 91 表 第 896 号土坑出土遺物観察表（第 185 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[27.6]	(19.2)	—	灰石・石英	橙	普通	口縁部無文・口縁部下縁部有文・胴部半截片管による刺突文・平行波刺文・袖部未穿孔2か所	覆土	10% PL35
2	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	灰石・石英	浅黄色	普通	波状口縁・波頂部下の円孔を中心に胴部に刺突文のある逆J字状文	覆土	5%

第 951 号土坑（第 186 図 第 92 表）

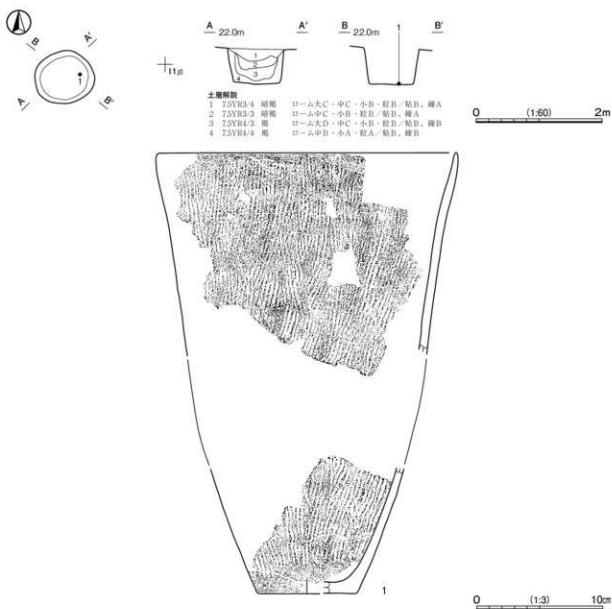
位置 調査区南東部の 11j9 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.90 m、短径 0.85 m の円形である。深さは 55 cm で、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 29 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 28 点（加曾利 E 式 13、不明 15）、後期前葉 1 点である。1 は底面から出土している。中期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第186図 第951号土坑・出土遺物実測図

第92表 第951号土坑出土遺物観察表(第186図)

番号	種別	厚	口径	口高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[23.6]	[35.0]	[7.8]	長石・石英	橙	普通	縦位し燃糸文	底面	25%

第964号土坑(第187・188図 第93表)

位置 調査区南東部のJ1a5区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

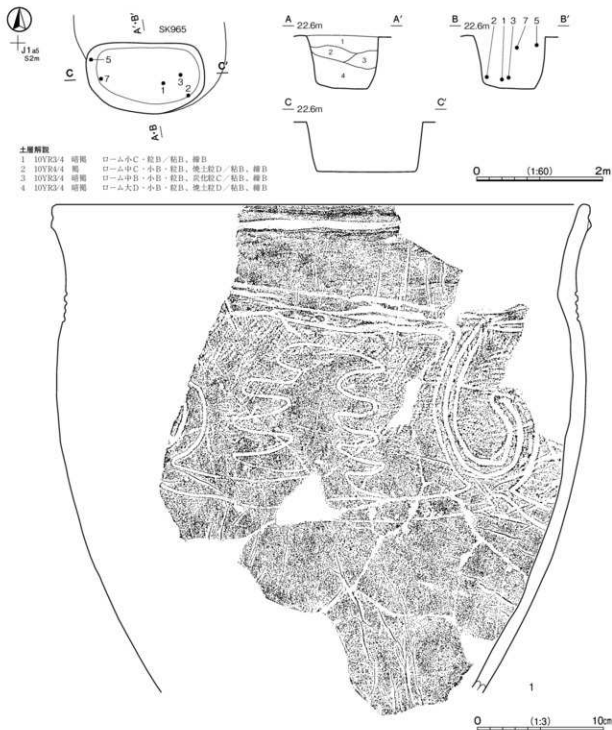
重複関係 第965号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.87m、短径1.10mの楕円形で、長径方向はN-87°-Wである。深さは82cmで、壁は外傾している。底面は北方向へわずかに傾斜している。

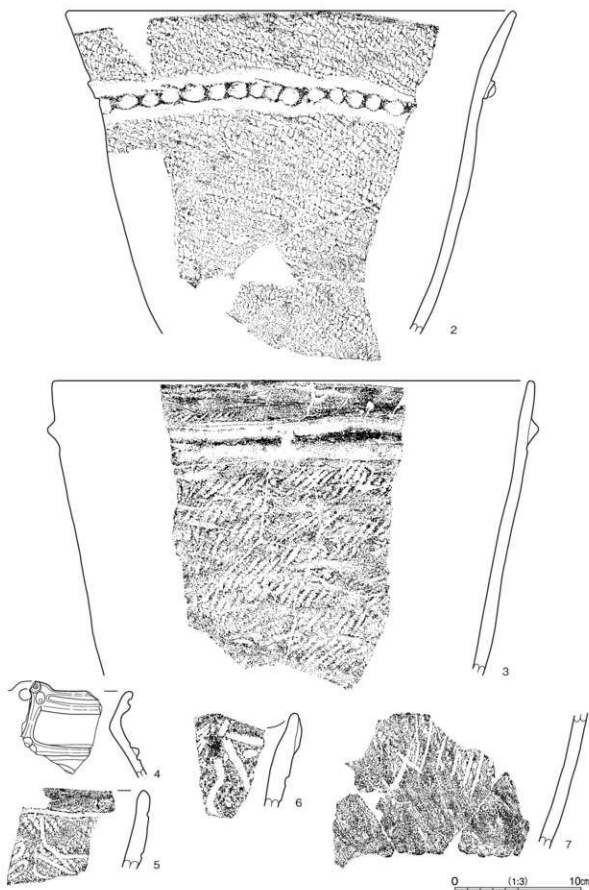
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 441 点（深鉢）、石器 2 点（チャート製剥片）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 160 点（加曾利 E 式 109、曾利式 1、不明 50）、後期 207 点（称名寺式 6、堀之内式 31、不明 170）、不明 74 点である。1～3 は覆土下層から、4・5・7 は覆土上層からそれぞれ出土している。中期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉（堀之内 1 式期）と考えられる。



第 187 図 第 964 号土坑・出土遺物実測図



第 188 图 第 964 号土坑出土文物实测图

第93表 第964号土坑出土遺物観察表(第187・188図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[420]	(38.7)	—	長石・石英	橙	普通	口部直下に沈積文・口縁部無文・胴部沈積文 3条・胴部地文横位・底位LR単節縄文・胴部 沈積による帯ノ字文・蛇行懸垂文	覆土下層	20% PL35
2	縄文土器	深鉢	[35.2]	(25.6)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文横位LR単節縄文・口縁部下端部による 押圧文のある隆帯文	覆土下層	15% PL35
3	縄文土器	深鉢	[37.6]	(23.4)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	地文横位LR単節縄文・口縁部下端部による 隆帯文	覆土下層	15% PL35
4	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	小笠形直下四孔・胴部四孔・円形刺突文のある 底位胎行文	覆土上層	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	地文横位RL単節縄文・沈積による蛇行懸垂文	覆土上層	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	長石・石英	橙	普通	小笠状口縁・液滴部下端長胎行文・地文横位L 単節縄文・沈積による蛇行懸垂文	覆土中層	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	長石・石英	橙	普通	地文横位LR単節縄文・沈積による懸垂文	覆土上層	5%

第965号土坑(第189～192図 第94表)

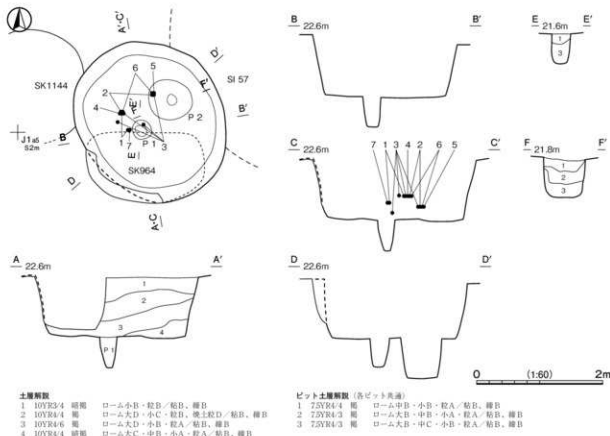
位置 調査区南東部のJ1a5区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第57号竪穴建物跡、第1144号土坑を掘り込み、第964号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.62m、短径2.25mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。深さは95cmで、壁は外傾している。底面はほぼ平坦である。

ピット 2か所。P1は、中央部やや西寄りに位置し、深さ48cmである。P2は、南西部の北東壁寄りに位置し、深さ63cmである。覆土は、ロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

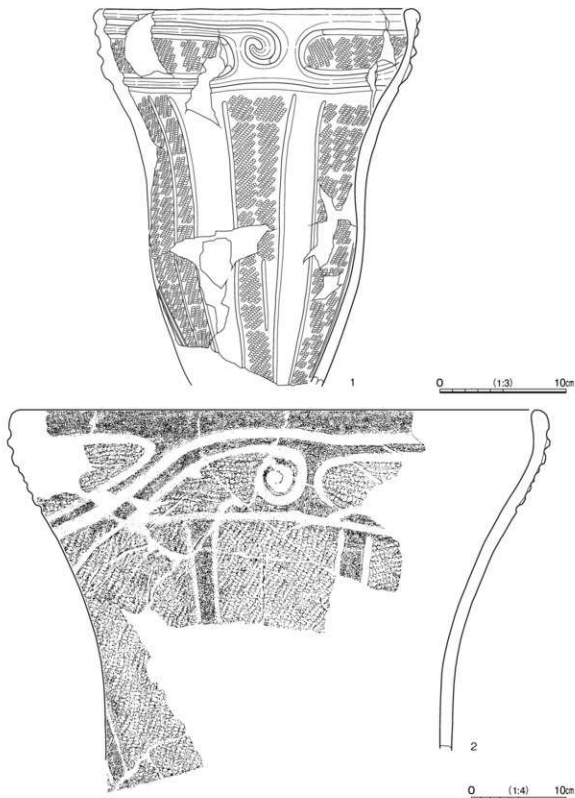
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。



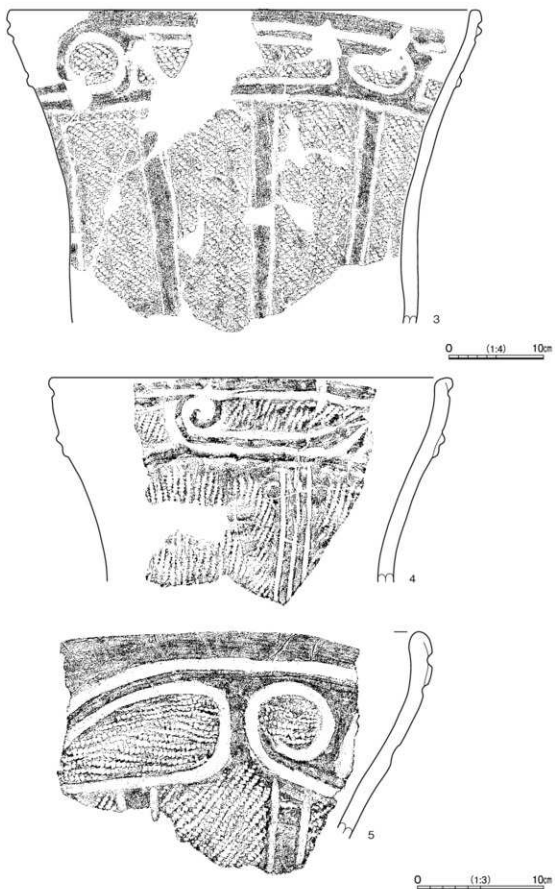
第189図 第965号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 89 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 50 点（加曾利 E 式 32、不明 18）、後期 30 点（不明）、不明 9 点である。1～7 は中央部の覆土下層から集中して出土している。後期の土器片は混入したものである。

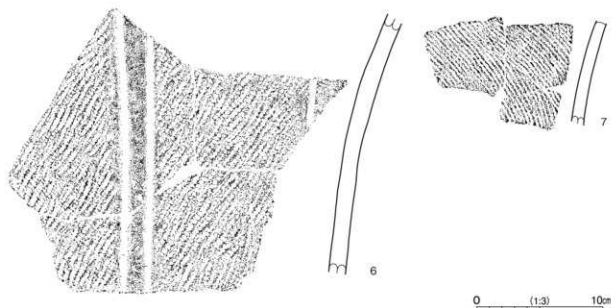
所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E Ⅱ 式新段階期）と考えられる。



第 190 図 第 965 号土坑出土遺物実測図(1)



第 191 图 第 965 号土坑出土遗物实图(2)



第192図 第965号土坑出土遺物実測図3)

第94表 第965号土坑出土遺物観察表(第190～192図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[248]	(299)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位・一部横位 RL 単筋縄文 口縁部沈線の沿う隆帯による渦巻文・区画文 胴部磨消懸垂文	覆土下層	50% PL36
2	縄文土器	深鉢	[55.0]	(37.1)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部地文斜位 RL 単筋縄文 口縁部沈線の沿う隆帯による渦巻文・区画文 胴部地文縦位 RL 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土下層	15%
3	縄文土器	深鉢	49.7	(33.1)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 口縁部沈線の沿う隆帯による渦巻文・区画文 胴部磨消懸垂文	覆土下層	30% PL36
4	縄文土器	深鉢	[31.2]	(16.2)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 口縁部沈線の沿う隆帯による渦巻文・区画文 胴部磨消懸垂文	覆土下層	10% PL36
5	縄文土器	深鉢	—	(16.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部地文斜位 RL 単筋縄文 口縁部沈線の沿う隆帯による渦巻文・区画文 胴部地文縦位 RL 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土下層	5% PL36
6	縄文土器	深鉢	—	(19.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	胴部地文縦位 RL 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土下層	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	斜位 L 磨消文	覆土下層	5%

第975号土坑(第193図 第95表)

位置 調査区南東部の J 1 b5 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

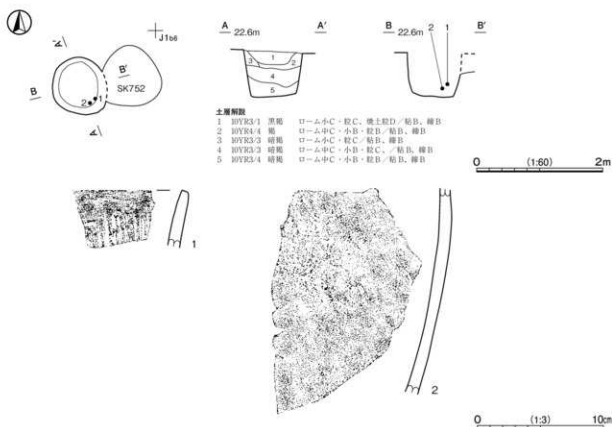
重複関係 第752号土坑との関係は不明である。

規模と形状 長径 0.95 m、短径 0.87 m の円形である。深さは 73 cm で、壁は直立している。底面はほぼ平坦である。

覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 41 点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期 4 点(加曽利 E 式 3、不明 1)、後期 29 点(堀之内式 5、後期前葉 24)、不明 8 点である。1・2 は覆土下層から出土している。中期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第193図 第975号土坑・出土遺物実測図

第95表 第975号土坑出土遺物観察表(第193図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(45)	-	長石・石英	橙	普通	縄文土器による条線文	覆土下層	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(161)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	無文	覆土下層	5%

第984号土坑(第194図 第96表)

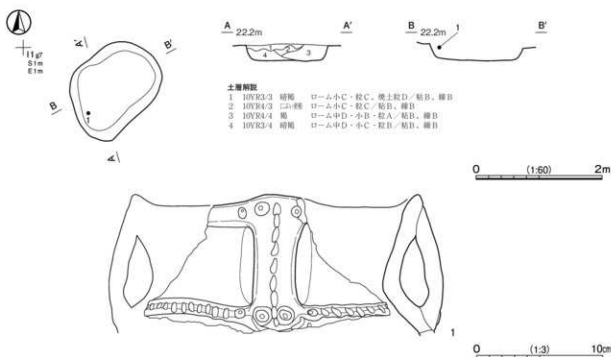
位置 調査区南東部のI1g7区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.55m、短径1.16mの不整楕円形で、長径方向はN-46°-Eである。深さは26cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片80点(深鉢79、壺1)が出土している。縄文土器片の時期は、中期8点(加曾利E式5、不明3)、後期60点(称名寺式6、堀之内式33、不明21)、不明12点である。1は覆土上層から出土している。中期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉(称名寺Ⅱ式~堀之内Ⅰ式期)と考えられる。



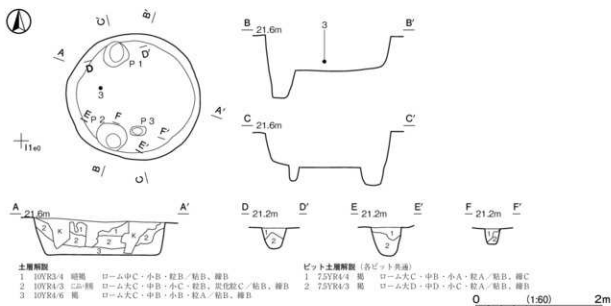
第194図 第984号土坑・出土遺物実測図

第96表 第984号土坑出土遺物観察表(第194図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	陶土器	壺	[22.5]	[11.2]	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	小流状口縁・流道部下横状把手・把手中央部キザミ列彫刻・把手下部同形刻文・内影貼付文・口縁部下端キザミのある隆起文	覆土上層	10%, PL36

第985号土坑(第195・196図 第97表)

位置 調査区南東部のIId0区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

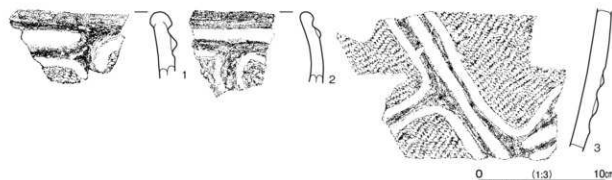


第195図 第985号土坑実測図

規模と形状 長径 2.09 m、短径 1.98 m の円形である。深さは 59cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。
ビット 3 か所。P 1 は、北壁際に位置し、深さ 26cm である。P 2 は、南壁際に位置し、深さ 42cm である。P 3 は、南壁寄りに位置し、深さ 21cm である。覆土は、ロームブロックやローム粒を多く含むことから人為堆積である。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。
遺物出土状況 縄文土器片 158 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 109 点（加曾利 E 式 42、不明 67）、後期 11 点（不明）、不明 38 点である。2・3 は覆土下層から出土している。後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E II 式期）と考えられる。



第 196 図 第 985 号土坑出土遺物実測図

第 97 表 第 985 号土坑出土遺物観察表（第 196 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(47)	-	長石・石英	にぶ・赤褐色	普通	口縁部地文微 LR 単筋縄文 沈線の沿う隆帯による区画文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(56)	-	長石・石英	にぶ・赤褐色	普通	口縁部地文微 LR 単筋縄文 沈線の沿う隆帯による区画文	覆土下層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(11.0)	-	長石・石英	にぶ・赤褐色	普通	地文微 LR 単筋縄文 沈線の沿う 2 本一組の隆帯文	覆土下層	5%

第 988 号土坑（第 197 図 第 98 表）

位置 調査区南東部の I 1 i0 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

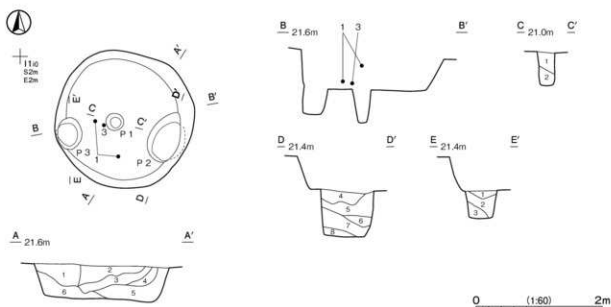
規模と形状 径 2.15 m の円形である。深さは 56cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

ビット 3 か所。P 1 は、中央部やや西寄りに位置し、深さ 52cm である。P 2 は、東壁際に位置し、深さ 72 cm である。P 3 は、西壁際に位置し、深さ 43cm である。覆土は、ロームブロックやローム粒を含むことから人為堆積である。

覆土 6 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 107 点（深鉢 106、鉢 1）、石器 1 点（黒曜石製石錐）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 105 点（加曾利 E 式 72、不明 33）、不明 2 点である。1 は覆土上層と覆土下層から出土したものが接合している。2 は P 2 の底面、3・4 は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E II 式期）と考えられる。

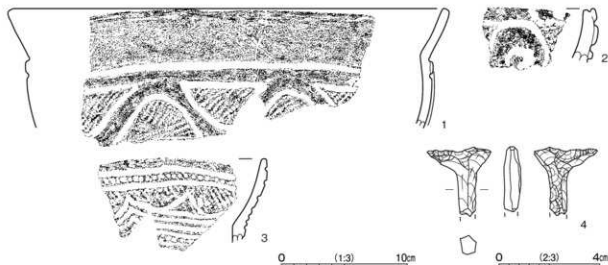


土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|--------------------------------|
| 1 | 75YR3/3 | 地 | ローム中C・小B・粒C、焼土粒C／粘B、雜B |
| 2 | 75YR4/2 | 暗灰 | ローム中B・小B・粒C、焼土粒D、炭化粒C／粘B、雜B |
| 3 | 75YR4/4 | 地 | ローム中B・小B・粒B、粘B |
| 4 | 75YR3/3 | 地 | ローム中B・粒B、炭化粒D／粘B、雜B |
| 5 | 75YR4/4 | 地 | ローム中B・粒A、焼土粒D、炭化粒D／粘B、雜B |
| 6 | 75YR4/4 | 地 | ローム中C・小B・粒B、焼土小D・粒D、炭化粒D／粘B、雜B |

ビット土層解説 (各ビット共通)

- | | | | |
|---|---------|----|-----------------------|
| 1 | 10YR3/4 | 暗灰 | ローム小C・粒C／粘B、雜B |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D／粘B、雜C |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム小D・粒D／粘B、雜B |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム粒C／粘B、雜B |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム中D・小C／粘B、雜B |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐 | ローム小D・粒C／粘B、雜B |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐 | 焼土粒D、炭化粒C／粘B、雜C |
| 8 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム粒D／粘B、雜B |



第197図 第988号土坑・出土遺物実測図

第98表 第988号土坑出土遺物観察表 (第197図)

番号	種別	部種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	鉢	[342]	(9.6)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部無文・頸部地文横LR平筋縄文・沈瀬の沿う隆帯による波状文	覆土上層 覆土下層	10% PL36
2	縄文土器	深鉢	—	(4.2)	—	長石・石英	正灰・黄褐	普通	口縁部地文横位LR平筋縄文・沈瀬の沿う隆帯による波状文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	長石・石英	明赤褐	普通	地文横位LR平筋縄文・沈瀬による波状文	覆土上層	5%
番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
4	石鏃	(27)	25	07	(269)	黒曜石	素材縦長薄片・横み部T字形・両面加工・鏃部欠損			覆土上層	70% PL36

第997号土坑（第198図 第99表）

位置 調査区南東部のI1c8区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

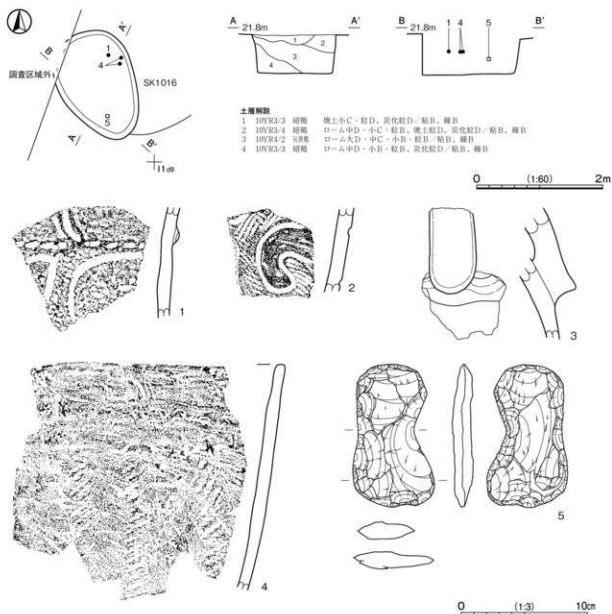
重複関係 第1016号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.80m、短径1.25mの楕円形と推定でき、長径方向はN-30°-Wである。深さは60cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片89点（深鉢88、壺1）、石器1点（雲母片岩製打製石斧）が出土している。縄文土器片の時期は、中期40点（加曽利E式34、不明6）、後期25点（称名寺式1、前葉24）、不明24点である。1・4は覆土上層、5は覆土下層から出土している。中期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉（称名寺式～堀之内1式期）と考えられる。



第198図 第997号土坑・出土遺物実測図

第99表 第997号土坑出土遺物観察表(第198図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	刺突文のある隆帯文、肩部に円形刺突文のある扁位貼付文、胴部地文斜位斑、卑部縄文、胴部沈線文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	沈線による横J字状区画文、LR卑部縄文充填	覆土	5%
3	縄文土器	壺	—	(10.4)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	横状把手、無文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(17.9)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部平截竹管による波状平行沈線文、胴部扁位R無部縄文	覆土上層	10% PL37
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
5	打製石斧	11.3	6.5	1.7	(141.0)	雲母片岩	分銅形 両面周縁からの削摩調整			覆土下層	95% PL36

第999号土坑(第199・200図 第100表)

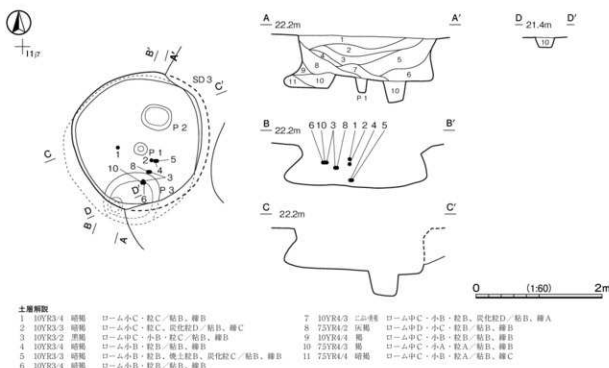
位置 調査区南東部のI17区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認された開口部の規模は長径2.18m、短径2.07mで、円形と推定される。最大径は長径2.38m、短径2.17mで、底面は楕円形を呈し、ほぼ平坦である。深さは68cmで、壁は、底面から20～50cmのところまでくびれ、上位は外傾、下位は内彎している。

ピット 3か所。P1は、中央部に位置し、深さ24cmである。P2は、中央部北寄りに位置し、深さ34cmである。P3は、南壁際に位置し、深さ20cmで、底面の南西壁際には深さ15cmの小ピットがある。覆土は第9～11層で、ロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

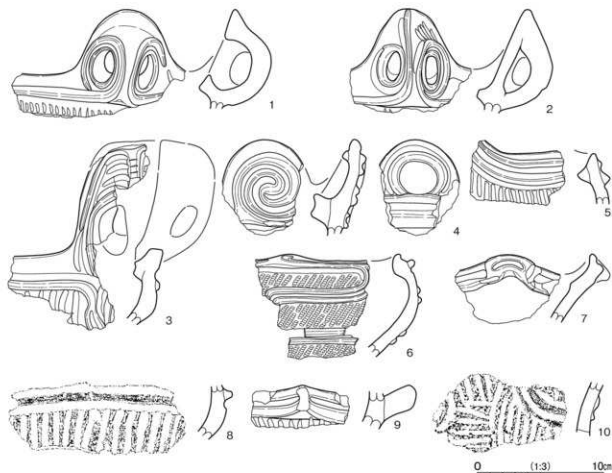
覆土 8層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。



第199図 第999号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 185 点 (深鉢) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 34 点 (加曽利 E 式 27、不明 7)、後期 115 点 (称名寺式 9、不明 106)、不明 36 点である。1～3・6・8・10 は覆土中層から、4・5 は覆土下層からそれぞれ出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曽利 E I 式中段階期) と考えられる。



第 200 図 第 999 号土坑出土遺物実測図

第 100 表 第 999 号土坑出土遺物観察表 (第 200 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(78)	—	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	屈曲状把手 口唇部直下屈曲状内孔から出る陰帯文 口縁部縦位沈線文	覆土中層	5% PL37
2	縄文土器	深鉢	—	(82)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	屈曲状把手 口唇部直下屈曲状内孔から出る陰帯文	覆土中層	5% PL37
3	縄文土器	深鉢	—	(150)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	屈曲状把手 腹部キザミのある陰帯帯 口縁部縦位沈線文を充填	覆土中層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(76)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	屈曲状口縁 口縁部内面肥厚帯 沈線のある陰帯に上る点線文	覆土下層	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(40)	—	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	皮状口縁 口縁部内面肥厚帯 口唇部直下に沈線のある陰帯文 縦位沈線文を充填	覆土下層	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(81)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	小波状口縁 波道部沈線による縦い点線文 地文横位 L/R 半節縄文 2 本一組の陰帯によるクランタ文	覆土中層	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(54)	—	長石・石英	にぶい黒	普通	小波状口縁 波道部突出した陰帯による区画文 口縁部無文	覆土	5%
8	縄文土器	深鉢	—	(43)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	沈線の沿う陰帯による区画文 縦位沈線文充填	覆土中層	5%
9	縄文土器	深鉢	—	(34)	—	長石・石英・雲母	灰黒	普通	沈線のある陰帯による突起 縦位沈線文充填	覆土上層	5%
10	縄文土器	深鉢	—	(40)	—	長石・石英・雲母	暗赤黒	普通	地文横位 L/R 半節縄文 沈線のある陰帯文 沈線文充填	覆土中層	5%

第1000号土坑 (第201図 第101表)

位置 調査区南東部のⅠ16区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

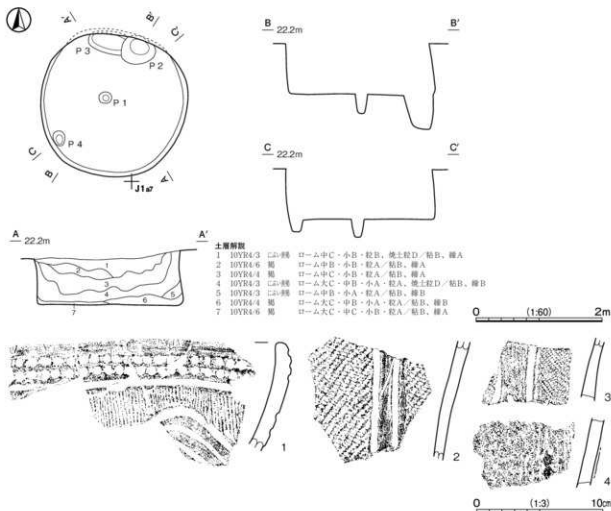
規模と形状 規模は長さ2.38m、短径2.36mの円形である。深さは78cmで、壁は、北壁が底面から40cmのところまでくびれ、上位は外傾、下位は内彎している以外は、ほぼ直立している。底面は平坦である。

ピット 4か所。P1は、中央部に位置し、深さ30cmである。P2・P3は、北壁際に位置し、P2が深さ53cm、P3が深さ30cmである。P4は、南西壁際に位置し、深さ17cmである。

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片133点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期62点(加曾利E式35、曾利式3、不明24)、後期66点(称名寺式15、不明51)、不明5点である。1～4は覆土から出土している。後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式新段階期)と考えられる。



第201図 第1000号土坑・出土遺物実測図

第101表 第1000号土坑出土遺物観察表(第201図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	長石・石英	明赤褐色	普通	地文縦線R無筋縄文 口唇部直下3本一組の浅縦文・交互斜交文 口縁部磨消波状文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	長石・石英	に高い黄褐色	普通	地文RL単筋縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	長石・石英	橙	普通	地文LR単筋縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	長石・石英	浅黄褐色	普通	地文条線文 指頭正横のある磨消懸垂	覆土	5%

第1016号土坑(第202・203図 第102表)

位置 調査区南東部のI1c8区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第997・1017号土坑に掘り込まれている。

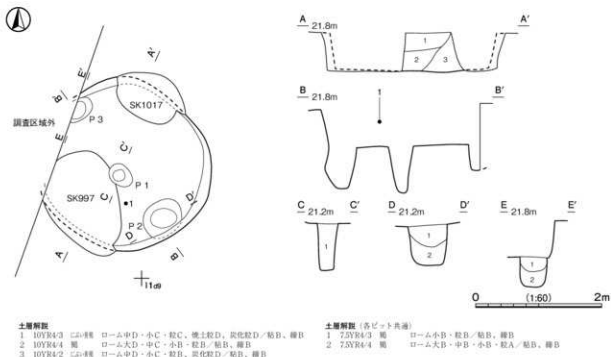
規模と形状 規模は長径2.73m、短径2.67mの円形と推定される。深さは61cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

ピット 3か所。P1は、中央部に位置し、深さ74cmである。P2は、南東壁際に位置し、深さ63cmである。P3は、北西壁際に位置し、深さ40cmである。覆土は、ロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

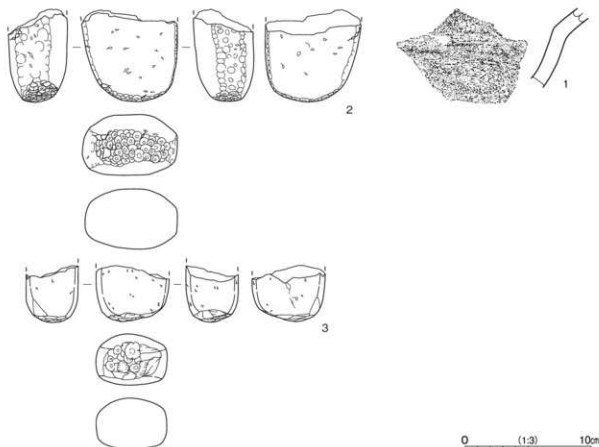
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片66点(深鉢65、浅鉢1)、石器2点(安山岩製敲石)が出土している。縄文土器片の時期は、中期7点(加曾利E式2、不明5)、後期54点(称名寺式9、堀之内式1、不明44)、不明5点である。1は覆土上層から出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅠ・Ⅱ式期)と考えられる。



第202図 第1016号土坑実測図



第 203 図 第 1016 号土坑出土実物実測図

第 102 表 第 1016 号土坑出土遺物観察表 (第 203 図)

番号	種 別	部 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	色 調	焼 成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	浅鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	無文	覆土上層	5%
番号	部 種	長 径	幅	厚 径	重量	材 質	特 徴			出土位置	備 考
2	敲石	(7.3)	7.6	4.8	(372.9)	安山岩	全面研磨	下端部・側縁端部敲打痕		覆土	50%
3	敲石	(4.5)	5.8	4.2	(146.4)	安山岩	全面研磨	下端部敲打痕		覆土	40%

第 1060 号土坑 (第 204 図 第 103 表)

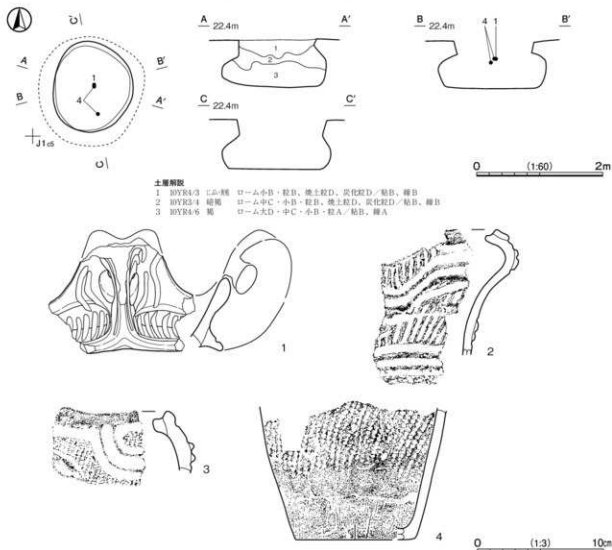
位置 調査区南東部の J 1 b5 区、標高 22 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径 1.44 m、短径 1.25 m の楕円形で、長径方向は N - 16° - E である。最大径は長径 1.74 m、短径 1.70 m で、底面は円形を呈し、ほぼ平坦である。深さは 75 cm で、壁は、底面から 45 ~ 65 cm のところでぐびれ、上位は外傾、下位は内彎している。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 60 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 31 点（加曾利 E 式 14、不明 17）、後期 22 点（不明）、不明 7 点である。1・4 は覆土中層から出土している。後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E I 式中段階期）と考えられる。



第 204 図 第 1060 号土坑・出土遺物実測図

第 103 表 第 1060 号土坑出土遺物観察表（第 204 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(88)	—	長石・石英・雲母	にぶい青	普通	波状口縁、波状部隆起帯、口縁部下縁部状の隆起文、口縁部隆起帯隆起文	覆土中層	5% PL37
2	縄文土器	深鉢	—	(99)	—	長石・石英	にぶい青	普通	口縁部隆起帯のある隆起文、波状文、隆起部隆起文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(49)	—	長石・石英・雲母	にぶい青	普通	口縁部隆起帯、口縁部隆起帯のある隆起文、波状文、隆起部隆起文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(106)	9.5	長石・石英・雲母	にぶい青	普通	波状口縁、波状部隆起帯、口縁部下縁部状の隆起文、口縁部隆起帯隆起文	覆土中層	15%

第 1131 号土坑 (第 205 図 第 104 表)

位置 調査区南東部の J 1a6 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

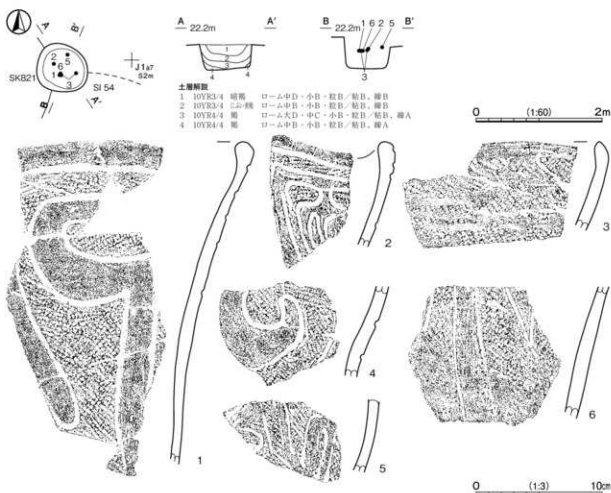
重複関係 第 54 号竪穴建物跡、第 821 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.85 m、短径 0.75 m の楕円形で、長径方向は N - 40° - W と推定される。深さは 41 cm で、壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 27 点 (深鉢) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 4 点 (加曾利 E 式)、後期 23 点 (称名寺式 17、不明 6) である。1 ~ 3・5・6 は覆土上層から出土している。中期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期初頭 (称名寺 I 式期) と考えられる。



第 205 図 第 1131 号土坑・出土遺物実測図

第 104 表 第 1131 号土坑出土遺物観察表 (第 205 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(25.1)	—	長石・石英	にぶい・褐	普通	口唇部直下無文。沈堀による上面部 J 字状区画文。LR 半節縄文光焼	覆土上層	10% PL37
2	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	長石・石英	にぶい・褐	普通	浅状口縁。沈堀による区画文。LR 半節縄文光焼	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	長石・石英	にぶい・褐	普通	口縁部横位・一部縦位 RL 半節縄文	覆土上層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英	にみち非焼	普通	沈殿による渦巻状区画文 L.R 単筋縄文光焼	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英	橙	普通	沈殿による区画文 L.R 単筋縄文光焼	覆土上層	5%
6	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英	明赤焼	普通	沈殿による区画文 L.R 単筋縄文光焼	覆土上層	5%

第1142号土坑 (第206図 第105表)

位置 調査区南東部のJ1a7区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

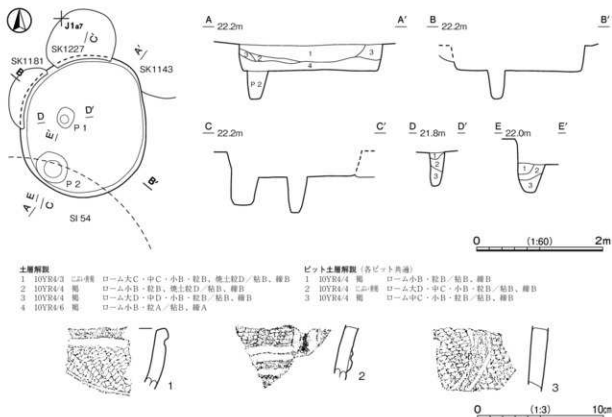
重複関係 第1143号土坑を掘り込み、第54号竪穴建物、第1181・1227号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.27m、短径2.08mのほぼ円形である。深さは42cmで、壁は直立している。底面は平坦である。
ピット 2か所。P1は、中央部の北西寄りに位置し、深さ56cmである。P2は、南西壁際に位置し、深さ45cmである。覆土は、周囲からの流入土である。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片55点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期48点(加曾利E式12、不明36)、不明7である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式期)と考えられる。



第206図 第1142号土坑・出土遺物実測図

第105表 第1142号土坑出土遺物観察表(第206図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	縄文横位RL単節縄文 沈瀬の沿う隆帯による 凸凹文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	縄文縦位RL単節縄文 沈瀬のある隆帯による 凸凹文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	縄文縦位RL単節縄文 波状磨消無垂文	覆土	5%

第1143号土坑(第207～209図 第106表 PL14)

位置 調査区南東部のJ1a7区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1142・1227号土坑、第3号溝に掘り込まれている。

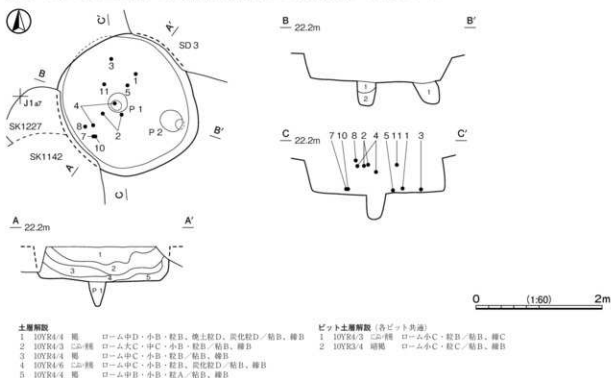
規模と形状 長径2.32m、短径2.08mの楕円形で、長径方向はN-70°-Wである。深さは50cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

ビット 2か所。P1は、中央部に位置し、深さ36cmである。P2は、南東壁際に位置し、深さ34cmである。覆土は、ロームブロックやローム粒子を含むことから、人為堆積である。

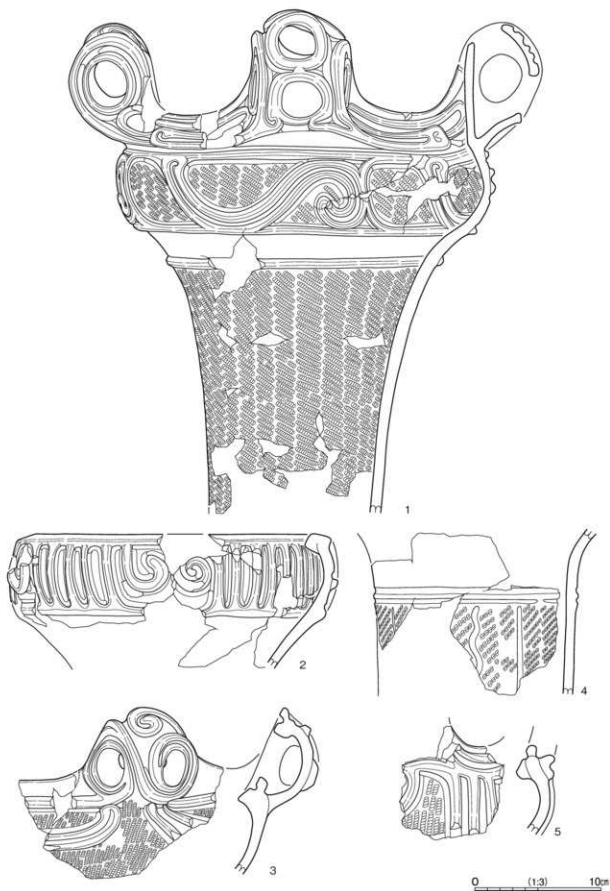
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片366点(深鉢365、鉢1)、石器2点(黒曜石製剥片)が出土している。縄文土器片の時期は、中期213点(加曾利E式84、曾利式6、不明123)、後期136点(称名寺式86、不明50)、不明17点である。1・3・5・7・10は覆土下層から、2・4・6・8・11は覆土上層からそれぞれ出土している。中期(加曾利EⅡ式・曾利式)・後期の土器片は、混入したものである。

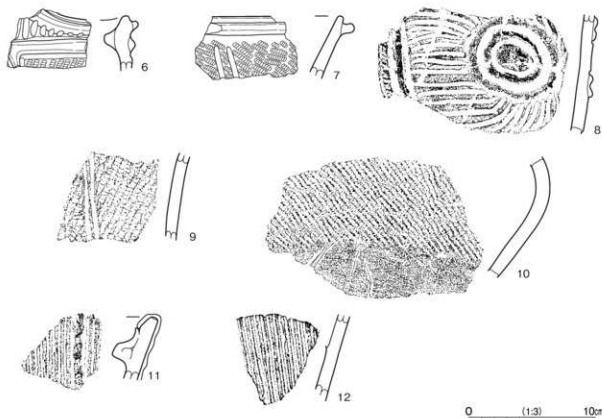
所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅠ式中段階期)と考えられる。



第207図 第1143号土坑実測図



第 208 图 第 1143 号土坑出土遗物实测图(1)



第 209 図 第 1143 号土坑出土遺物実測図(2)

第 106 表 第 1143 号土坑出土遺物観察表 (第 208・209 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[26.2]	(40.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	4単位指状把手 口唇部直下沈線のある隆帯により指状把手間を連結 地文縦位LR半筋縄文 腹帯に附する2本一組の隆帯による横S字文 腹部無文	覆土下層	80% PL37
2	縄文土器	深鉢	21.8	(10.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部隆帯による4単位の縦い面輪文 縦位隆帯文 腹部無文	覆土上層	25% PL37
3	縄文土器	深鉢	-	(13.1)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	指状把手 円孔に沿って沈線のある隆帯による横S字文 口縁部地文縦位LR半筋縄文 腹部無文	覆土下層	10% PL37
4	縄文土器	深鉢	-	(13.3)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	腹部無文 腹部地文縦位RLR横筋縄文 沈線による横垂文	覆土上層	15%
5	縄文土器	深鉢	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	円孔に沿って沈線のある隆帯文 口縁部地文斜位LR半筋縄文 沈線の沿う隆帯文	覆土下層	10%
6	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	流紋口縁 地文縦位RL半筋縄文 沈線の沿う隆帯文 縦位沈線文充填	覆土上層	5%
7	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口唇部直下隆帯文 地文縦位LR半筋縄文 沈線に付する2本一組の隆帯文	覆土下層	5%
8	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	背に沈線のある隆帯文 背に沈線のある隆帯による円文を中心に放射状沈線文	覆土上層	10% PL37
9	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英	褐色	普通	地文縦位RL半筋縄文 2本一組の沈線文懸垂	覆土	5%
10	縄文土器	鉢	-	(9.6)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	横位RL半筋縄文 腹部下位無文	覆土下層	10%
11	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	口縁部内面肥厚部 地文半截竹管による平行沈線文 指環状のある隆帯文懸垂	覆土上層	5%
12	縄文土器	深鉢	-	(6.7)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	地文半截竹管による平行沈線文	覆土	5% 11と同一断片

第 1144 号土坑 (第 210 図 第 107 表)

位置 調査区南東部の J 1 a5 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 965・1095・1096・1193 号土坑に掘り込まれている。

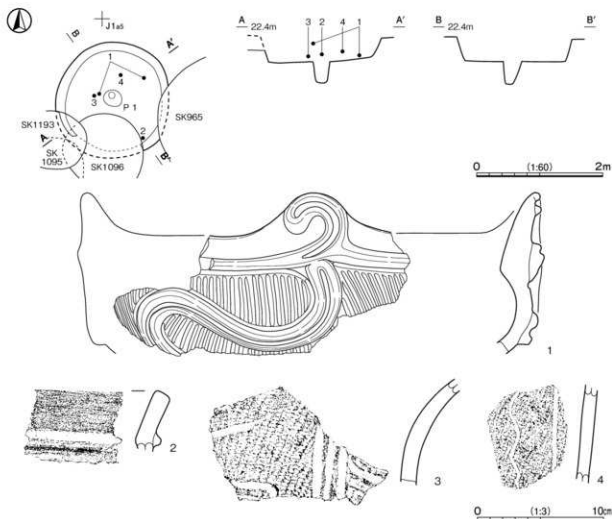
規模と形状 南半分を土坑に掘り込まれているため、長径 1.84 m、短径 1.78 m の円形と推定される。深さは

38cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

ピット 1か所。P1は、中央部に位置し、深さ35cmである。

遺物出土状況 縄文土器片22点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期17点（加曾利E式6、不明11）、後期1点（不明）、不明4点である。2～4は覆土下層から出土し、1は覆土上層と下層から出土したものが接合したものである。後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E1式中段階期）と考えられる。



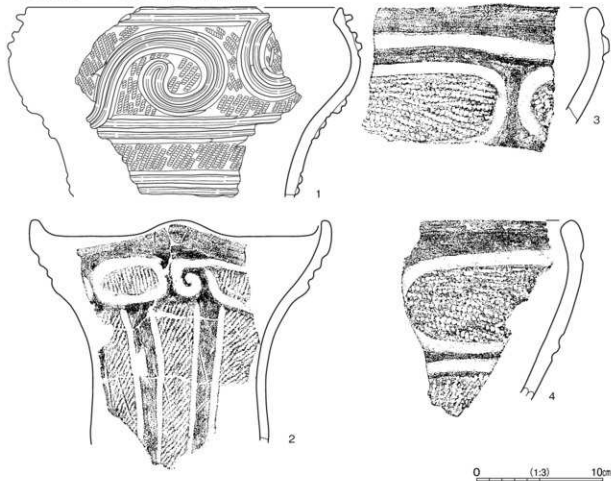
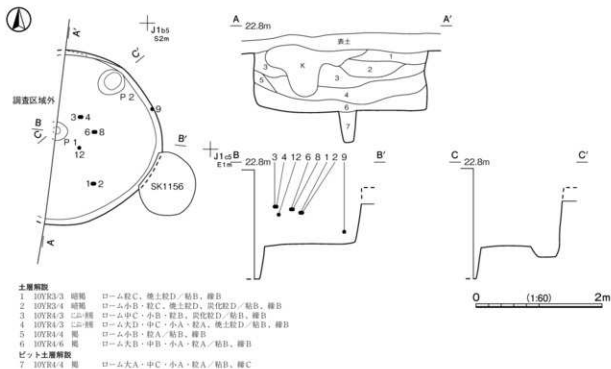
第210図 第1144号土坑・出土遺物実測図

第107表 第1144号土坑出土遺物観察表（第210図）

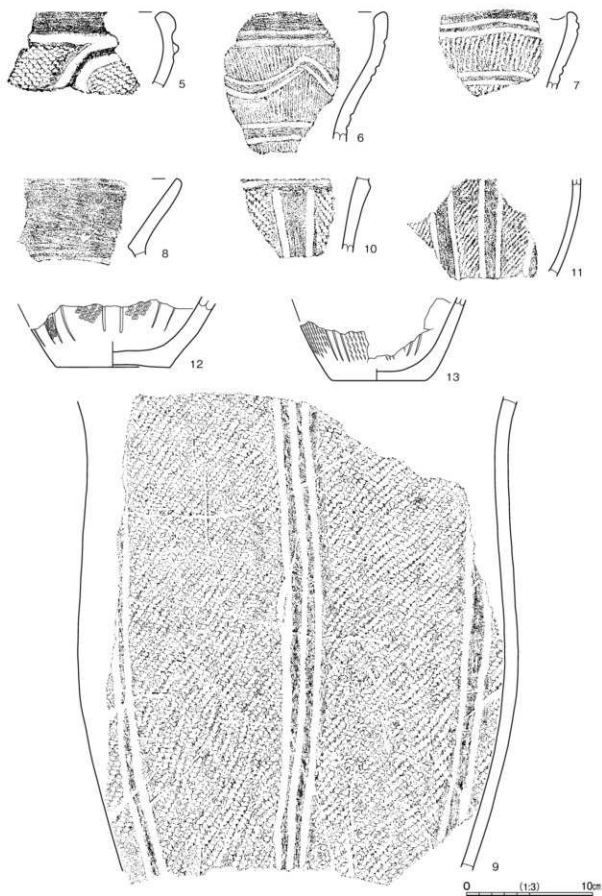
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[36.0]	(127)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	皮状口縁 波頂部沈線のある隆帯による縦い溝文 口縁部等に沈線のある隆帯による横すり文 縦位沈線文充填	覆土上・下層	15% P138
2	縄文土器	深鉢	—	(48)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部無文 口縁部下端隆帯文	覆土下層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(74)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地文縦位RL 単節縄文 3本一組の沈線文懸垂	覆土下層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(73)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地文縦位RL 単節縄文 沈線文懸垂	覆土下層	5%

第 1146 号土坑 (第 211・212 図 第 108 表 PL14)

位置 調査区南東部の J 1 b4 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 211 図 第 1146 号土坑・出土遺物実測図



第 212 图 第 1146 号土坑出土遗物实测图

重複関係 第1156号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部は調査区域外のため、径2.78mの円形と推定される。深さは93cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

ビット 2か所。P1は、ほぼ中央部に位置し、深さ49cmである。P2は、北東壁際に位置し、深さ15cmである。覆土は、第7層で、ロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片220点(深鉢219、鉢1)が出土している。縄文土器片の時期は、中期158点(加曾利E式81、曾利式3、不明74)、後期48点(堀之内式2、不明46)、不明14点である。9は覆土下層から、1～4・6・8・11・12は覆土上層から、それぞれ出土している。1と後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式新段階期)と考えられる。

第108表 第1146号土坑出土遺物観察表(第211・212図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[248]	[150]	—	長石・石英・雲母	にぶい赤黄	普通	口縁部地文横位・縦位 RL 卑部縄文 背に沈線のある隆帯による横5字文 頸部地文縦位 RL 卑部縄文	覆土上層	15% PL38
2	縄文土器	深鉢	[230]	[175]	—	長石・石英	橙	普通	液状口縁 口縁部地文横位 RL 卑部縄文 沈線の沿う隆帯による渦巻文・区画文 頸部地文縦位 RL 卑部縄文 磨消懸垂文	覆土上層	20% PL38
3	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部地文横位 RL 卑部縄文 沈線の沿う隆帯による区画文	覆土上層	5% PL38
4	縄文土器	深鉢	—	(14.2)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部地文横位 RL 卑部縄文 沈線の沿う隆帯による区画文 頸部地文縦位 RL 卑部縄文	覆土上層	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部地文縦位 LRL 後部縄文 沈線の沿う隆帯による区画文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(10.3)	—	長石・石英	橙	普通	地文半截竹管による縦位平行沈線文 沈線による2本一組の磨消流紋文	覆土上層	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	小液状口縁 地文縦位 R 然赤文 沈線による2本一組の磨消平行縦文	覆土	5%
8	縄文土器	鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	橙	普通	無文	覆土上層	5%
9	縄文土器	深鉢	—	(37.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤黄	普通	地文縦位 RL 卑部縄文 沈線による3本一組の磨消懸垂文	覆土下層	5% PL38
10	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	地文縦位 LRL 後部縄文 磨消懸垂文	覆土中層	5%
11	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 卑部縄文 磨消懸垂文	覆土上層	5%
12	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	9.0	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 後部縄文 磨消懸垂文	覆土上層	10%
13	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	7.3	長石・石英	浅黄橙	普通	地文縦位 R 然赤文 磨消懸垂文	覆土中層	5%

第1147号土坑(第213図 第109表)

位置 調査区南東部のIⅠe8区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第80号竪穴建物の炉に掘り込まれている。

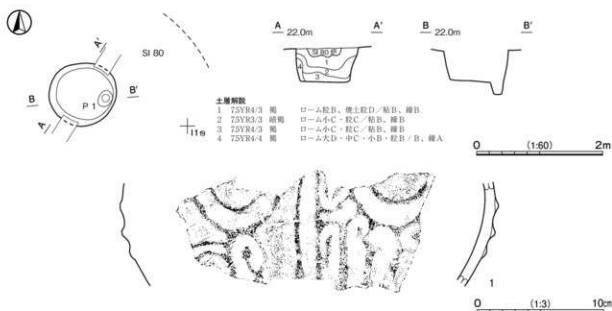
規模と形状 長径1.07m、短径1.00mの円形である。深さは50cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

ビット 1か所。P1は、東壁際に位置し、深さ19cmである。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢、鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期2点(大木9式、不明)である。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅡ式・大木9式期)と考えられる。



第213図 第1147号土坑・出土遺物実測図

第109表 第1147号土坑出土遺物観察表(第213図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	鉢	—	(8.1)	—	長石・石英	にぶい腔	普通	2本一組の隆帯文による懸垂文・渦巻文 内外面漆塗布*	覆土下層	10%

第1156号土坑(第214・215図 第110表)

位置 調査区南東部のJ1c5区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

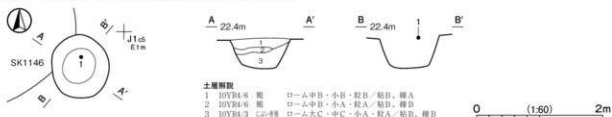
重複関係 第1146号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.00m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-5°-Wである。深さは48cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期2点(加曾利E式)、後期8点(堀之内式2、不明6)、不明2点である。1は覆土上層から出土している。中期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第214図 第1156号土坑実測図



0 (1:3) 10cm

第 215 図 第 1156 号土坑出土遺物実測図

第 110 表 第 1156 号土坑出土遺物観察表 (第 215 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(15.4)	7.4	長石・石英	にぶい橙	普通	無文	覆土上層	15% PL38

第 1157 号土坑 (第 216・217 図 第 111 表)

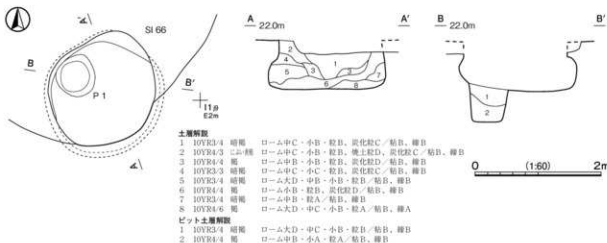
位置 調査区南東部の I 19 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 66 号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 66 号堅穴建物に掘り込まれているため、確認された規模は、長径 1.93 m、短径 1.68 m の楕円形である。深さは 78 cm で、壁は、底面から 48 cm のところでぐびれ、上位は直立、下位は内彎している。底面は平坦である。

ビット 1 か所。P 1 は、北東壁際に位置し、深さ 60 cm である。覆土は、ロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含む、不自然な堆積状況から、人為堆積である。



第 216 図 第 1157 号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 65 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 64 点（加曾利 E 式 49、不明 15）、後期 1 点（不明）である。後期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E I 式）と考えられる。



第 217 図 第 1157 号土坑出土遺物実測図

第 111 表 第 1157 号土坑出土遺物観察表（第 217 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部沈殿のある隆帯文 縦位沈殿文充填	覆土下層	5% PL38
2	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部地文横位 RL 卑部縄文 沈殿を沿う隆帯文	覆土下層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母	赤黒	普通	口縁部地文横位 LRL 後部縄文 背に沈殿のある隆帯文	覆土中層	5%

第 1158 号土坑（第 218・219 図 第 112 表 PL15）

位置 調査区南東部の I 16 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

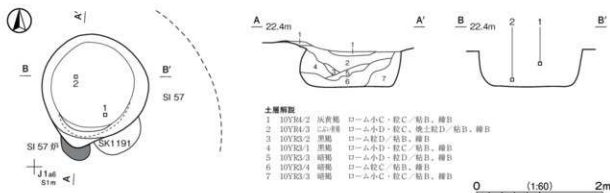
重複関係 第 57 号竪穴建物跡の炉と第 1191 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.68 m、短径 1.65 m の円形である。深さは 70 cm で、壁は、南壁が底面から 60 cm のところでくびれ、上位は外傾し、下位は内彎している以外、外傾している。底面は平坦である。

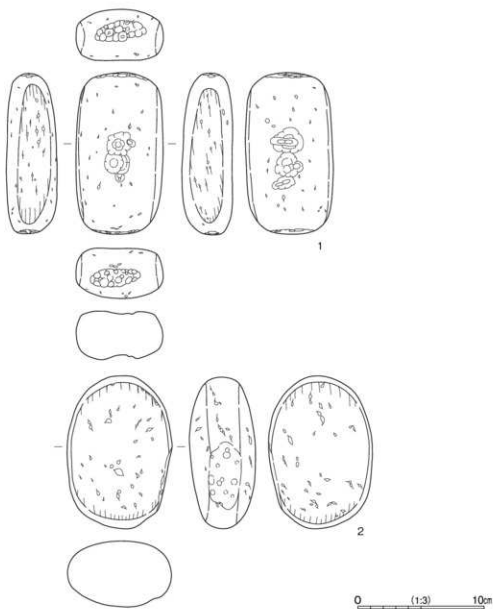
覆土 7 層に分层できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含み、不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 68 点（深鉢）、石器 2 点（安山岩製凹石、多孔質安山岩製磨石）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 41 点（加曾利 E 式 1、不明 40）、後期 27 点（堀之内式 8、不明 19）である。1 は覆土上層、2 は覆土下層から出土している。中期の土器片は、混入したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第 218 図 第 1158 号土坑実測図



第 219 図 第 1158 号土坑出土遺物実測図

第 112 表 第 1158 号土坑出土遺物観察表 (第 219 図)

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
1	凹石	123	7.0	4.0	634.9	安山岩	全面研磨 上下底部敲打痕 両側縁磨痕 表面凹痕 2 か所 表 面凹痕 3 か所	覆土上層	100% PL39
2	磨石	121	8.3	5.2	663.5	多孔質安山岩	全面研磨 右側縁一部敲打痕	覆土下層	100% PL39

第 1191 号土坑 (第 220 図 第 113 表)

位置 調査区南東部の J 1 a6 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

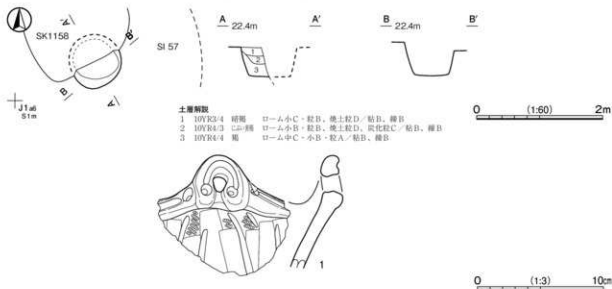
重複関係 第 57 号堅穴建物跡を掘り込み、第 1158 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 0.84 m、短径 0.82 m の円形と推定される。深さは 52 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 23 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、後期 23 点（称名寺式Ⅰ、不明 22）である。Ⅰは覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺Ⅱ式期）と考えられる。



第 220 図 第 1191 号土坑・出土遺物実測図

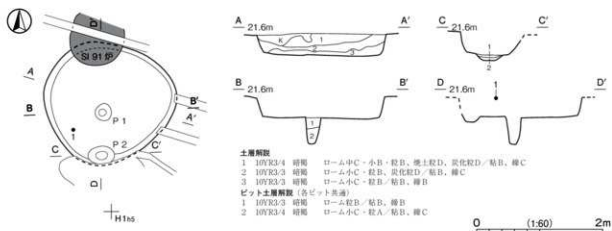
第 113 表 第 1191 号土坑出土遺物観察表（第 220 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(R9)	-	長石・石英	橙	普通	液状口縁・底頂部下の円孔を中心に底部に刺突文のある逆U字文・口縁部地文LR半距縄文磨面壁垂文	覆土	5% PL29

第 1220 号土坑（第 221・222 図 第 114 表 PL15）

位置 調査区南西部の H1 g4 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 91 号竪穴建物の炉に掘り込まれている。



第 221 図 第 1220 号土坑実測図

規模と形状 長径 2.05 m、短径 1.94 m の円形である。深さは 35 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。
ビット 2 か所。P 1 は、ほぼ中央部に位置し、深さ 42 cm である。P 2 は、南壁際に位置し、深さ 10 cm である。
覆土 は、ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 35 点（深鉢 32、浅鉢 3）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 35 点（加曾利 E 式 32、曾利式 1、不明 2）である。1 は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E I・II 式期）と考えられる。



第 222 図 第 1220 号土坑出土遺物実測図

第 114 表 第 1220 号土坑出土遺物観察表（第 222 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部内面肥厚帯による平行波模文	覆土上層	5 PL39%
2	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	波状口縁 沈澱文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 沈澱文型垂	覆土	5%

第 1221 号土坑（第 223・224 図 第 115 表）

位置 調査区南東部の I 1 h7 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

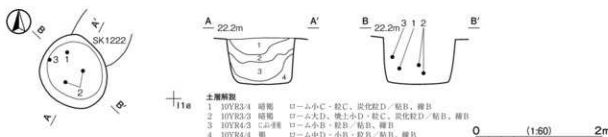
重複関係 第 1222 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.16 m、短径 1.04 m の楕円形で、長径方向は N - 28° - W である。深さは 74 cm で、壁は直立している。底面は平坦である。

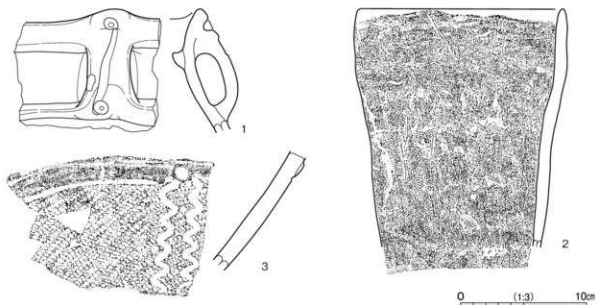
覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 166 点（深鉢 163、鉢 1、甕 1、釣手土器 1）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 3 点（加曾利 E 式）、後期 160 点（称名寺式 10、堀之内式 5、不明 145）、不明 3 点である。1～3 は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉（称名寺 II 式～堀之内 I 式期）と考えられる。



第 223 図 第 1221 号土坑実測図



第 224 図 第 1221 号土坑出土遺物実測図

第 115 表 第 1221 号土坑出土遺物観察表 (第 224 図)

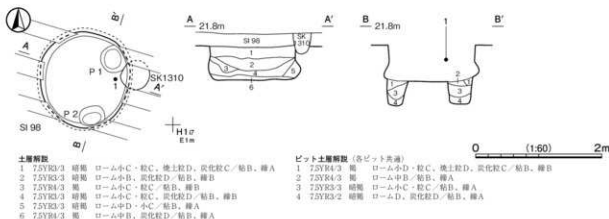
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	壺	-	(95)	-	長石・石英	橙	普通	小流状口縁、口縁部内面肥厚帯、傾斜把手、捺刻交文のある洗線文	覆土下層	5%
2	縄文土器	深鉢	162	(189)	-	長石・石英	に深い赤褐色	普通	無文	覆土下層	50% PL39
3	縄文土器	鉢	-	(89)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 2L、卑路縄文、蛇行洗線文を垂直	覆土下層	5%

第 1238 号土坑 (第 225・226 図 第 116 表)

位置 調査区南西部の H 1 h6 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 98 号竪穴建物、第 1310 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部は長径 1.52 m、短径 1.44 m の円形である。最大径は長径 1.64 m、短径 1.50 m で、底面は円形を呈し、平坦である。確認面からの深さは 58 cm である。壁は中位まで内野して袋状を呈し、底面から 30 cm のところでぐびれ、上位は直立している。



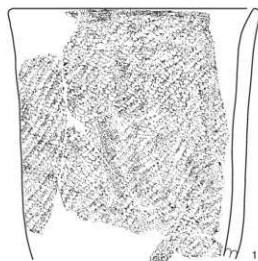
第 225 図 第 1238 号土坑実測図

ビット 2か所。P 1は、北東壁際に位置し、深さ42cmである。P 2は、南壁際に位置し、深さ42cmである。
覆土は、各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片50点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期50点（加曾利E式24、曾利式1、不明25）である。1は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



0 (1:3) 10cm

第226図 第1238号土坑出土遺物実測図

第116表 第1238号土坑出土遺物観察表（第226図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[192]	[198]	—	長石・石英	にひ・赤褐	普通	竪位RL, 単給縄文	覆土中層	30% PL29

第1239号土坑（第227図 第117表）

位置 調査区南西部のH17区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第98号竪穴建物に掘り込まれている。第1311号土坑との関係は不明である。

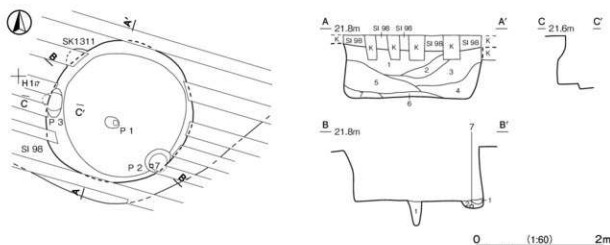
規模と形状 長径242m、短径220mの楕円形で、長径方向はN-52°-Eである。確認面からの深さは85cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

ビット 3か所。P 1は、中央部に位置し、深さ42cmである。P 2は、南東壁際に位置し、深さ16cmである。P 3は、底面より12cm高い西壁際に位置し、確認面からの深さは76cmで、ビットの西壁は奥に12cmほど挟れている。P 1・2の覆土は、ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片134点（深鉢）、土製品1点（土器片円盤）、石器1点（チャート製石鏃）が出土している。縄文土器片の時期は、中期132点（加曾利E式109、不明23）、後期2点（称名寺式）である。7はP 2の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。

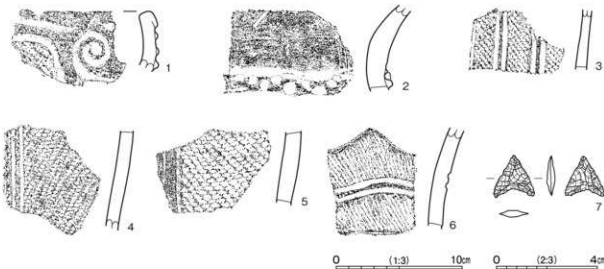


土層解説

- 1 75YK3/3 暗褐色 ローム粒B、焼土粒C、炭化粒C／粘B、緑A
- 2 75YK3/3 暗褐色 ローム小D・粒B、焼土粒D、炭化粒D／粘B、緑B
- 3 75YK3/4 黄 ローム中D・小C・粒C、炭化粒D／粘B、緑B
- 4 75YK3/4 暗褐色 ローム中D・小B、炭化粒D／粘B、緑B
- 5 75YK3/4 暗褐色 ローム小D・粒B、炭化粒D／粘B、緑B
- 6 75YK3/4 暗褐色 ローム中D・小C、焼土粒D、炭化粒D／粘B、緑B
- 7 75YK3/3 暗褐色 ローム粒B、焼土粒D、炭化粒C／粘B、緑B

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 75YK3/3 暗褐色 ローム中C・小C・粒B／粘B、緑B
- 2 75YK3/4 暗褐色 ローム小B／粘B、緑B



第 227 図 第 1239 号土坑・出土遺物実測図

第 117 表 第 1239 号土坑出土遺物観察表 (第 227 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	(48)	—	長石・石英	にぶ・黄緑	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 沈線の沿う隆帯による渦巻文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(63)	—	長石・石英	にぶい間	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 胴部沈線の沿う隆帯文・交互斜交文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(47)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 LRL 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(79)	—	長石・石英	橙	普通	地文 RL 単筋縄文 沈線による 3 本一組の懸垂文	覆土	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(59)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 LRL 単筋縄文 磨消懸垂文	覆土	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(72)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 L 無筋縄文 磨消波状文	覆土	5%
7	石皿	1.6	1.6	0.3	0.5L	チャート	門基無茶色			P 2 覆土下層	100% PL29

第 1263 号土坑 (第 228 ～ 233 図 第 118 表 PL15)

位置 調査区南西部の I 1a7 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1329 号土坑を掘り込んでいる。

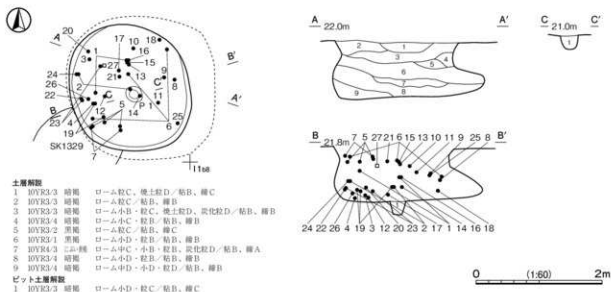
規模と形状 開口部は長さ 2.15 m、短径 1.90 m の楕円形で、長径方向は N - 37° - W である。最大径は長径 2.54 m、短径 2.45 m で、底面は円形を呈し、平坦である。確認面からの深さは 90 cm である。壁は中位まで内彎して袋状を呈し、底面から 50 cm のところでぐびれ、上位は外傾している。

ピット P 1 は、中央部に位置し、深さ 20 cm である。覆土は、ロームブロックを含むことから、人為堆積である。

覆土 9 層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 432 点 (深鉢 428、壺 3、浅鉢 1)、石器 2 点 (チャート製敲石、黒曜石製剥片) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 430 点 (阿玉台式 1、加曾利 E 式 334、不明 95)、不明 2 点である。1 ～ 4・12・14・16 ～ 20・22 ～ 24・26 は覆土下層から、5 ～ 11・13・15・21・25・27 は覆土上層から、それぞれ出土している。いずれも廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利 E 式中段階期) と考えられる。



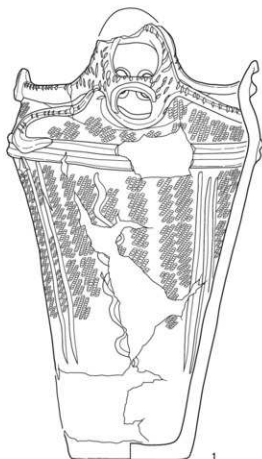
第 228 図 第 1263 号土坑実測図

第 118 表 第 1263 号土坑出土遺物観察表 (第 229 ～ 233 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	184	(345)	9.4	長石・石英	にぶい褐	普通	上下に孔のある 2 単位の中空把手 陰帯による内文のある 2 単位の小突起 地文縦位 RL 単胎横文・口縁部平ミのある陰帯文・口縁部下層青に流紋のある陰帯文 胴部縦位流紋文・3 本一組の流紋文を呈し	覆土下層	80% PL39
2	縄文土器	深鉢	[192]	31.2	8.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	2 単位の見取板状突起 口縁部流紋文・交互斜突文・流紋の沿う陰帯文 胴部縦位 RL 単胎横文	覆土下層	70% PL40
3	縄文土器	深鉢	[166]	23.6	7.5	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部無文 胴部地文縦位 RL 単胎横文 5 単位の流紋による U・I 字文 平行流紋文・流紋流紋文	覆土下層	95% PL40
4	縄文土器	深鉢	[264]	31.1	10.0	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文 胴部地文縦位 RL 単胎横文 流紋の沿う陰帯による流紋文・直線文を呈す	覆土下層	90% PL40
5	縄文土器	深鉢	[240]	(125)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文 口縁部下層キザミ・陰帯による長地内横文 胴部地文縦位 RL 単胎横文 縦位流紋文	覆土上層	20% PL40
6	縄文土器	深鉢	[310]	(20.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	胴部流紋把手 口縁部キザミのある 2 本一組の陰帯による横 S 字文 縦位流紋文光沢 胴部地文縦位 RL 単胎横文 流紋文型点	覆土上層	15% PL41
7	縄文土器	深鉢	[248]	(14.3)	-	長石・石英	灰褐	普通	3 単位小突起 3 線 地文縦位 RL 単胎横文 口縁部 2 本一組の陰帯による縦い流紋文 口縁部下層 2 本一組の陰帯文	覆土上層	15% PL41

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	装 成	特 徴	出土位置	備 考
8	縄文土器	深鉢	—	(110)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位 R 単節縄文 口縁部背に沈線のある隆帯によるエンボク文 胴部紐状沈線文	覆土上層	5% PL41
9	縄文土器	深鉢	—	(103)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位 R 単節縄文 背に沈線のある隆帯によるエンボク文	覆土上層	5% PL41
10	縄文土器	深鉢	—	(107)	—	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	地文横位 L R 1 横節縄文 背に沈線のある隆帯によるエンボク文	覆土上層	5% PL41
11	縄文土器	深鉢	—	(70)	—	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	背に沈線のある隆帯文 隆帯の端部渦巻文 縦位沈線文を束ね	覆土下層	5% PL41
12	縄文土器	深鉢	—	(96)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	小流状口縁 波瀾部沈線による渦巻文 地文横位 R 1 単節縄文 沈線の沿う隆帯による皮状文	覆土上層	5% PL41
13	縄文土器	深鉢	—	(86)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	小流状口縁 波瀾部沈線による渦巻文 口唇部沈線文・交互刺突文	覆土下層	5%
14	縄文土器	深鉢	—	(51)	—	長石・石英	褐色	普通	口唇部・口唇部直下沈線文・交互刺突文 地文縦位 R 1 単節縄文 紐状沈線文	覆土下層	5%
15	縄文土器	深鉢	—	(39)	—	長石・石英	灰褐色	普通	地文縦位 R 1 単節縄文 口唇部直下沈線文・交互刺突文 背に沈線のある隆帯文	覆土下層	5%
16	縄文土器	深鉢	—	(40)	—	長石・石英	灰黄褐色	普通	地文縦位 R 1 単節縄文 口唇部直下沈線文・交互刺突文	覆土下層	5%
17	縄文土器	深鉢	—	(50)	—	長石・石英	明褐色	普通	地文縦位 R 1 単節縄文 口唇部直下沈線文・交互刺突文	覆土下層	5%
18	縄文土器	深鉢	—	(58)	—	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	地文縦位 R 1 単節縄文 口唇部直下沈線文・交互刺突文	覆土下層	5%
19	縄文土器	深鉢	(25.0)	(126)	—	長石・石英	暗赤褐色	普通	地文横位・縦位 R 1 単節縄文	覆土下層	15% PL41
20	縄文土器	深鉢	—	(130)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位 R 1 単節縄文 3条一組の沈線文	覆土下層	5%
21	縄文土器	深鉢	—	(80)	—	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	地文縦位 R 1 単節縄文 口縁部直下 2 本一組の隆帯文	覆土上層	5%
22	縄文土器	深鉢	(15.2)	(18.4)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	3単位波状口縁 地文縦位 R 1 単節縄文 胴部 3条一組の沈線文	覆土下層	40% PL40
23	縄文土器	深鉢	—	(20.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	地文縦位 R 1 単節縄文 紐状沈線文	覆土下層	25% PL41
24	縄文土器	深鉢	—	(14.0)	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	縦位 R 1 単節縄文	覆土下層	5% PL41
25	縄文土器	壺	—	(4.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部直下隆帯文 胴部端部に凹文のある隆帯文	覆土上層	5%
26	縄文土器	浅鉢	—	(9.5)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	無文 補修孔	覆土下層	10% PL41

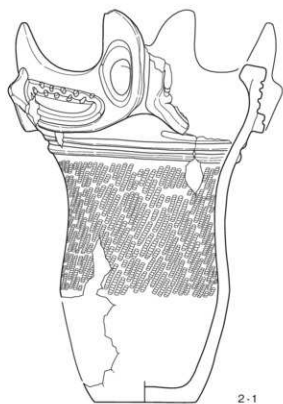
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
27	磁石	5.9	5.1	4.6	197.9	チャート	素材円礫 上下端部敲打痕	覆土上層	100% PL42



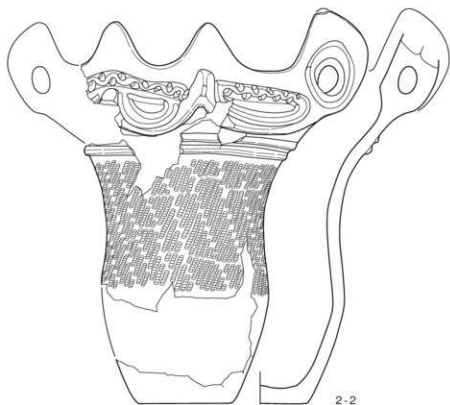
1

0 (1:3) 10cm

第 229 図 第 1263 号土坑出土遺物実測図(1)



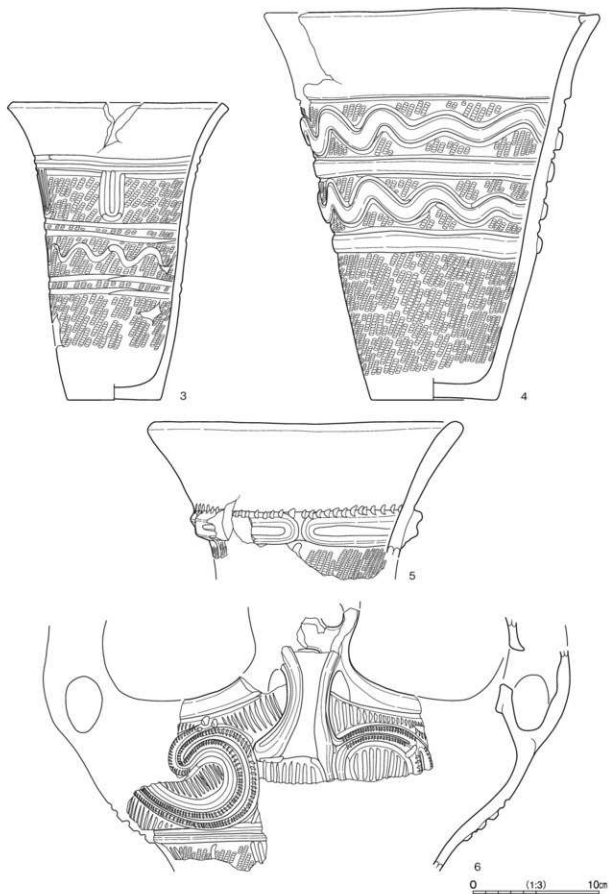
2-1



2-2

0 (1:3) 10cm

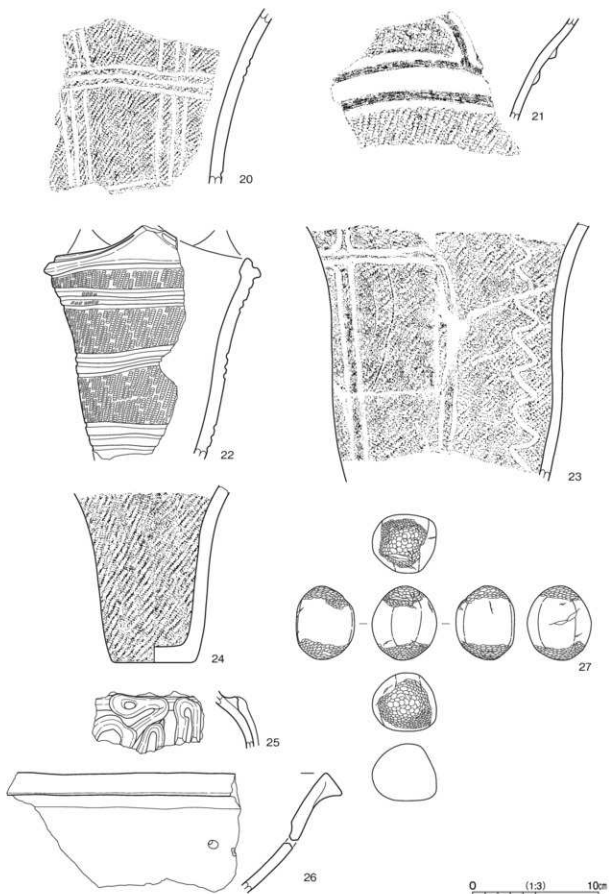
第 230 图 第 1263 号土坑出土文物实测图(2)



第 231 图 第 1263 号土坑出土遗物实测图(3)



第 232 图 第 1263 号土坑出土遗物实测图(4)



第 233 图 第 1263 号土坑出土文物实测图(5)

第 1265 号土坑 (第 234 図 第 119 表)

位置 調査区南西部の H18 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1288 号土坑に掘り込まれている。

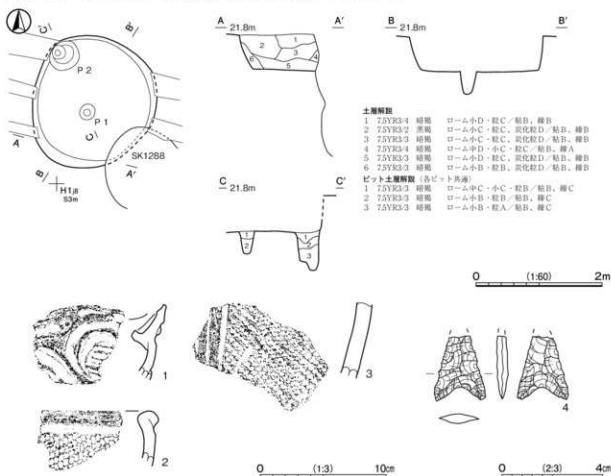
規模と形状 長径 2.10 m、短径 1.96 m の円形である。深さは 57 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

ピット 2 か所。P1 は、中央部に位置し、深さ 35 cm である。P2 は、北西壁際に位置し、深さ 60 cm である。覆土は、ロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

覆土 6 層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 44 点 (深鉢)、石器 1 点 (チャート製石鎌) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 37 点 (加曾利 E 式 14、不明 23)、後期 4 点 (不明)、不明 3 点である。1~4 は覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利 E II 式期) と考えられる。



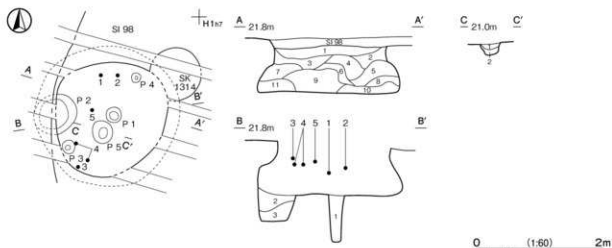
第 234 図 第 1265 号土坑・出土遺物実測図

第 119 表 第 1265 号土坑出土遺物観察表 (第 234 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.9)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	小波状口縁 背に沈線のある隆帯文 沈線文を欠損	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	褐色	普通	地文横位 L.R 半部縄文 沈線の沿う隆帯文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	地文縦位 L.RL 縦筋縄文 磨消型垂文	覆土	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
4	石器	(26)	2.1	0.4	(1.7)	チャート	円基無茎鎌 先端部欠損			覆土	80% PL42

第1281号土坑 (第235図 第120表)

位置 調査区南西部のH1h6区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

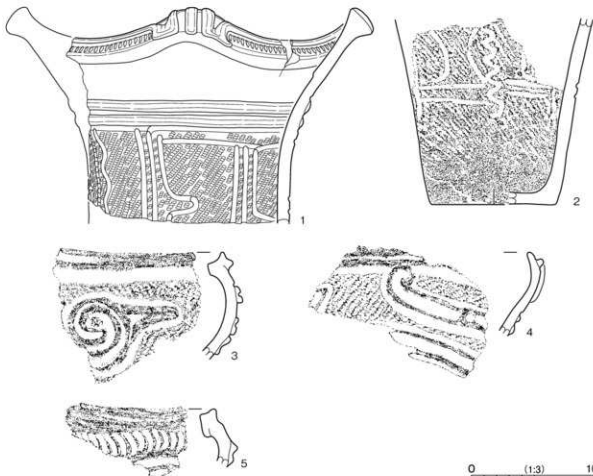


土層解説

- | | | | |
|----|---------|-----|-------------------------------|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒C、焼土小D・粒D、炭化粒D / 粘B、雜B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小D・粒C、焼土粒D / 粘B、雜B |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒C、炭化粒D / 粘B、雜B |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒D / 粘B、雜B |
| 5 | 10YR3/2 | 暗褐色 | ローム小B・粒B / 粘B、雜C |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒B / 粘B、雜B |
| 7 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小B・粒C / 粘B、雜B |
| 8 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小D・粒B / 粘B、雜B |
| 9 | 10YR4/3 | 黒褐色 | ローム中D・小B・粒B、炭化粒D / 粘B、雜B |
| 10 | 10YR4/3 | 暗褐色 | ローム中C・小B・粒B / 粘B、雜B |
| 11 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小C・粒C / 粘B、雜B |

ピット土層解説 (各ピット長通)

- | | | | |
|---|---------|-----|------------------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム中C・小B・粒B / 粘B、雜C |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム大C・中C・小B・粒B / 粘B、雜C |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小B・粒B / 粘B、雜C |



第235図 第1281号土坑・出土遺物実測図

重複関係 第98号竪穴建物に掘り込まれている。第1314号土坑との関係は不明である。

規模と形状 開口部は長径1.80m、短径1.76mの不整形円形である。最大径は長径2.30m、短径2.22mで、底面は円形を呈し、平坦である。確認面からの深さは86cmである。壁は中位まで内彎して袋状を呈し、底面から60cmのところでぐびれ、上位は外傾している。

ピット 5か所。P1は、中央部に位置し、深さ74cmである。2は、西壁際に位置し、深さ42cmである。P3は、南西壁寄りに位置し、深さ36cmである。P4は、北東壁寄りに位置し、深さ36cmである。P5は、中央部南西寄りに位置し、深さ16cmである。覆土は、ロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

覆土 11層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片149点（深鉢）、石器1点（安山岩製凹石）が出土している。縄文土器片の時期は、中期148点（加曾利E式84、不明64）、後期1点（不明）である。1～5は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅠ式中段階層）と考えられる。

第120表 第1281号土坑出土遺物観察表（第235図）

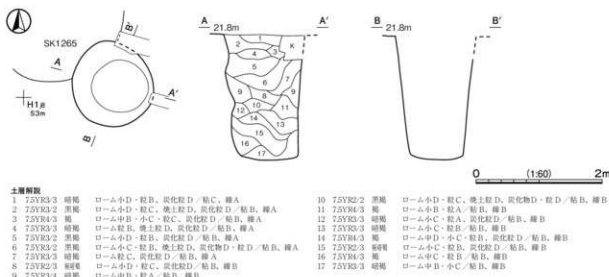
番号	種別	器種	口径	器高	底径	断面	土色	調	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[260]	[171]	—	長石・石英・雲母	褐	普通	波状口縁 段状の肥厚口縁部沈殿の沿う隆帯・キザミ 頸部無文 胴部地文縦位RL 半節縄文 沈殿文・結節沈殿文型	覆土上層	25% PL42
2	縄文土器	深鉢	—	[147]	[98]	長石・石英・雲母	褐	普通	地文縦位 無節縄文 沈殿文型	覆土上層	15% PL42
3	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	長石・石英	明赤褐	普通	地文横位・縦位 RL 半節縄文 背に沈殿のある隆帯に上る炎文・割孔文	覆土上層	5% PL42
4	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	地文縦位 RL 半節縄文 2本一組の隆帯文 隆帯の端部高巻文	覆土上層	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	背に沈殿のある隆帯文 縦位沈殿文尖端	覆土上層	5%

第1288号土坑（第236・237図 第121表）

位置 調査区南西部のH18区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1265号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.32m、短径1.27mの円形である。深さは197cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

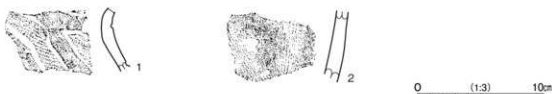


第236図 第1288号土坑実測図

覆土 17層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 37点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、早期1点（条痕文系）、中期12点（加曾利E式6、不明6）、後期14点（称名寺式1、不明13）、不明10点である。1・2は覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺I式期）と考えられる。



第 237 図 第 1288 号土坑出土遺物実測図

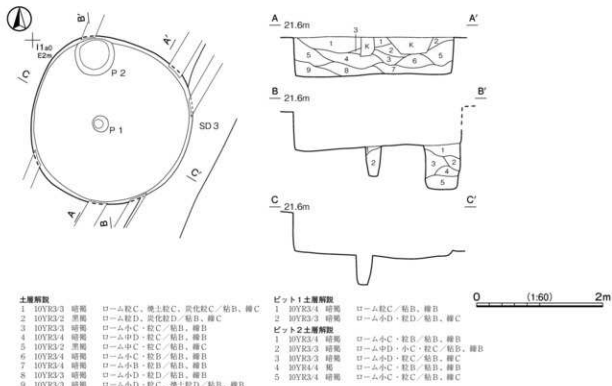
第 121 表 第 1288 号土坑出土遺物観察表（第 237 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	沈殿による区画文 L.R 平銘縄文光焼	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	筒歯状工具による条線文	覆土	5%

第 1315 号土坑（第 238・239 図 第 122 表）

位置 調査区南東部の I 1a0 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3 号溝に掘り込まれている。



第 238 図 第 1315 号土坑実測図

規模と形状 長径2.70 m、短径2.60 mの円形と推定される。深さは62cmで、壁は直立している。底面はほぼ平坦である。

ビット 2か所。P 1は、中央部に位置し、深さ48cmである。P 2は、北壁際に位置し、深さ70cmである。覆土は、不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片253点（深鉢252、壺1）が出土している。縄文土器片の時期は、中期188点（加曽利E式91、不明97）、後期8点（不明）、不明57点である。1～3は覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曽利E I式期）と考えられる。



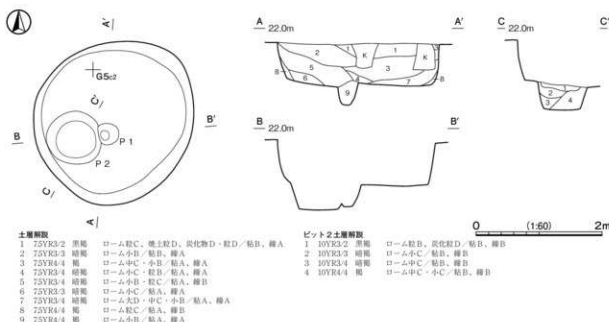
第239図 第1315号土坑出土遺物実測図

第122表 第1315号土坑出土遺物観察表（第239図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	地文縦位RL準筋縄文 2本一組の隆帯文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	長石・石英・雲母 にふい橙	普通	普通	小波状口縁 口唇部キザミ・沈線・交互刺交文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(4.2)	—	長石・石英	橙	普通	地文横面により条線文 口唇部直下沈線文・交互刺交文	覆土	5%

第1345号土坑（第240・241図 第123表）

位置 調査区北東部のG5c2区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。



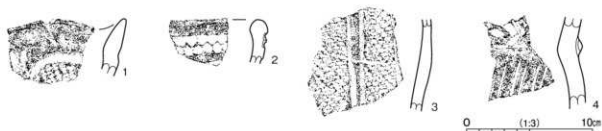
第240図 第1345号土坑実測図

規模と形状 長径 2.69 m、短径 2.46 m の円形である。深さは 67 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。
ピット 2 か所。P 1 は、中央部に位置し、深さ 34 cm である。P 2 は、西壁際に位置し、深さ 42 cm である。覆土は、ロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

覆土 8 層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。第 9 層はピット 1 の覆土である。

遺物出土状況 縄文土器片 35 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 35 点（加曾利 E 式 26、不明 9）である。1～4 は覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E II 式期）と考えられる。



第 241 図 第 1345 号土坑出土遺物実測図

第 123 表 第 1345 号土坑出土遺物観察表（第 241 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(46)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	小波状口縁 地文横位 RL 単節縄文 沈線の沿う陸帯文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(36)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線文・交互刺突文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(73)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 LR 単節縄文 磨消部垂文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(65)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	押印のある陸帯文 半截竹管による平行沈線文	覆土	5%

第 1351 号土坑（第 242・243 図 第 124 表）

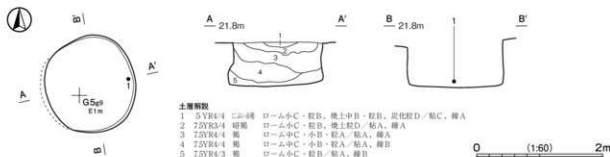
位置 調査区北東部の G 5 9 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.50 m、短径 1.42 m の円形である。深さは 71 cm で、壁は直立し、西壁は内傾している。底面は平坦である。

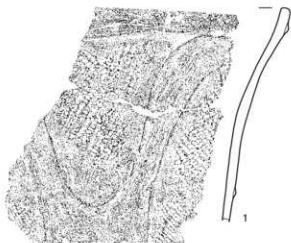
覆土 5 層に分層できる。各層にロームブロックやローム粒子を多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 27 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 26 点（不明）、後期初頭 1 点（称名寺 I 式）である。1 は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺 I 式期）と考えられる。



第 242 図 第 1351 号土坑実測図



0 (1:3) 10cm

第 243 図 第 1351 号土坑出土遺物実測図

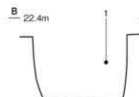
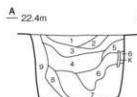
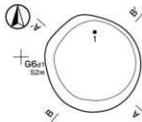
第 124 表 第 1351 号土坑出土遺物観察表 (第 243 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(17.0)	—	長石・石英・雲母	に灰・黄斑	普通	微発帯によるV字状・横内状区画文・V字状区画文・内縦位区画文・単筋縄文・横内状区画文・内縦位区画文・横筋縄文・縦位区画文・単筋縄文	覆土下層	5% PL42

第 1356 号土坑 (第 244 図 第 125 表)

位置 調査区北東部の G 6d1 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.57 m、短径 1.49 m の円形である。深さは 103 cm で、壁は直立している。底面は平坦である。



0 (1:60) 2m

土層観察

1	10YR5/3	暗褐色	ローム中D・小C・粒B、焼土粒D、炭化粒D／粘B、糠B	6	10YR2/3	黒褐色	ローム中B・小B・粒B／粘B、糠B
2	10YR2/3	暗褐色	ローム中C・小C・粒B／粘B、糠B	7	10YR4/3	紅褐色	ローム中B・小B・粒A／粘B、糠B
3	10YR2/3	暗褐色	ローム中B・粒B、焼土粒D、炭化粒D／粘B、糠B	8	10YR3/4	暗褐色	ローム中D・中B・小B・粒B、炭化粒C／粘B、糠B
4	10YR3/2	黒褐色	ローム中C・小B・粒B、炭化粒D／粘B、糠B	9	10YR3/3	暗褐色	ローム中D・小B・粒A、炭化粒D／粘B、糠B
5	10YR3/4	暗褐色	ローム中D・小C・粒B、炭化粒D／粘B、糠A				



0 (1:3) 10cm

第 244 図 第 1356 号土坑・出土遺物実測図

覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 30点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 30点（加曾利E式 26、不明4）である。1は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。

第125表 第1356号土坑出土遺物観察表（第244図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(117)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	地文縦位LR単節縄文 磨消無垂文	覆土中層	5%

第1359号土坑（第245図 第126表）

位置 調査区北東部のG5c5区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

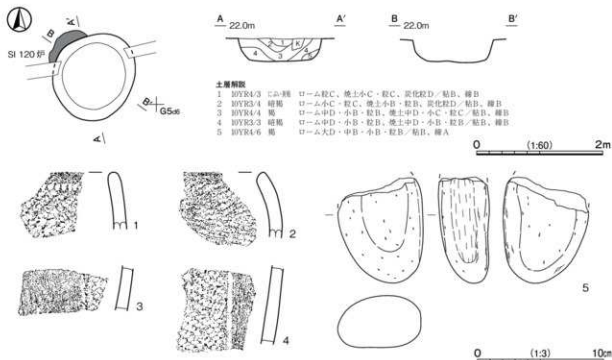
重複関係 第120号竪穴建物跡の炉を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.42m、短径1.28mの楕円形で、長径方向はN-32°-Eである。深さは34cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 18点（深鉢）、石器 1点（安山岩製磨石）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 18点（加曾利E式 13、不明5）である。1～5は覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられる。



第245図 第1359号土坑・出土遺物実測図

第126表 第1359号土坑出土遺物観察表(第245図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位LR単筋縄文 口唇部直下キザミ	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	斜位LR単筋縄文	覆土	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位LR単筋縄文 磨消型垂文	覆土	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位LR単筋縄文 磨消型垂文	覆土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	磨石	(8.4)	6.8	4.1	(319.6)	安山岩	全面研磨 右側強い磨痕	覆土	70%

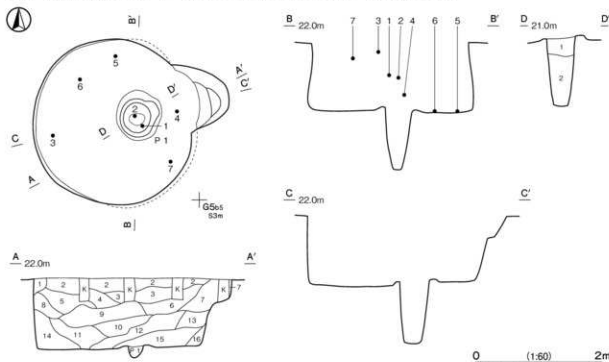
第1361号土坑(第246・247図 第127表)

位置 調査区北東部のG5b4区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径265m、短径254mの円形である。東部に、長さ64cm、幅110cmの突出があり、底面から66cmのところと段となる。深さは110cmで、壁は直立し、北東壁と南東壁は内傾している。底面は平坦である。

ピット P1は、中央部東壁寄りに位置し、深さ102cmである。ピットの外縁には高さ6cmの地山掘り残しの高まりがある。覆土は、ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

覆土 16層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。



土層解説

- 1 10YR6/4 暗褐色 ローム粒C/粘B、粘B
 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒B、炭化粒C/粘B、粘B
 3 10YR3/3 暗褐色 ローム粒C/粘B、粘B
 4 10YR4/3 暗褐色 ローム小D・粒B、炭化粒C/粘B、粘B
 5 10YR2/3 暗褐色 ローム大C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、粘B
 6 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・小C、焼土粒D/粘B、粘B
 7 10YR2/2 暗褐色 ローム小C・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘B、粘B
 8 10YR3/3 暗褐色 ローム中B・小C、炭化粒D/粘B、粘B

ピット土層解説

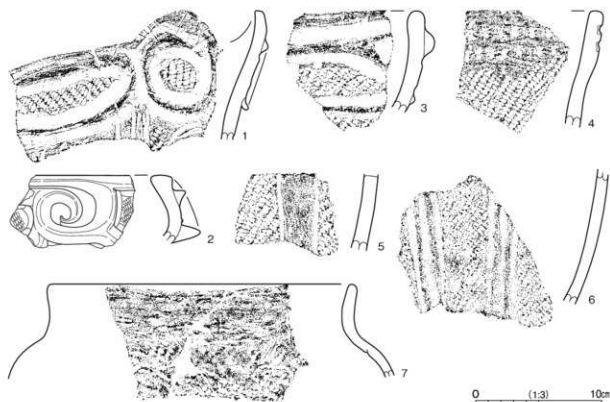
- 1 10YR3/2 暗褐色 ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化物D・粒D/粘B、粘B
 2 10YR3/4 暗褐色 ローム中D・小C/粘B、粘C

- 9 10YR3/2 暗褐色 ローム中B・小C、炭化粒D/粘B、粘B
 10 10YR4/3 暗褐色 ローム小C・粒B、炭化粒D/粘B、粘B
 11 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・小B、炭化粒D/粘B、粘B
 12 10YR2/3 暗褐色 ローム小C・粒D/粘B、粘B
 13 10YR6/4 暗褐色 ローム小B・粒D/粘B、粘B
 14 10YR4/3 暗褐色 ローム中B・小A、炭化粒D/粘B、粘B
 15 10YR4/3 暗褐色 ローム中D・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、粘B
 16 10YR6/4 暗褐色 ローム中B/粘B、粘B

第246図 第1361号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 336 点（深鉢 335、壺 1）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 334 点（阿玉台式 9、加曾利 E 式 197、不明 128）、不明 2 点である。4～6 は覆土下層、1～3・7 は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E Ⅲ 式古段階期）と考えられる。



第 247 図 第 1361 号土坑出土遺物実測図

第 127 表 第 1361 号土坑出土遺物観察表（第 247 図）

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(102)	-	灰石・石英	橙	普通	波状口縁 口縁部地文横位 RL 単節縄文 口縁部沈線の沿う隆帯による縦い条文・区画文 胴部地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土上層	10% PL42
2	縄文土器	深鉢	-	(54)	-	灰石・石英	橙	普通	地文横位 LR 単節縄文 口縁部沈線の沿う隆帯による縦い条文・区画文	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(80)	-	灰石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 口縁部沈線の沿う隆帯による区画文	覆土上層	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(92)	-	灰石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 口唇部直下沈線文・半最位置による割変文	覆土下層	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(59)	-	灰石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土下層	5%
6	縄文土器	深鉢	-	(102)	-	灰石・石英	浅黄橙	普通	胴部地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土下層	5%
7	縄文土器	壺	[240]	(75)	-	灰石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文 胴部横位・縦位 LR 単節縄文	覆土上層	10%

第 1363 号土坑（第 248 図 第 128 表）

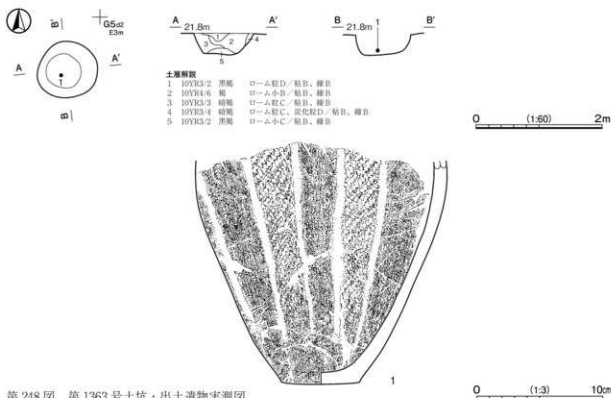
位置 調査区北東部の G 5 d2 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.96 m、短径 0.90 m の円形である。深さは 35 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 5 層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期9点(加曾利E式)である。1は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第248図 第1363号土坑・出土遺物実測図

第128表 第1363号土坑出土遺物観察表(第248図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(17.8)	6.2	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦文 RL 単筋横文 磨消懸垂文	覆土下層	25% PL42

第1368号土坑(第249・250図 第129表)

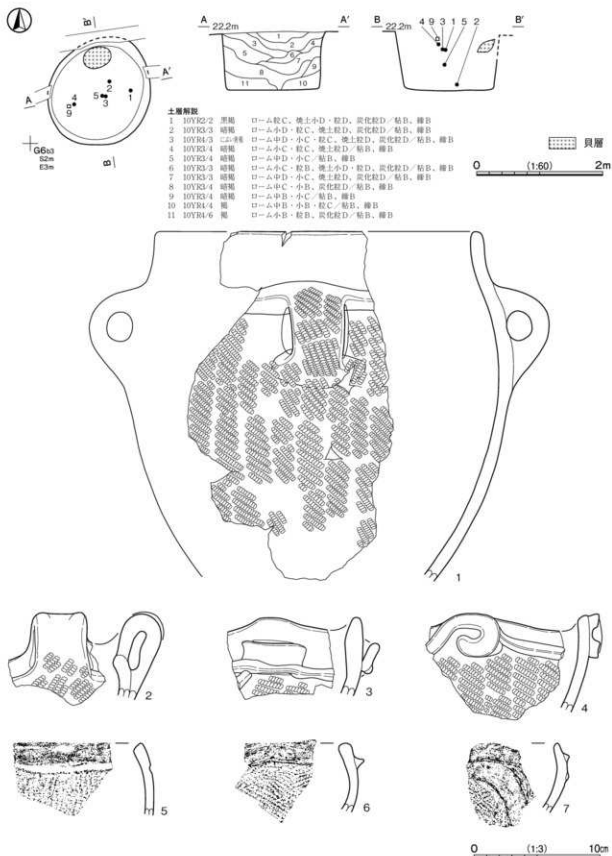
位置 調査区北東部のG6b4区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.82m、短径1.60mの楕円形で、長径方向はN-37°-Eである。深さは92cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

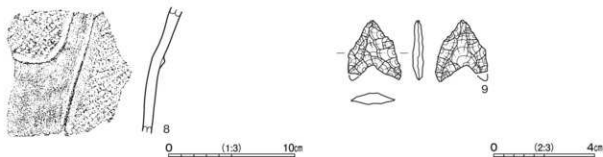
覆土 11層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。地点貝層は混土貝層で、北部壁際の第5層内に含有している。

遺物出土状況 縄文土器片268点(深鉢267、両耳壺1)、石器6点(チャート製石鏃1、安山岩製磨石1、剥片4〔チャート製3、黒曜石製1〕)、貝殻1721点(2078.3g)が出土している。縄文土器片の時期は、中期166点(阿玉台式25、不明141)、中期後葉～後期初頭96点(加曾利EⅣ～称名寺I式)後期5点(称名寺式)である。2・6～8は覆土下層、1・3～5・9は覆土上層から出土している。貝殻は、ヤマトシジミが100%で、最小個体数が890点である。

所見 時期は、出土土器から後期初頭(称名寺I式期)と考えられる。



第 249 図 第 1368 号土坑・出土遺物実測図



第250図 第1368号土坑出土遺物実測図

第129表 第1368号土坑出土遺物観察表 (第249・250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	陶耳甕	[25.0]	(27.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文 口縁下部隆帯文 横状把手 縦位 LR 単筋縄文	覆土上層	内面赤彩痕 20% PL42
2	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英	橙	普通	波状口縁 波頭部横状把手 縦位 RL 単筋縄文	覆土下層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英	橙	普通	小波状口縁 波面下部横位横状把手 口縁部無文 口縁部下部隆帯文 縦位 LR 単筋縄文	覆土上層	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	小波状口縁 波面下部隆帯による縦い高登文 縦位 LR 単筋縄文	覆土上層	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英	褐色	普通	口縁部無文 口縁下部隆帯文 斜位 RL 単筋縄文	覆土上層	5%
6	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部無文 口縁下部隆帯文 横位・縦位 RL 単筋縄文	覆土下層	5%
7	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁下部隆帯無文 隆帯部による区画文 縦位 LR 単筋縄文	覆土下層	5%
8	縄文土器	深鉢	-	(9.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	隆帯部による区画文 縦位 RL 単筋縄文	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	石皿	2.4	(2.1)	0.4	(1.76)	チャート	円高無彫刻	覆土上層	90%

第1369号土坑 (第251・252図 第130表)

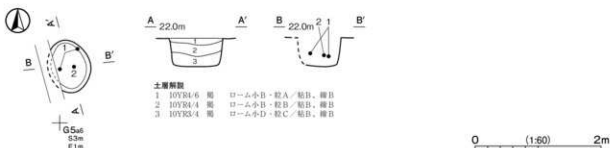
位置 調査区北東部の G 5 a6 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.85 m、短径 0.67 m の楕円形と推定され、長径方向は N - 17° - W である。深さは 45 cm で、壁は直立している。底面はほぼ平坦である。

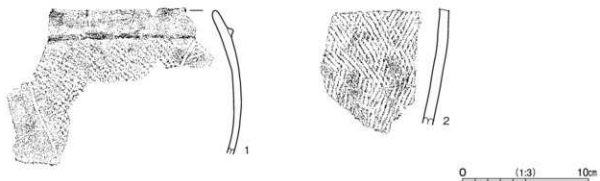
覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 9 点 (深鉢) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 4 点 (不明)、中期後葉～後期初頭 5 点 (加曾利 EⅣ～称名寺 I 式) である。1・2 は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭 (加曾利 EⅣ～称名寺 I 式期) と考えられる。



第251図 第1369号土坑実測図



第 252 図 第 1369 号土坑出土遺物実測図

第 130 表 第 1369 号土坑出土遺物観察表 (第 252 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(11.4)	-	長石・石莖	にぶい黒	普通	口縁部無文、口縁下部帯状文、口縁下部帯状文、口縁下部帯状文、口縁下部帯状文	覆土7層	5% PL42
2	縄文土器	深鉢	-	(9.1)	-	長石・石莖	にぶい黄黒	普通	横位・縦位R無筋縄文	覆土下層	5%

第 1371 号土坑 (第 253 図 第 131 表)

位置 調査区北東部の F 4 j0 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

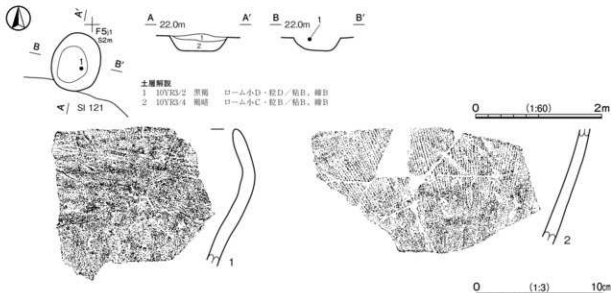
重複関係 第 121 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.93 m、短径 0.75 m の楕円形で、長径方向は N - 17° - E である。深さは 22 cm で、壁は外傾している。底面は皿状である。

覆土 2 層に分類できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 4 点 (深鉢) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 4 点 (加曾利 E 式 3、不明 1) である。1 は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利 E 式期) と考えられる。



第 253 図 第 1371 号土坑・出土遺物実測図

第131表 第1371号土坑出土遺物観察表(第253図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(109)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	無文	覆土上層	5% PL42
2	縄文土器	深鉢	—	(92)	—	長石・石英	にぶい黄褐	普通	櫛歯状工具による条線文	覆土	5%

第1393号土坑(第254図 第132表)

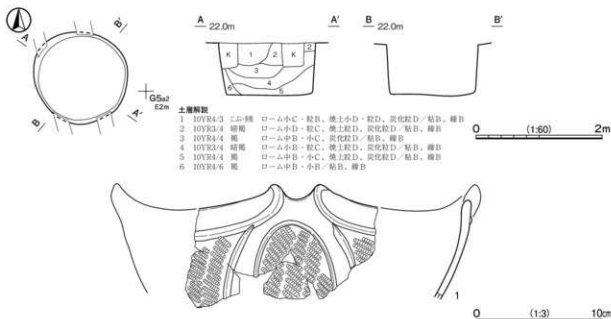
位置 調査区北東部のF52区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.50m、短径1.49mの円形である。深さは81cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片21点(深鉢)が出土している。縄文土器片の時期は、中期11点(不明)、中期後葉～後期初頭10点(加曾利EⅣ～称名寺Ⅰ式)である。1は覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭(称名寺Ⅰ式期)と考えられる。



第254図 第1393号土坑・出土遺物実測図

第132表 第1393号土坑出土遺物観察表(第254図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[284]	(9.0)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	反眼の条状口縁 口縁部無文 口縁下部微隆帯文 注視による区画文 1区単周縄文文様	覆土	10% PL42

第1413号土坑(第255図 第133表)

位置 調査区北東部のG6b2区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

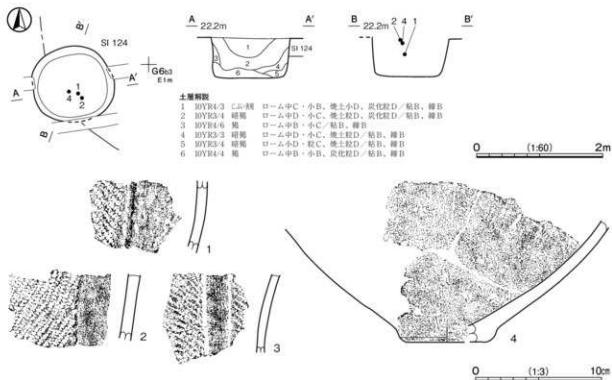
重複関係 第124号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.30m、短径1.20mの円形である。深さは60cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 31 点（深鉢 30、鉢 1）、石器 1 点（チャート製剥片）が出土している。縄文土器片の時期は、中期～後期 31 点（加曾利 E～称名寺式 28、不明 3）である。1・2・4 は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭と考えられる。



第 255 図 第 1413 号土坑・出土遺物実測図

第 133 表 第 1413 号土坑出土遺物観察表（第 255 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(56)	-	長石・石英	橙	普通	殷隆帯による区画文 縦位 LR 単筋縄文充填	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(52)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	殷隆帯による区画文 縦位 RL 単筋縄文充填	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(62)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 磨消型垂文	覆土中層	5%
4	縄文土器	鉢	-	(97)	(66)	長石・石英	橙	普通	無文	覆土上層	10%

第 1418 号土坑（第 256 図 第 134 表）

位置 調査区北東部の F 4 g0 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

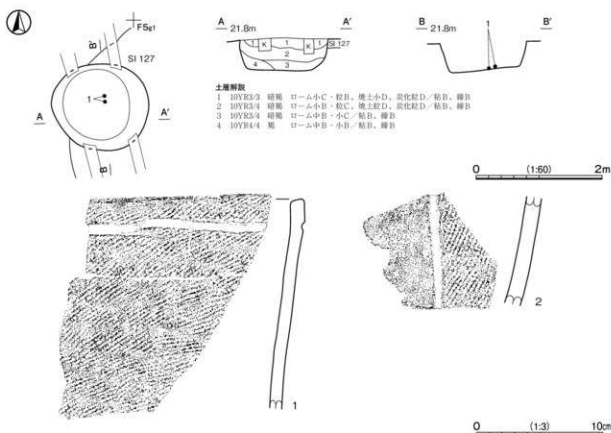
重複関係 第 127 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.55 m、短径 1.37 m の楕円形で、長径方向は N-87°-W である。深さは 50 cm で、壁は外傾している。底面は北から南に傾斜している。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 24 点（深鉢）、石器 1 点（チャート製剥片）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 24 点（加曾利 E 式 17、不明 7）である。1 は底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E Ⅲ 式期）と考えられる。



第256図 第1418号土坑・出土遺物実測図

第134表 第1418号土坑出土遺物観察表(第256図)

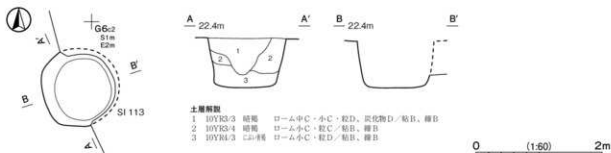
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(16.7)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	地文横位LR単筋縄文 口縁部沈線文	底面	10% PL43
2	縄文土器	深鉢	—	(8.4)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位R無筋縄文 磨消壁垂文	腹土	5%

第1419号土坑(第257・258図 第135表)

位置 調査区北東部のG6c2区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第113号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.30m、短径1.24mの円形と推定される。深さは76cmで、壁は外傾している。底面は平坦



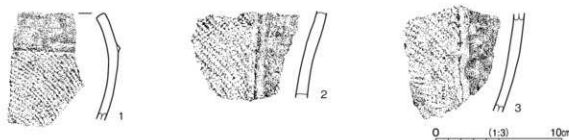
第257図 第1419号土坑実測図

である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 18点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期2点（不明）、中期後葉～後期初頭 16点（加曾利EⅣ～称名寺式）である。1～3は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭（加曾利EⅣ～称名寺Ⅰ式期）と考えられる。



第258図 第1419号土坑出土遺物実測図

第135表 第1419号土坑出土遺物観察表（第258図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(85)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部無文 口縁下部微隆帯文 縦位LR半胎縄文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(77)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	微隆帯による区画文 縦位LR半胎縄文充填	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(78)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	微隆帯による区画文 縦位LR半胎縄文充填	覆土上層	5%

第1429号土坑（第259・260図 第136表）

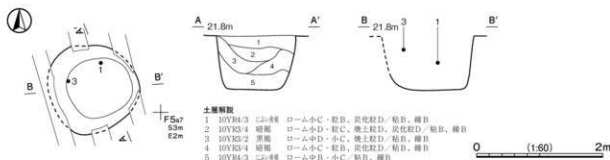
位置 調査区北東部のF5a7区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.43m、短径1.40mの円形と推定される。深さは85cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

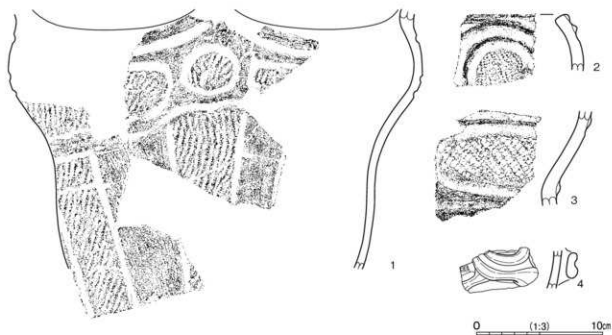
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 66点（深鉢 60、壺 6）が出土している。縄文土器片の時期は、中期66点（加曾利E式 61、不明 5）である。1～3は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式新段階期）と考えられる。



第259図 第1429号土坑実測図



第 260 図 第 1429 号土坑出土遺物実測図

第 136 表 第 1429 号土坑出土遺物観察表 (第 260 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	(31.0)	(20.6)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	液状口縁 地文縦位 RL 半筋縄文 口縁部沈泥による区画文 胴部磨消部全文	甕土中層	20%
2	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	地文斜位 RL 半筋縄文 微隆帯による区画文	甕土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	地文横位 RL 半筋縄文 隆帯による区画文	甕土中層	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(3.0)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	横位橋状把手付 地文斜位 LR 半筋縄文	甕土上層	10%

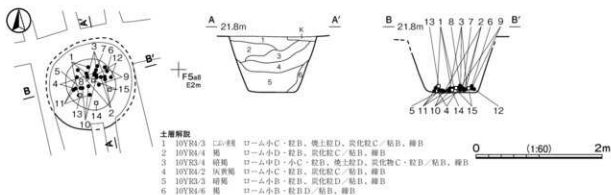
第 1433 号土坑 (第 261 ~ 264 図 第 137 表)

位置 調査区北東部の F 5a8 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.52 m、短径 1.40 m の円形と推定される。深さは 87 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 149 点 (深鉢 148、鉢 1) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 149 点 (阿

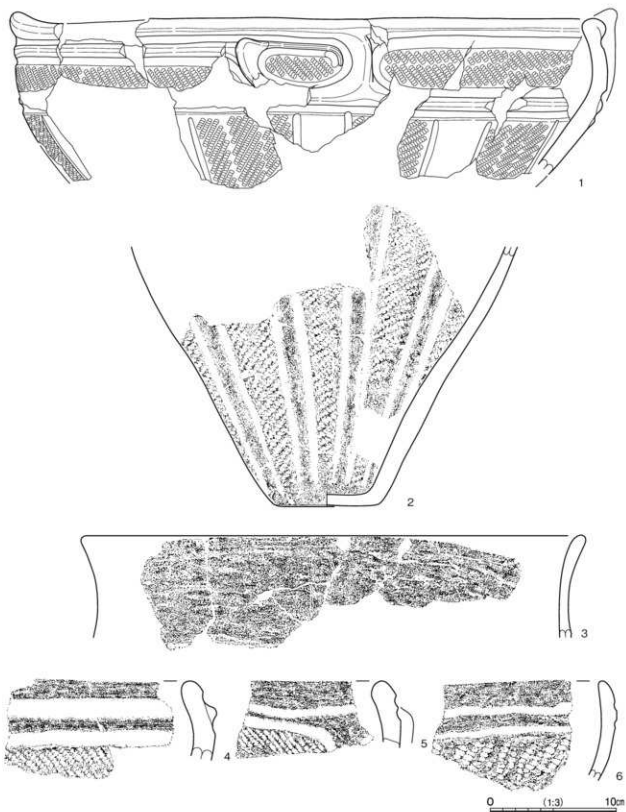


第 261 図 第 1433 号土坑実測図

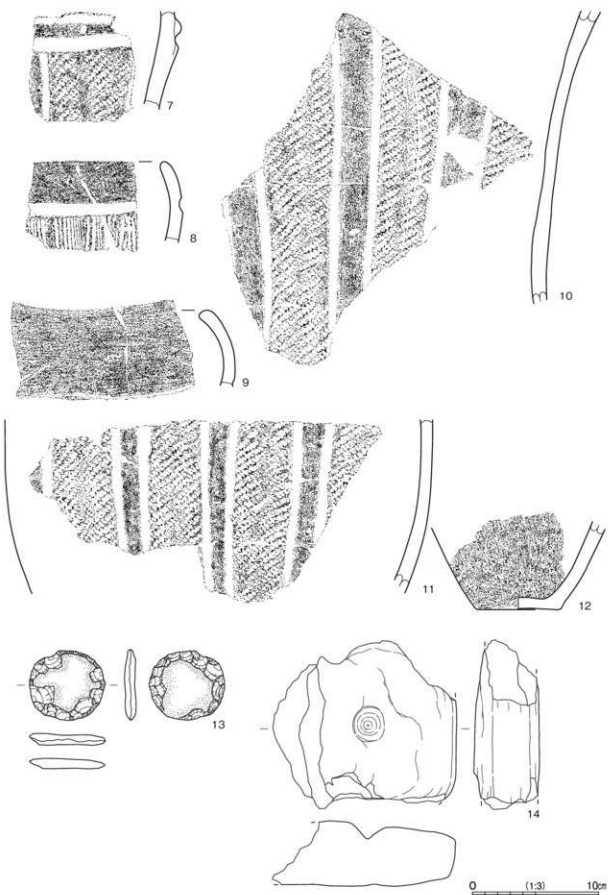
玉台式1、加曾利E式127、不明21)、石器4点(砂岩製搔器1、雲母片岩製凹石2、雲母片岩製石皿1)である。

1～15は底面から廃棄された状態で出土している。

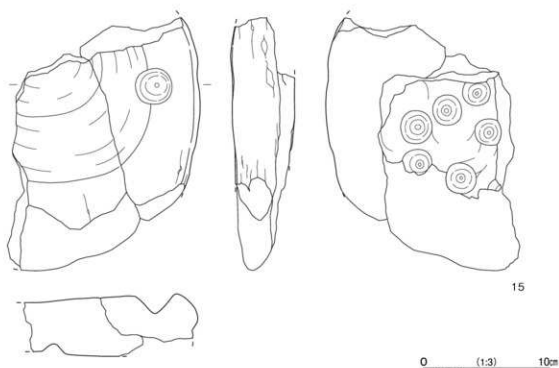
所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式古段階期)と考えられる。



第262図 第1433号土坑出土遺物実測図(1)



第 263 图 第 1433 号土坑出土文物实测图(2)



第 264 図 第 1433 号土坑出土遺物実測図(3)

第 137 表 第 1433 号土坑出土遺物観察表 (第 262 ~ 264 図)

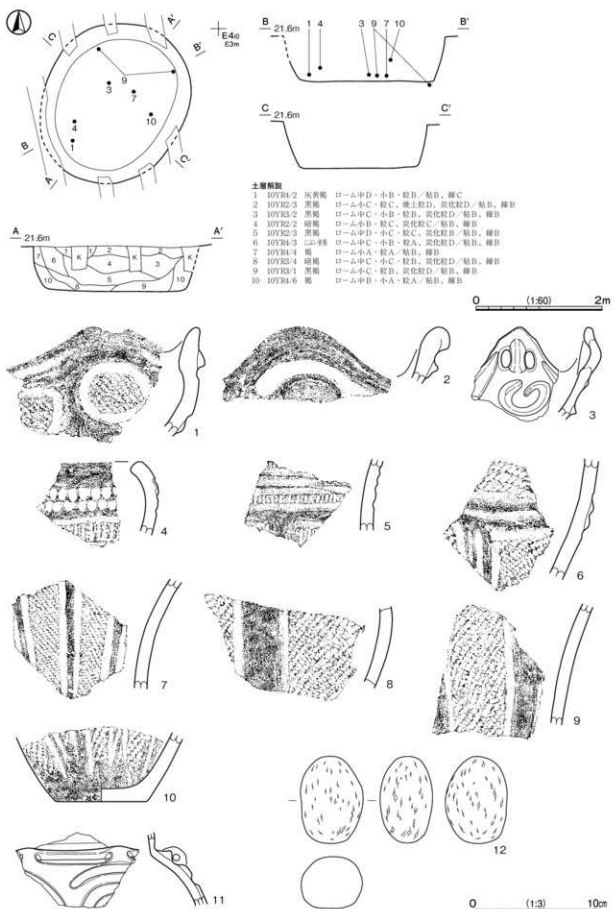
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	地 成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	47.0	(14.1)	-	長石・石英	灰褐色	普通	2単位の小波状口縁 口縁部地文横位 RL 単節縄文 沈線の沿う隆帯による横い波垂文・区画文 胴部地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	底面	20% PL43
2	縄文土器	深鉢	-	(21.6)	8.2	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	底面	20% PL43
3	縄文土器	深鉢	[39.0]	(8.0)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部無文	底面	10%
4	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文横位 RL 単節縄文 沈線の沿う隆帯による区画文	底面	5%
5	縄文土器	深鉢	-	(5.3)	-	長石・石英	橙	普通	地文横位 RL 単節縄文 沈線の沿う隆帯による区画文	底面	5%
6	縄文土器	深鉢	-	(7.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 沈線による区画文	底面	5%
7	縄文土器	深鉢	-	(7.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部下沈線の沿う隆帯文 胴部地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	底面	5%
8	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文 口縁下部沈線文 地文磨面状工具による条線文	底面	5%
9	縄文土器	鉢	-	(6.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文 口縁下部沈線文 内外面赤彩	底面	5% PL43
10	縄文土器	深鉢	-	(22.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	底面	10%
11	縄文土器	深鉢	-	(13.7)	-	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	底面	10%
12	縄文土器	深鉢	-	(7.0)	6.5	長石・石英	にぶい橙	普通	無文	底面	5%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
13	埴器	5.6	6.0	0.9	46.99	砂岩	素材自然扁平礫 両面周縁より剥離調整	底面	100%
14	四石	(13.5)	(14.6)	5.3	(127.3)	雲母片岩	凹痕 1 か所	底面	25%
15	石皿	(20.1)	(13.8)	4.9	(186.3)	雲母片岩	縦磨面皿状 表面凹痕 1 か所 裏面凹痕 6 か所 凹石兼用	底面	25%

第 1464 号土坑 (第 265 図 第 138 表)

位置 調査区北東部の E 4 i0 区、標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.64 m、短径 2.24 m の楕円形で、長径方向は N - 37° - E である。深さは 72 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。



第 265 図 第 1464 号土坑・出土遺物実測図

覆土 10層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 184 点（深鉢 182、壺 1、両耳壺 1）、石器 1 点（安山岩製磨石 1）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 178 点（加曾利 E 式 125、不明 53）、後期 6 点（不明）である。1・3～5・7・9～11 は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E Ⅲ 式古段階期）と考えられる。

第 138 表 第 1464 号土坑出土遺物観察表（第 265 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(86)	—	長石・石英	橙	普通	表状口縁 地文横位 RL 単節縄文 或頂部下部沈線の沿う隆帯による横間区画文	覆土下層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(45)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	表状口縁 或頂部下部沈線の沿う隆帯による区画文	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(73)	—	長石・石英	にぶい赤黄	普通	表状口縁 或頂部に縦線状突起 隆帯による横間区画文	覆土下層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(59)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部交互刺突文 地文縦位 R 断垂文	覆土下層	5%
5	縄文土器	深鉢	—	(54)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 R 断垂文 磨消懸垂文	覆土下層	5%
6	縄文土器	深鉢	—	(93)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部地文縦位 L RL 複節縄文 胴部地文縦位 RL 単節縄文 口縁下部沿う沈線のある長帯文 胴部磨消懸垂文	覆土中層	5%
7	縄文土器	深鉢	—	(84)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 L R 単節縄文 磨消懸垂文	覆土下層	5%
8	縄文土器	深鉢	—	(65)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土中層	5%
9	縄文土器	深鉢	—	(93)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土下層	5%
10	縄文土器	深鉢	—	(55)	7.2	長石・石英	橙	普通	地文縦位 RL 単節縄文 磨消懸垂文	覆土下層	10%
11	縄文土器	壺	—	(58)	—	長石・石英	橙	普通	肩部橋状突起 胴部沈線の沿う幅広隆帯文	覆土下層	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	磨石	6.9	4.9	4.1	116.9	安山岩	全面研磨	覆土中層	100%

第 1474 号土坑（第 266・267 図 第 139 表）

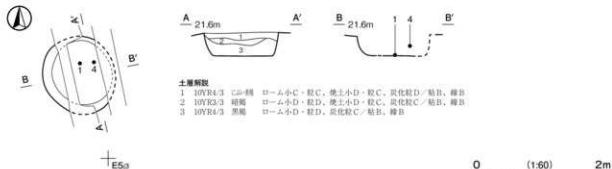
位置 調査区北東部の E 5 i2 区、標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.25 m、短径 1.15 m の楕円形と推定され、長径方向は N - 20° - W である。深さは 35 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

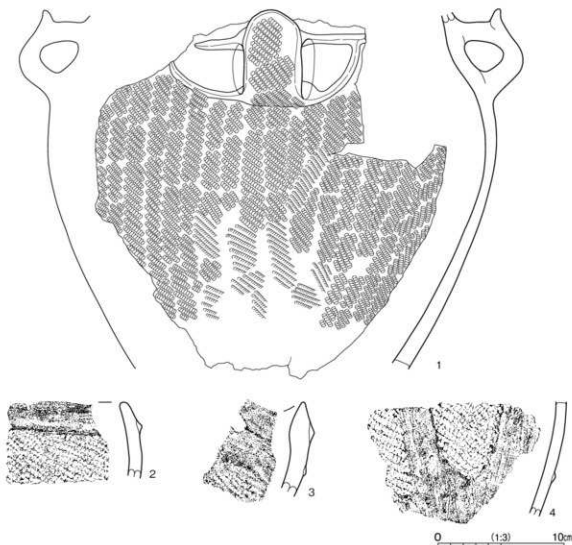
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 56 点（深鉢 55、両耳壺 1）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 15 点（阿玉台式 1、不明 14）、中期後葉～後期初頭 41 点（加曾利 E IV～称名寺 I 式）である。1 は底面、4 は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺 I 式期）と考えられる。



第 266 図 第 1474 号土坑実測図



第 267 図 第 1474 号土坑出土遺物実測図

第 139 表 第 1474 号土坑出土遺物観察表（第 267 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	両耳壺	—	(28.5)	—	長石・石英	にぶい黄緑	普通	肩部横状把手・把手部両側隆帯による区画文 部位 L.R 半筋縄文・L 無筋縄文	底面	25% PL43
2	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部無文・口縁下部微隆帯文・縦位 L.R 半筋 縄文	覆土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	長石・石英	橙	普通	浅状口縁・口縁部無文・口縁下部微隆帯文・微 隆帯による区画文・L 無筋縄文支須	覆土上層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	—	長石・石英	橙	普通	微隆帯による区画文・L.R 半筋縄文充填	覆土下層	5%

第 1476 号土坑（第 268 図 第 140 表）

位置 調査区北東部の E 6 cl 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

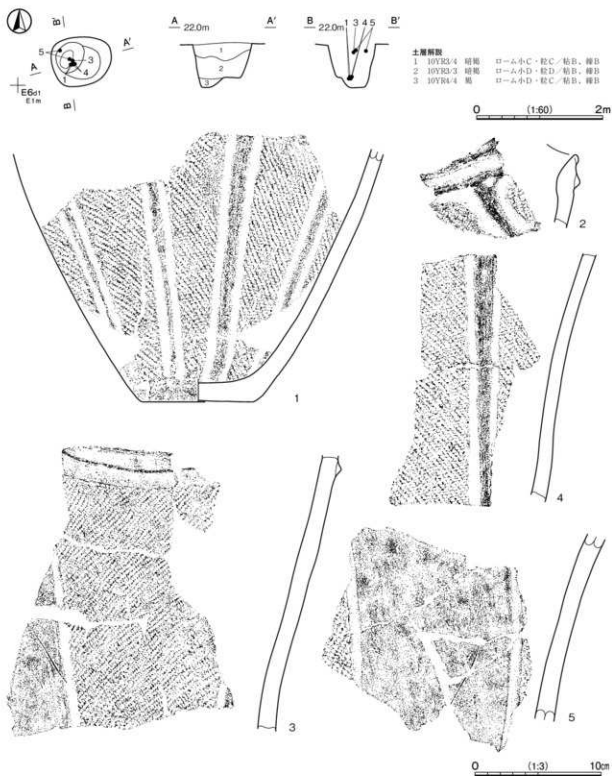
規模と形状 長径 0.95 m、短径 0.77 m の楕円形で、長径方向は N - 80° - E である。深さは 68 cm で、壁は北部から南部が外傾して立ち上がり、東部が底面より 14 cm のところで段を有している。底面は平坦である。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 34 点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、中期 34 点（加曾利 E 式 33、

不明1)である。1・4は覆土下層、3・5は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅢ式新段階期）と考えられる。



第 268 図 第 1476 号土坑・出土遺物実測図

第 140 表 第 1476 号土坑出土遺物観察表 (第 268 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(19.6)	9.0	長石・石英	橙	普通	地文縦位 LR 卑胎縄文 磨消懸垂文	覆土下層	25% PL43
2	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	流状口縁 地文横位 RL 卑胎縄文 沈殿の沿う除布文	覆土中層	5%
3	縄文土器	深鉢	—	(21.8)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	地文縦位 RL 卑胎縄文 口縁下部微隆帯文 磨消懸垂文	覆土上層	10%
4	縄文土器	深鉢	—	(19.6)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位 LR 卑胎縄文 磨消懸垂文	覆土下層	10%
5	縄文土器	深鉢	—	(14.4)	—	長石・石英	にぶい黄橙	普通	地文縦位 RL 卑胎縄文 磨消懸垂文	覆土上層	5%

第 1485 号土坑 (第 269 図 第 141 表)

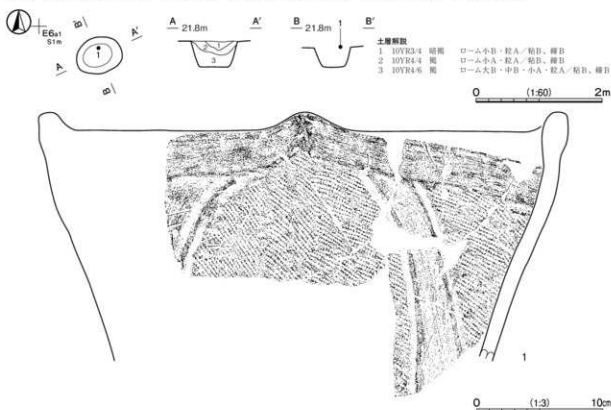
位置 調査区北東部の E 6a1 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.75 m、短径 0.57 m の楕円形で、長径方向は N - 70° - E である。深さは 33 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 1 点 (深鉢) が出土している。縄文土器片の時期は、後期初頭 (加曾利 E IV ~ 称名寺 I 式) である。I は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 ~ 後期初頭 (加曾利 E IV ~ 称名寺 I 式期) と考えられる。



第 269 図 第 1485 号土坑・出土遺物実測図

第 141 表 第 1485 号土坑出土遺物観察表 (第 269 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[40.0]	[19.7]	—	長石・石英	にぶい黄	普通	流状口縁 流頂部から口縁下部微隆帯文 磨による区画文 縦位 LR 卑胎縄文 外周	覆土上層	10%

第 1495 号土坑 (第 270 図 第 142 表)

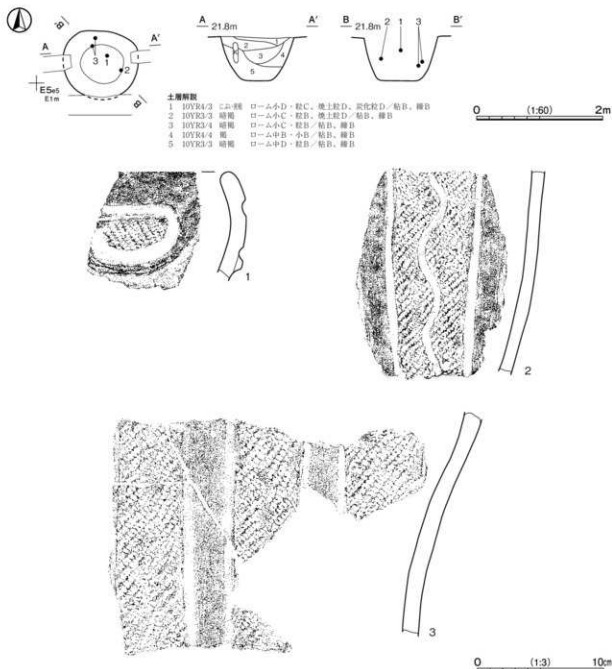
位置 調査区北東部の E 5 d5 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.19 m、短径 1.13 m の円形である。深さは 68 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 5 層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 29 点 (深鉢)、石器 1 点 (石英製石鏃) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 29 点 (加曾利 E 式 18、不明 11) である。1 ~ 3 は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利 E Ⅲ 式期) と考えられる。



第 270 図 第 1495 号土坑・出土遺物実測図

第 142 表 第 1495 号土坑出土遺物観察表 (第 270 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	縄文時代に比し単面縄文 織い・長文文	沈殿の沿う隆帯による	覆土下層 5%
2	縄文土器	深鉢	—	(16.0)	—	長石・石英	にぶい橙	普通	縄文時代に比し単面縄文 織い・長文文	磨消懸垂文・総行懸垂文	覆土下層 5%
3	縄文土器	深鉢	—	(17.1)	—	長石・石英	橙	普通	縄文時代に比し単面縄文 織い・長文文	磨消懸垂文	覆土下層 10%

第 1508 号土坑 (第 271 図 第 143 表)

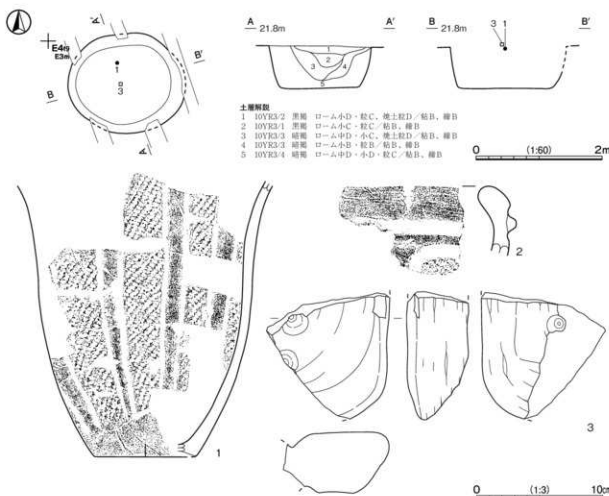
位置 調査区北東部の E 4 和区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.85 m、短径 1.55 m の楕円形で、長径方向は N - 87° - E である。深さは 65 cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 5 層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 8 点 (深鉢)、石器 2 点 (雲母片岩製石皿、ホルンフェルス製剥片) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 7 点 (加曾利 E 式 6、不明 1)、不明 1 点である。1 ~ 3 は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曾利 E Ⅲ 式期) と考えられる。



第 271 図 第 1508 号土坑・出土遺物実測図

第143表 第1508号土坑出土遺物観察表(第271図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(21.8)	[80]	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	地文縦位 RL 単筋縄文 磨消型垂文	覆土上層	25% PL43
2	縄文土器	深鉢	—	(35)	—	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	地文横位 RL 単筋縄文 沈線の沿う隆帯文	覆土上層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	石皿	(101)	(99)	4.9	(501.2)	雲母片岩	縁面平坦・平滑 表面凹痕2か所 裏面凹痕1か所 凹石軌痕	覆土上層	20%

第1518号土坑(第272図 第144表)

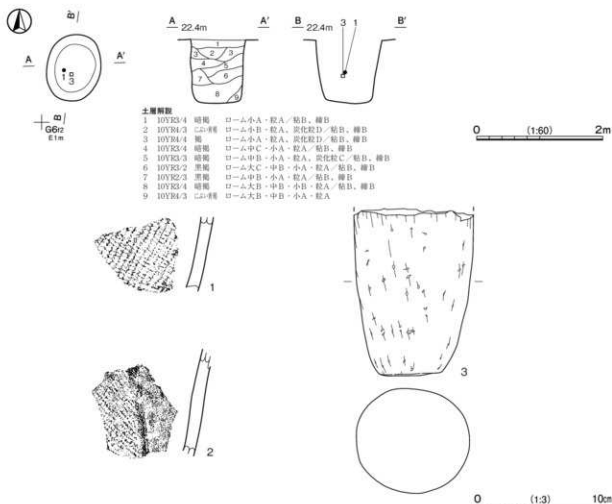
位置 調査区北東部のG6e2区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.05m、短径0.85mの楕円形で、長径方向はN-9°-Eである。深さは100cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片10点(深鉢)、石器1点(アイサイト製石棒)が出土している。縄文土器片の時期は、中期7点(不明)、中期後葉～後期初頭3点(加曾利EⅣ～称名寺I式)である。1・3は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭(加曾利EⅣ～称名寺I式期)と考えられる。



第272図 第1518号土坑・出土遺物実測図

第144表 第1518号土坑出土遺物観察表 (第272図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	長石・石英	橙	普通	地文縦位RL単節縄文	覆土中層	5%
2	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	長石・石英	橙	普通	微隆帯による区画文 縦位LR単節縄文充填	覆土	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
3	石棒	(13.3)	9.5	8.8	(157)	ゲイサイト	全面研磨 敲打整形 先端部欠損			覆土中層	25% PL43

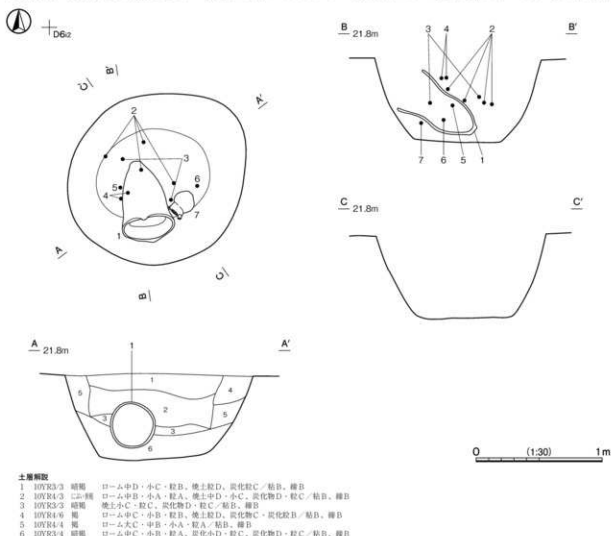
第1519号土坑 (第273～276図 第145表 PL16)

位置 調査区北東部のD6区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.52m、短径1.35mの楕円形で、長径方向はN-52°-Eである。深さは66cmで、壁は外傾している。底面はほぼ平坦である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

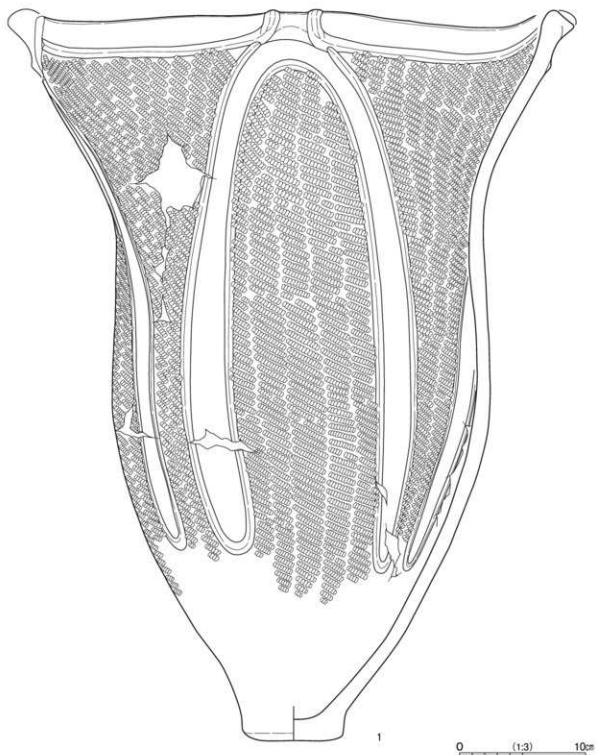
遺物出土状況 縄文土器片93点(深鉢92、注口土器1)、植物遺体(6g)が出土している。縄文土器片の時期は、中期後葉～後期初頭(加曾利EⅣ～称名寺I式)である。1の大型深鉢と7の注口土器は、いずれも口縁を南



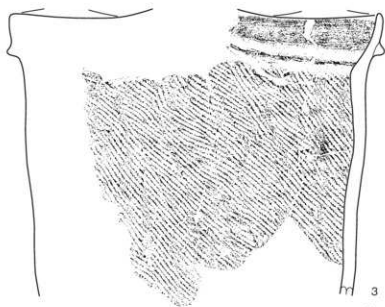
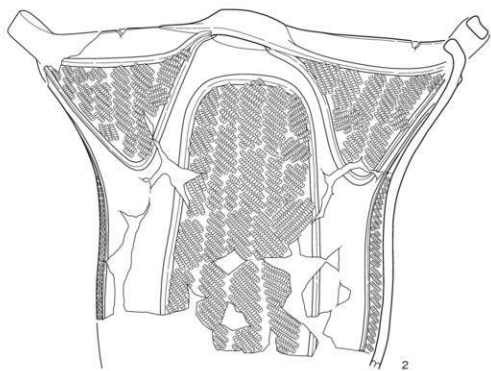
第273図 第1519号土坑実測図

に向けた横位の状態で、覆土下層から出土している。2～4は覆土中層、5・6は覆土下層から、いずれも廃棄された状態で出土している。植物遺体は、1内部の堆積土から検出し、炭化種実同定の結果、クリとオニグルミ、炭化材樹種同定の結果、クリと同定された（『第3章第4節 自然科学分析 2』参照）。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺Ⅰ式期）と考えられる。



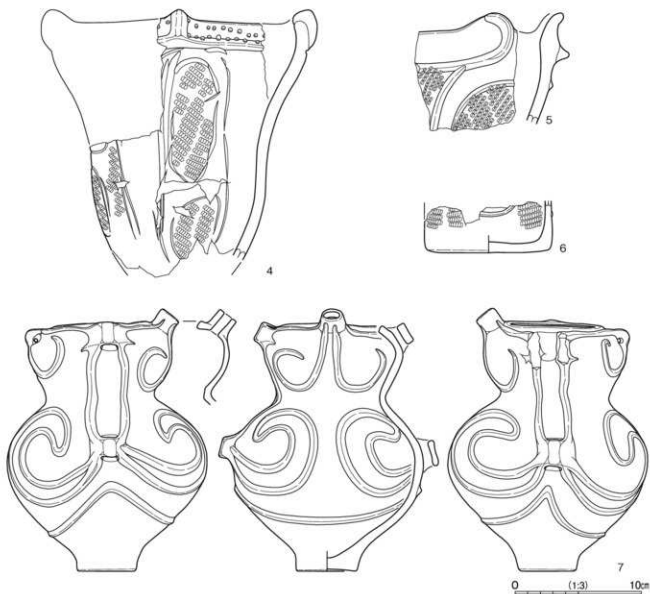
第 274 図 第 1519 号土坑出土遺物実測図(1)



3

0 (1:3) 10cm

第 275 図 第 1519 号土坑出土遺物実測図(2)



第 276 図 第 1519 号土坑出土遺物実測図(3)

第 145 表 第 1519 号土坑出土遺物観察表 (第 274 ~ 276 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	地 成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	[41.6]	58.1	7.9	長石・石英	にぶい橙	普通	双頭の小さな口縁。口縁部無文。双頭の肩部から口縁下部微隆帯文。胴部下部微隆帯文連結により区画文形成。縦位 L.R 単節縄文光塩。	覆土下層	96% PL44
2	縄文土器	深鉢	[32.0]	(38.5)	-	長石・石英	橙	普通	小さな口縁。肩部斜位突起。口縁下部微隆帯文。微隆帯による波状字・V字状区画文。縦位 L.R 単節縄文光塩。	覆土中層	70% PL44
3	縄文土器	深鉢	[29.2]	(22.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	小さな口縁。口縁部無文。口縁部下部隆帯文。縦位 L.R 単節縄文。	覆土中層	25% PL45
4	縄文土器	深鉢	[21.4]	(21.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	小さな口縁。波道部下縦位貼付文。口縁部突起文。口縁下部微隆帯文。上下2段に沈線による栴門区画文。縦位 L.R 単節縄文光塩。	覆土中層	35% PL45
5	縄文土器	深鉢	-	(9.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	双頭の小さな口縁。口縁部無文。口縁下部微隆帯文。微隆帯による区画文。縦位 L.R 単節縄文光塩。	覆土下層	5% PL45
6	縄文土器	深鉢	-	(4.1)	9.8	長石・石英	にぶい橙	普通	微隆帯による区画文。斜位 L.R 単節縄文。	覆土下層	5%
7	縄文土器	注口土器	7.0	30.8	4.8	長石・石英	浅黄橙	普通	匱量彩。注口と直交する位置の口唇部直下と胴部に横位梯状突起。注口と突起を起点に微隆帯による左右対称の縦い渦巻文。	覆土下層	赤彩痕 96% PL45

第 1525 号土坑 (第 277・278 図 第 146 表)

位置 令和 5 年度調査区北東部の G 7 g5 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1527 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 西部が調査区域外で削平されているため、確認できた規模は、長径 1.38 m、短径 0.98 m で、楕円形と推定される。長径方向は N - 20° - W である。深さは 96 cm で、壁は外傾している。底面はほぼ平坦である。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片 102 点 (深鉢)、石器 1 点 (チャート製石鏃) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 42 点 (阿玉台式 1、不明 41)、中期後葉～後期初頭 47 点 (加曾利 E IV～称名寺 I 式)、不明 13 点である。4 は底面から廃棄された状態で、1・5 は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭 (加曾利 E IV～称名寺 I 式期) と考えられる。



第 277 図 第 1525 号土坑実測図

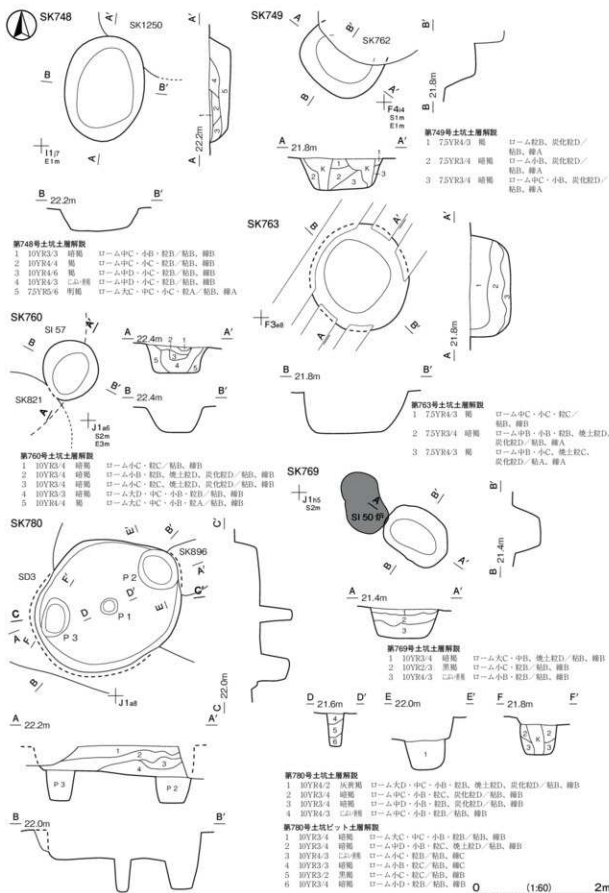
第 146 表 第 1525 号土坑出土遺物観察表 (第 278 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.7)	-	長石	にぶい黄褐色	普通	瓦頭の小波状口縁 縦文・横文 L 反半筋縄文	覆土上層	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部無文 口縁下部微隆帯文 縦文 L 反半筋縄文	覆土下層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁部無文 口縁下部微隆帯文 縦文 L 反半筋縄文	覆土下層	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(35.9)	-	長石・石英	橙	普通	縦文 RL 半筋縄文	底面	15%

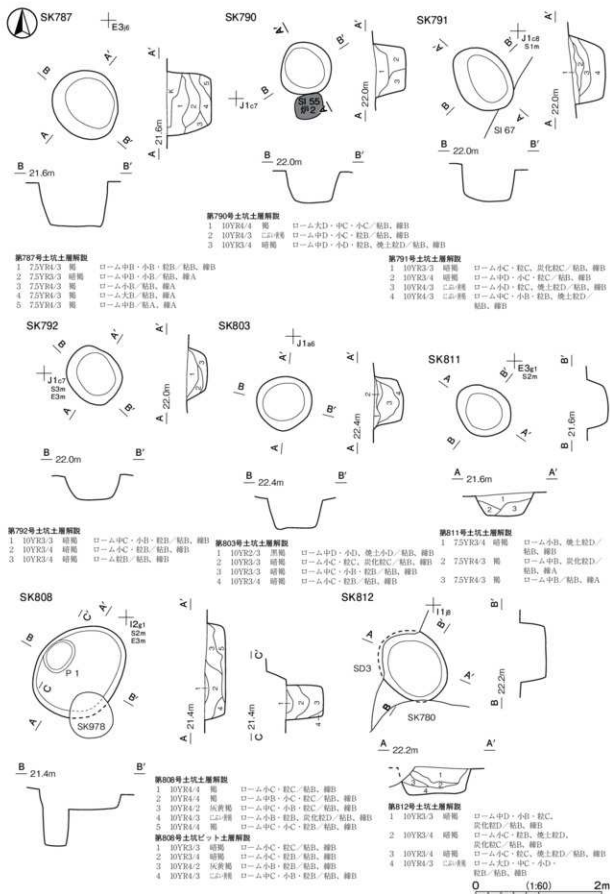
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	石器	1.8	1.6	0.3	0.67	チャート	円基無茎鏃	覆土上層	100%



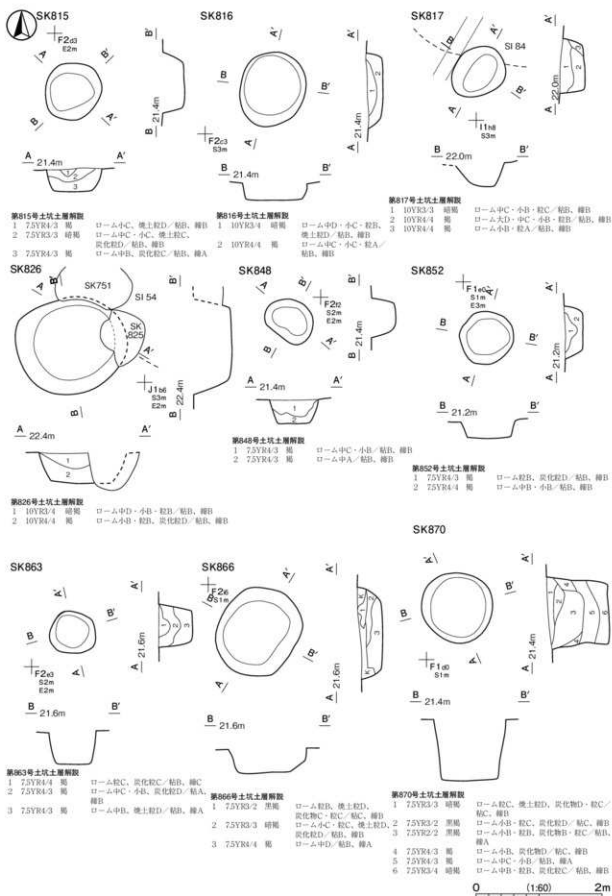
第 278 图 第 1525 号土坑出土文物实测图



第279図 縄文時代土坑実測図(1)



第280図 縄文時代土坑実測図(2)

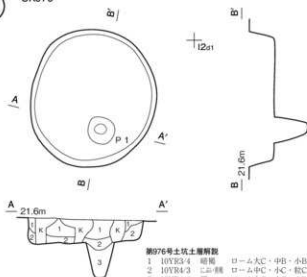


第 281 図 縄文時代土坑実測図(3)

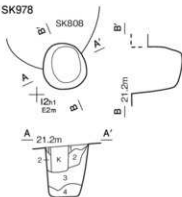




SK976



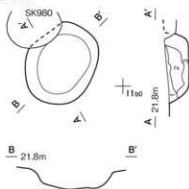
SK978



第978号土坑土層解説

ローム小B・粒C、炭化粒D/粘土、礫A
 ローム中C・小B・粒C、炭化粒D/粘土、礫B
 ローム中C・小B・粒B、礫土粒C/粘土、礫A
 ローム中C・小B・粒A/粘土、礫B

SK979



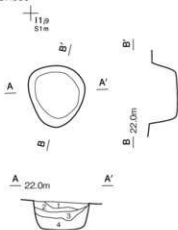
SK980



第980号土坑土層解説

ローム中C・粒B/粘土、礫B
 ローム大D・中C・小B・粒A/粘土、礫B

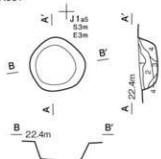
SK983



第983号土坑土層解説

ローム中C・粒B、礫土粒D、炭化粒D/粘土、礫B
 ローム中C・小B・粒B/粘土、礫B
 ローム小B・粒A/粘土、礫A
 ローム大D・中C・小B・粒A/粘土、礫A

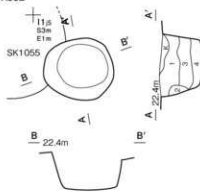
SK991



第991号土坑土層解説

ローム中C・小C・粒C、炭化粒D/粘土、礫B
 ローム小B・粒B、礫土粒D、炭化粒C/粘土、礫B
 ローム中C・小B・粒B/粘土、礫B
 ローム中C・小B・粒A/粘土、礫B

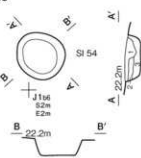
SK992



第992号土坑土層解説

ローム中C・小B・粒B、礫土粒D/粘土、礫B
 ローム中C・小B・粒B/粘土、礫B
 ローム大D・中C・小B・粒B/粘土、礫B
 ローム小B・粒B/粘土、礫B

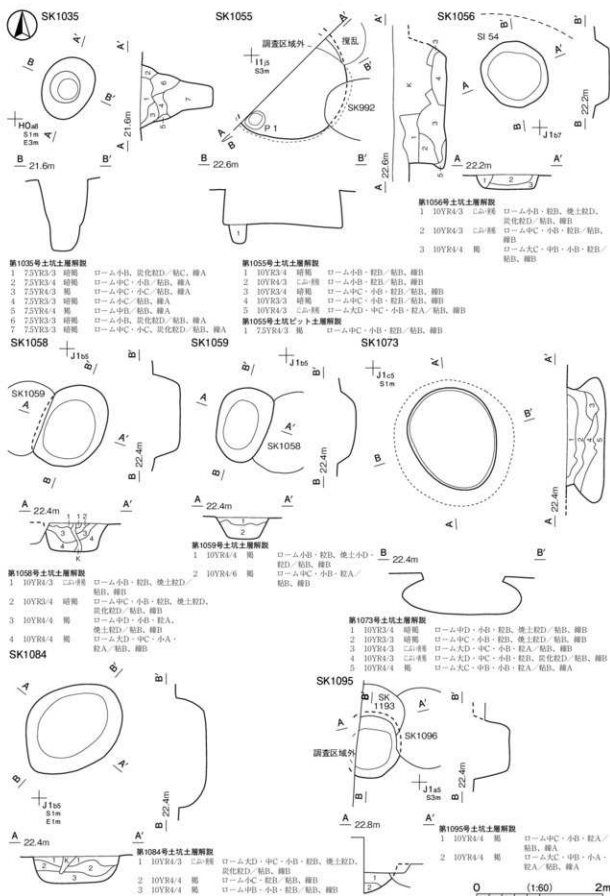
SK998



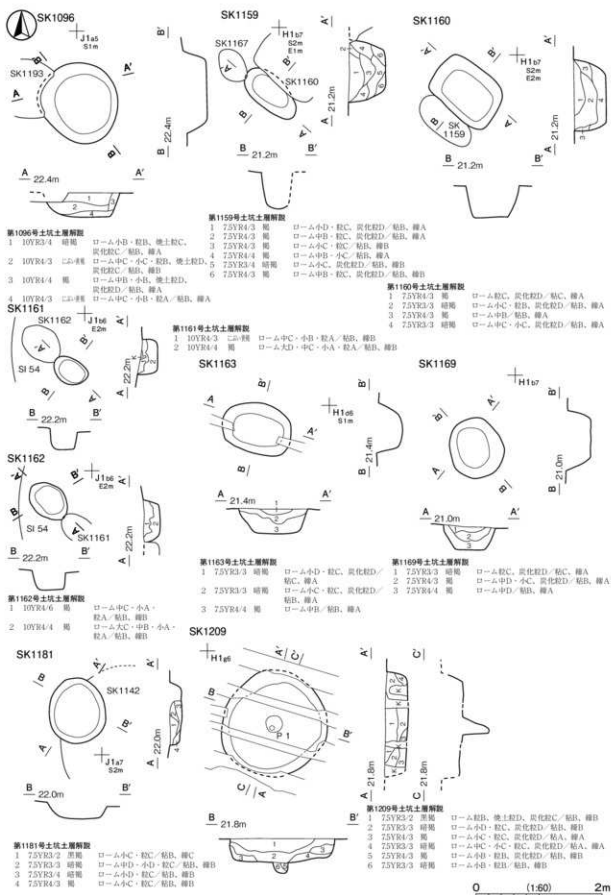
第998号土坑土層解説

ローム中D・小B・粒B/粘土、礫B
 ローム小B・粒A/粘土、礫B
 ローム中C・小A・粒A/粘土、礫B

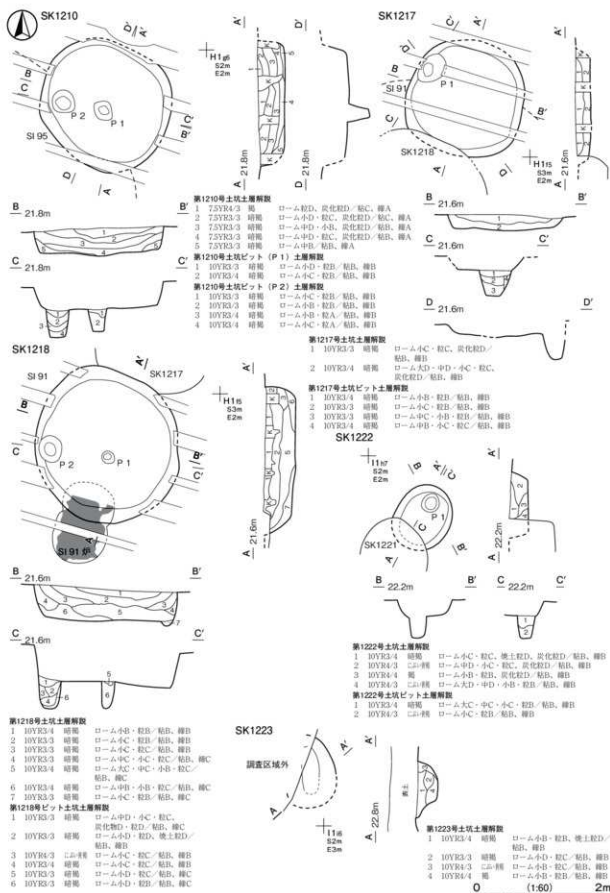
0 (1:60) 2m



第284図 縄文時代土坑実測図(6)

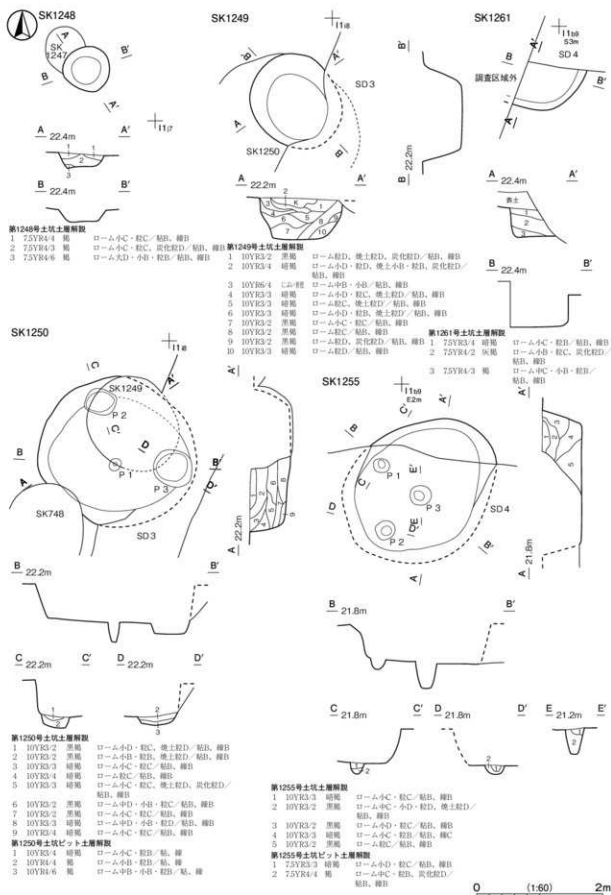


第 285 図 縄文時代土坑実測図(7)

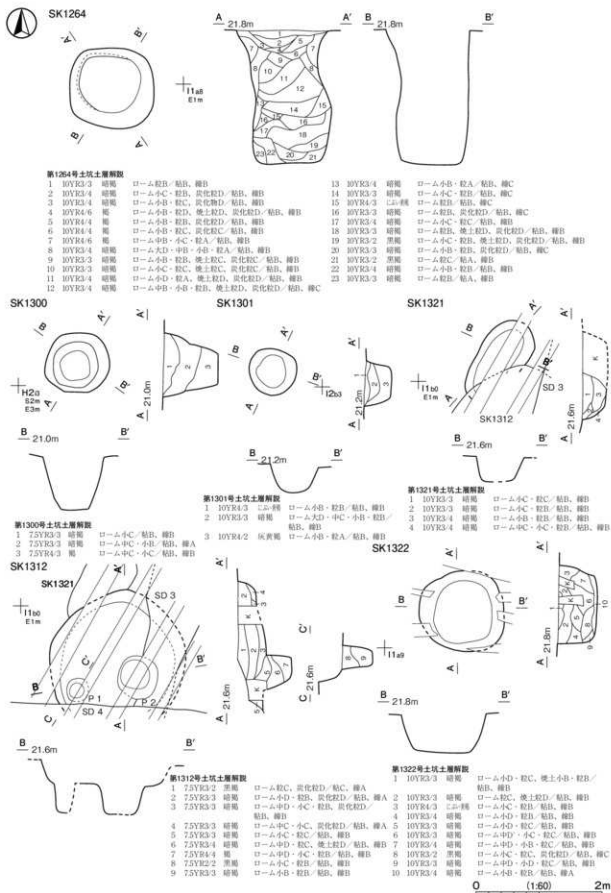


第 286 図 縄文時代土坑実測図(8)

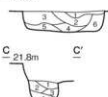
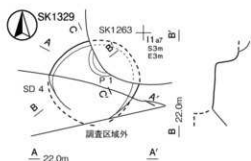




第 288 図 縄文時代土坑実測図30



第 289 図 縄文時代土坑実測図(II)



第1329号土坑土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|---------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小C・粒D・粘B・腐C |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小C・炭化粒D・粘B・腐B |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小D・粒C・焼土粒D・粘B・腐B |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小D・粒C・粘B・腐B |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム中D・小D・粒C・粘B・腐B |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒B・粘B・腐B |

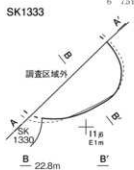
第1329号土坑ピット土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|----------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム中D・小D・粘B・腐B |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小D・粒C・粘B・腐C |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム粒D・粘B・腐B |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小C・粒C・粘B・腐B |



第1331号土坑土層解説

- | | | | |
|---|----------|-----|--------------------------------------|
| 1 | 7.5YR4/2 | 黒褐色 | ローム中C・小B・粒B・焼土粒D・炭化粒D・粘B・腐A |
| 2 | 7.5YR4/3 | 暗褐色 | ローム小B・粒B・焼土粒C・炭化粒D・粘B・腐A |
| 3 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム大D・中D・小B・粒B・焼土中C・小C・粒C・炭化粒D・粘B・腐B |
| 4 | 7.5YR4/3 | 暗褐色 | ローム中D・小B・粒A・焼土小D・粒D・粘B・腐B |
| 5 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ローム小B・粒A・炭化粒D・粘B・腐B |
| 6 | 7.5YR4/3 | 暗褐色 | ローム小B・粒A・粘B・腐B |



第1333号土坑土層解説

- | | | | |
|---|----------|-----|-----------------------------|
| 1 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム中D・小C・粒B・焼土粒D・炭化粒D・粘B・腐A |
| 2 | 7.5YR4/3 | 暗褐色 | ローム中D・小C・粒C・炭化粒D・粘B・腐B |
| 3 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ローム大D・中C・小C・粒C・粘B・腐A |
| 4 | 7.5YR4/3 | 暗褐色 | ローム中D・小C・粒D・粘B・腐A |
| 5 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム中C・小C・粒C・粘B・腐B |
| 6 | 7.5YR4/4 | 暗褐色 | ローム中C・小B・粒A・粘B・腐B |
| 7 | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | ローム大D・中C・小C・粒A・粘B・腐B |



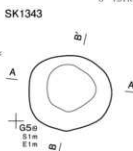
第1330号土坑土層解説

- | | | | |
|---|----------|-----|--------------------------------|
| 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム小C・粒B・焼土粒D・炭化粒C・粘B・腐A |
| 2 | 7.5YR4/3 | 暗褐色 | ローム小D・粒A・炭化粒D・粘B・腐A |
| 3 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ローム大C・中C・小B・粒C・焼土粒D・炭化粒D・粘B・腐B |
| 4 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム中D・小C・粒C・焼土粒C・炭化粒B・粘B・腐A |
| 5 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム小D・粒C・焼土粒B・炭化粒B・粘B・腐A |
| 6 | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | ローム大C・小B・粒A・炭化粒D・粘B・腐B |
| 7 | 7.5YR4/3 | 暗褐色 | ローム大D・小B・粒A・粘B・腐B |



第1332号土坑土層解説

- | | | | |
|---|----------|-----|---------------------------|
| 1 | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | ローム大D・中C・小B・粒A・粘B・腐B |
| 2 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ローム中C・小C・粒B・焼土粒D・粘B・腐B |
| 3 | 7.5YR4/3 | 暗褐色 | ローム大C・中B・小B・粒A・焼土粒D・粘B・腐B |

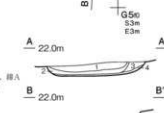


第1343号土坑土層解説

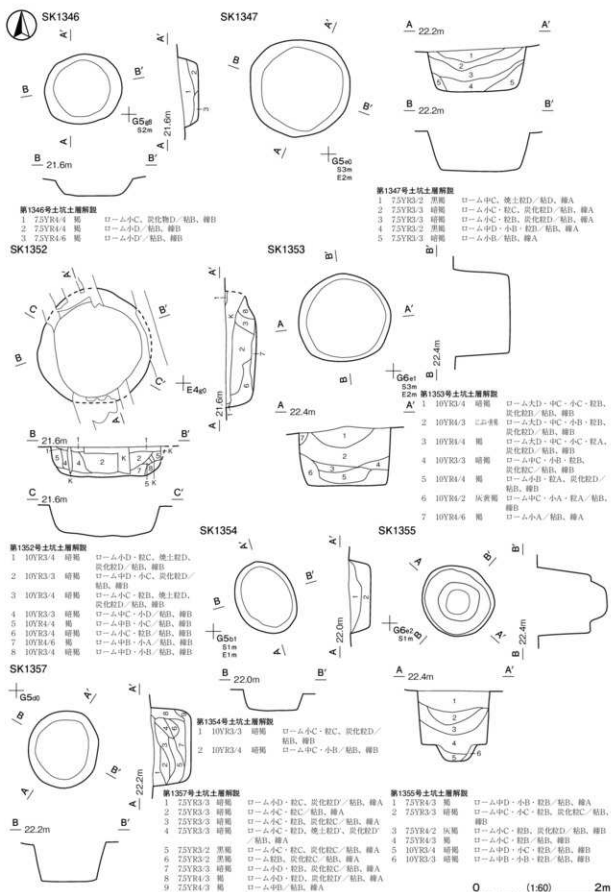
- | | | | |
|---|----------|-----|---------------------|
| 1 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム小D・粒C・炭化粒D・粘B・腐A |
| 2 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム小B・炭化粒D・粘B・腐A |
| 3 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム小C・粒B・腐A |
| 4 | 7.5YR4/4 | 暗褐色 | ローム小B・粒B・腐A |

第1344号土坑土層解説

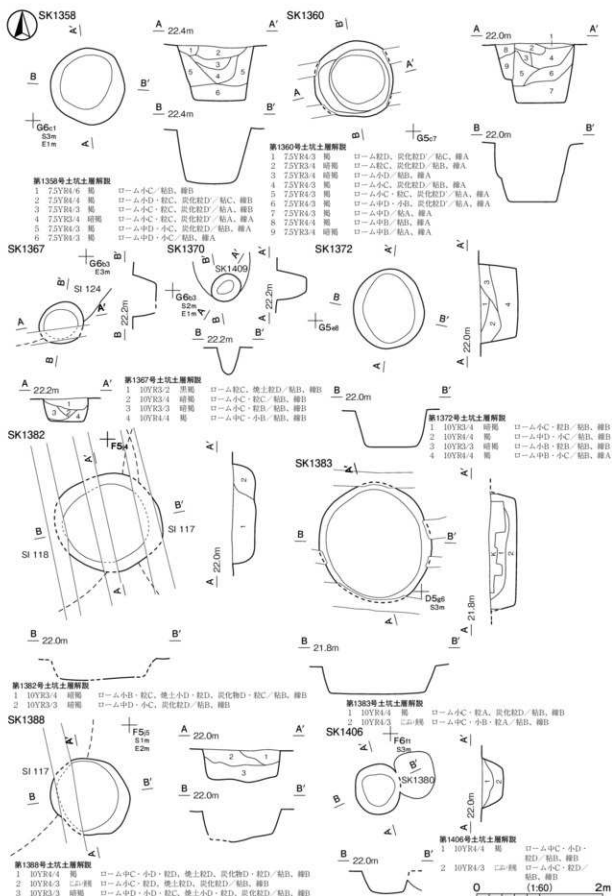
- | | | | |
|---|----------|-----|----------------|
| 1 | 7.5YR4/3 | 暗褐色 | ローム小B・粒B・粘B・腐A |
| 2 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム小C・粒B・粘B・腐A |
| 3 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ローム粒B・粘B・腐B |
| 4 | 7.5YR4/4 | 暗褐色 | ローム粒C・粘B・腐B |



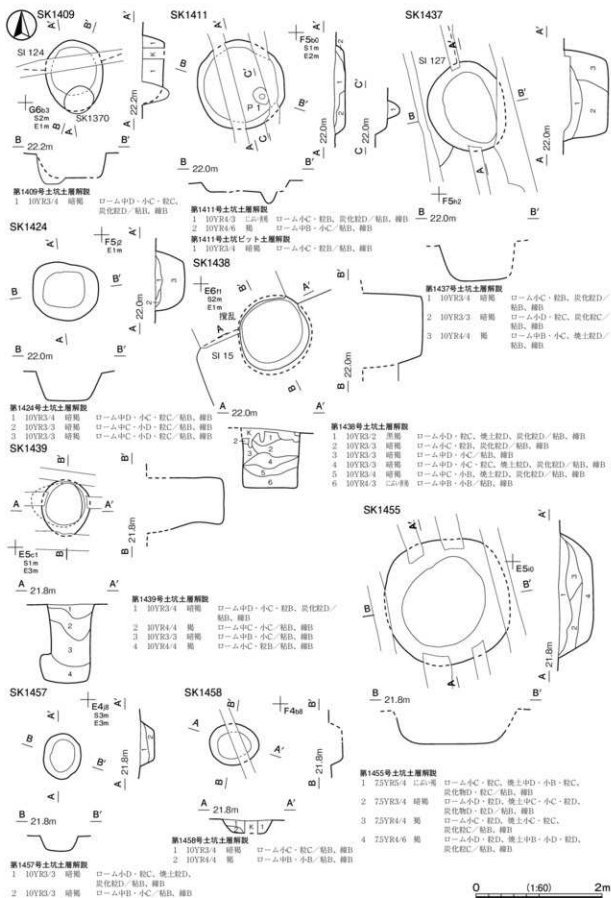
0 (1:60) 2m



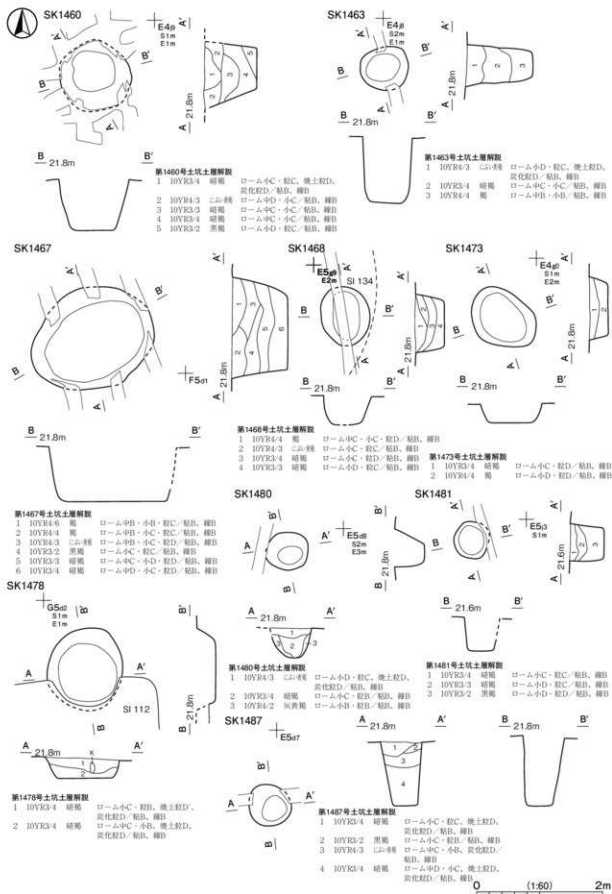
第291図 縄文時代土坑実測図⑬



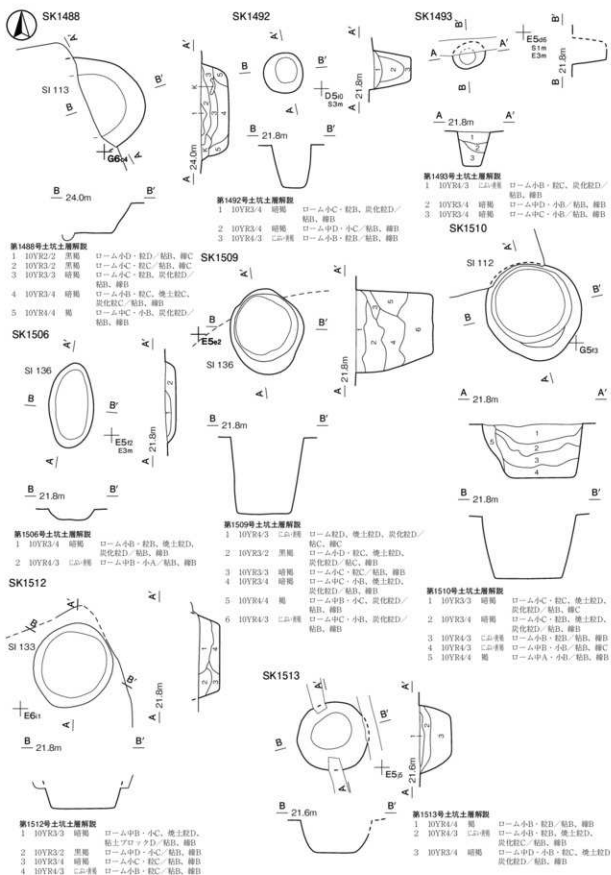
第 292 図 縄文時代土坑実測図(4)



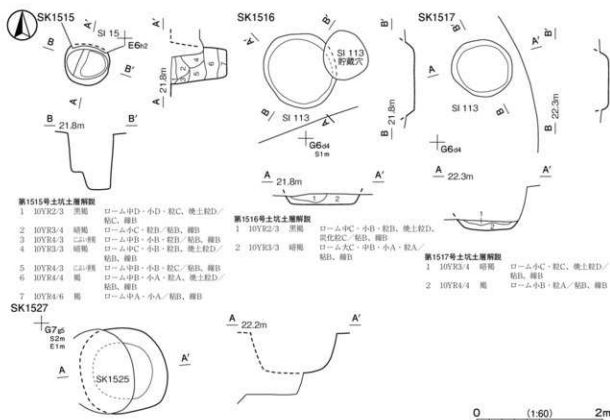
第 293 図 縄文時代土坑実測図⑬



第294図 縄文時代土坑実測図(6)



第295図 縄文時代土坑実測図⑦



第 296 図 縄文時代土坑実測図18

第 147 表 縄文時代土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
748	I 117	N-7°-E	楕円形	1.67 × 1.36	33	外傾	平坦	人為	深鉢	SK1250 → 本跡
749	F 414	-	[円形・楕円形]	1.30 × (0.62)	47	外傾	平坦	-	深鉢	本跡 → SK762
751	J 116	N-84°-W	楕円形	1.18 × 0.86	46	外傾	平坦	人為	深鉢、鉢、注口土器	SI 54, SK936 → 本跡
752	J 116	-	円形	0.96 × 0.95	38	外傾	平坦	人為	深鉢、蓋	SK975 と重複
754	I 117	N-4°-W	楕円形	1.68 × 1.50	82	内傾・直立	平坦	人為	深鉢	本跡 → SK1213 ビット 1 箇所
755	J 116	-	円形	2.38 × 2.17	73	外傾	傾斜	人為	深鉢	本跡 → SI 54・55 ビット 1 箇所
756	G 315	-	円形	2.03 × 2.00	106	直立	傾斜	自然・人為	深鉢	
760	J 116	-	円形	0.98 × 0.97	44	外傾	平坦	人為	深鉢、銅片	SI 57 → 本跡 SK921 と重複
763	F 318	-	円形	1.70 × 1.57	66	外傾	平坦	人為	深鉢	
764	J 114	N-40°-E	楕円形	1.31 × 0.93	36	外傾	平坦	自然	深鉢	SI 51 → 本跡
765	J 115	N-83°-E	[楕円形]	1.09 × 0.96	37	外傾	平坦	自然	深鉢	本跡 → SI 51
768	J 115	N-33°-W	楕円形	0.86 × 0.70	22	外傾	平坦	人為	深鉢	SI 49、HG 1 と重複
769	J 115	N-53°-W	楕円形	1.10 × 0.79	45	外傾	平坦	-	-	本跡 → SI 50
771	E 415	N-50°-W	楕円形	1.62 × 1.41	98	外傾	平坦	人為	深鉢、両耳盃	
773	F 318	N-56°-W	楕円形	1.15 × 0.93	40	外傾	平坦	自然	深鉢	
776	E 413	N-63°-W	楕円形	1.36 × 1.12	65	外傾	平坦	自然	深鉢	
777	J 117	-	[円形]	(1.14) × (1.35)	56	外傾	平坦	人為	深鉢	SI 55 → 本跡
780	I 117	N-44°-E	楕円形	2.45 × 2.09	44	外傾	平坦	人為	深鉢	SK812 → 本跡 ビット 3 箇所
784	I 116	N-15°-W	隅丸長方形	1.92 × 1.74	69	外傾・内傾	凹凸	人為	深鉢、浅鉢	本跡 → SK782 ビット 4 箇所
787	E 315	N-30°-W	楕円形	1.13 × 1.02	70	直立	平坦	人為	深鉢	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
790	J 1 b7	-	円形	0.86 × 0.86	47	外傾	平坦	人為	深鉢	本跡→SI 55
791	J 1 c7	N-47°-W	楕円形	1.13 × 0.85	55	外傾	平坦	人為	深鉢	SI 55→本跡 SI 67と重複
792	J 1 c7	N-16°-W	楕円形	0.98 × 0.85	35	外傾	皿状	人為	深鉢、銅片	SI 55・67→本跡
803	J 1 a5	-	円形	0.87 × 0.86	46	外傾	平坦	人為	深鉢	SI 57→本跡
805	I 1 f7	N-19°-E	楕円形	1.35 × 1.18	41	外傾	平坦	自然	石皿	ビット1か所
806	D 3 j3	N-38°-W	楕円形	1.99 × 1.68	90	外傾	平坦	人為	深鉢、壺	
807	I 1 e8	N-64°-E	楕円形	3.06 × 2.72	75	外傾・内傾	平坦	人為	深鉢、凹石	SI 80と重複 ビット1か所
808	I 2 g1	N-32°-E	楕円形	1.56 × 1.31	33	外傾	平坦	人為	深鉢	本跡→SK978 ビット1か所
811	E 2 g0	N-55°-W	楕円形	0.93 × 0.77	35	外傾	平坦	人為	深鉢	
812	I 1 j7	N-48°-W	[楕円形]	[1.19] × 1.01	42	直立	平坦	人為	深鉢	本跡→SK780、 SD 3
815	F 2 d3	N-38°-E	楕円形	0.95 × 0.86	36	外傾	平坦	人為	深鉢	
816	F 2 c3	N-12°-E	楕円形	1.20 × 1.03	25	外傾	平坦	人為	深鉢	
817	I 1 b8	N-36°-E	楕円形	0.93 × 0.78	40	外傾	平坦	人為	深鉢、銅片	SI 84と重複
818	I 1 b7	N-27°-E	楕円形	2.46 × 2.08	97	直立・内傾	平坦	人為	深鉢	SI 84と重複 ビット3か所
820	J 1 a6	-	円形	1.10 × 1.10	46	外傾	平坦	人為	深鉢、鉢、釣手土器	SI 57、SK821→ 本跡
821	J 1 a6	N-76°-E	楕円形	2.40 × 2.18	77	直立・内傾	平坦	人為	深鉢、石皿	本跡→SI 54・ 57、SK830・1131 SK760と重複 ビット2か所
826	J 1 b6	N-68°-E	楕円形	1.73 × 1.49	69	外傾	平坦	-	深鉢	SI 54→本跡→ SK751・825
844	F 2 h1	N-37°-E	楕円形	1.60 × 1.32	62	直立	平坦	人為	深鉢、両耳壺、注口土器	
848	F 2 f2	N-50°-W	楕円形	0.82 × 0.82	38	外傾	平坦	人為	-	
852	F 1 e0	-	円形	0.86 × 0.85	29	外傾	平坦	-	-	
854	F 2 c2	N-49°-W	楕円形	1.41 × 1.35	112	内傾	平坦	人為	深鉢	
863	F 2 c3	-	円形	0.75 × 0.72	54	外傾	平坦	-	深鉢	
866	F 2 i6	N-31°-E	楕円形	1.46 × 1.24	40	外傾	平坦	人為	深鉢	
868	F 2 c3	-	円形	1.21 × 1.16	61	外傾	平坦	人為	深鉢	
869	F 2 g7	-	円形	3.35 × 3.20	110	直立	平坦	人為	深鉢、鉢	ビット2か所
870	F 1 d0	-	円形	1.15 × 1.14	96	直立	平坦	人為	深鉢、銅片	
872	F 2 d4	-	円形	1.50 × 1.39	55	外傾	平坦	人為	深鉢	
874	F 2 c6	-	円形	0.82 × 0.80	70	外傾	平坦	自然	深鉢	
876	F 2 f5	-	円形	0.46 × 0.42	19	外傾	皿状	人為	深鉢	
877	F 3 b7	-	円形	1.18 × 1.10	67	外傾	皿状	人為	深鉢	
883	E 3 a6	-	[円形]	1.75 × (0.99)	71	外傾	平坦	人為	深鉢、壺	
886	J 1 a9	-	円形	1.07 × 0.97	30	外傾	平坦	人為	深鉢	
887	I 1 j0	-	円形	0.88 × 0.86	68	外傾	傾斜	人為	深鉢	
891	I 1 j0	N-36°-E	楕円形	1.31 × 1.16	56	外傾	平坦	人為	深鉢	
894	I 1 d8	-	円形	1.03 × 0.96	32	外傾	平坦	人為	深鉢	
895	I 1 g8	N-22°-W	楕円形	2.26 × 1.56	55	外傾	平坦	人為	深鉢、磁石	ビット2か所
896	I 1 j8	N-70°-E	楕円形	1.05 × 0.83	54	外傾	平坦	人為	深鉢	SK780→本跡
951	I 1 j9	-	円形	0.90 × 0.85	55	直立	平坦	人為	深鉢	
952	I 1 j8	N-12°-E	楕円形	1.00 × 0.86	50	外傾・直立	平坦	人為	深鉢	
954	J 1 a5	N-87°-W	楕円形	[1.87] × [1.10]	82	外傾	傾斜	人為	深鉢	SK905→本跡
965	J 1 a5	N-20°-W	楕円形	2.62 × 2.25	95	外傾	平坦	人為	深鉢	SI 57、SK1144→ 本跡→SK964 ビット2か所
967	I 1 e0	-	円形	1.61 × 1.53	46	外傾	平坦	人為	深鉢、銅片	ビット1か所
968	I 1 j9	N-57°-E	楕円形	0.82 × 0.55	65	外傾	平坦	人為	深鉢	
969	I 1 j8	N-56°-E	楕円形	1.66 × 1.37	62	外傾	平坦	人為	深鉢	
972	I 1 e0	N-15°-E	楕円形	0.92 × 0.80	14	外傾	平坦	人為	深鉢、銅片	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
973	I 2c1	N-78°-W	楕円形	1.06 × 0.71	24	外傾	平坦	人為	深鉢	
974	I 2c2	-	円形	1.13 × 1.05	46	外傾	平坦	人為	深鉢	
975	J 1b5	-	円形	0.95 × 0.87	73	直立	平坦	人為	深鉢	SK752と重複
976	I 1d0	N-2°-W	楕円形	2.31 × 2.04	39	外傾	平坦	人為	深鉢	ビッド1か所
978	I 2g1	-	円形	0.74 × 0.69	80	直立	平坦	人為	深鉢、銅片	SK808→本鉢
979	I 1a9	N-43°-E	楕円形	1.31 × 1.12	35	外傾	平坦	-	深鉢	本鉢→SK980
980	I 1a9	N-61°-E	楕円形	0.85 × 0.77	23	外傾	平坦	-	深鉢	SK979→本鉢
983	I 1j9	-	円形	0.97 × 0.90	42	直立	平坦	人為	深鉢	
984	I 1g7	N-46°-E	不整形円形	1.55 × 1.16	26	外傾	平坦	人為	甕	
985	I 1d0	-	円形	2.09 × 1.98	59	外傾	平坦	人為	深鉢	ビッド3か所
988	I 1i0	-	円形	2.15 × 2.15	56	外傾	平坦	人為	深鉢、鉢、石皿	ビッド3か所
991	J 1a5	-	円形	0.88 × 0.86	28	外傾	平坦	人為	深鉢	
992	I 1j5	N-79°-E	楕円形	1.12 × 0.99	60	外傾	平坦	人為	深鉢	SK1055→本鉢
997	I 1c8	N-30°-W	楕円形	[1.80] × 1.25	60	外傾	平坦	人為	深鉢、甕、打製石斧	SK1016→本鉢
998	J 1b6	-	円形	0.79 × 0.73	25	外傾	平坦	人為	深鉢	SI 54と重複
999	I 1j7	-	[円形]	2.18 × 2.07	68	外傾・内傾	平坦	人為	深鉢	本鉢→SD 3 ビッド3か所
1000	I 1j6	-	円形	2.38 × 2.36	78	直立・内傾	平坦	人為	深鉢	ビッド4か所
1016	I 1c8	-	[円形]	2.73 × [2.67]	61	外傾	平坦	人為	浅鉢、巖石	本鉢→SK907、1017 ビッド3か所
1035	H 0a8	N-14°-E	楕円形	1.00 × 0.80	114	外傾	平坦	人為	深鉢	
1055	I 1j5	N-46°-E	[円形・楕円形]	1.95 × (1.02)	85	内傾	平坦	人為	深鉢、銅片	本鉢→SK992 ビッド1か所
1056	J 1a6	-	円形	1.06 × 1.00	23	外傾	平坦	人為	深鉢	SI 54→本鉢
1058	J 1b5	N-21°-E	楕円形	1.35 × [1.03]	45	外傾	平坦	人為	深鉢	本鉢→SK1059
1059	J 1b4	N-15°-E	楕円形	1.22 × 0.80	33	外傾	平坦	人為	深鉢	SK1038→本鉢
1060	J 1b5	N-16°-E	楕円形	1.44 × 1.25	75	外傾・内傾	平坦	人為	深鉢	
1073	J 1c5	N-22°-W	楕円形	1.63 × 1.28	65	内傾	平坦	人為	深鉢、浅鉢、釣手土器	
1084	J 1a5	N-42°-E	楕円形	1.75 × 1.35	39	外傾	平坦	-	深鉢、銅片	
1095	J 1a4	-	[円形]	1.01 × (0.70)	54	外傾	平坦	-	-	SK1144→本鉢 →SK1096・1190
1096	J 1a5	N-4°-E	[楕円形]	[1.30] × [1.15]	35	外傾	平坦	-	深鉢	SK1095・1144→ 本鉢→SK1193
1131	J 1a6	N-40°-W	楕円形	[0.85] × 0.75	41	直立	平坦	人為	深鉢	SI 54、SK821→ 本鉢
1142	J 1a7	-	円形	2.27 × 2.08	42	直立	平坦	人為	深鉢	SK1143→本鉢→ SI 54、SK1181、1227 ビッド2か所
1143	J 1a7	N-70°-W	楕円形	2.32 × 2.08	50	外傾	平坦	人為	深鉢、鉢	本鉢→SK1142・ 1227、SI 54 ビッド2か所
1144	J 1a5	-	[円形]	[1.84] × [1.78]	38	外傾	平坦	-	深鉢	本鉢→SK965・ 1095・1096・1190 ビッド1か所
1146	J 1b4	-	[円形]	2.78 × [2.78]	93	直立	平坦	人為	深鉢、鉢	本鉢→SK1156 ビッド2か所
1147	I 1c8	-	円形	1.07 × 1.00	50	外傾	平坦	人為	鉢	本鉢→SI 80 ビッド1か所
1156	J 1c5	N-5°-W	楕円形	1.00 × 0.90	48	外傾	平坦	人為	深鉢	SK1146→本鉢
1157	I 1i9	N-23°-E	楕円形	1.93 × 1.68	78	直立・内傾	平坦	人為	深鉢	本鉢→SI 66 ビッド1か所
1158	I 1j6	-	円形	1.68 × 1.65	70	外傾・内傾	平坦	人為	四石、巖石	SI 57、SK1191→ 本鉢
1159	H 1b7	N-46°-W	楕円形	1.00 × (0.44)	57	外傾	平坦	人為	深鉢	SK1167→本鉢 →SK1160
1160	H 1b7	N-52°-W	長方形	1.17 × 0.83	52	外傾	平坦	-	-	SK1159→本鉢
1161	J 1b6	N-44°-W	楕円形	0.56 × 0.40	30	外傾	平坦	人為	-	SK1162→本鉢 SI 54と重複
1162	J 1b6	N-54°-W	楕円形	0.68 × 0.51	28	外傾	平坦	人為	-	本鉢→SK1161 SI 54と重複
1163	H 1d5	N-72°-W	楕円形	1.12 × 0.81	40	外傾	平坦	-	-	
1169	H 1b6	N-6°-E	楕円形	0.97 × 0.88	39	外傾	平坦	-	-	
1181	J 1a6	N-10°-E	楕円形	1.04 × 0.90	20	外傾	平坦	-	深鉢	SK1142→本鉢
1191	J 1a6	-	[円形]	[0.84] × 0.82	52	外傾	平坦	人為	深鉢	SI 37→本鉢 →SK1158

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1209	H 1 g6	-	円形	1.72 × 1.66	37	外傾	平坦	人為	深鉢	ビット 1 か所
1210	H 1 g6	-	円形	2.18 × 2.00	45	外傾	平坦	人為	深鉢	SI 95 と重複 ビット 2 か所
1217	H 1 f5	-	円形	1.99 × 1.95	26	外傾	平坦	人為	深鉢、銅片	本跡→SI 94、SK1218 ビット 1 か所
1218	H 1 f4	-	円形	2.52 × 2.30	56	外傾	平坦	人為	深鉢、銅片	SK1217→本跡→SI 94 ビット 2 か所
1220	H 1 g4	-	円形	2.05 × 1.94	35	外傾	平坦	人為	深鉢	本跡→SI 91 ビット 2 か所
1221	I 1 h7	N-28°-W	楕円形	1.16 × 1.04	74	直立	平坦	人為	深鉢、鉢、壺	SK1222→本跡
1222	I 1 h7	N-30°-E	[楕円形]	0.85 × (0.73)	28	外傾	平坦	人為	深鉢	本跡→SK1221 ビット 1 か所
1223	I 1 i6	N-3°-W	[楕円形]	1.10 × (0.55)	30	外傾	平坦	人為	深鉢	
1224	I 1 i6	N-43°-W	[楕円形]	[1.10] × (0.70)	35	外傾	有段	人為	-	SK1247 と重複 ビット 1 か所
1226	J 1 c5	N-16°-W	楕円形	1.30 × 1.17	42	外傾	平坦	-	深鉢	
1227	J 1 a7	-	[円形]	1.05 × 1.04	43	外傾	平坦	人為	深鉢、浅鉢	SK1142・1143→ 本跡
1230	I 1 h7	N-23°-E	楕円形	0.99 × 0.86	25	外傾	平坦	人為	深鉢	本跡→SK1212
1231	I 1 i8	N-75°-W	楕円形	0.85 × 0.57	27	外傾	平坦	人為	深鉢	SI 80 と重複
1233	I 1 i8	N-21°-E	[楕円形]	1.25 × (1.12)	79	外傾	平坦	人為	深鉢	SK1242→本跡 →SD 3
1238	H 1 b6	-	円形	1.52 × 1.44	58	内傾・ 直立	平坦	人為	深鉢	本跡→SI 98、 SK1310 ビット 2 か所
1239	H 1 i7	N-52°-E	楕円形	2.42 × 2.20	85	外傾	平坦	人為	深鉢、石蔵	本跡→SI 98 SK1311 と重複 ビット 3 か所
1240	I 1 a6	-	円形	1.74 × 1.70	25	外傾	平坦	-	深鉢	
1242	I 1 i8	N-3°-W	[楕円形]	2.02 × (1.35)	26	外傾	平坦	-	深鉢、銅片	本跡→SK1231、SD 3 ビット 1 か所
1247	I 1 i6	N-2°-E	[楕円形]	0.75 × (0.67)	36	外傾	皿状	人為	深鉢	本跡→SK1248 SK1244 と重複
1248	I 1 i6	-	円形	0.74 × 0.73	20	外傾	平坦	人為	深鉢	SK1247→本跡
1249	I 1 i7	N-36°-W	[楕円形]	[1.55] × 1.32	63	外傾	平坦	人為	深鉢	SK1250→本跡 →SD 3
1250	I 1 i7	-	円形	2.45 × 2.37	57	外傾	平坦	人為	深鉢	本跡→SK748・ 1249、SD 3 ビット 3 か所
1255	I 1 b9	N-34°-E	[楕円形]	[2.54] × [2.13]	62	外傾	平坦	人為	深鉢	本跡→SD 4 ビット 3 か所
1261	I 1 c8	-	[円形・ 楕円形]	(1.30) × (0.82)	45	外傾	平坦	-	深鉢	本跡→SD 4
1263	I 1 a7	N-37°-W	楕円形	2.15 × 1.90	90	外傾・ 内傾	平坦	人為	深鉢、浅鉢、壺、磁石	SK1329→本跡 ビット 1 か所
1264	I 1 a7	-	円形	1.49 × 1.40	212	外傾・ 内傾	平坦	人為	深鉢	
1265	H 1 j8	-	円形	2.10 × 1.96	57	外傾	平坦	人為	深鉢、石蔵	本跡→SK1288 ビット 2 か所
1281	H 1 b6	-	円形	1.80 × 1.76	86	外傾・ 内傾	平坦	人為	深鉢	本跡→SI 98 SK1314 と重複 ビット 5 か所
1288	H 1 j8	-	円形	1.32 × 1.27	197	直立	平坦	人為	深鉢	SK1265→本跡
1300	H 2 i3	-	円形	1.05 × 1.00	86	外傾	平坦	-	深鉢	
1301	I 2 a2	-	円形	0.77 × 0.76	42	外傾	平坦	人為	-	
1312	I 1 b0	-	[円形]	[2.15] × (2.10)	50	外傾	平坦	人為	深鉢	SK1321→本跡 →SD 3・4 ビット 2 か所
1315	I 1 a0	-	[円形]	2.70 × [2.60]	62	直立	平坦	人為	深鉢	本跡→SD 3 ビット 2 か所
1321	I 1 a0	N-44°-E	楕円形	(1.44) × 0.75	39	外傾	平坦	-	深鉢	本跡→SK1312
1322	H 1 j9	-	円形	1.33 × 1.27	60	外傾	平坦	人為	深鉢	
1329	I 1 a7	N-42°-E	[楕円形]	[1.40] × 1.26	30	外傾	平坦	人為	深鉢	本跡→SK1301、SD 4 ビット 1 か所
1330	I 1 j5	N-46°-E	[楕円形]	(1.06) × (0.34)	90	外傾	平坦	人為	深鉢	本跡→SK1331・ 1332
1331	I 1 j5	N-16°-E	[本跡 楕円形]	1.35 × (0.80)	60	内傾	平坦	人為	-	SK1330→本跡 →SK1332
1332	I 1 j5	N-14°-E	[楕円形]	2.00 × (1.08)	50	外傾	平坦	人為	-	SK1331→本跡 →SK986、F 20
1333	I 1 i6	N-46°-E	[楕円形]	1.70 × (0.69)	70	内傾	平坦	人為	-	SK1330→本跡
1343	G 5 i9	-	円形	1.34 × 1.22	28	外傾	平坦	人為	深鉢	
1344	G 5 i9	N-63°-W	楕円形	1.60 × 1.45	19	外傾	平坦	-	深鉢	
1345	G 5 c2	-	円形	2.69 × 2.46	67	外傾	平坦	人為	深鉢	ビット 2 か所
1346	G 5 g7	N-82°-E	楕円形	1.22 × 1.10	27	外傾	平坦	-	深鉢	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1347	G 5 e0	-	円形	1.60 × 1.35	65	外傾	平坦	人為	深鉢、土器片内側	
1351	G 5 f9	-	円形	1.50 × 1.42	71	直立	平坦	人為	深鉢	
1352	E 4 f9	-	円形	1.80 × 1.77	48	外傾	平坦	人為	深鉢	
1353	G 6 e1	-	円形	1.49 × 1.48	92	外傾・直立	平坦	-	深鉢、銅片	
1354	G 5 b1	N-23°-W	楕円形	1.18 × 0.93	34	外傾	平坦	-	深鉢	
1355	G 6 e2	-	円形	1.16 × 1.07	110	直立	有段	人為	深鉢、石鉢	
1356	G 6 d1	-	円形	1.57 × 1.49	103	直立	平坦	人為	深鉢	
1357	G 5 d0	-	円形	1.24 × 1.14	60	外傾	平坦	-	深鉢	
1358	G 6 c1	-	円形	1.20 × 1.18	86	外傾	平坦	人為	深鉢	
1359	G 5 c5	N-32°-E	楕円形	1.42 × 1.28	34	外傾	平坦	人為	深鉢、磨石	SI 120 → 本跡
1360	G 5 b6	-	円形	1.26 × 1.22	90	外傾・有段	平坦	人為	深鉢	
1361	G 5 b4	-	円形	2.65 × 2.54	110	外傾・直立	平坦	人為	深鉢、甕	ビット1か所 変出1か所
1363	G 5 d2	-	円形	0.96 × 0.90	35	外傾	平坦	人為	深鉢	
1367	G 6 b3	-	円形	0.70 × 0.65	36	外傾	平坦	人為	深鉢、銅片	SI 124 → 本跡
1368	G 6 b4	N-37°-E	楕円形	1.82 × 1.60	92	直立	平坦	人為	深鉢、両耳壺、石鉢	
1369	G 5 a6	N-17°-W	[楕円形]	0.85 × [0.67]	45	直立	平坦	人為	深鉢	
1370	G 6 b3	-	円形	0.47 × 0.41	46	外傾	平坦	-	深鉢、銅片	SK1400 → 本跡
1371	F 4 j0	N-17°-E	楕円形	0.93 × 0.75	22	外傾	皿状	人為	深鉢	SI 121 → 本跡
1372	G 5 d8	N-4°-E	楕円形	1.26 × 1.12	58	外傾	平坦	-	深鉢	
1382	F 5 j4	-	円形	1.59 × 1.58	36	外傾	平坦	-	深鉢	SI 117・118 → 本跡
1383	D 5 a5	-	円形	1.85 × 1.76	43	外傾	平坦	自然	深鉢	
1388	F 5 j5	N-28°-W	楕円形	1.30 × 1.18	50	外傾	平坦	-	深鉢	SI 117 と重複
1393	F 5 j2	-	円形	1.50 × 1.49	81	直立	平坦	人為	深鉢	
1406	F 5 i0	-	円形	0.80 × 0.73	34	外傾	平坦	-	深鉢	SK1380 と重複
1409	G 6 b3	N-10°-W	楕円形	1.18 × 0.90	34	外傾	平坦	-	-	本跡 → SK1370 SI 124 と重複
1411	F 5 b0	-	円形	1.41 × 1.39	18	外傾	平坦	-	深鉢	ビット1か所
1413	G 6 b2	-	円形	1.30 × 1.20	60	直立	平坦	人為	深鉢、鉢	SI 124 → 本跡
1418	F 4 g0	N-87°-W	楕円形	1.55 × 1.37	50	外傾	傾斜	人為	深鉢	SI 127 → 本跡
1419	G 6 c2	-	[円形]	[1.30] × [1.24]	76	外傾	平坦	人為	深鉢	本跡 → SI 113
1424	F 5 j2	-	円形	1.05 × 1.00	45	外傾	平坦	-	深鉢	
1429	F 5 a7	-	[円形]	[1.43] × [1.40]	85	外傾	平坦	人為	深鉢	
1433	F 5 a8	-	[円形]	[1.52] × [1.40]	87	外傾	平坦	人為	深鉢、鉢、石鉢、四石、篠器	
1437	F 5 g2	N-13°-W	楕円形	1.43 × 1.05	57	外傾	平坦	人為	深鉢	SI 127 → 本跡
1438	E 6 f1	-	円形	1.21 × 1.20	93	外傾・直立	平坦	人為	深鉢	本跡 → SI 15
1439	E 5 c1	N-17°-W	不整形円形	0.88 × 0.80	123	外傾・内傾	平坦	-	深鉢、甕	
1455	E 5 i9	-	円形	2.10 × 2.09	54	外傾	平坦	-	深鉢、銅片	
1457	E 4 j8	N-5°-E	楕円形	0.73 × 0.60	24	外傾	平坦	-	深鉢	
1458	F 4 b7	N-75°-W	楕円形	0.78 × 0.65	31	外傾	平坦	-	深鉢	
1460	E 4 j9	-	[円形]	1.14 × [1.12]	82	外傾	平坦	-	深鉢、銅片	
1463	E 4 j8	-	円形	0.76 × 0.74	104	直立	平坦	人為	深鉢	
1464	E 4 i0	N-37°-E	楕円形	2.64 × 2.24	72	外傾	平坦	人為	深鉢、甕、磨石	
1467	F 4 c0	N-70°-E	楕円形	2.02 × 1.60	87	外傾	平坦	人為	深鉢	
1468	E 5 g9	N-11°-W	楕円形	0.95 × 0.77	46	外傾	平坦	-	深鉢	SI 134 と重複
1473	E 4 g0	N-47°-W	楕円形	1.14 × 0.87	29	外傾	平坦	-	深鉢	
1474	E 5 i2	N-20°-W	[楕円形]	[1.25] × [1.15]	35	外傾	平坦	人為	深鉢、両耳壺	
1476	E 6 c1	N-80°-E	楕円形	0.95 × 0.77	68	外傾	平坦	人為	深鉢	

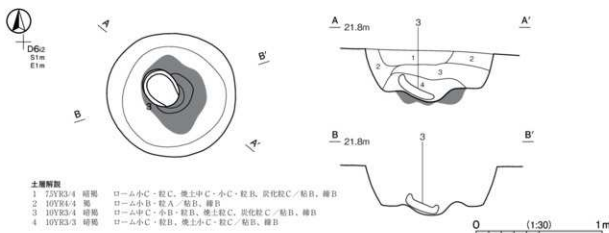
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1478	G 5d2	—	[円形]	1.30 × 1.21	33	外植	平坦	人為	漆鉢、磨製石斧	本跡→SI 112
1480	E 5d8	N-62°-E	楕円形	0.69 × 0.61	48	外植	平坦	—	漆鉢	
1481	E 5j2	—	[円形]	0.62 × [0.58]	54	直立	平坦	—	漆鉢	
1485	E 6a1	N-70°-E	楕円形	0.75 × 0.57	33	外植	平坦	人為	漆鉢	
1487	E 5d6	—	円形	0.70 × [0.65]	110	外植・直立	平坦	—	漆鉢	
1488	G 6b4	N-66°-E	[楕円形]	1.55 × (0.87)	46	外植	平坦	人為	漆鉢	本跡→SI 113
1492	D 5i9	—	円形	0.67 × 0.65	66	外植	平坦	—	—	
1493	E 5d6	N-75°-E	楕円形	0.53 × [0.29]	53	外植	平坦	—	漆鉢	
1495	E 5d5	—	円形	1.19 × 1.13	68	外植	平坦	人為	漆鉢	
1506	E 5e2	N-8°-E	楕円形	1.35 × 0.73	17	外植	平坦	—	漆鉢	SI 136と重複
1508	E 4f0	N-87°-E	楕円形	1.85 × 1.55	65	外植	平坦	人為	漆鉢、石器	
1509	E 5e2	N-2°-W	楕円形	1.35 × 1.17	122	外植・直立	平坦	人為	漆鉢	SI 136と重複
1510	G 5e2	—	円形	1.60 × 1.50	93	外植	有段	人為	漆鉢	本跡→SI 112
1512	E 6h1	N-21°-E	楕円形	1.40 × 1.23	33	外植	平坦	人為	漆鉢	本跡→SI 133
1513	E 5i4	—	円形	1.12 × 1.12	50	外植	平坦	人為	漆鉢	
1515	E 6h1	—	円形	0.73 × 0.72	89	直立	有段	人為	漆鉢	本跡→SI 15
1516	G 6c3	N-40°-W	楕円形	1.25 × 1.10	15	外植	平坦	人為	漆鉢	本跡→SI 113
1517	G 6e4	—	円形	0.96 × 0.92	15	外植	平坦	—	漆鉢	本跡→SI 113
1518	G 6e2	N-9°-E	楕円形	1.05 × 0.85	100	直立	平坦	人為	漆鉢、石棒	
1519	D 6i2	N-52°-E	楕円形	1.52 × 1.35	66	外植	平坦	人為	漆鉢、注口土器	
1525	G 7d5	N-20°-W	[楕円形]	1.38 × (0.98)	96	外植	平坦	人為	漆鉢、石鏃	SK1527→本跡
1527	G 7d5	—	[円形]	[1.37] × 1.35	60	外植	平坦	—	—	本跡→SK1525

(3) 炉跡

21基のうち、特徴的な遺物が出土している3基について記載し、その他は実測図(第302図)と一覧表(第151表)で掲載する。

第13号炉跡 (第297・298図 第148表 PL16)

位置 調査区北東部のD6区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。



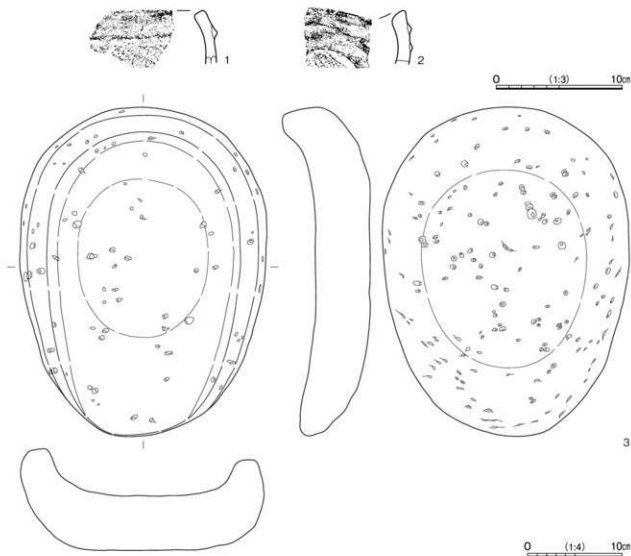
第297図 第13号炉跡実測図

規模と形状 長径1.03m、短径1.01mの円形で、深さ33cmの地床炉である。壁は外傾している。底面の中央部は、径32cmの範囲で皿状に10cmほどくぼんでいる。炉床面は赤変硬化している。

覆土 4層に分層できる。焼土ブロックとロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片20点（深鉢）、石器1点（安山岩製石皿）が出土している。縄文土器片の時期は、いずれも中期後葉～後期初頭（加曾利EⅣ～称名寺Ⅰ式）である。3は炉床面の中央部から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期初頭（加曾利EⅣ～称名寺Ⅰ式期）と考えられる。



第298図 第13号炉跡出土遺物実測図

第148表 第13号炉跡出土遺物観察表（第298図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(41)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部無文 口縁部下部微隆帯文 縦位LR単筋縄文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	-	(42)	-	長石・石英	橙	普通	小波状口縁 微隆帯文 縦位LR単筋縄文	覆土	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
3	石皿	34.9	36.0	10.7	7900	安山岩	全面研削・敲打整形 馬蹄形の凸状縁部 片側開口部 研削面皿状・平滑			炉床面	100% PL45

第 20 号炉跡 (第 299 図 第 149 表)

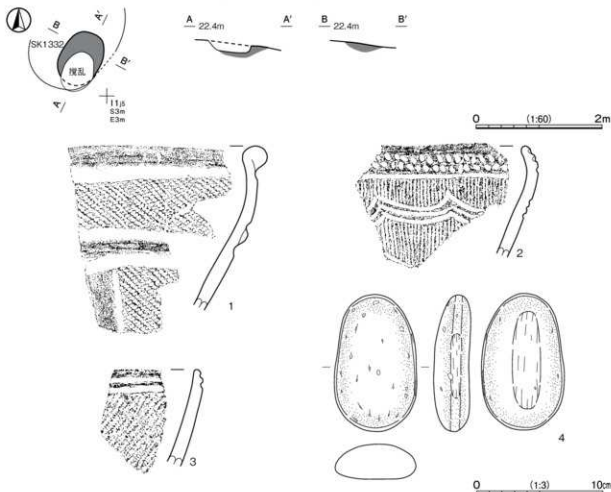
位置 調査区南東部の I 15 区、標高 22 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1332 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 視乱のため、赤変硬化した炉床面のみを確認した。長径 0.88 m、短径 0.64 m の楕円形と推定される地床炉と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片 32 点 (深鉢)、石器 1 点 (安山岩製磨石) が出土している。縄文土器片の時期は、中期 16 点 (加曽利 E 式 15、不明 1)、後期 15 点 (堀之内 4、不明 11)、時期不明 1 点である。1～4 は遺構精査時の覆土から出土している。後期の土器片は混入したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉 (加曽利 E II 式期) と考えられる。



第 299 図 第 20 号炉跡・出土遺物実測図

第 149 表 第 20 号炉跡出土遺物観察表 (第 299 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	他成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(13.0)	—	長石・石英	にぶい褐	普通	地文縦位 LR 単節縄文、口縁部沈線の沿う隆帯文による区画文、胴部垂直筋文	覆土	5% PL45
2	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部直下沈線文・文の断片文、口縁部地文縦位し断片文、沈線による溝底文	覆土	5% PL45
3	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部直下沈線文、口縁部横位 LR 単節縄文	覆土	5%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
4	磨石	109	6.5	28	3249	安山岩	素材精肉形扁平 右側縁部・裏面中央部研磨痕	覆土	100% PL45

第22号炉跡（第300・301図 第150表）

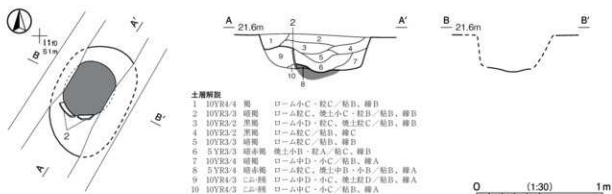
位置 調査区南東部のI1f0区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 撓乱のため、長径0.89m、短径0.60mの楕円形と推定される。炉床面の南側端部に深鉢の口縁部片と胴部片を埋設していることから、土器片囲い炉と考えられる。深さは28cmで、壁は外傾している。炉床面は赤変硬化しており、中央部がわずかに皿状にくぼんでいる。

覆土 第1～7層は覆土、第8～10層は掘方埋土である。第1～7層は、焼土ブロックとロームブロックを多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片24点（深鉢）が出土している。縄文土器片の時期は、後期19点（不明）、不明5点である。2は埋設土器片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から後期中葉と考えられる。



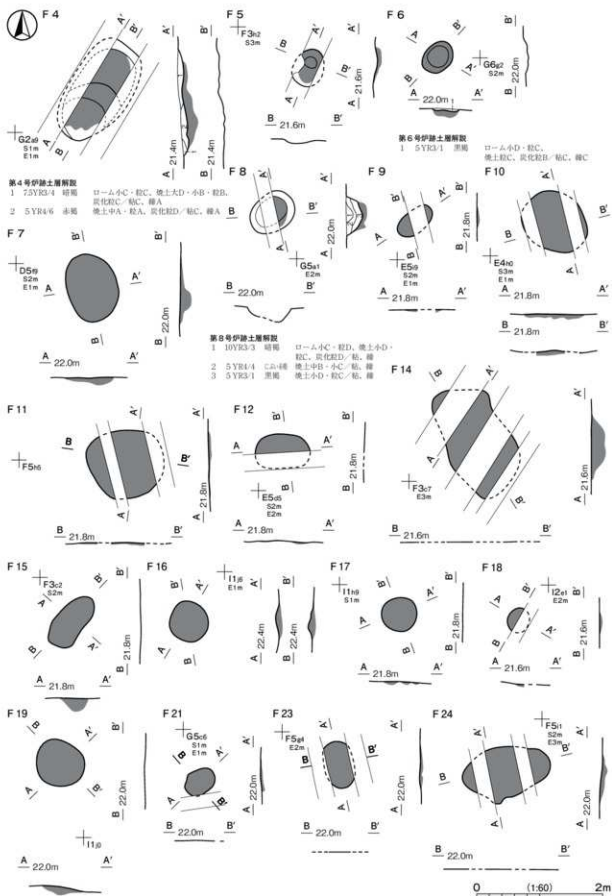
第300図 第22号炉跡実測図

第150表 第22号炉跡出土遺物観察表（第301図）

番号	器 種	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	(170)	—	長石	にぶい褐	普通	成状口径 横位LR単節縄文	覆土	5%
2	縄文土器	深鉢	[320]	[306]	—	長石・石英	橙	普通	横位LR単節縄文	炉埋設	15%



第 301 图 第 22 号炉跡出土物実測図



第 302 図 縄文時代炉跡実測図

第151表 縄文時代炉跡一覧

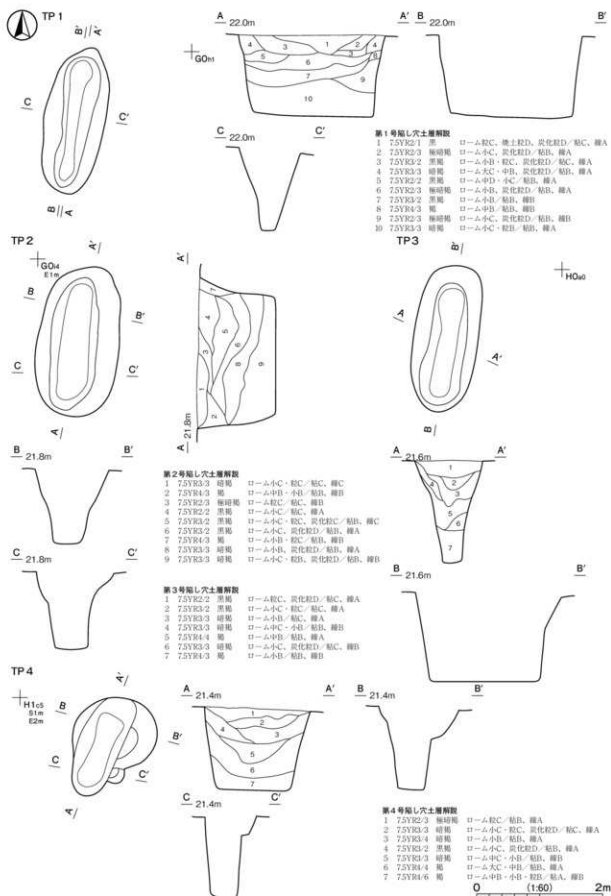
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
4	G 2a9	N-34°-E	[精円形]	1.70 × 0.96	10	外傾	有段	-	-	
5	F 3b2	N-24°-E	[精円形]	0.60 × [0.48]	5	-	-	-	-	
6	G 6g1	N-42°-E	精円形	0.55 × 0.42	6	外傾	皿状	-	-	
7	D 5f9	N-18°-W	精円形	1.08 × 0.80	0	-	-	-	-	
8	F 5j1	N-50°-W	精円形	0.76 × 0.58	26	-	皿状	-	-	
9	E 5f9	N-53°-E	精円形	0.64 × 0.35	0	-	-	-	-	
10	E 4b0	N-49°-W	[精円形]	[1.09] × [0.90]	0	-	-	-	-	
11	F 5b5	N-82°-W	[精円形]	[1.26] × 1.10	0	-	-	-	-	
12	E 5d5	N-89°-E	[精円形]	0.87 × [0.54]	0	-	-	-	-	
13	D 6i2	-	円形	1.03 × 1.01	33	外傾	中央凹み	人為	深鉢、石皿	
14	F 3b8	N-32°-W	不整精円形	[1.83] × [1.07]	0	-	-	-	-	
15	F 3c2	N-42°-E	精円形	0.96 × 0.44	0	-	-	-	-	
16	I 1j6	-	円形	0.65 × 0.62	0	-	-	-	-	
17	I 1b9	-	円形	0.55 × 0.54	0	-	-	-	-	
18	I 2e1	N-30°-E	精円形	0.40 × [0.34]	0	-	-	-	-	
19	I 1i9	N-55°-W	精円形	0.81 × 0.72	0	-	-	-	-	
20	I 1j5	N-28°-E	精円形	[0.88] × 0.64	0	-	-	-	深鉢、磨石	SK1332→本跡
21	G 5c6	N-52°-E	精円形	0.52 × 0.38	0	-	-	-	-	
22	I 1d9	N-24°-E	精円形	0.89 × [0.60]	28	外傾	平坦	人為	深鉢	
23	F 5g4	N-12°-W	精円形	0.85 × [0.47]	0	-	-	-	-	
24	F 5i1	N-82°-E	精円形	1.44 × 0.86	0	-	-	-	-	

(4) 陥し穴 (第303～305図 第152表)

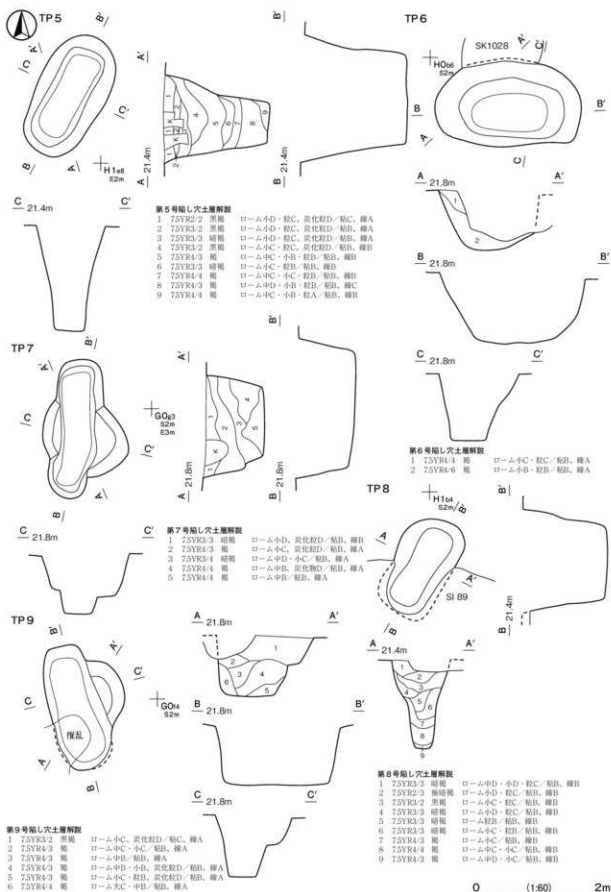
実測図と一覧表で掲載する。

第152表 縄文時代陥し穴一覧

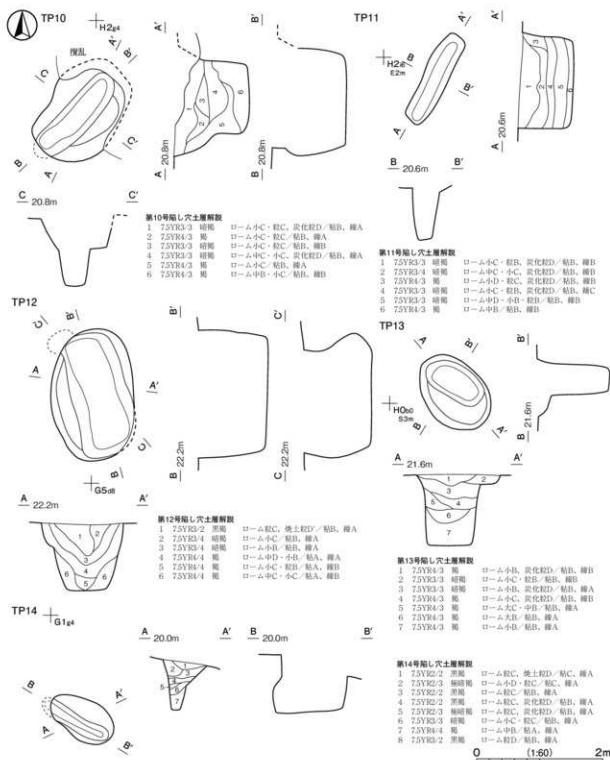
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	G-1b0	N-13°-E	精円形	2.35 × 0.97	130	外傾	平坦	自然・人為	-	
2	G 0i4	N-10°-E	精円形	2.40 × 1.32	124	外傾	平坦	自然・人為	-	
3	H 0a9	N-9°-E	精円形	2.35 × 1.04	154	直立	平坦	自然・人為	-	
4	H 1c5	N-21°-E	不整精円形	1.65 × 1.30	130	直立	平坦	人為	-	
5	H 1d8	N-29°-E	精円形	2.05 × 1.10	167	直立	平坦	自然・人為	-	PL16
6	H 0b6	N-83°-W	精円形	2.30 × 1.37	107	外傾	平坦	人為	-	本跡→SK1028 PL16
7	G 0g3	N-5°-E	不整精円形	2.20 × 1.36	93	外傾	平坦	人為	-	PL16
8	H 1b3	N-28°-E	精円形	1.62 × 0.98	129	外傾	平坦	自然・人為	-	本跡→SI 89
9	G 0f3	N-27°-W	不整精円形	2.00 × 1.22	96	外傾	有段	人為	-	
10	H 2g3	N-45°-E	精円形	1.88 × 1.23	114	内傾	有段	自然・人為	-	
11	H 2i6	N-28°-E	長方形	1.52 × 0.43	85	外傾	平坦	自然・人為	-	PL16
12	G 5c8	N-7°-E	精円形	2.11 × 1.32	106	内傾	平坦	自然・人為	-	
13	H 0b0	N-60°-W	精円形	1.32 × 0.96	115	外傾	平坦	自然・人為	-	
14	G 1g4	N-60°-W	精円形	1.10 × 0.64	92	直立	平坦	自然・人為	-	



第 303 図 縄文時代陥し穴実測図(1)



第304図 縄文時代隔し穴実測図(2)



第305図 縄文時代陥し穴実測図(3)

(5) 土器埋設遺構

第2号土器埋設遺構 (第306図 第153表)

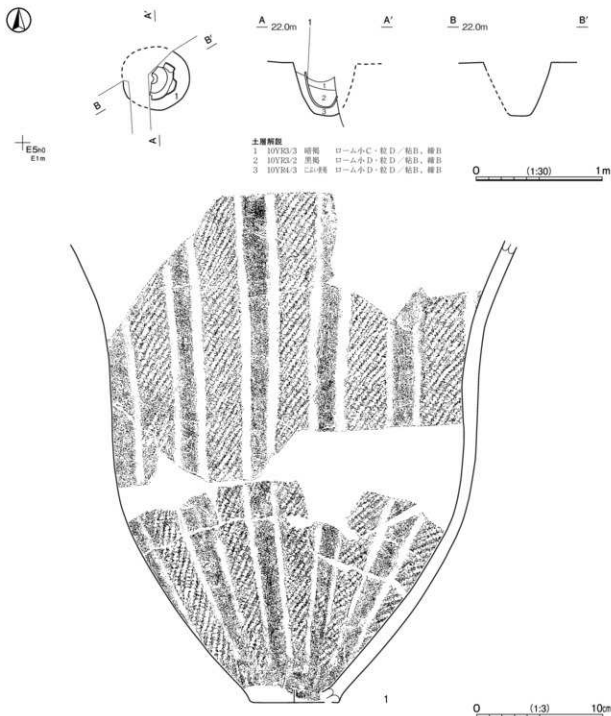
位置 調査区北東部のE5g0区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 攪乱のため、掘方は径0.53mの円形と推定され、深さは42cmである。

覆土 第1・2層は埋設土器内の覆土、第3層は掘方埋土である。

遺物出土状況 縄文土器片68点(深鉢)、土製品1点(土器片円盤)が出土している。縄文土器片の時期は、中期60点(阿玉台式3、加曾利E式30、不明27)、不明8点である。1は、正位で埋設した状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第306図 第2号土器埋設遺構・出土遺物実測図

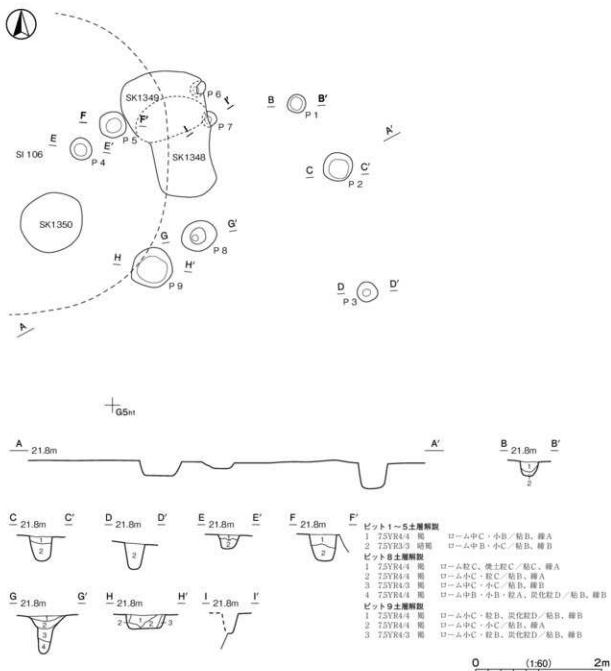
第153表 第2号土器埋設遺構出土遺物観察表(第306図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(36.1)	[7.0]	長石・石美	橙	普通	地文縦位筋・単筋縄文・磨消懸垂文	埋設	50% PLAS

(6) ビット群

第1号ビット群(第307図)

位置 調査区北東部のG 5 g1区、標高22 mほどの台地平坦部に位置している。



第307図 第1号ビット群実測図

重複関係 第1348・1349号土坑に掘り込まれている。第106号竪穴建物跡、第1350号土坑との関係は不明である。

規模と形状 ビット群は径5.64mの範囲に位置している。

ビット 9カ所。P1～P6は、深さ22～40cmで、ほぼ円形に配列している。P7～P9は、深さ22～60cmで、不規則な配列である。覆土は周囲からの流入土である。

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）がビットの覆土から出土している。縄文土器片は、中期3点（加曽利E式1、不明2）で、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。本跡は、竪穴建物跡の可能性もある。

(7) 遺物包含層

第1号遺物包含層（第308～316図 第154表 PL16）

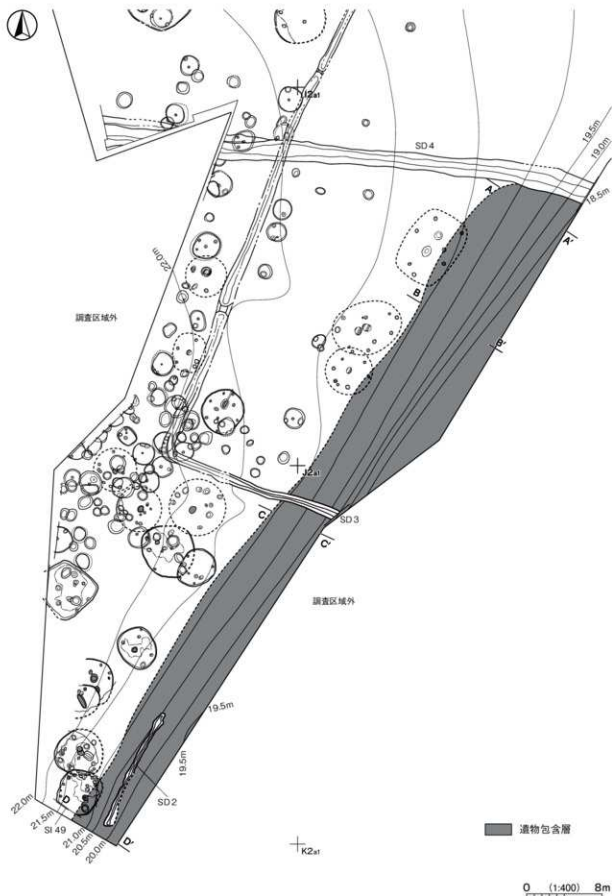
位置 調査区南東部のI2d5～J1j6区、標高215～185mの台地斜面部に位置している。標高差は3mほどである。

重複関係 後期前葉（堀之内1式期）の第49号竪穴建物跡の上位に堆積し、第2・3・4号溝に掘り込まれている。

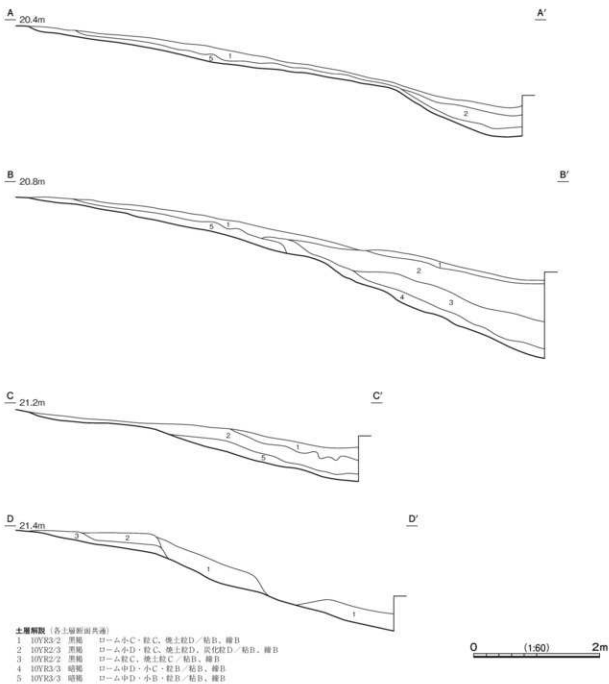
規模 遺物が出土した範囲を遺物包含層とした。東部と南部が調査区域外のため、確認できた規模は東西長3～13m、南北長68mほどである。斜面部に黒褐色と暗褐色土が層厚10～80cmで自然堆積しており、5層に分層できる。

遺物出土状況 縄文土器片14,681点（深鉢3,262、鉢6、浅鉢24、壺7、両耳壺3、注口土器17、手捏土器1、釣り手土器3、不明11,358）、石器76点（チャート製石鏃2・石鏃未製品1、安山岩製石皿5、凹石8〔安山岩製6、砂岩製、花崗岩製〕、磨石11〔安山岩製10、砂岩製〕、打製石斧9〔安山岩製5、凝灰岩製4〕、磨製石斧4〔ホルンフェルス製2、蛇紋岩製、凝灰岩製〕、石棒4〔安山岩製2、デイサイト製、凝灰岩製〕、石核5〔チャート製4、安山岩製〕、剥片27〔チャート製14、黒曜石製9、凝灰岩3製、頁岩製〕、土製品6点（土器片円盤）が出土している。ほかに混入した土師器片15点、須恵器片2点、陶器片4点、瓦片2点が出土している。縄文土器片の時期は、早期後葉126点（条痕文）、前期4点（花積下層式）、中期2,061点（阿玉台式2、加曽利E式1,647、曾利式29、不明383）、後期12,203点（称名寺式733、三十稲場式7、堀之内式768、加曽利B式6、安行式1、不明10,688）、不明287点である。時期別の平面分布でみると、早期後葉は包含層の北部に、中期は中央部に、後期は南部に、それぞれ集中がみられる。出土量は、上層が最も多く、中層から下層にかけて次第に減少する傾向がある。層位毎の出土土器の時間的な割合は、いずれの層も約80%が後期、約15%が中期で、層位による時期差はみられない。

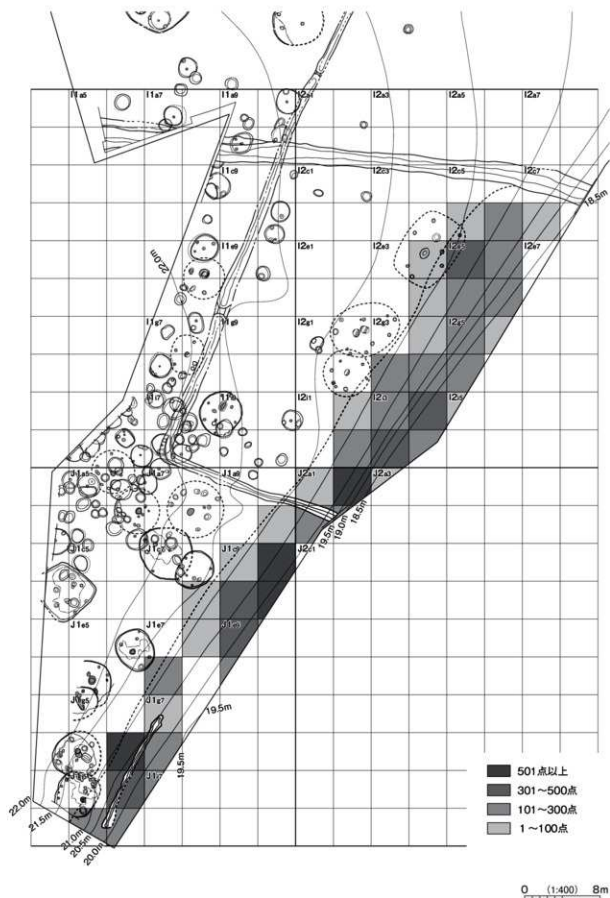
所見 時期は、出土土器の主体が後期のもので、また、後期前葉の第49号竪穴建物跡の上位に堆積し、下層からも後期の土器片が出土していることから、後期以降に斜面部が自然に埋没していく過程で形成されたと考えられる。北部から早期後葉の土器片が多く出土していることから、その付近に当該期の生活痕跡が存在していた可能性がある。



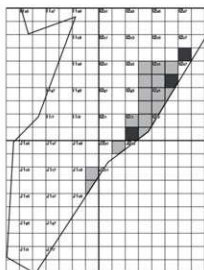
第 308 図 第 1 号遺物包含層実測図



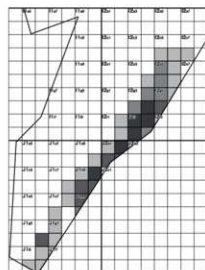
第 309 図 第 1 号遺物包含層土層断面実測図



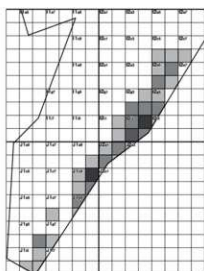
第310図 第1号遺物包含層出土遺物分布図



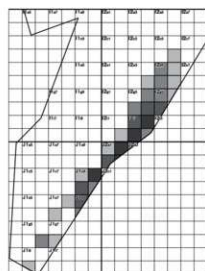
早期後集合計



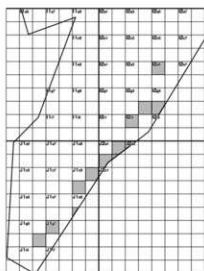
中期合計



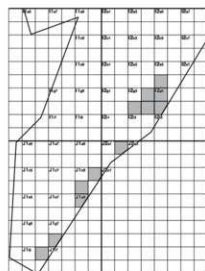
加曾利 E I 式



加曾利 E II 式

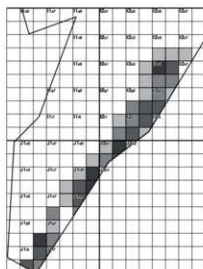


加曾利 E III 式

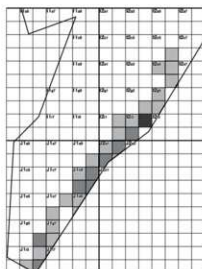


曾利式

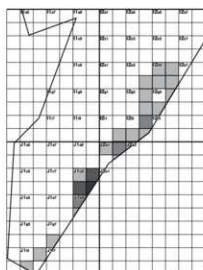
第 311 図 第 1 号遺物包含層時期・型式別出土土器分布図(1)



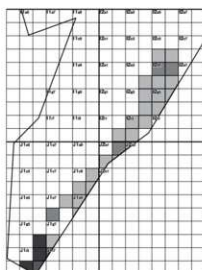
後期合計



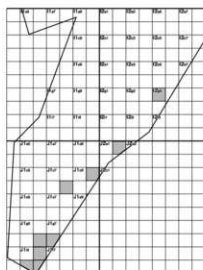
称名寺 I 式



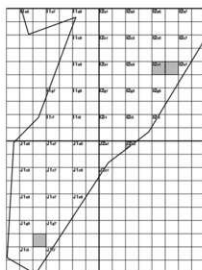
称名寺 II 式



堀之内 I 式

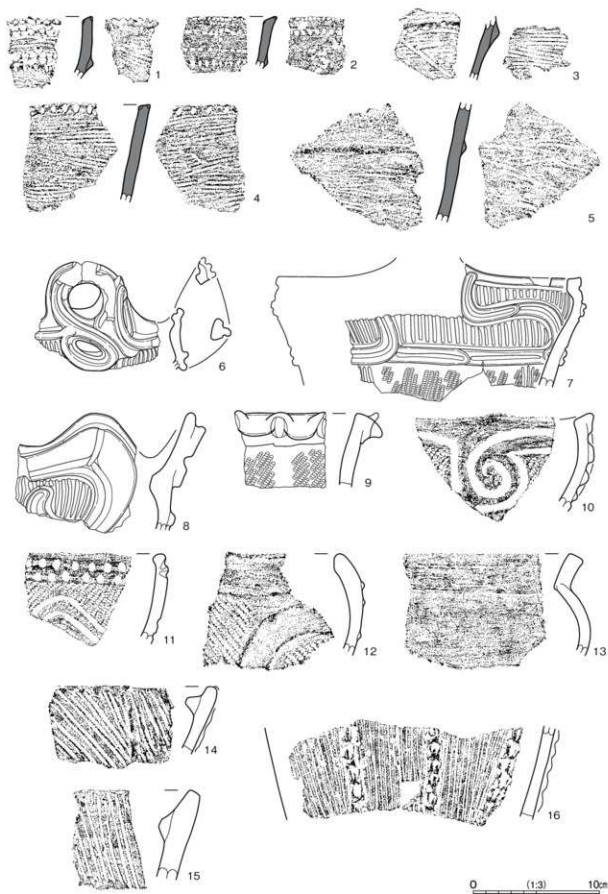


堀之内 2 式

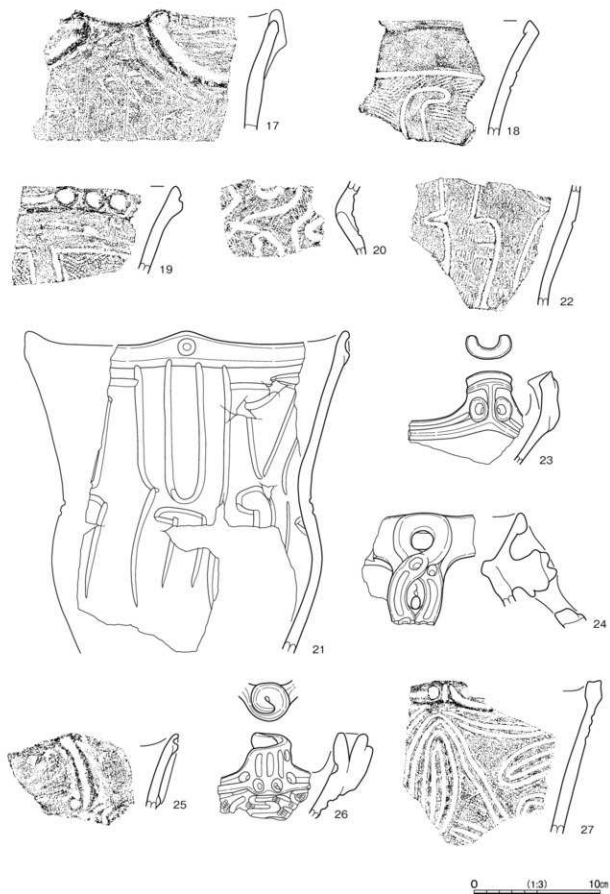


加曾利 B 式

第 312 図 第 1 号遺物包含層時期・型式別出土土器分布図(2)



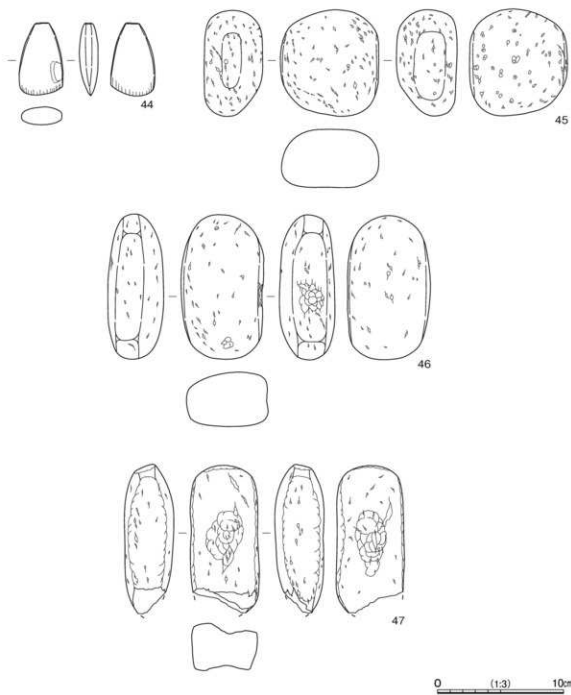
第 313 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第 314 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(2)



第315图 第1号遺物包含層出土遺物実測図(3)



第 316 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(4)

第154表 第1号遺物包含層出土遺物観察表(第313~316図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	長石・繊維	にぶい・橙	普通	内外面地文条線文 口縁部キザミ 口縁部連底刻文・目影刻文	J23 覆土中層	5% PL46
2	縄文土器	深鉢	—	(4.2)	—	長石・石英・繊維	にぶい・黄褐色	普通	内外面地文条線文 口縁部キザミ 口縁部連底刻文・目影刻文	J23 覆土中層	5% PL46
3	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	長石・石英・繊維	橙	普通	内外面地文条線文 口縁部沈線文・連続刻文	J24 覆土中層	5%
4	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	長石・石英・繊維	橙	普通	内外面地文条線文 口縁部キザミ	J23 覆土中層	5% PL46
5	縄文土器	深鉢	—	(9.4)	—	長石・石英・繊維	にぶい・褐	普通	内外面地文条線文 隆帯文	南面上層	5% PL46
6	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	長石・石英	にぶい・橙	普通	片貝殻状把手 乳の斑刻に沈線のある隆帯文	J1c 覆土上層	5%
7	縄文土器	深鉢	[240]	(10.9)	—	長石・石英	にぶい・褐	普通	流状口縁 口縁部背に沈線のある隆帯文によるクランク文 縦位沈線文光斑 胴部地文縦位RL 単節縄文 3本一組の沈線による点文	J23 覆土上層	5%
8	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい・褐	良好	流状口縁 口縁部背に沈線のある隆帯文 縦位沈線文光斑	J2b1 覆土上層	5% PL46
9	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい・褐	良好	口縁部外面指頭のある隆帯文 縦位RL 単節縄文	J24 覆土上層	5% PL46
10	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	長石・石英	橙	良好	地文横位LR 単節縄文 沈線の沿う隆帯文による点文	J23 覆土上層	5%
11	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	長石・石英	にぶい・橙	普通	地文縦位RL 単節縄文 口縁部直下沈線文・交互刻文 沈線による磨損流状文	J2c4 覆土上層	5%
12	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	隆帯文による区画文 縦位LR 単節縄文光斑	J1b 覆土上層	5%
13	縄文土器	鉢	—	(8.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	無文 内外縁ミガキ	確認トレンチ 不明	5% PL46
14	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	長石・石英	にぶい・赤褐色	普通	口縁部内面彫彫 地文手轡竹管による平行沈線文・指頭のある隆帯文	J26 覆土上層	5% PL46
15	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部内面彫彫 地文手轡竹管による平行沈線文	J23 覆土上層	5%
16	縄文土器	深鉢	—	(7.2)	—	長石・石英	橙	普通	地文手轡竹管による平行沈線文 手轡竹管による刻文のある隆帯文	J1a9, J1d 覆土中層	5%
17	縄文土器	深鉢	—	(9.5)	—	長石・石英	にぶい・橙	良好	互面流状口縁 波道部から流状隆帯文 胴部磨損状工具による磨損文	J24 覆土上層	5% PL46
18	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	—	長石・石英	浅黄褐色	良好	口縁部無文 沈線によるJ字状区画文 縦位LR 単節縄文光斑	確認トレンチ 不明	5%
19	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	長石・石英	にぶい・黄褐色	良好	口縁部外面目影刻文・沈線文 沈線によるJ字状区画文 縦位LR 単節縄文光斑	南面上層	5%
20	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	長石・石英	にぶい・黄褐色	良好	沈線によるJ字文 縦位LR 単節縄文光斑	J1b4 覆土上層	5%
21	縄文土器	深鉢	[250]	(25.5)	—	長石・石英	にぶい・橙	良好	小波状口縁 波道部内形刻文 沈線によるJ字文	J1d9 覆土下層	5% PL46
22	縄文土器	深鉢	—	(9.4)	—	長石・石英	にぶい・褐	良好	沈線によるJ字文 磨損状工具による条線文	J2b 覆土下層	5% PL46
23	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	長石・石英	にぶい・褐	普通	流状口縁 波道部C字状突起 波道下部磨損状付文 口縁部無文	J1c9 覆土中層	5% PL46
24	縄文土器	壺	—	(8.5)	—	長石・石英	浅黄褐色	普通	口縁部内面彫彫 把手部端部に内形刻文のあるJ字状隆帯文	J24 覆土上層	5% PL46
25	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	長石・石英	橙	普通	小波状口縁 波道下部内形刻文・沈線文のある流状隆帯文	南面上層	5%
26	縄文土器	深鉢	—	(6.8)	—	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	流状口縁 波道部隆帯文による磨損状突起 波道下部刻文・目影刻文	J1d4 覆土上層	5%
27	縄文土器	深鉢	—	(12.1)	—	長石・石英	にぶい・橙	良好	小波状口縁 波道部直下内形刻文・沈線文 地文横位LR 単節縄文 キザミのある隆帯文 3本一組の横位沈線文 沈線による流状文	J1b5 覆土下層	5% PL46
28	縄文土器	深鉢	—	(12.2)	—	長石・石英	にぶい・黄褐色	良好	地文横位LR 単節縄文 キザミのある隆帯文 3本一組の横位沈線文 沈線による流状文	J1b5・J1b5 覆土上層	5% PL47
29	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	長石・石英	にぶい・褐	普通	集合沈線による磨損文	J1b5 不明	5%
30	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	長石・石英	にぶい・赤褐色	普通	沈線による磨損文 刻文光斑	確認トレンチ 不明	5%
31	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	長石・石英	橙	良好	小波状口縁 波道部直下起点刻文・沈線文による円文・磨損状文 地文横位LR 単節縄文 キザミのある隆帯文	J1c5 覆土上層	5%
32	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	長石・石英	にぶい・褐	良好	地文横位LR 単節縄文 条線による変形文	J1b 覆土上層	5%
33	縄文土器	鉢	—	(7.9)	—	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	口縁部条線による変形状区画文 斜位LR 単節縄文光斑	J1b6 覆土上層	5%
34	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	長石・石英	橙	普通	口縁部無文 口縁下部押印文のある隆帯文 胴部磨損状工具による磨損流状文	J1b5 覆土中層	5%
35	縄文土器	深鉢	—	(15.0)	—	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	口縁部無文 口縁下部突起のある隆帯文 胴部磨損状工具による磨損目文	J1b6 覆土上層	10% PL47
36	縄文土器	深鉢	—	(11.9)	—	長石・石英	にぶい・橙	良好	小波状口縁 横位LR 単節縄文	南面上層	5% PL47
37	縄文土器	深鉢	—	(12.9)	—	長石・石英	灰黄褐色	良好	小波状口縁 横位LR 単節縄文	J1b5 覆土下層	5% PL47
38	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	長石・石英	にぶい・褐	良好	口縁部無文 口縁下部押印文のある隆帯文 胴部磨損状工具による磨損流状文	J22 覆土上層	5%
39	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	長石・石英	にぶい・黄褐色	良好	口縁下部突起のある隆帯文 胴部磨損状工具による条線文	J24 覆土上層	5%
40	縄文土器	手拭土器	4.7	3.9	3.1	長石・石英	橙	普通	指頭による押印文	J1b 覆土下層	90%
41	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	長石・石英	褐色	良好	口縁部外面キザミ 無文	J2c5 覆土上層	5%
42	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	長石・石英	にぶい・褐	良好	口縁部直下押印文のある隆帯文 横位LR 単節縄文	J2a3 覆土上層	5%
43	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	長石・石英	にぶい・黄褐色	良好	口縁部沈線文 縦位付文	J1b5 覆土上層	5%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
44	磨製石斧	5.8	3.5	1.5	45.9	凝灰岩	全面研磨	J11-65 覆土上層	100% PL47
45	磨石	8.4	7.8	4.7	429.7	安山岩	全面研磨 両側縁平面面	J11-65 覆土下層	100% PL47
46	磨石	11.5	6.6	4.4	576.5	安山岩	全面研磨 右側縁平面面凹痕1ヶ所	J11-65 南部土面	100% PL47
47	凹石	(11.7)	5.7	3.8	(296.1)	安山岩	全面研磨 表面凹痕1ヶ所、裏面凹痕1ヶ所 両側縁・上端面 敲打痕 敲石兼用 下端面欠損	J11-66 覆土上層	90% PL47

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 11 Pro
	編集	Adobe InDesign 2024
	図版作成	Adobe Illustrator 2024
	写真調整	Adobe Photoshop 2024
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL、太ゴB101 Pro Bold
		中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上
印刷	印刷所へは、Adobe InDesign 2024 でデータ入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第477集

つくば市

島名境松遺跡3

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXX

上巻

令和7（2025）年3月21日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <https://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 大富印刷株式会社
〒311-1251 ひたちなか市山崎160
TEL 029-265-9000